

玉名市文化財調査報告 第15集

玉名市内遺跡調査報告書Ⅲ

平成15・16年度の調査

2006(平成18)年3月

玉名市教育委員会

ご挨拶

平成 17 年 10 月 3 日に、玉名市、岱明町、横島町、並びに天水町が合併し、人口 7 万 3 千人を擁する新しい玉名市が誕生しました。「人と自然が輝く県北の拠点都市づくり」を基本理念に、さらなる発展を遂げようとしています。

社会基盤の整備においては、九州新幹線の開通とともに新玉名駅の開業が予定されており、新駅周辺の整備や、アクセス道路として国道 208 号線玉名バイパスの建設促進など、新たな街づくりが進められています。

このような状況の中で、埋蔵文化財の保護が急務となっています。玉名市教育委員会では新たに文化課を設置するなど、文化財保護の体制を充実させるとともに、「社会を支える人材が育ち集まるまち」を基本目標に、人材育成のために文化財の活用を図っております。

本書は、平成 15・16 年度に、旧玉名市において実施した、各種開発に伴う試掘確認調査などの成果をまとめたものです。本書が市民の方々の文化財に対する理解の一助となり、また、学術研究にも広く活用していただければ幸いに思います。

最後になりますが、発掘調査及び報告書作成に際しましては、地元の方々をはじめ関係各位のご協力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成 18 年 3 月 30 日

玉名市教育委員会

教育長 菊川 茂男

例　　言

1. 本書は、旧玉名市教育委員会が平成15・16年度の2カ年に国・県の補助を受けて実施した、玉名市内遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、玉名市教育委員会社会教育課竹田宏司、兵谷有利、田中康雄、末永崇、齋父雅史、荒木隆宏、古閑敬士、大倉千寿が担当した。
3. 本書掲載遺構及びトレンチ等の実測図は、各調査担当者が作成し、トレンチについては、図中でTと表記した。
4. 遺物の実測は、兵谷、齋父が行い、精図は早川イツエ、拓本は五野富美子が行った。
5. 調査時の写真撮影は、各調査担当者が行った。
6. 挿図に使用している座標値は日本測地系の第2座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
7. 同一年度に同じ遺跡において複数地点の調査を実施している場合には、年度毎に、アルファベットによる調査地点名を付している。
8. 調査地の地番については、原則として文化財保護法に基づく届出・通知の際の地番を表示している。いくつかの調査地点については、分筆等により、新たな番地が付されている場合がある。
9. 出土遺物の整理作業は、兵谷が担当し、玉名市文化財整理室で行った。
10. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。
11. 本書の執筆は、各調査担当者が調査後に作成した報文をもとに兵谷が校正・補足した。
編集は兵谷が担当した。

本文目次

ご挨拶

例言

本文目次

挿図目次

I 調査の概要

1 調査の体制	1
2 調査の方法	1
3 調査総括	2

II 平成 15 年度の調査

1 岩崎城跡	7
2 高岡原 J 遺跡 (A 地点)	13
3 玉名高校校庭遺跡	16
4 吉丸西遺跡	17
5 高岡原 J 遺跡 (B 地点)	19
6 立願寺廃寺 (A 地点)	20
7 高瀬本町通遺跡 (A 地点)	23
8 南出遺跡 (A 地点)	25
9 南出遺跡 (B 地点)	31
10 中北遺跡 (A 地点 I 区)	33
11 中北遺跡 (B 地点 II 区)	36
12 中北遺跡 (C 地点 III 区)	49
13 狐ん路遺跡	55
14 岩崎原遺跡 (A 地点)	58
15 北の崎遺跡	60
16 築地館跡	61
17 與内迫遺跡	62
18 中ん城遺跡	64
19 岩崎原遺跡 (B 地点)	65
20 千田川原俵転し	66
21 玉名平野条里跡	71

III 平成 16 年度の調査

1 西田遺跡	77
2 亀甲遺跡	78
3 高岡原遺跡 (A 地点)	79
4 岩井口遺跡 (A 地点)	86
5 高瀬本町通遺跡 (B 地点)	89
6 中坂門田遺跡	91
7 玉名平野条里跡 (A 地点)	92
8 立願寺廃寺 (B 地点)	93
9 南出遺跡 (C 地点)	95
10 伊倉古宮原遺跡	97
11 名町遺跡	99
12 玉名平野条里跡 (B 地点)	100
13 下立願寺遺跡	101
14 高岡原遺跡 (B 地点)	103
15 與内迫遺跡	106
16 中ん城遺跡	114
17 築地市場遺跡	131
18 馬場遺跡	133
19 岩井口遺跡 (B 地点)	134

報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 図 玉名市内遺跡分布図	3
第 2 図 岩崎城跡調査地位置図	7
第 3 図 岩崎城跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	7
第 4 図 岩崎城跡周辺遺跡分布図	8
第 5 図 岩崎城跡遺構配置図	10
第 6 図 岩崎城跡土層断面図	10
第 7 図 岩崎城跡遺物実測図①	11
第 8 図 岩崎城跡遺物実測図②	12
第 9 図 高岡原 J 遺跡 (A 地点) 調査地位置図	13
第 10 図 高岡原 J 遺跡 (A 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	13
第 11 図 高岡原 J 遺跡 (A 地点) トレンチ実測図	14
第 12 図 高岡原 J 遺跡 (A 地点) 遺構実測図	15
第 13 図 高岡原 J 遺跡 (A 地点) 遺物実測図	15
第 14 図 玉名高校校庭遺跡調査地位置図	16
第 15 図 玉名高校校庭遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	16
第 16 図 玉名高校校庭遺跡土層断面図	16
第 17 図 玉名高校校庭遺跡遺物実測図	16
第 18 図 吉丸西遺跡調査地位置図	17
第 19 図 吉丸西遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	17
第 20 図 吉丸西遺跡土層図	17
第 21 図 吉丸西遺跡遺物実測図	18
第 22 図 高岡原 J 遺跡 (B 地点) 調査地位置図	19
第 23 図 高岡原 J 遺跡 (B 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	19
第 24 図 高岡原 J 遺跡 (B 地点) 土層断面図	19
第 25 図 立願寺廃寺 (A 地点) 調査地位置図	20
第 26 図 立願寺廃寺 (A 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	20
第 27 図 立願寺廃寺 (A 地点) トレンチ実測図	21
第 28 図 立願寺廃寺 (A 地点) 遺物実測図	22
第 29 図 高瀬本町通遺跡 (A 地点) 調査地位置図	23
第 30 図 高瀬本町通遺跡 (A 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	23
第 31 図 高瀬本町通遺跡 (A 地点) トレンチ実測図	23
第 32 図 高瀬本町通遺跡 (A 地点) 遺物実測図	24
第 33 図 南出遺跡 (A 地点) 調査地位置図	25
第 34 図 南出遺跡 (A 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	25
第 35 図 南出遺跡 (A 地点) トレンチ実測図①	26
第 36 図 南出遺跡 (A 地点) トレンチ実測図②	27
第 37 図 南出遺跡 (A 地点) 遺物実測図①	28
第 38 図 南出遺跡 (A 地点) 遺物実測図②	29

第 39 図	南出遺跡 (A 地点) 遺物実測図③	30
第 40 図	南出遺跡 (B 地点) 調査地位置図	31
第 41 図	南出遺跡 (B 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	31
第 42 図	南出遺跡 (B 地点) 土層断面図	31
第 43 図	南出遺跡 (B 地点) 遺物実測図	32
第 44 図	中北遺跡 (A 地点) 調査地位置図	33
第 45 図	中北遺跡 (A 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	33
第 46 図	中北遺跡 (A 地点) トレンチ実測図	34
第 47 図	中北遺跡 (A 地点) 遺物実測図	35
第 48 図	中北遺跡 (B 地点) 調査地位置図	36
第 49 図	中北遺跡 (B 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	36
第 50 図	中北遺跡 (B 地点) 遺構配置図	37
第 51 図	中北遺跡 (B 地点) トレンチ実測図①	38
第 52 図	中北遺跡 (B 地点) トレンチ実測図②	39
第 53 図	中北遺跡 (B 地点) トレンチ実測図③	40
第 54 図	中北遺跡 (B 地点) 甕棺墓配置図	41
第 55 図	中北遺跡 (B 地点) 甕棺墓実測図①	42
第 56 図	中北遺跡 (B 地点) 甕棺墓実測図②	43
第 57 図	中北遺跡 (B 地点) 遺物実測図①	46
第 58 図	中北遺跡 (B 地点) 遺物実測図②	47
第 59 図	中北遺跡 (B 地点) 甕棺実測図	48
第 60 図	中北遺跡 (C 地点) 調査地位置図	49
第 61 図	中北遺跡 (C 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	49
第 62 図	中北遺跡 (C 地点) トレンチ実測図	51
第 63 図	中北遺跡 (C 地点) 遺物実測図①	52
第 64 図	中北遺跡 (C 地点) 遺物実測図②	53
第 65 図	中北遺跡 (C 地点) 遺物実測図③	54
第 66 図	狐ん路遺跡調査地位置図	55
第 67 図	狐ん路遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	55
第 68 図	狐ん路遺跡トレンチ実測図①	56
第 69 図	狐ん路遺跡トレンチ実測図②	57
第 70 図	狐ん路遺跡遺物実測図	57
第 71 図	岩崎原遺跡 (A 地点) 調査地位置図	58
第 72 図	岩崎原遺跡 (A 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	58
第 73 図	岩崎原遺跡 (A 地点) トレンチ実測図	59
第 74 図	岩崎原遺跡 (A 地点) 遺物実測図	59
第 75 図	北の崎遺跡調査地位置図	60
第 76 図	北の崎遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	60
第 77 図	北の崎遺跡遺物実測図	60
第 78 図	築地館跡調査地位置図	61
第 79 図	築地館跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	61

第 80 図 築地館跡遺物実測図	61
第 81 図 築地館跡トレンチ実測図	61
第 82 図 與内迫遺跡調査地位置図	62
第 83 図 與内迫遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	62
第 84 図 與内迫遺跡トレンチ実測図	63
第 85 図 與内迫遺跡遺物実測図	63
第 86 図 中ん城遺跡調査地位置図	64
第 87 図 中ん城遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	64
第 88 図 中ん城遺跡土層図	64
第 89 図 中ん城遺跡遺物実測図	64
第 90 図 岩崎原遺跡（B 地点）調査地位置図	65
第 91 図 岩崎原遺跡（B 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	65
第 92 図 岩崎原遺跡（B 地点）土層図	65
第 93 図 岩崎原遺跡（B 地点）遺物実測図	65
第 94 図 千田川原俵転し調査地位置図	66
第 95 図 千田川原俵転し調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	66
第 96 図 千田川原俵転しトレンチ実測図①	67
第 97 図 千田川原俵転しトレンチ実測図②	68
第 98 図 千田川原俵転しトレンチ実測図③	69
第 99 図 千田川原俵転し遺物実測図	70
第 100 図 玉名平野条里跡調査地位置図	71
第 101 図 玉名平野条里跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	71
第 102 図 玉名平野条里跡土層図	71
第 103 図 西田遺跡調査地位置図	77
第 104 図 西田遺跡土層断面図	77
第 105 図 西田遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	77
第 106 図 亀甲遺跡調査地位置図	78
第 107 図 亀甲遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	78
第 108 図 亀甲遺跡土層断面図	78
第 109 図 高岡原遺跡（A 地点）調査地位置図	79
第 110 図 高岡原遺跡（A 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	79
第 111 図 高岡原遺跡（A 地点）トレンチ実測図	80
第 112 図 高岡原遺跡（A 地点）遺構実測図	81
第 113 図 高岡原遺跡（A 地点）遺物実測図①	83
第 114 図 高岡原遺跡（A 地点）遺物実測図②	84
第 115 図 岩井口遺跡（A 地点）調査地位置図	86
第 116 図 岩井口遺跡（A 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	86
第 117 図 岩井口遺跡（A 地点）土層断面図	87
第 118 図 岩井口遺跡（A 地点）遺物実測図	88
第 119 図 高瀬本町通遺跡（B 地点）調査地位置図	89
第 120 図 高瀬本町通遺跡（B 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	89

第 121 図 高瀬本町通遺跡（B 地点）トレンチ実測図	90
第 122 図 高瀬本町通遺跡（B 地点）遺物実測図	90
第 123 図 中坂門田遺跡調査地位置図	91
第 124 図 中坂門田遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	91
第 125 図 中坂門田遺跡土層図	91
第 126 図 玉名平野条里跡（A 地点）調査地位置図	92
第 127 図 玉名平野条里跡（A 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	92
第 128 図 玉名平野条里跡（A 地点）土層図	92
第 129 図 玉名平野条里跡（A 地点）遺物実測図	92
第 130 図 立願寺廃寺（B 地点）調査地位置図	93
第 131 図 立願寺廃寺（B 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	93
第 132 図 立願寺廃寺（B 地点）土層断面図	94
第 133 図 立願寺廃寺（B 地点）遺物実測図	94
第 134 図 南出遺跡（C 地点）調査地位置図	95
第 135 図 南出遺跡（C 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	95
第 136 図 南出遺跡（C 地点）トレンチ実測図	96
第 137 図 南出遺跡（C 地点）遺物実測図	96
第 138 図 伊倉古宮原遺跡調査地位置図	97
第 139 図 伊倉古宮原遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	97
第 140 図 伊倉古宮原遺跡トレンチ実測図	98
第 141 図 伊倉古宮原遺跡遺物実測図	98
第 142 図 名町遺跡調査地位置図	99
第 143 図 名町遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	99
第 144 図 名町遺跡トレンチ実測図	99
第 145 図 玉名平野条里跡（B 地点）調査地位置図	100
第 146 図 玉名平野条里跡（B 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	100
第 147 図 玉名平野条里跡（B 地点）土層図	100
第 148 図 下立願寺遺跡調査地位置図	101
第 149 図 下立願寺遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	101
第 150 図 下立願寺遺跡トレンチ実測図	102
第 151 図 高岡原遺跡（B 地点）調査地位置図	103
第 152 図 高岡原遺跡（B 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	103
第 153 図 高岡原遺跡（B 地点）トレンチ実測図①	104
第 154 図 高岡原遺跡（B 地点）トレンチ実測図②	105
第 155 図 與内迫遺跡調査地位置図	106
第 156 図 與内迫遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	106
第 157 図 與内迫遺跡周辺遺跡分布図	107
第 158 図 與内迫遺跡遺構配置図	109
第 159 図 與内迫遺跡土層断面図	109
第 160 図 與内迫遺跡 S01 実測図	110
第 161 図 與内迫遺跡 S02 実測図	111

第 162 図	與内迫遺跡 S03 実測図	111
第 163 図	與内迫遺跡遺物実測図①	112
第 164 図	與内迫遺跡遺物実測図②	113
第 165 図	中ん城遺跡調査地位置図	114
第 166 図	中ん城遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	114
第 167 図	中ん城遺跡周辺遺跡分布図	116
第 168 図	中ん城遺跡全体図	117
第 169 図	中ん城遺跡調査敷地図	119
第 170 図	中ん城遺跡遺構検出状況図	119
第 171 図	中ん城遺跡遺構実測図①	120
第 172 図	中ん城遺跡遺構実測図②	121
第 173 図	中ん城遺跡トレンチ・遺構実測図	122
第 174 図	中ん城遺跡遺物実測図①	123
第 175 図	中ん城遺跡遺物実測図②	124
第 176 図	中ん城遺跡遺物実測図③	125
第 177 図	中ん城遺跡遺物実測図④	126
第 178 図	中ん城遺跡遺物実測図⑤	127
第 179 図	築地市場遺跡調査地位置図	131
第 180 図	築地市場遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	131
第 181 図	築地市場遺跡トレンチ実測図	132
第 182 図	築地市場遺跡遺物実測図	132
第 183 図	馬場遺跡調査地位置図	133
第 184 図	馬場遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	133
第 185 図	馬場遺跡土層図	133
第 186 図	岩井口遺跡（B 地点）調査地位置図	134
第 187 図	岩井口遺跡（B 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図	134
第 188 図	岩井口遺跡（B 地点）土層断面図①	135
第 189 図	岩井口遺跡（B 地点）土層断面図②	136

I 調査の概要

1 調査の体制

調査及び報告書の作成は、下記の体制により実施している。職員の所属等は当時のものである。なお平成17年10月3日の合併により、新たな玉名市及び玉名市教育委員会が発足している。

平成15年度

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 三次昭也
(至12月19日)

教育長 森 義臣
(自12月22日)

調査総括 教育次長 久多見澄夫

社会教育課長 牧野和明

社会教育課審議員兼課長補佐
西田道也

庶務担当 文化係長 岩永次郎

主事 清田静香

調査担当 参事 竹田宏司

主任 兵谷有利

主任 田中康雄

技師 末永 崇

技師 荒木隆宏

埋蔵文化財発掘調査員 古閑敬士

蟻父雅史

大倉千寿

平成16年度

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 森 義臣

調査総括 教育次長 久多見澄夫
社会教育課長 西田道也

庶務担当 文化係長 竹田宏司
主事 清田静香

調査担当 主任 兵谷有利
主任 田中康雄
主任 末永 崇
技師 荒木隆宏
埋蔵文化財発掘調査員 古閑敬士
蟻父雅史
大倉千寿

平成17年度 (報告書作成)
調査主体 玉名市教育委員会
調査責任 教育長 森 義臣
(至11月29日)
教育長 菊川茂男
(自11月30日)
調査総括 教育次長 久多見澄夫
(至10月2日)
教育次長 杉本末敏
(自10月3日)
社会教育課長 西田道也
(至10月2日)
文化課長 西田道也
(自10月3日)
文化係長 竹田宏司
(至10月2日)
文化財係長 竹田宏司
(自10月3日)
主事 清田静香
報告書担当 主任 兵谷有利
主任 末永 崇
技師 蟻父雅史

2 調査の方法

試掘確認調査については、重機掘削により幅0.7～1mのトレーナーを、開発の内容や、予想される遺跡の内容、地形等を勘案して適宜設定している。また、重機が使用不可能の場合や、包含層の一部、遺構については人力での掘削を

I 調査の概要

行っている。対象面積に対する掘削面積等の割合は特に基準を定めていない。

実測図は、1/20スケールを基本として、平面・断面図を作成している。トレーナーの配置図等については、基本的に開発に伴う測量図及び字図等に記入する方法を実施している。地形測量図等が必要な場合には、平板及び光波測距儀を使用して、1/100スケールもしくは1/200スケールで作成している。

写真は、通常35mmカラーネガフィルムを用いており、重要な遺構などが確認された場合は35mmモノクロ及びリバーサルフィルムによる撮影を行っている。

3 調査総括

玉名市では平成11年度から、国と県の補助を受けて、各種開発に伴う試掘確認調査を実施している。平成15年度は事前審査を行った239件のうち、文化財保護法第93条若しくは第94条による届出・通知が提出されたものが110件で、21件の確認調査を実施した。平成16年度は事前審査261件のうち、届出・通知が提出されたものが114件で、19件の確認調査を実施した。地域的には住宅が最も集中している玉名町校区、築山校区での調査が多い。調査原因は専用住宅、共同住宅建設に伴う調査が大部分である。

平成15年度の調査概要は次のとおりである。

玉名町校区では岩崎城跡、岩崎原遺跡、築山校区では高岡原J遺跡、伊倉校区では中北遺跡、豊水校区では千田川原俵転しなどの確認調査を実施している。

岩崎城跡の調査では城館に関係すると考えられる溝状遺構を確認した。また弥生時代後期のベッド状遺構をもつ住居跡が確認された。

岩崎原遺跡の調査では幕末に高瀬藩の敷地であったため造成が行われているが、弥生時代後期の住居跡を2基確認した。岩崎城跡で確認さ

れた弥生時代後期の住居跡との関係を考えると調査地周辺に集落の存在が予測される。

高岡原J遺跡の調査では、溝状遺構や縄文時代の埋設土器、打製石斧が出土している。玉名市内では縄文時代の調査例が少なく、今後の成果xが期待される。

中北遺跡の調査では弥生時代中期の甕棺墓6基（4基が須玖式、2基が黒髪式）が確認された。玉名市では菊池川左岸側での甕棺墓の調査例は希である。

千田川原俵転しの調査では、「菊池川絵図」に描かれていた近世の舟着場であり米の搬出口である俵転し遺構の現状を確認するために調査を行い、凝灰岩の板石を張った遺構を確認することができた。

平成16年度の調査概要は次のとおりである。

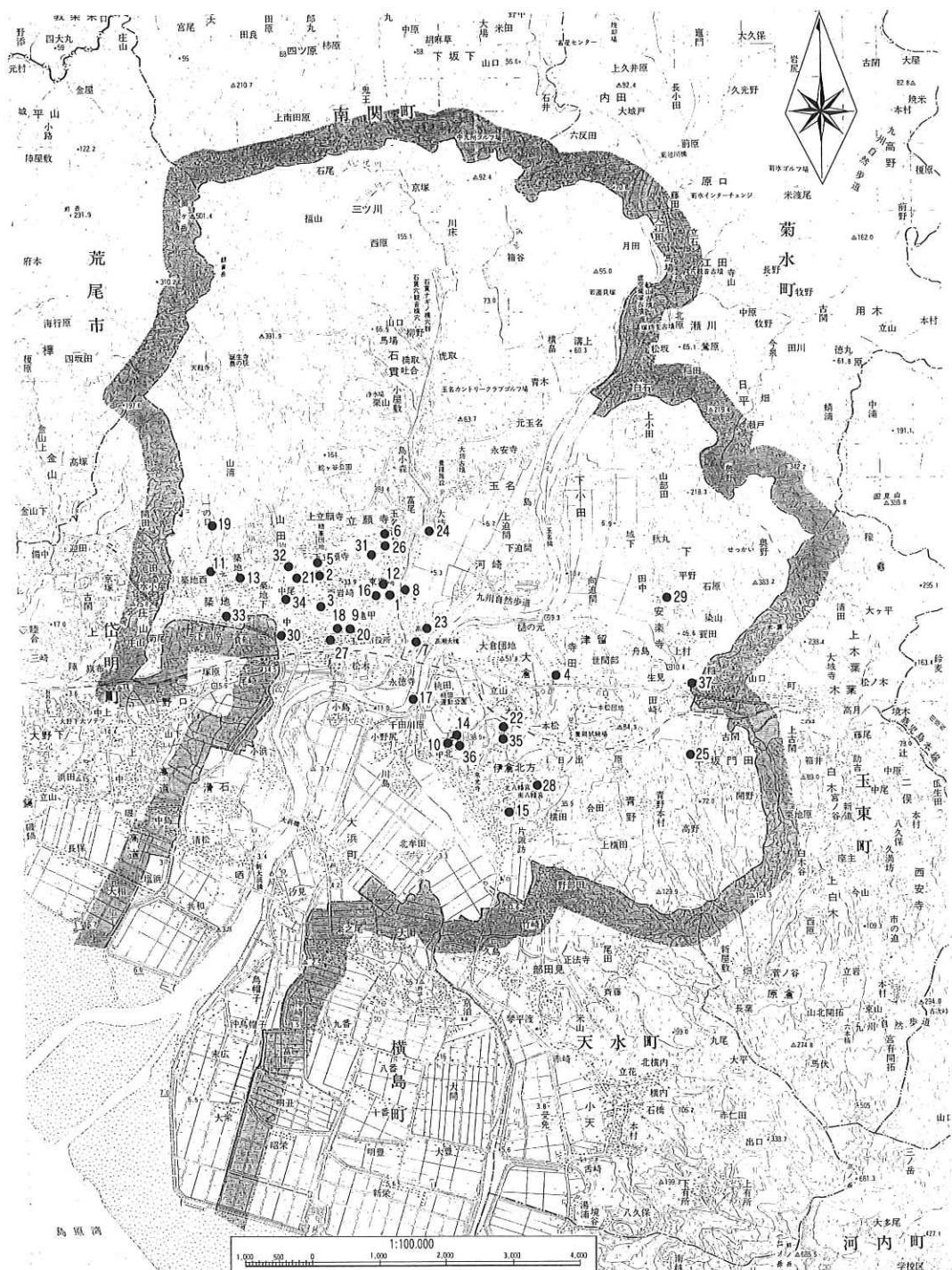
築山校区では高岡原遺跡、伊倉校区では與内迫遺跡、中ん城遺跡などの確認調査を実施している。

高岡原遺跡（A地点）では確認調査後に本調査を行い、弥生時代後期のベッド状遺構をもつ住居跡が確認された。（B地点）では次年度に本調査を行い、弥生時代後期の住居跡や中世の溝状遺構が確認された。

與内迫遺跡は平成15年度の確認調査で確認されていた古墳時代の住居跡を本調査することになり、カマドのある住居跡2基を調査した。須恵器、土師器が出土した。

中ん城遺跡の調査では東西に伸びる、中世の堀状遺構を確認した。中世に伊倉の津を管理した伊倉氏の居館跡に関係する遺構と考えられる。

I 調査の概要



- | | | |
|------------------|-------------------|-------------------|
| 1 岩崎城跡 | 14 與内追遺跡 | 27 南出遺跡 (C 地点) |
| 2 高岡原J遺跡 (A 地点) | 15 中城跡 | 28 伊倉古宮原遺跡 |
| 3 玉名高校校庭遺跡 | 16 岩崎原遺跡 (B 地点) | 29 名町遺跡 |
| 4 吉九西遺跡 | 17 千田川原俵転し | 30 玉名平野条里跡 (B 地点) |
| 5 高岡原J遺跡 (B 地点) | 18 玉名平野条里跡 | 31 下立願寺遺跡 |
| 6 立願寺廃寺 (A 地点) | 19 西田遺跡 | 32 高岡原遺跡 (B 地点) |
| 7 高瀬本町通遺跡 (A 地点) | 20 亀甲遺跡 | 33 築地市場遺跡 |
| 8 南出遺跡 (A 地点) | 21 高岡原遺跡 (A 地点) | 34 馬場遺跡 |
| 9 南出遺跡 (B 地点) | 22 岩井口遺跡 (A 地点) | 35 岩井口遺跡 (B 地点) |
| 10 中北遺跡 (A 地点) | 23 高瀬本町通遺跡 (B 地点) | 36 與内追遺跡 |
| 11 狐ん路遺跡 | 24 玉名平野条里跡 (A 地点) | 37 北の崎遺跡 |
| 12 岩崎原遺跡 (A 地点) | 25 中坂門田遺跡 | |
| 13 築地館跡 | 26 立願寺廃寺 (B 地点) | |

第1図 玉名市内遺跡分布図 (平成 17 年 9 月現在) S=1/100,000 ※今回報告分のみ

平成15・16年度 市内遺跡確認調査一覧

年度	番号	遺跡名	所在地	面積(m ²)	種別	路号	調査原因	調査期間	担当者	措置
15	1	岩崎城跡	岩崎字池田668-1-2-5	392.85	確認調査	I SJ	専用住宅	H15.5.12~5.30	姫父・末永 発掘調査	
15	2	高岡原遺跡(A地点)	山田字高岡原2019-1	763	確認調査	T OJ	店舗	H15.5.12~5.16	未永・姫父 工事立会	
15	3	玉名高校校庭遺跡	中字古野1997-1	889.83	確認調査	T KK	学生寮改築	H15.5.28	兵谷・姫父 慎重工事	
15	4	吉丸西遺跡	寺田字櫻原829-1,829-3	1140.3	確認調査	Y MN	共同住宅	H15.6.10	姫父雅史 発掘調査	
15	5	高岡原遺跡(B地点)	山田字櫻峯1931-1	352.93	確認調査	T OJ	調査依頼	H15.6.16	姫父雅史 発掘調査	
15	6	立願寺房寺(A地点)	立願寺字塔の尾1212-1	803	確認調査	R GJ	調査依頼	H15.6.17~6.30	竹田宏司 発掘調査	
15	7	高瀬本町通り遺跡(A地点)	高瀬字下町514-1,515-1	315.91	確認調査	T HT	駐車場	H15.6.24	未永・姫父 発掘調査	
15	8	南出遺跡(A地点)	中字内田1809,1793-1	1130	確認調査	M MD	共同住宅	H15.7.29~7.31・8.29~9.9	姫父雅史 工事立会	
15	9	南出遺跡(B地点)	中1739-2,1747-2(ほか)	5247.34	確認調査	M MD	寺院	H15.8.12	未永・姫父 発掘調査	
15	10	中北遺跡(A地点)I区)	伊倉北方字古伊倉屋敷904-1他	490.74	確認調査	N KK	専用住宅	H15.9.18~H16.3.17	姫父・末永 発掘調査	
15	11	中北遺跡(B地点)II区)	伊倉北方字古伊倉屋敷904-2他	1073	確認調査	N KK	専用住宅	H15.9.18~H16.3.17	姫父・末永 発掘調査	
15	12	中北遺跡(C地点)III区)	伊倉北方字五社338-1,339-1他	513	確認調査	N KK	専用住宅	H15.9.18~H16.3.17	姫父・末永 発掘調査	
15	13	孤ん路遺跡	築地字前畑1177-1	1285.79	確認調査	K NM	宅地造成	H15.9.22~10.6	未永・姫父 発掘調査	
15	14	岩崎原遺跡(A地点)	岩崎769-1,769-5(ほか)	888.08	確認調査	I SH	共同住宅	H15.11.6~11.7	姫父・末永 発掘調査	
15	15	北の崎遺跡	田崎11	284.48	工事立会	K NS	淨化槽埋設	H15.12.19	姫父雅史 工事立会	
15	16	築地館跡	築地字槇内2368-4	231.36	確認調査	T J Y	専用住宅	H16.1.27	未永・姫父 発掘調査	
15	17	與内追遺跡	伊倉字宇與内追1249-1	951	確認調査	Y NZ	農地造成	H16.2.12~H16.3.17	未永・姫父 発掘調査	
15	18	中ん城遺跡	片諭訪字中ん城24-1,23-1,17	1530	確認調査	N NJ	調査依頼	H16.3.9~H16.3.10	未永・姫父 発掘調査	
15	19	岩崎原遺跡(B地点)	岩崎字塔の本781(ほか)	8607.82	確認調査	I SH	学校施設	H16.3.18	未永・姫父 発掘調査	
15	20	千田川原集軒し	千田川原字塘添421(ほか)	285.6	確認調査	S GT	試掘調査	H16.3.15~H16.3.31	未永・姫父 発掘調査	
15	21	玉名平野条里跡	岩崎122,124,125-1(ほか)	1182.37	確認調査	T H J	公共事業	H16.3.29	未永・姫父 発掘調査	
16	1	西田遺跡	築地字悔ケ谷1396-12	2346	確認調査	N SD	土砂採取	H16.4.1	未永・姫父 発掘調査	
16	2	龜甲遺跡	龜甲169-1,169-4,169-5(ほか)	1045.59	確認調査	K MK	診療所	H16.4.8~H16.4.9	未永・姫父 発掘調査	
16	3	高岡原遺跡(A地点)	山田字高岡原2042-3	585	確認調査	T OB	専用住宅	H16.4.15~H16.4.16	兵谷・姫父 発掘調査	
16	4	岩井口遺跡(A地点)	伊倉北方字岩井口前1542-1(ほか)	11789.79	確認調査	I IG	老人ホーミー	H16.5.10~H16.5.21	姫父敬士 古閑敬士	
16	5	高瀬本町通り遺跡(B地点)	高瀬字本町1232-4	117.16	確認調査	T HT	専用住宅	H16.5.14	姫父雅史 工事立会	
16	6	中坂門田遺跡	中坂門田字山伏156-1(ほか)	215	確認調査	N SM	送電線鉄塔	H16.5.26	未永・姫父 発掘調査	
16	7	玉名平野条里跡(A地点)	両追間字築榮450-2(ほか)	335	確認調査	T H J	公共事業	H16.5.27	姫父敬士 古閑敬士	
16	8	立願寺房寺(B地点)	立願寺字塔の尾1205-1	307.5	確認調査	R GJ	専用住宅	H16.6.15~H16.6.16	姫父敬士 古閑敬士	
16	9	南出遺跡(C地点)	中字内田1801-1	420.35	確認調査	M MD	店舗兼住宅	H16.6.29	大倉千寿 古閑千寿	
16	10	伊倉古富原遺跡	富原字富1476-10,476-1(ほか)	784.32	確認調査	I HM	専用住宅	H16.7.12	古閑敬士 古閑千寿	
16	11	名町遺跡	下字名町73-1	3802.76	確認調査	N MC	工場	H16.7.26~H16.7.27	大倉千寿 古閑敬士	
16	12	玉名平野条里跡(B地点)	中字河原1191-2,1191-3(ほか)	2656.9	確認調査	T H J	店舗	H16.8.23~H16.8.25	姫父雅史 発掘調査	
16	13	下立願寺遺跡	立願寺字東段656-1(ほか)14筆	16876.93	確認調査	S RG	温浴施設	H16.9.3	未永・姫父 発掘調査	
16	14	高岡原遺跡(B地点)	山田字高岡原2051-1	1007	確認調査	T OB	店舗	H16.11.24~11.26	大倉千寿 古閑敬士	
16	15	與内追遺跡	伊倉北方字與内追1249-1	951	確認調査	Y NZ	農地造成	H16.12.20~H17.1.12	姫父雅史 発掘調査	
16	16	中ん城遺跡	片諭訪字中ん城24-1,23-1,17	920.2	確認調査	N NJ	宅地造成	H17.1.24~H17.2.28	未永・姫父 発掘調査	
16	17	築地市場遺跡	築地字市営88-1,88-2	1049.76	確認調査	T J I	店舗	H17.1.28	古閑敬士 工事立会	
16	18	馬場遺跡	中尾字馬場287-291-1(ほか)	746.6	確認調査	B BA	共同住宅	H17.3.2	古閑敬士 慎重工事	
16	19	岩井口遺跡(B地点)	伊倉北方字岩井口1520(ほか)	5524	確認調査	I LG	農地造成	H17.3.24~H17.3.29	古閑敬士 工事立会	

II 平成 15 年度の調査

岩崎城跡

高岡原 J 遺跡 (A 地点)

玉名高校校庭遺跡

吉丸西遺跡

高岡原 J 遺跡 (B 地点)

立願寺廃寺 (A 地点)

高瀬本町通遺跡 (A 地点)

南出遺跡 (A 地点)

南出遺跡 (B 地点)

中北遺跡 (A 地点 I 区)

中北遺跡 (B 地点 II 区)

中北遺跡 (C 地点 III 区)

狐ん路遺跡

岩崎原遺跡 (A 地点)

北の崎遺跡

築地館跡

與内迫遺跡

中ん城遺跡

岩崎原遺跡 (B 地点)

千田川原俵転し

玉名平野条里跡

1 岩崎城跡

(1) 調査に至る経緯

玉名市岩崎字池田 668-1、668-2、668-5において、専用住宅建設工事が計画された。しかし当地を含む一帯は岩崎城跡の範囲に含まれていることから、平成 15 年 3 月 12 日付けで文化財保護法第 57 条の 2 による届出がなされた。これを受け玉名市教育委員会で平成 15 年 5 月 12 日から 5 月 30 日にかけて確認調査を実施した。

その結果、中世の溝跡や弥生時代の住居跡など、埋蔵文化財の存在が確認された。このため取り扱いについての協議を行い、建物基礎部分の掘削については埋蔵文化財に対して影響を及ぼさないよう、工事設計が一部変更された。しかし、進入路部分については掘削が行われるため、発掘調査を実施することとなった。

(2) 調査体制

発掘調査（平成 15 年度）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 三次昭也

調査総括 教育次長 久多見澄夫

社会教育課長 牧野和明

社会教育課審議員兼課長補佐

西田道也

調査事務 文化係長 岩永次郎

主事 清田静香

調査担当 調査員 蠶父雅史（確認調査）

技師 末永 崇（本調査）

発掘作業員 古賀武子 平野輝代

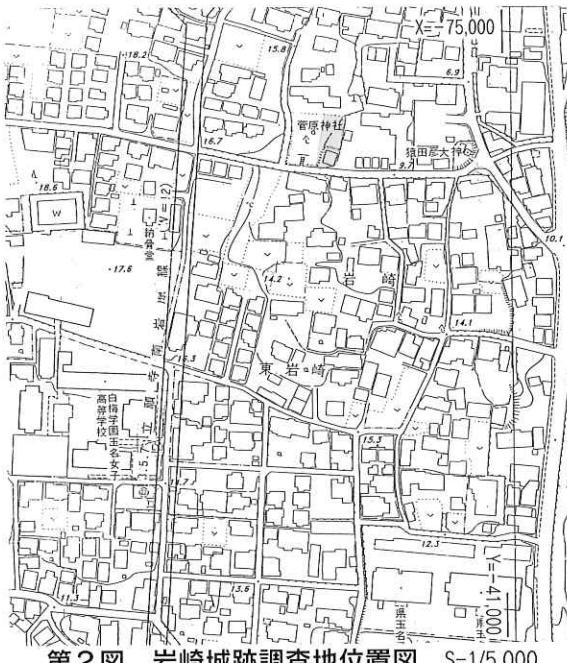
整理作業（平成 15 年度）

調査主体 玉名市教育委員会

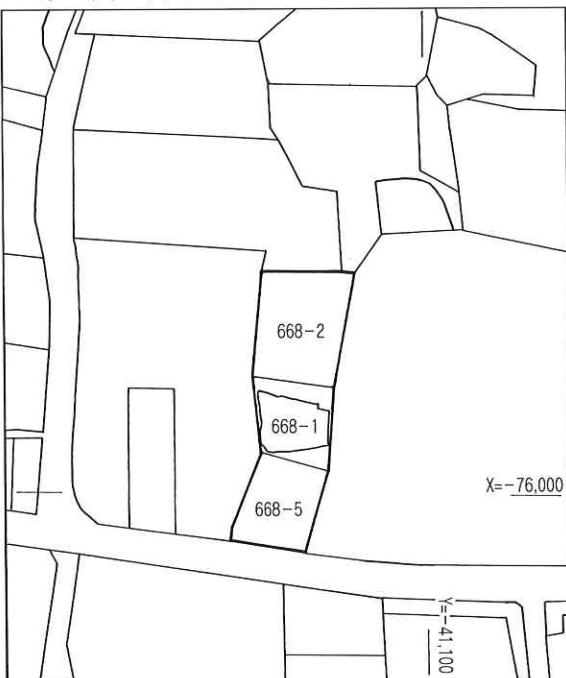
調査責任 教育長 三次昭也

調査総括 教育次長 久多見澄夫

社会教育課長 牧野和明



第2図 岩崎城跡調査地位置図 S=1/5,000

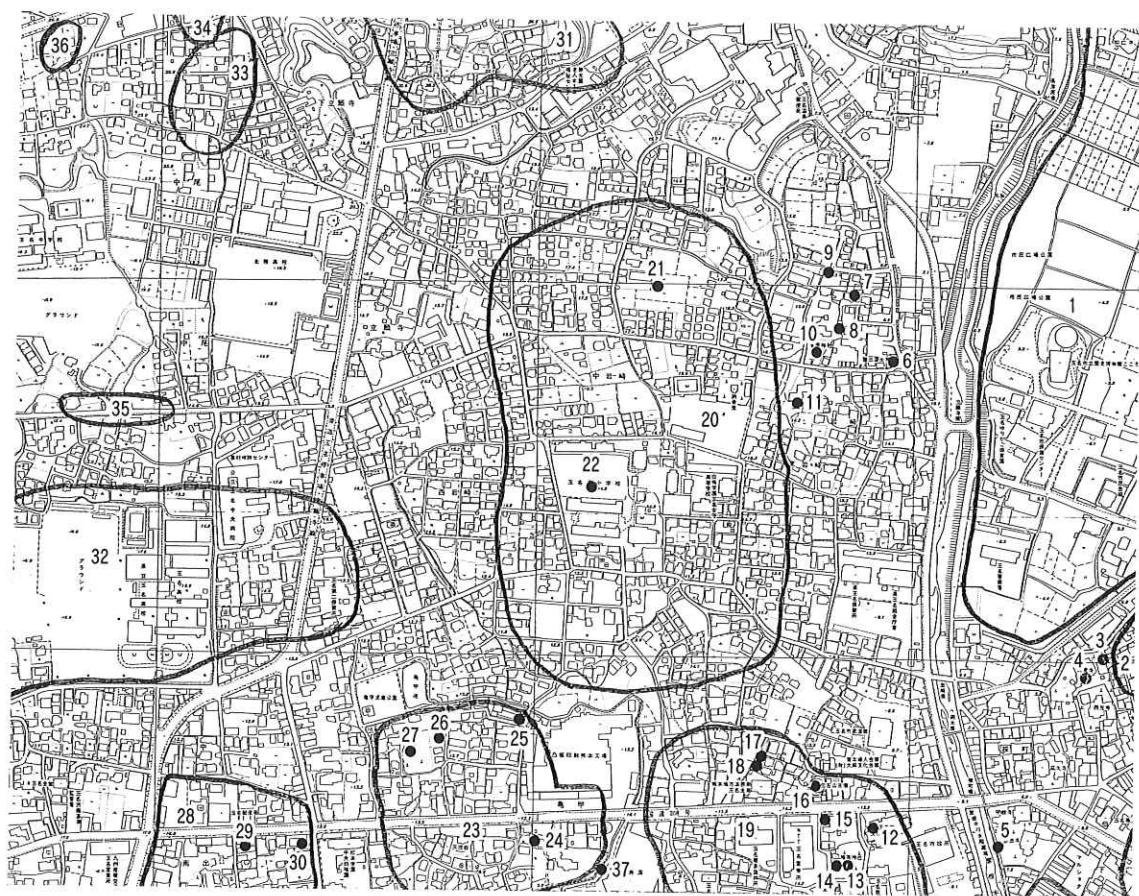


第3図 岩崎城跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



岩崎城跡調査予定地より西側を望む

II 平成 15 年度の調査



第4図 岩崎城跡周辺遺跡分布図 S=1/10,000

- | | | |
|-----------------|-------------------|----------------|
| 1 玉名平野条里跡 | 13 稲荷山薬師堂跡 | 24 円秀寺跡 |
| 2 保田木城跡・高瀬町奉行所跡 | 13 宮の後豪潮宝篋印塔 | 25 上畠丸塚 |
| 3 高瀬官軍墓地 | 13 稲荷山古墳（他 4 石碑） | 26 肥後同田貫歴代刀工の墓 |
| 4 大覚寺豪潮宝篋印塔 | 14 繁根木貝塚 | 27 肥後同田貫刀鍛冶跡 |
| 5 芭蕉句碑（時雨塚） | 14 繁根木箱式石棺（繁根木古墳） | 28 南出遺跡 |
| 6 岩崎古墳参考他 | 15 繁根木地下式横穴群（4 基） | 29 南出地下式横穴 |
| 7 池田地下式横穴群 | 16 伝佐山古墳 | 30 南出甕棺群 |
| 8 伝岩崎城主の墓 | 17 豪潮宝篋印塔 | 31 下立願寺遺跡 |
| 9 池田支石墓参考他 | 18 高瀬藩土墓 | 32 玉名高校々庭遺跡 |
| 10 岩崎古墳 | 19 高瀬眼鏡橋 | 33 名称不明 |
| 11 岩崎 B 遺跡 | 20 岩崎原遺跡 | 34 糸峯遺跡 |
| 12 繁根木山寿福寺跡 | 21 岩崎 A 遺跡 | 35 城下遺跡 |
| 13 繁根木遺跡群 | 22 高瀬藩邸・藩丁跡 | 36 名称不明 |
| 13 豪潮法華妙典一字一石塔 | 22 高瀬藩校自明堂跡 | 37 坂下会所跡 |
| 13 補陀落渡海碑 | 23 玉名龜甲遺跡 | |

社会教育課審議員兼課長補佐
西田道也
調査事務 文化係長 岩永次郎
主事 清田静香
報告書担当 主任 兵谷有利
整理作業員 坂崎郷子 五野富美子
早川イツエ 古賀武子 平野輝代

(3) 遺跡の概要

岩崎城は中世城館の推定地で岩崎氏の居館跡と云われており、古代には大野氏が管理する大野別符に含まれていた。大野氏の流れについて、紀宗善の由緒書きには、「大野小次郎紀国隆が建久4年（1193）4月2日、関東御教書によって玉名郡内の大野250町を給せられて関東から下向し、中尾高岡屋敷を本拠地とした。このとき、女子5人に中尾・山田・岩崎・尾崎・河崎を名乗らせた。」とあるが、大野氏が平安時代後期の玉名西郷を治めた紀氏の流れをくむもので莊園成立時は在地の開発領主であった可能性が強い。以上のとおり岩崎氏は大野一族であると云われている。

調査地は、繁根木川右岸の低丘陵で東の繁根木川に向かって下がる斜面上に位置し、標高15m～16mほどの地点に位置する。平成12年度に農地造成工事に伴い、調査地の西約60m地点の調査が行われ、弥生時代後期の住居跡や、幅約4m、深さ約3mの堀、土壘状遺構が確認されており城域の一番西側の部分と考えられる。また平成13年度には南北岩崎公民館建設工事に伴い、調査地の西40m地点を調査し、弥生時代後期の住居跡が確認されている。

岩崎城西側の縄張りは方形単位の平坦部を堀や土壘で守っており、城館の中心部より外側が高くなるのが特徴である。東側は切岸にして、繁根木川を堀としたのではないかと考えられる。南と北側の城域については、周辺の宅地化が進

み、現状での観察では遺構等は確認できない状況である。

(4) 確認調査

確認調査は敷地の入口部分で掘削される範囲内を人力で掘下げを行い、埋蔵文化財の状況を確認した。資材搬入のため一部は既に表土が剥ぎ取られた状況であったが、I～IV層までを確認した。各層の内容は以下のとおりである。

I層 暗褐色土 (7.5YR 3 / 3)

非常にしまり、やや粘性を有す。遺物を含む。住居の覆土が転圧された層。

II層 暗褐色土 (7.5YR 3 / 4)

しまり、粘性有す。焼土、炭化物少量含む。1cm前後の礫片を含む。

III層 黒褐色土 (7.5YR 3 / 2)

しまり、粘性有す。焼土、炭化物少量含む。II層より礫片、砂多く含む。

IV層 暗褐色土 (7.5YR 3 / 3)

ややしまり、やや粘性有す。細かい砂粒含む。

層位の状況は西から東方向に堆積しており、I層目には小片であるが遺物が含まれている。また、II～III層にかけては炭化物を含む。

(5) 調査の経緯及び方法

確認調査後、工事関係者と協議を行い、建物基礎の設計変更がなされることとなり現状保存できるようになった。しかし、切土の行われる進入口部分については発掘調査が行われることになった。調査範囲区の一部は遺構面が露出しているため、I層目より人力による掘削を行った。遺構はそれぞれ番号を付けて掘下げた。

各遺構の実測は、住居跡1/20スケール、溝跡1/20スケール、土層断面1/20スケールで行った。調査時の写真撮影は、35mmのカラーリバーサル及びモノクロフィルムで行った。

II 平成15年度の調査

(6) 遺構と遺物

1号住居 (S I-O 1)

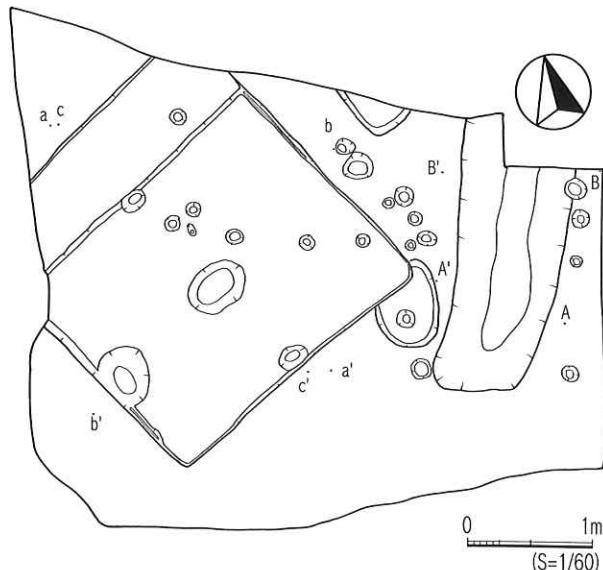
調査区中央部分の表層より検出した。北西から南東方向 5.1m × 北東から南西方向 4.8m の正方形に近い形で、深さは検出面から 20cm である。北西側の壁に幅約 1.2m、立ち上がり 15cm のベッド状遺構を検出した。住居内でピット 8 基を検出したが、北西から南東に並ぶ 2 本柱の住居と思われる。住居のほぼ中央部分には長軸 95cm × 短軸 75cm、深さ 10cm の楕円形に近い炉を持ち、一部がレンガ状に焼けている。遺物は弥生土器が出土した。

1号土坑 (S K-O 1)

1号住居同様に表層より検出し、1号住居に切られている。長軸 1.4 m × 短軸 1.0 m の楕円形に近い形で、深さは検出面から約 16cm である。中央部のピットは中世のものである。遺物は弥生土器の小片が出土した。

2号土坑 (S K-O 2)

調査区北端で検出された。深さ 12cm で北側に延びる落ち込みで、主要部分は調査区外にあるため、詳細は不明である。出土遺物は確認されなかった。



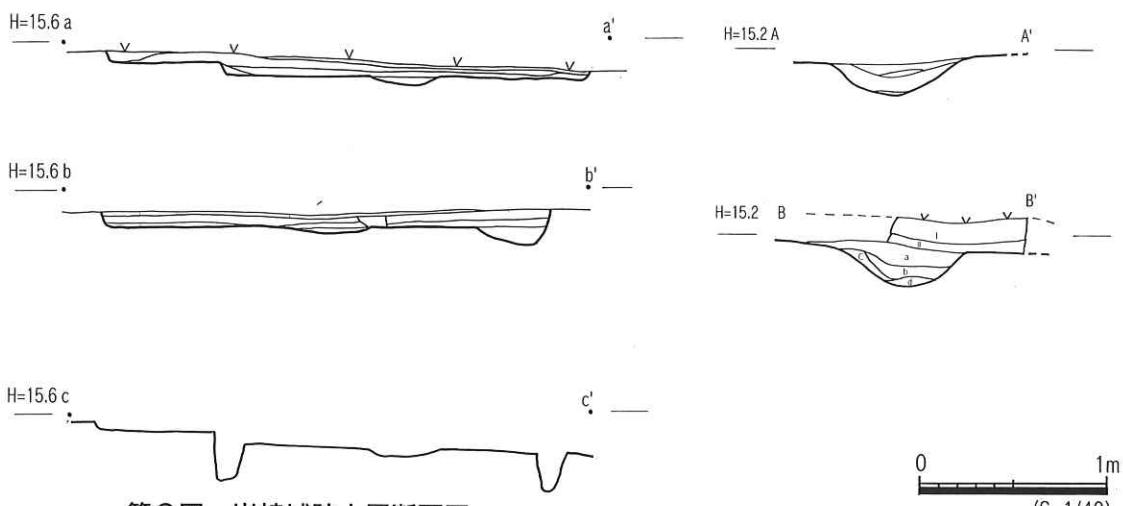
第5図 岩崎城跡遺構配置図

- 土色**
- 1 暗褐色土 (7.5YR3/3)
非常にしまり、やや粘性有す。遺物含む。住居の覆土が、転圧された層。
 - 2 暗褐色土 (7.5YR3/4)
しまり、粘性有す。燒土、炭化物少量含む。1cm前後の礫片含む。
 - 3 黒褐色土 (7.5YR3/2)
しまり、粘性有す。燒土、炭化物少量含む。2層より礫片、砂多く含む。
 - 4 暗褐色土 (7.5YR3/3)
ややしまり、やや粘性有す。細かい砂粒含む。

- SD-01 土層断面**
- a 褐色土層 (7.5YR4/4)
あまりしまらず、やや粘性有す。砂粒を多く含む。
 - b 灰褐色土層 (7.5YR4/2)
あまりしまらず、aよりもやや粘性強い。中世土器片含む。小石粒も多く含まれる。木炭などは混入しない。
 - c 黑褐色土層 (7.5YR3/2)
部分的にしまりが強く、あまり粘性はない。自然の礫層に伴う礫石を含む。
 - d 褐色土層 (7.5YR4/6)
ややしまりが強く、粘性なし。ローム土を部分的に含む。

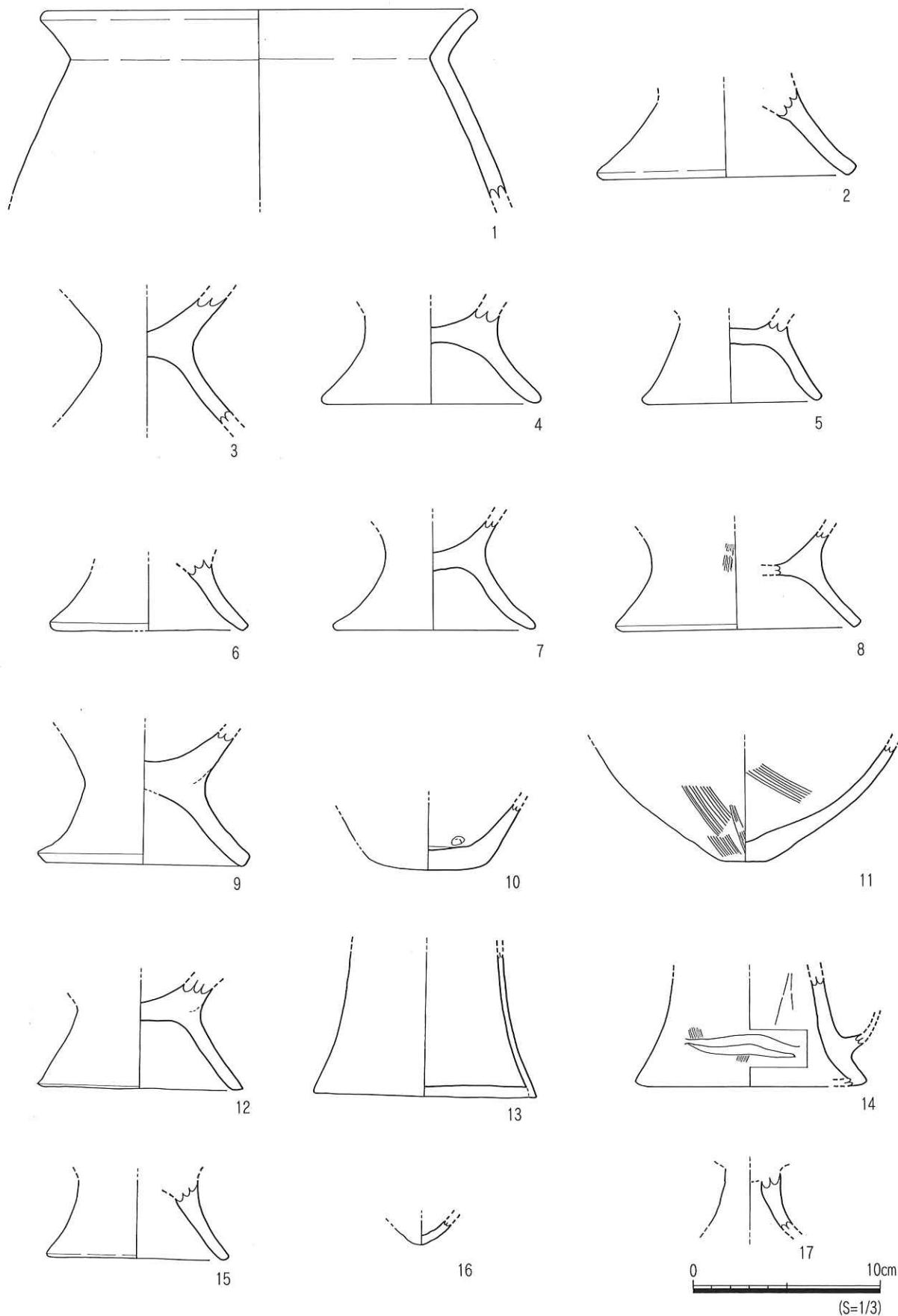
* この掘覆土からは、安山岩などの自然石片が多く出土した。石墨などに伴つたものかもしれない。

II層 包含層に相当 (旧表土下位)
ややしまりが強く、粘性有しない (しまりが強いのは、転圧のためか) 弥生～中世の遺物片含む。



第6図 岩崎城跡土層断面図

II 平成 15 年度の調査



第7図 岩崎城跡遺物実測図①

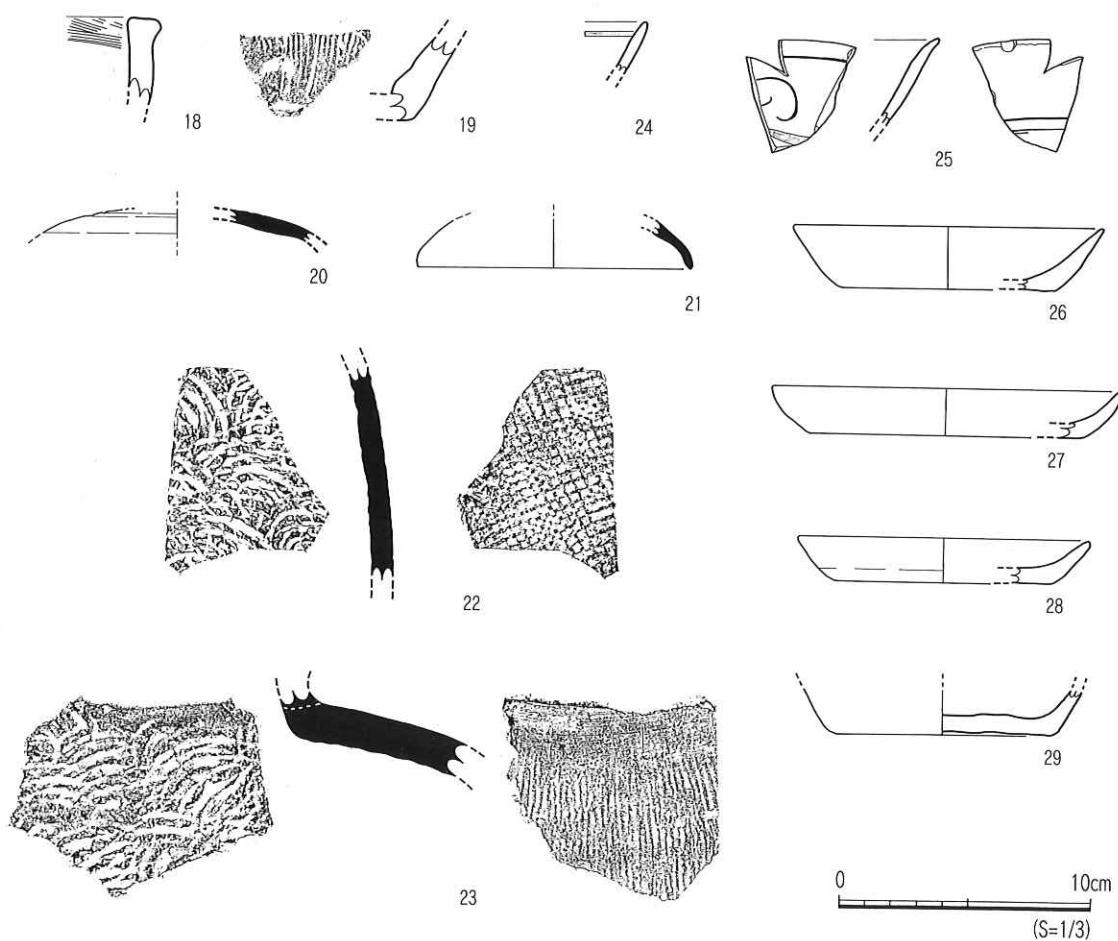
II 平成15年度の調査

1号溝 (S D-O 1)

調査区東側で検出された。長さ4.3m以上、幅1.7mで深さ約45cmの溝で調査区内に始まり北にのびる。堆積土には安山岩などの自然石片が多く含まれていた。遺物は土師器、瓦器、青磁が出土した。

(7) まとめ

今回の発掘調査では、弥生時代後期に位置付けられるベッド状遺構をもつ住居跡と、岩崎城に関係すると考えられる中世の溝状遺構を確認した。周辺の調査でも弥生時代後期の住居跡が確認されていることから、集落が存在していたことが考えられる。また、城館については今後の発掘調査などにより、関係する遺構や遺物がさらに確認できれば、城館の特性や構造が明らかになると考えられる。



第8図 岩崎城跡遺物実測図②

2 高岡原 J 遺跡 (A 地点)

所在 地：山田字高岡原 2019-1

対象面積：763 m² (100.9 m²)

調査期間：平成 15 年 5 月 12 日～5 月 16 日

担 当 者：末永 崇・齋父雅史

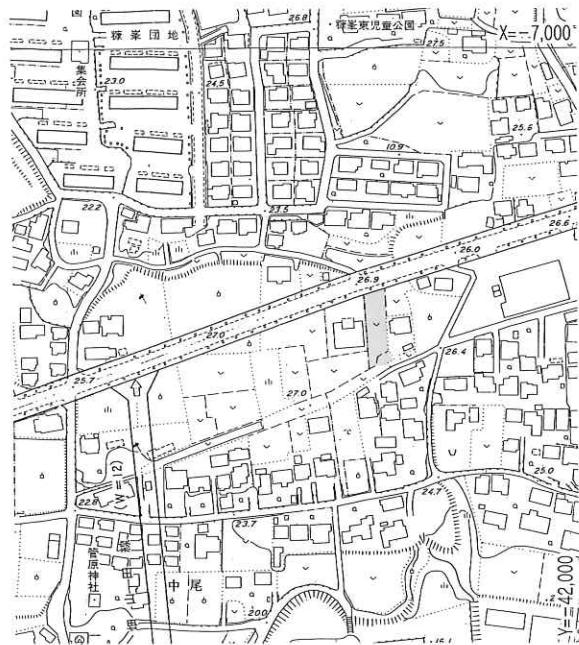
調査地は、小代山から南側に延びる丘陵上に位置し、標高 27 m 程の地点である。敷地はほぼ平坦に造成され、畠として利用されている。北側道路とは 60～70cm ほどの高低差がある。

西側隣接地は、平成 14 年度に診療所増築に伴い発掘調査を実施している。

確認調査では、敷地内に 4 カ所トレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、I 層から V 層までを確認した。III 層以下から埋蔵文化財を検出した。溝状遺構や、埋設土器、柱穴等の遺構、縄文時代の打製石斧とみられる石器などが出土している。

確認調査後、主体者と協議を行い、工事が埋蔵文化財に影響を与えないよう、設計変更がなされ、調査後の措置は工事立会となった。また、埋設土器については後日、調査を行い完掘した。

なお、工事立会では遺構・遺物は確認されていない。



第9図 高岡原 J 遺跡 (A 地点) 調査地位置図 S=1/5,000



第10図 高岡原 J 遺跡 (A 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

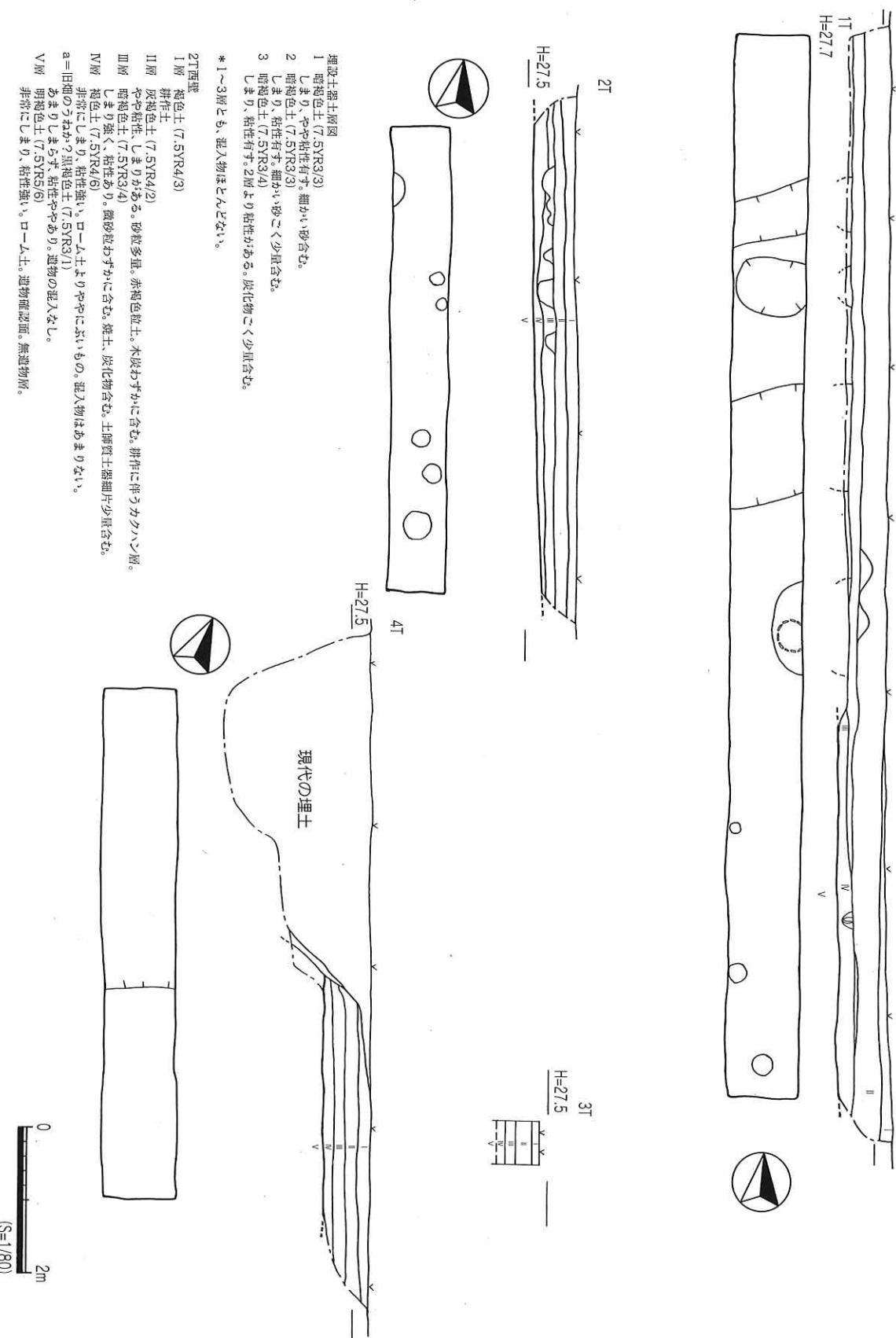


高岡原 J 遺跡 (A 地点) 調査前 (西から)



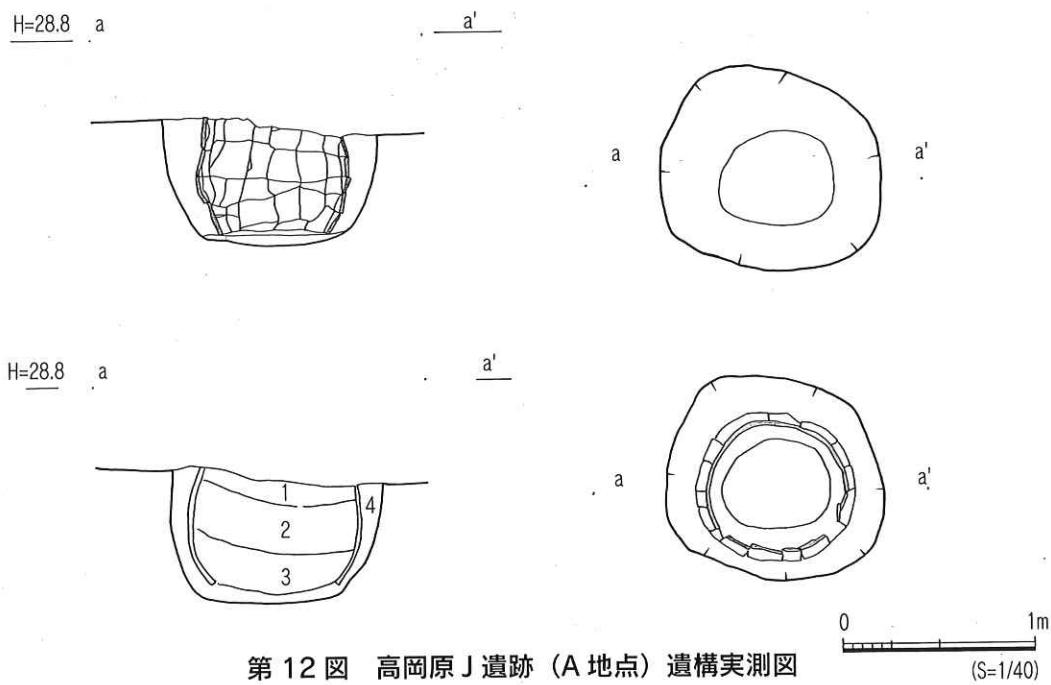
高岡原 J 遺跡 (A 地点) トレンチ埋設土器

II 平成 15 年度の調査

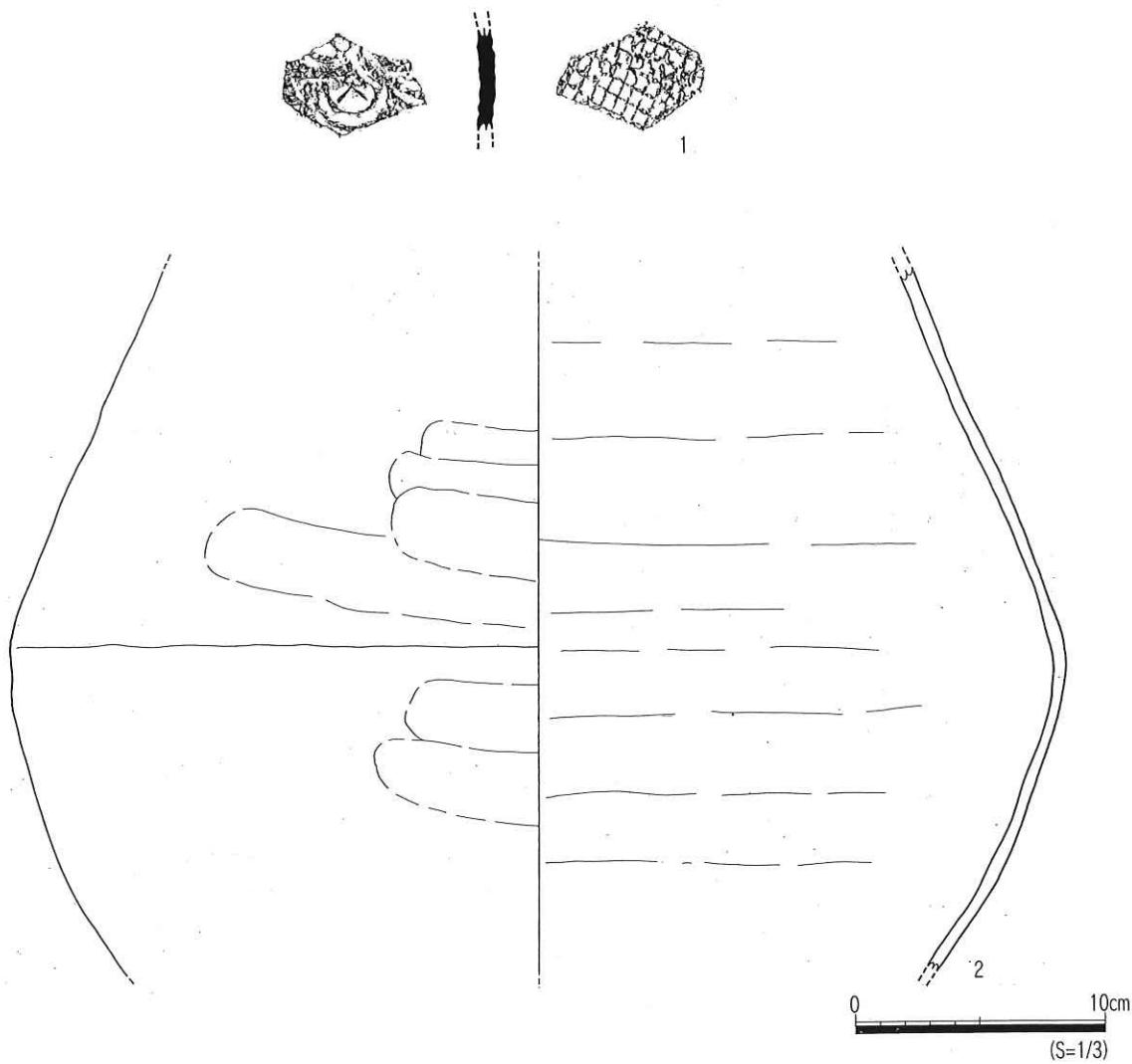


第 11 図 高岡原 J 遺跡 (A 地点) トレンチ実測図

II 平成 15 年度の調査



第 12 図 高岡原 J 遺跡 (A 地点) 遺構実測図



第 13 図 高岡原 J 遺跡 (A 地点) 遺物実測図

3 玉名高校校庭遺跡

所在 地：中字古野 1997-1

対象面積：889.83 m² (267.31 m²)

調査期間：平成 15 年 5 月 28 日

担当 者：兵谷有利・蘿父雅史

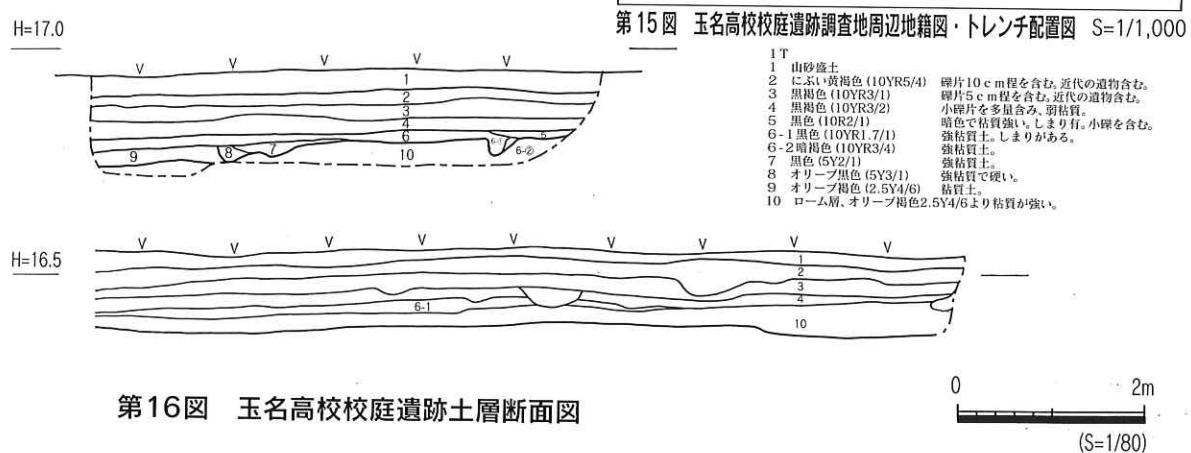
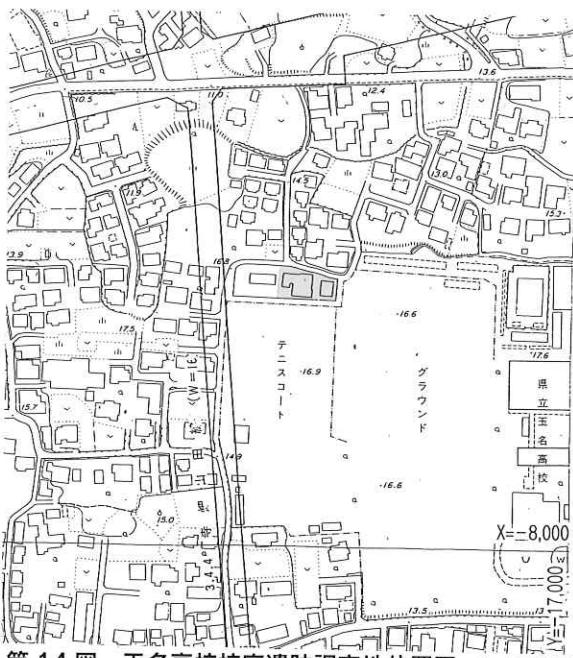
調査地は、玉名台地上の標高約 17 m の地点に位置している。遺跡は、現在の玉名高校を中心東側へ広がっている。

今回の工事は、学生寮の増改築であり、既存の老朽化した建物を解体後、一部増築される部分の確認調査である。届出地に 2 カ所のトレーニングを設定し、埋蔵文化財の確認を行った。

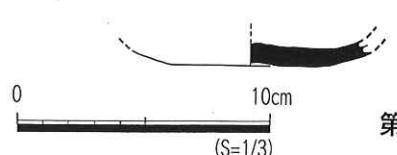
その結果、1 層から 10 層までを確認した。地表より約 50 cm 下のⅢ層には中世の遺物を含む落ち込みが確認され、その上層は近・現代の遺物を含む擾乱層であった。下層は非常に粘質が強く砂礫を多量に含み、遺物は確認されておらず、中世以前の堆積土である。

基礎掘削は 30 ~ 45 cm で表土と建物基礎に伴う整地層内に納まる。

調査後の措置は慎重工事である。



第16図 玉名高校校庭遺跡土層断面図



第17図 玉名高校校庭遺跡遺物実測図

4 吉丸西遺跡

所在 地：寺田字榎原 829-1,829-3

対象面積：1140.3 m² (240.4 m³)

調査期間：平成 15 年 6 月 10 日

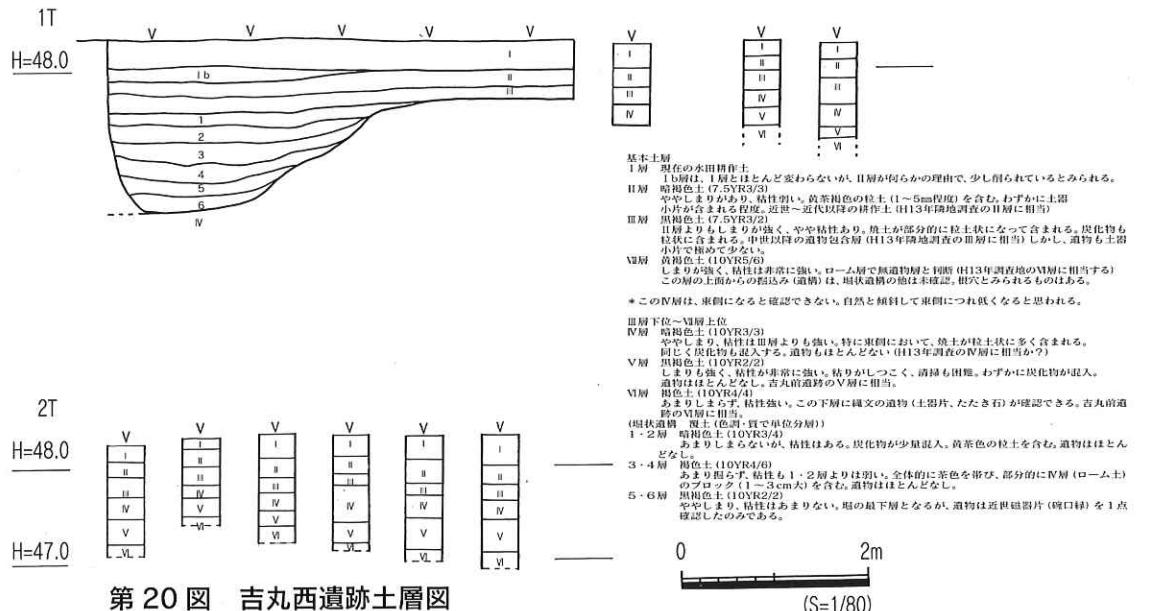
担 当 者：齋父雅史

調査地は、伊倉丘陵性台地の標高約 48 m の地点に位置する。地形は、北東側へ緩やかに傾斜している。西側では玉名バイパスに伴い、市が平成 13 年度から 15 年度まで吉丸前遺跡の発掘調査を行っており、平成 13 年 3 月には、南側隣接地で確認調査を行っている。

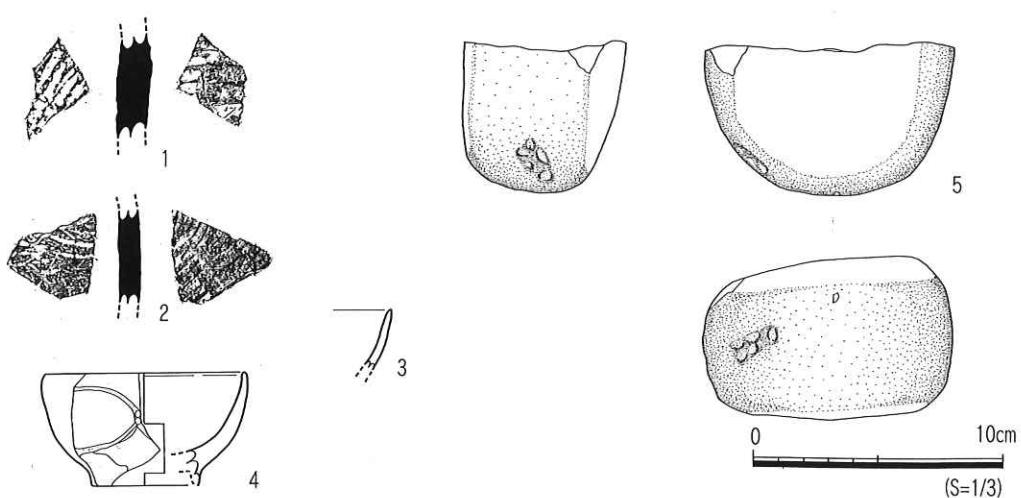
確認調査では 2 本のトレンチ（東西方向）を設定し、重機により掘削を行った。

その結果、いずれのトレンチにおいても、近世～近代にかけてのものとみられる溝を確認した。この溝は、前回行った南側隣接地で検出された溝とつながるものと考えられる。溝の覆土に遺物はほとんど含まれないが、最下層において、近世磁器片が出土した。2T では、溝の方向のみをプランで確認したが西側の市道と並行するように、やや北西方向に伸びるものと思われる。また、地表より 1.3 m 下の VI 層からは縄文の遺物を確認した。その他、トレンチ全体から弥生時代や奈良・平安時代の土器などの破片が少量出土しているが、建物跡などの遺構は確認されなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。



II 平成 15 年度の調査



第 21 図 吉丸西遺跡遺物実測図

5 高岡原J遺跡（B 地点）

所在地：山田字糠峯 1931-1

対象面積：352.93 m²

調査期間：平成 15 年 8 月 6 日

担当者：蘿父雅史

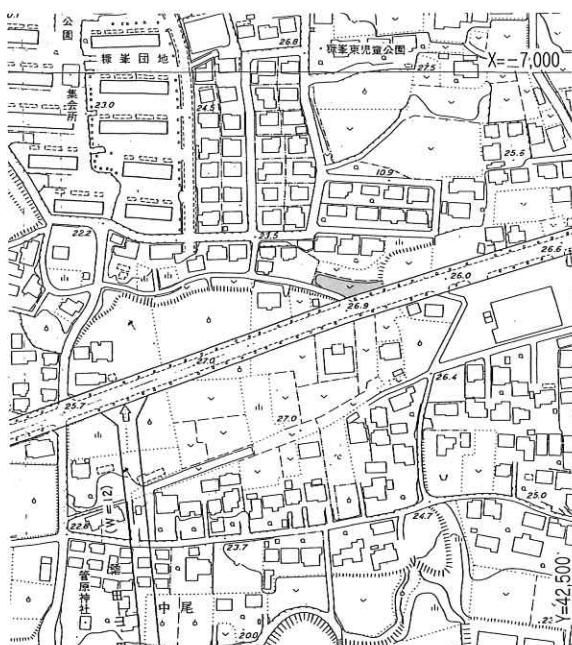
調査地は、小代山から南側に延びる丘陵上に位置し、標高 26 m 程の地点である。南側の道路を挟んだ敷地では、15 年 5 月に敷地内に 3 カ所の試掘溝を設定して、埋蔵文化財の確認調査を実施しており、縄文時代の遺構、遺物が確認されている。

調査依頼に基づき確認調査を行い I ~ IV 層を確認した。I ~ III 層までは、客土と判断され、遺物は検出されなかった。敷地内は、南側に隣接する道路の建設（平成 4 年前後）以降に埋め立てが施されているようであった。

調査後の措置は、慎重工事である。



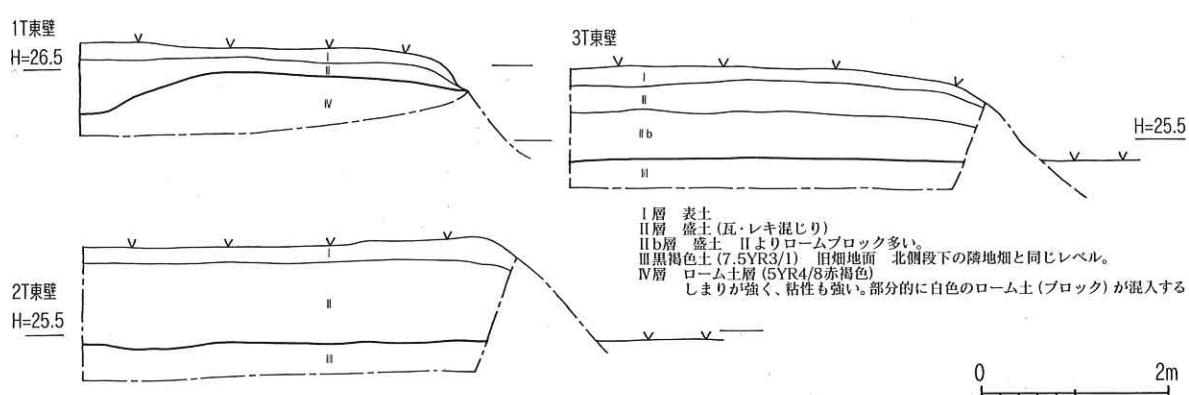
高岡原 J 遺跡（B 地点）調査地東から



第 22 図 高岡原 J 遺跡 (B 地点) 調査地位置図 S=1/5,000



第 23 図 高岡原 J 遺跡 (B 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



第 24 図 高岡原 J 遺跡 (B 地点) 土層断面図

6 立願寺廃寺 (A 地点)

所在 地：立願寺字塔ノ尾 1212-1

対象面積：803 m²

調査期間：平成 15 年 6 月 17 日～6 月 30 日

担当 者：竹田宏司

調査地は、1954 年に玉名高校考古学部による調査 (IV レンチ)、1992 年には玉名市史編纂に伴う発掘調査が行われている地点である。同地を分筆して宅地開発することになったが、分筆が予定されている範囲は、前 2 回の調査において範囲外となっていた部分が大半を占めるところから、開発業者からの依頼に基づき調査を実施した。南側の市道 (2001 年発掘調査) に面した部分は、駐車場として削平される予定であることから、第 1 レンチを設定し、建物予定範囲の南側に第 2 レンチを設定した。

第 1 レンチでは、2 m 幅の内、南側 1 m 程度が攪拌されており、バックホーの爪痕が残されていた。この攪乱は 1992 年の調査の線に切られており、それ以前のものである。北側で東西方向に延びる硬化面が確認された。硬化面を覆っていた層 (II c 層) は遺物をほとんど含んでいないため時期の特定が困難である。周辺の状況から中世の可能性が考えられる。この硬化面を形成している層の下位からは、溝と土坑が検出された。いずれも覆土は第 2 レンチの III 層に近似しており、ほとんど違いがないが、土坑が上位であると判断した。

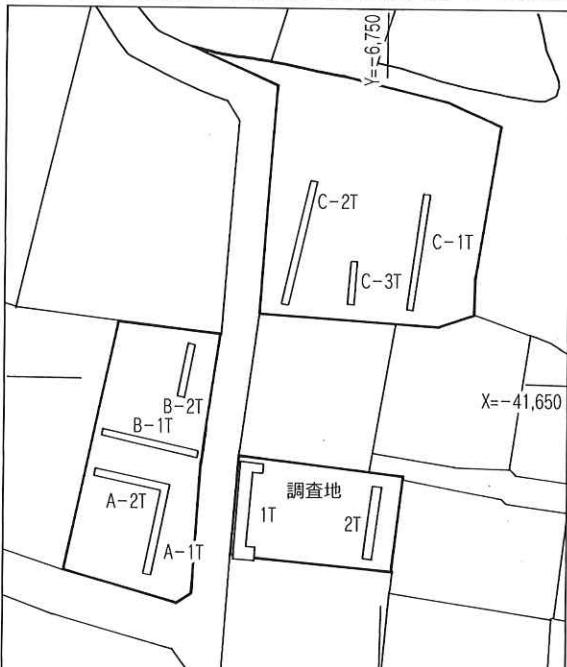
第 2 レンチについては、III 層上面まで掘削した後、北側の壁際にサブレンチを設定して IV 層上面まで確認した。この範囲においては、遺構は検出されていない。

両レンチとも遺物は少量であり、瓦・土師器・須恵器の小片の他、中世の陶磁器等が出土している。

調査後の措置は、慎重工事である。



第 25 図 立願寺廃寺 (A 地点) 調査地位置図 S=1/5,000

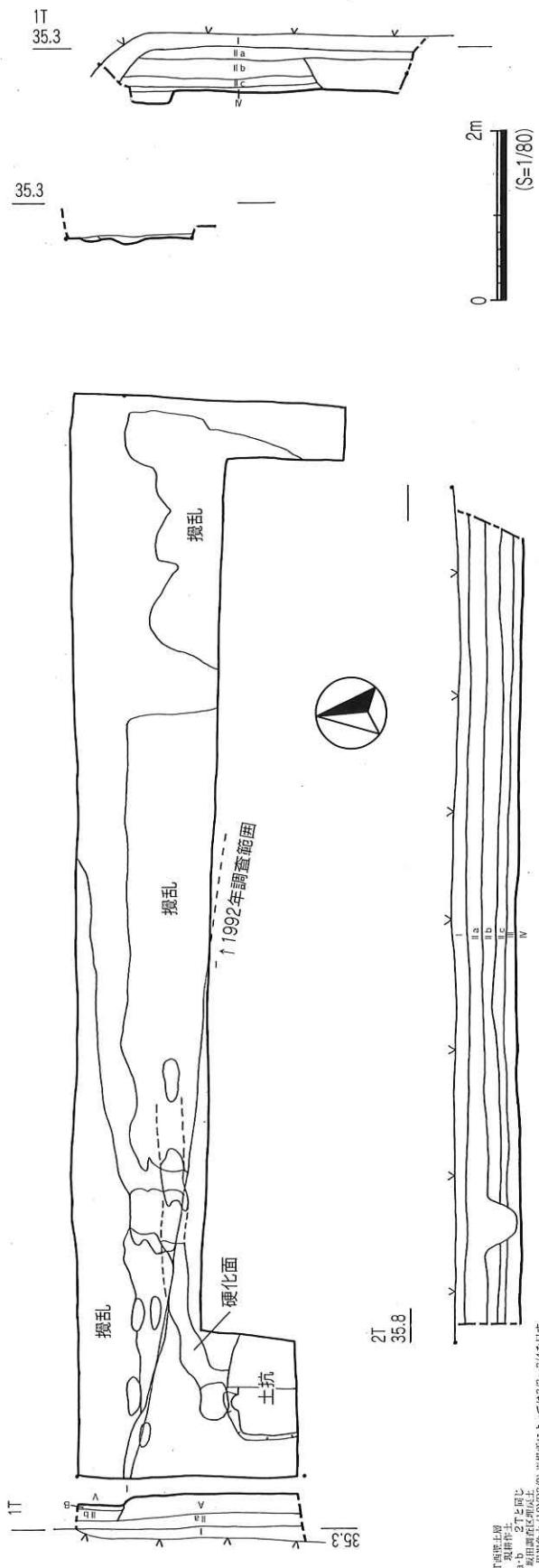


第 26 図 立願寺廃寺 (A 地点) 調査地周辺地籍図・レンチ配置図 S=1/1,000

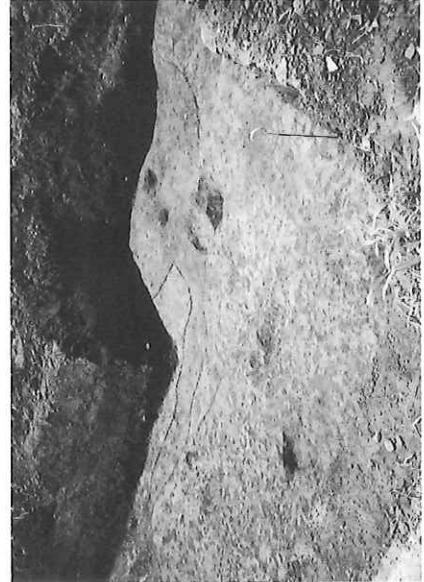


立願寺廃寺 (A 地点) 1 レンチ北西から

II 平成 15 年度の調査



第27図 立願寺廃寺（A地点）トレンチ実測図

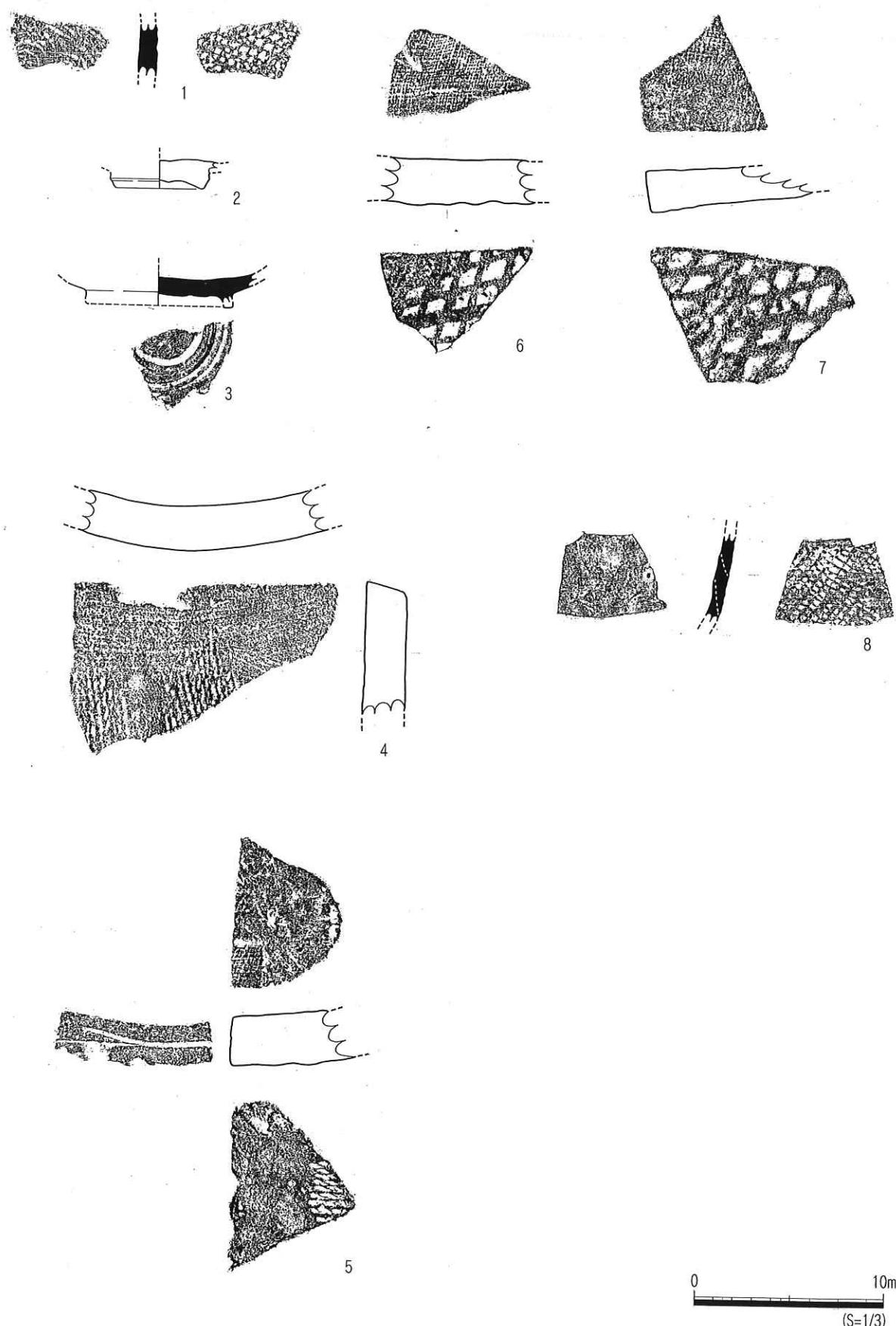


立願寺廃寺 (A 地点) 1 トレシチ遺構検出状況



立願寺廃寺（A 地点）1 トレンチ全景

II 平成 15 年度の調査



第 28 図 立願寺廃寺 (A 地点) 遺物実測図

7 高瀬本町通遺跡（A 地点）

所在 地：高瀬字下町 514-1,515-1

対象面積：315.91 m² (149 m²)

調査期間：平成 15 年 6 月 24 日

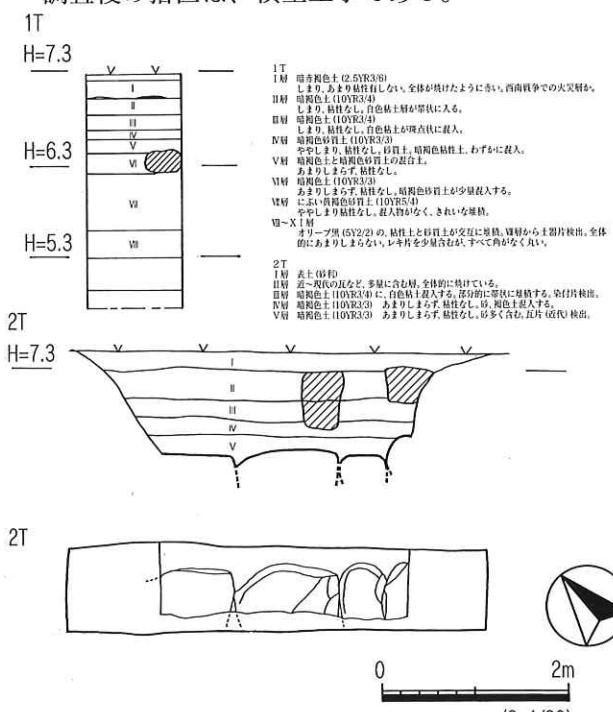
担 当 者：末永 崇・齋父雅史

調査地は、菊池川右岸の自然堤防上に位置する、標高 7.8 m 程の地点である。

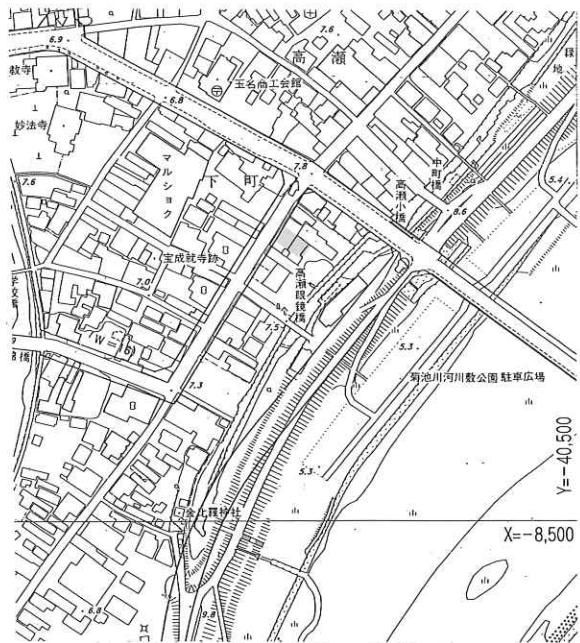
平成 13 年度から 14 年度にかけて、南側隣接地で確認調査を行っており、近世～近代とみられる建物の基礎などが確認されている。

確認調査では、敷地内 2 カ所にトレンチを設定し、重機及び人力で掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、I～XI 層までを確認した。I～VI 層までは凝灰岩の切石と近代及び近世の遺物が出土した。VII 層は褐色砂質土で、上面で建物の基礎だったとみられる凝灰岩と安山岩を検出した。VIII 層から XI 層までは、暗灰色の粘性土と砂質土が互層状に堆積しており、VIII 層から時期不明の陶磁器細片 1 点を検出した。周辺の確認調査の結果から、VI 層よりさらに下に中世の堆積層があるとみられる。

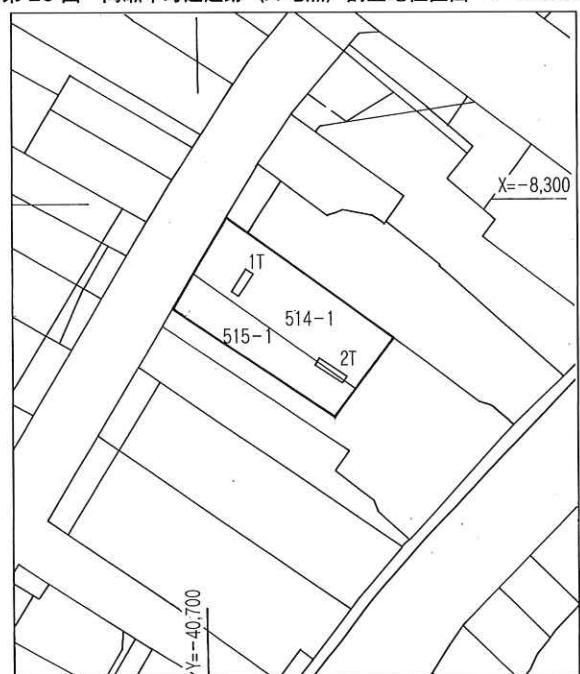
調査後の措置は、慎重工事である。



第 31 図 高瀬本町通遺跡（A 地点）トレンチ実測図



第 29 図 高瀬本町通遺跡（A 地点）調査地位置図 S=1/5,000



第 30 図 高瀬本町通遺跡（A 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

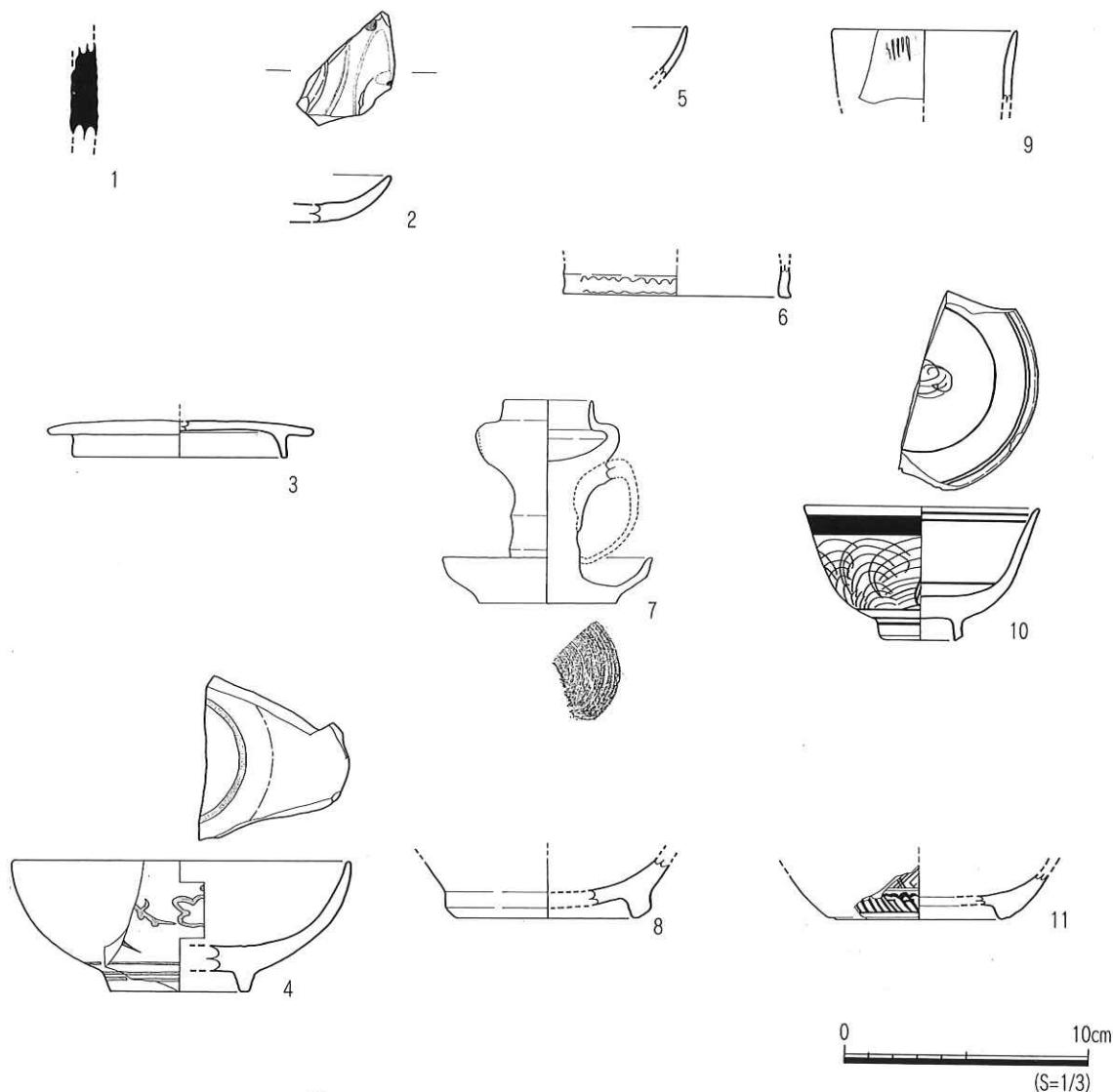


高瀬本町通遺跡（A 地点）2 トレンチ

II 平成 15 年度の調査



高瀬本町通遺跡（A地点）西から



第32図 高瀬本町通遺跡（A）遺物実測図

8 南出遺跡 (A 地点)

所在地：中内田 1809, 1793-1

対象面積：1130 m²

調査期間：第 1 次

平成 15 年 7 月 29 日～7 月 31 日

第 2 次

平成 15 年 8 月 29 日～9 月 9 日

担当者：蘿父雅史・末永 崇

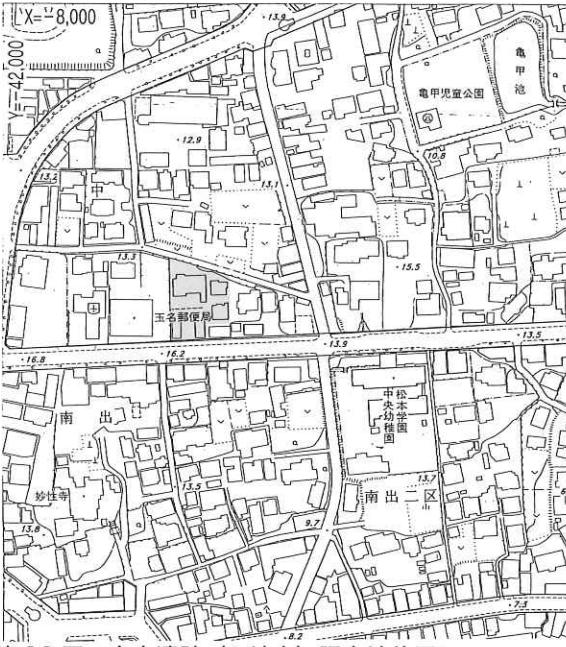
調査地は、菊池川の右岸に位置し、玉名台地の標高約 16 m の地点にある。国道 208 号線と南側で隣接し、周辺は宅地化されている。以前、遺跡からは甕棺が出土したとされている。

第 1 次調査は、建物予定地を中心に、3 本のトレンチを設定して、埋蔵文化財の確認を行った。その結果、1・2 トレンチでは各 4 層が確認できた。Ⅲ 層が遺物包含層で弥生土器の小片が含まれる。また、Ⅲ 層とⅣ 層の上面から遺構をそれぞれ 2 基検出した。1 トレンチの遺構は弥生の住居跡であり、またⅣ 層がローム土の無遺物層と判断した。

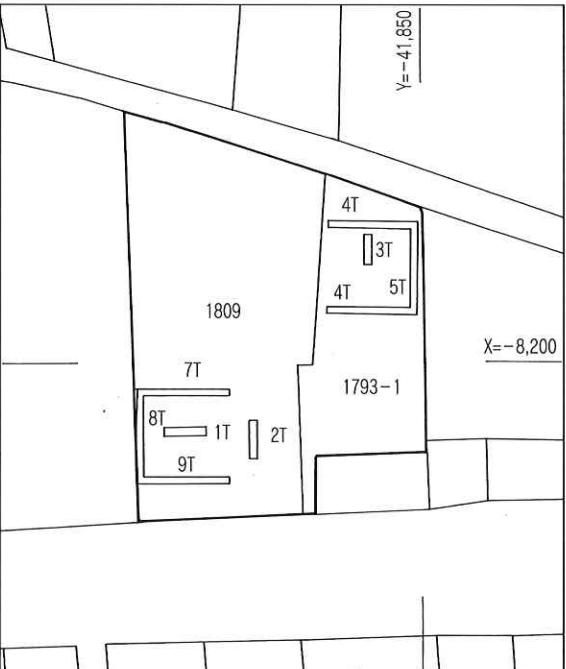
3 トレンチは 6 層に区分でき、1 トレンチのある西側は、以前の建物基礎が深かったため、解体工事時に上層が削平されている。遺物包含層からは弥生中期（黒髪式）の甕破片が 2 点出土したが遺構等は確認できなかった。

その後、開発事業者と協議を行い、工事の設計変更が行われ、建物全面の掘削は行わず、基礎部分のみの掘削となった。

第 2 次調査は建物基礎部分に「コ」の字形にトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、I 層から IV 層までを確認した。I 層は碎石及び現代の整地層、II 層は黒褐色を呈する層で、細かい土器片を少量含む。Ⅲ 層は暗褐色を呈する層で縄文時代の堆積層と推定されるが、調査した範囲では遺物などは検出できなかった。IV 層は褐色土のローム層で、無遺物



第 33 図 南出遺跡 (A 地点) 調査地位置図 S=1/5,000



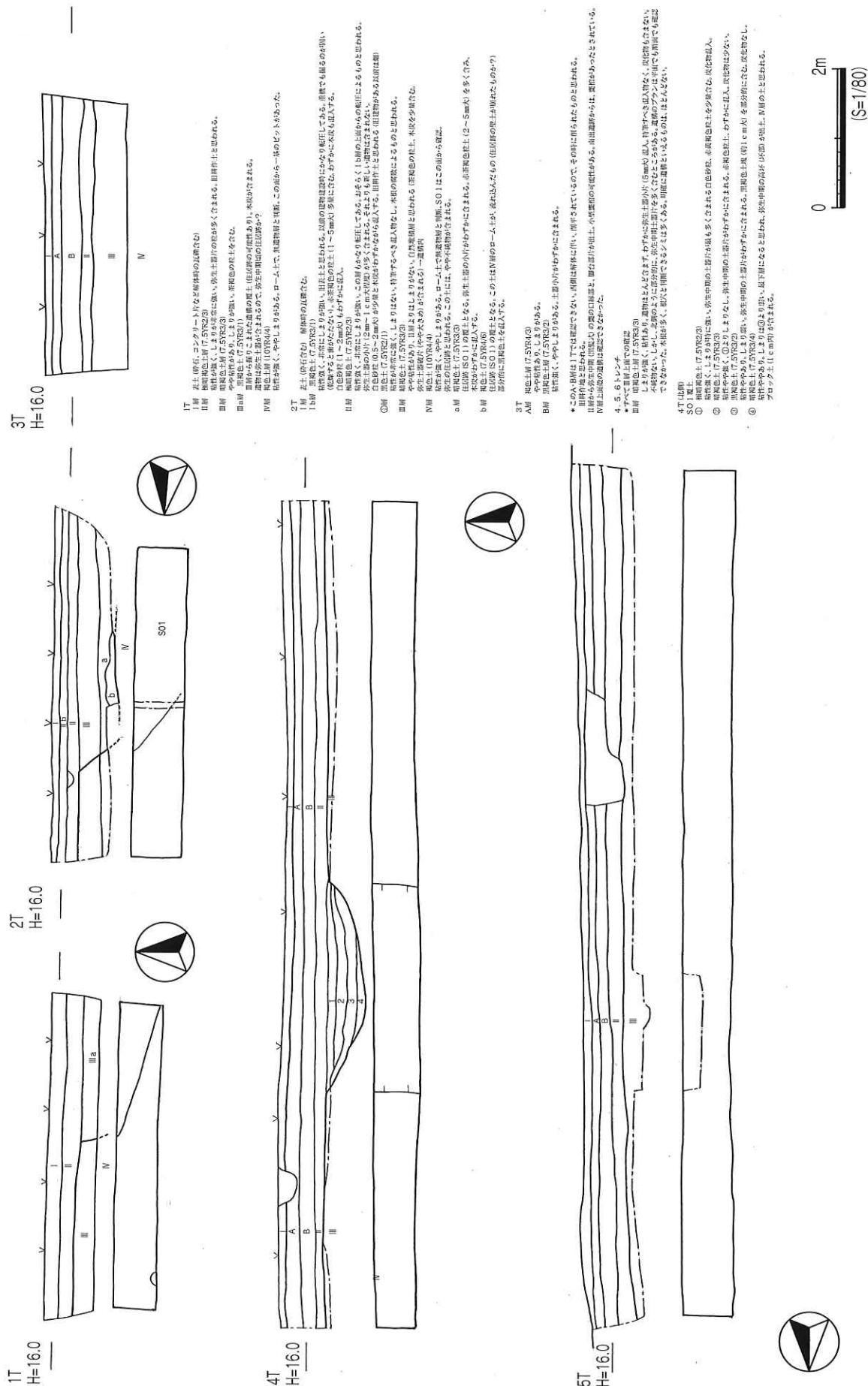
第 34 図 南出遺跡 (A 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

層と判断した。このうち、Ⅲ 層上面から弥生時代中期の住居跡などを検出した。その他、表土から須恵器片や瓦器片を採集した。第 1 次調査でⅣ 層上面から検出した遺構は、Ⅲ 層上面からの掘り込みの可能性が高い。

調査後の措置は、工事立会である。

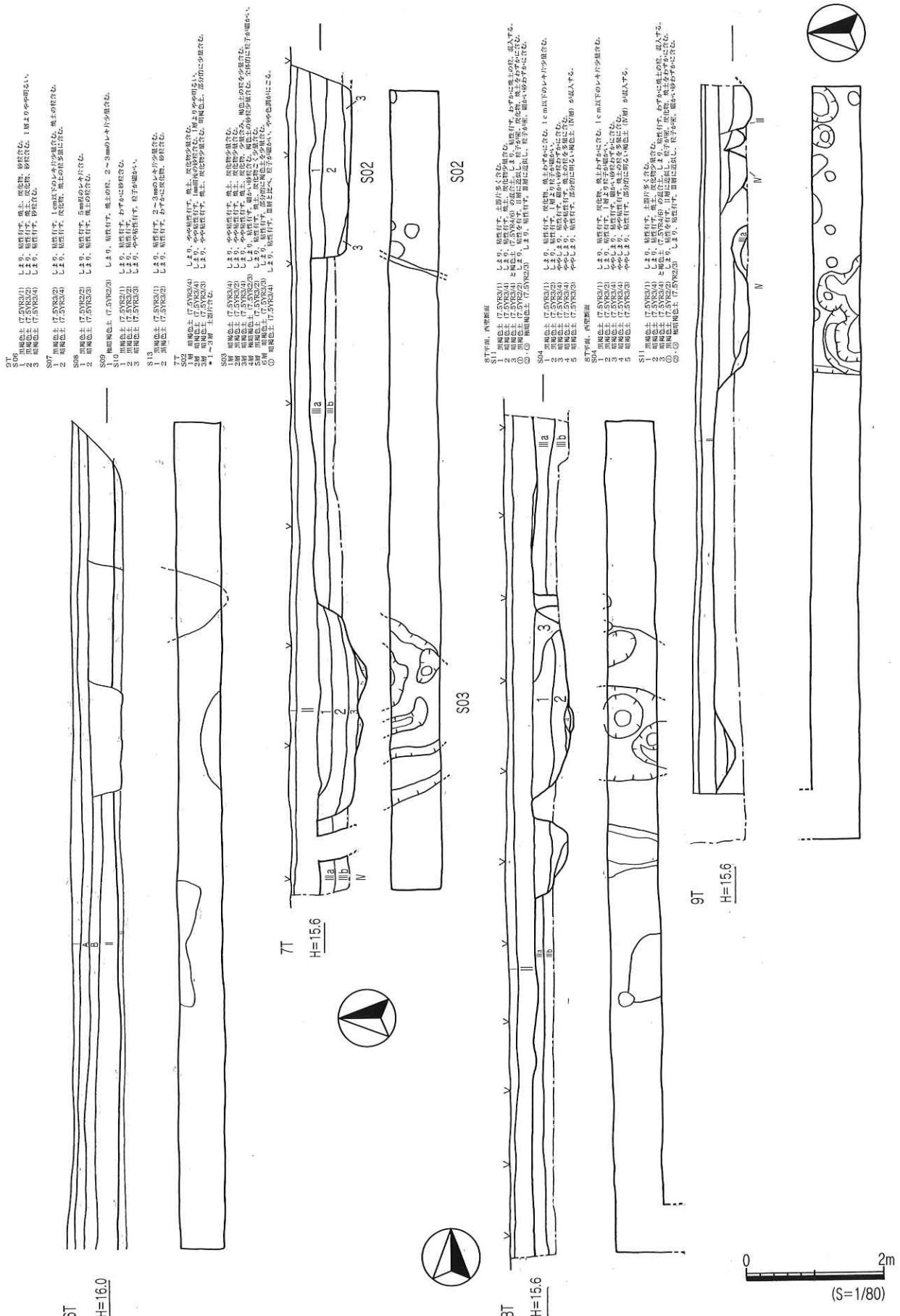
工事立会時には、弥生土器の細片を採集した。

II 平成15年度の調査



第35図 南出遺跡（A地点）トレンチ実測図①

II 平成 15 年度の調査



第36図 南出遺跡（A地点）トレンチ実測図②

II 平成 15 年度の調査



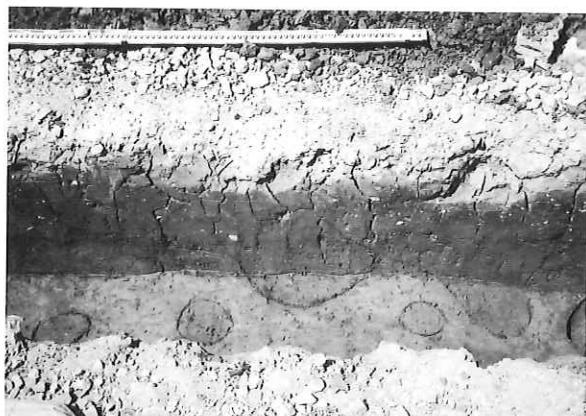
南出遺跡（A 地点）調査前（南より）



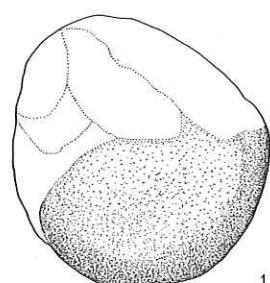
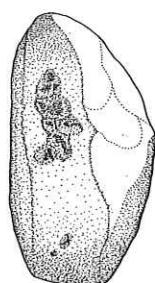
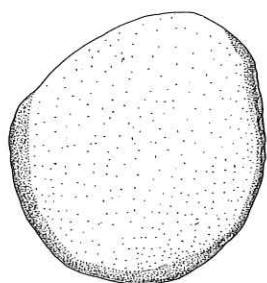
南出遺跡（A 地点）9 トレンチ（東側）



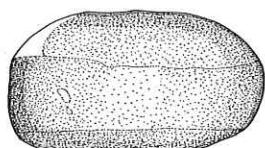
南出遺跡（A 地点）1 トレンチ（北から）



南出遺跡（A 地点）9 トレンチ遺構検出状況



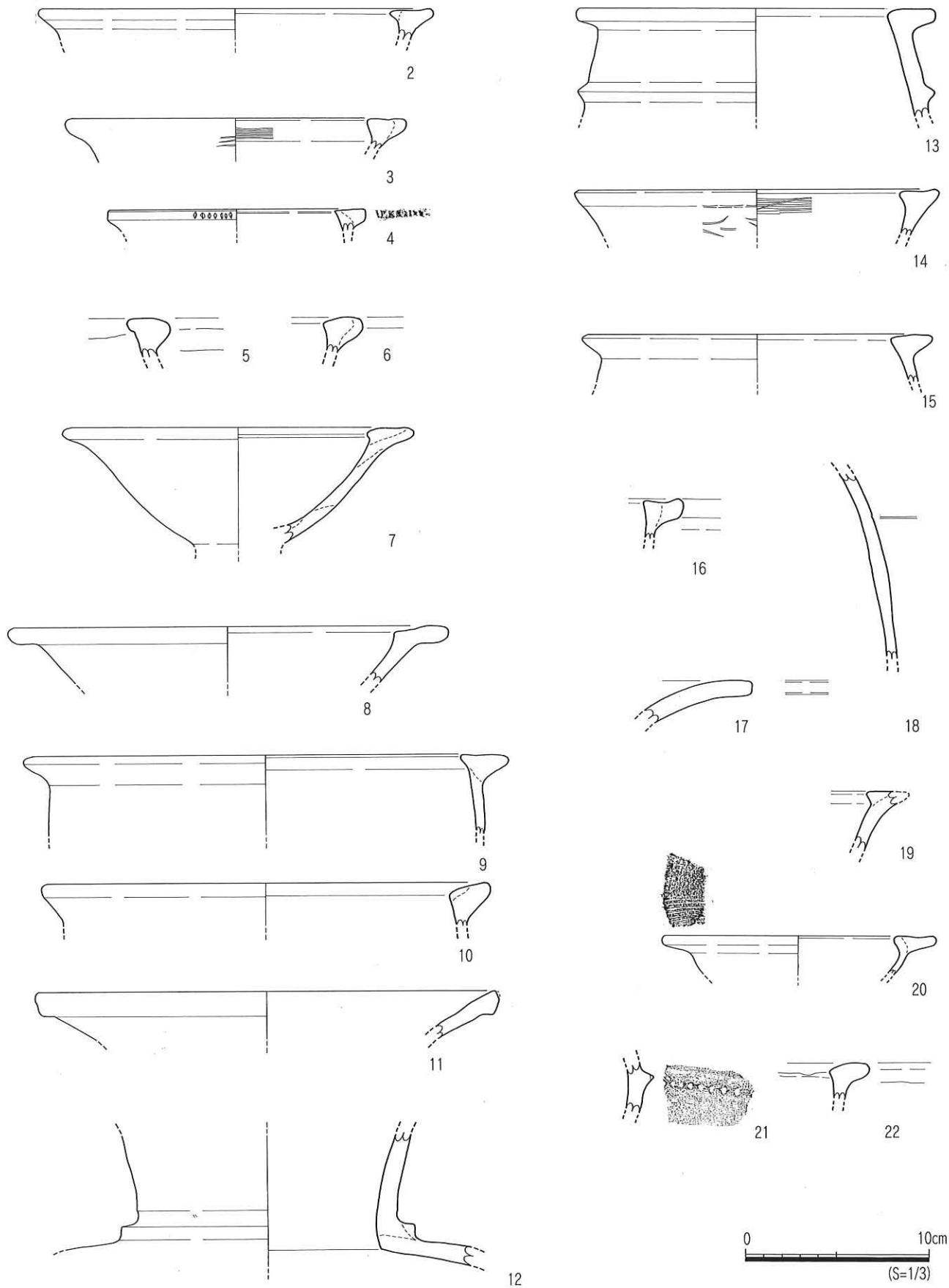
1



第 37 図 南出遺跡（A 地点）遺物実測図①

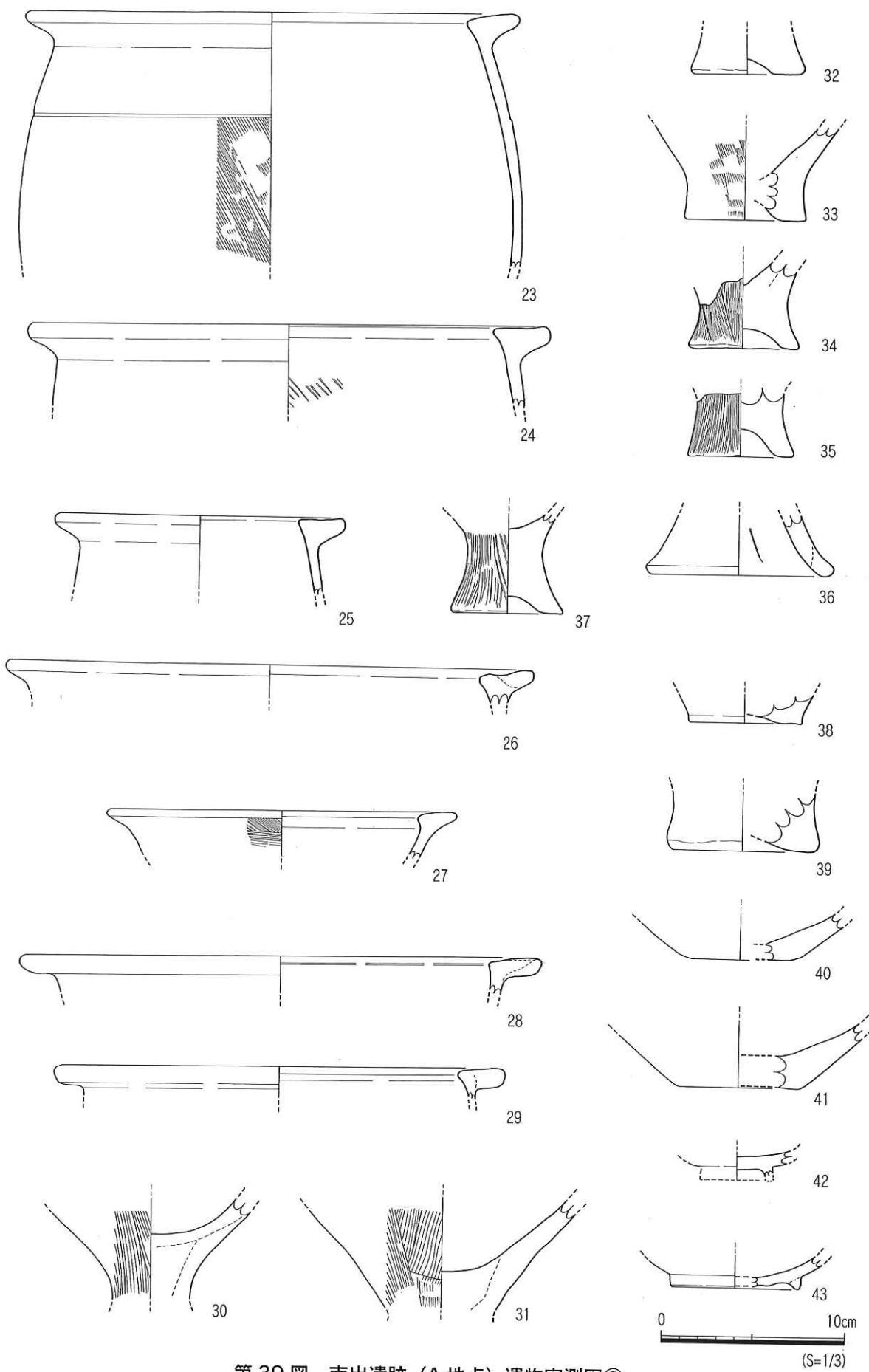


II 平成 15 年度の調査



第38図 南出遺跡（A地点）遺物実測図②

II 平成 15 年度の調査



第39図 南出遺跡（A地点）遺物実測図③

9 南出遺跡 (B 地点)

所在地：中

1747-2, 1739-2, 1736, 1735, 1733, 1734-2

対象面積：5247.34 m² (411.95 m²)

調査期間：平成 15 年 8 月 12 日

担当者：末永 崇

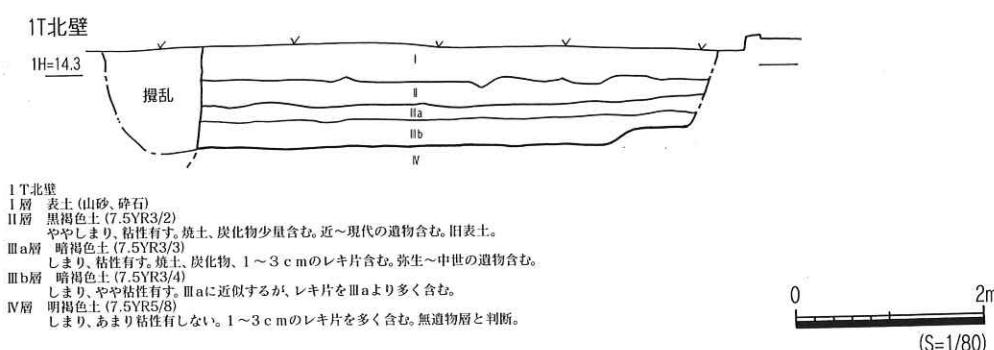
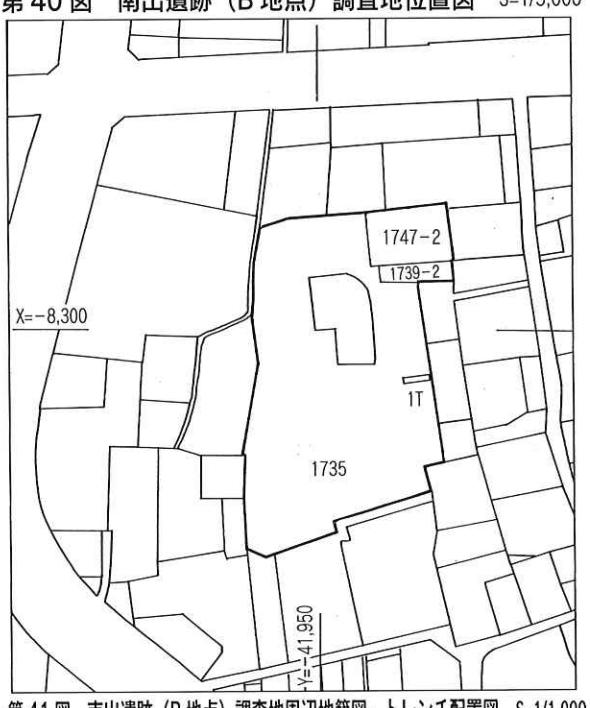
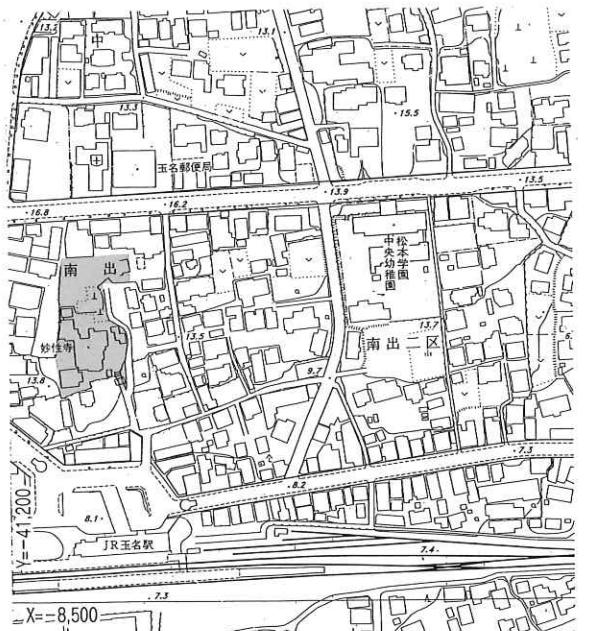
調査地は、菊池川右岸に位置し、JR 玉名駅の北側、標高約 13 m の地点にあたる。

玉名駅前広場とは約 5 m の高低差があり、当地の南側は奈良時代の大湊、また、東側は郡衙道と推定されている。

確認調査の時点では、一部基礎工事に着手されていたため、敷地内の掘削可能な部分に 1 カ所トレンチを入れ、埋蔵文化財の状況を確認した。

調査では、I から IV 層までを確認した。I 層は山砂と碎石の埋土で、II 層は埋土以前の表土層とみられ、近～現代の遺物を含む。III 層は暗褐色を呈する層で、弥生時代の甕、中世の擂鉢の破片を含む。IV 層は明褐色の礫片を多く含む層で無遺物層と判断した。その他、明確な遺構は確認できなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。

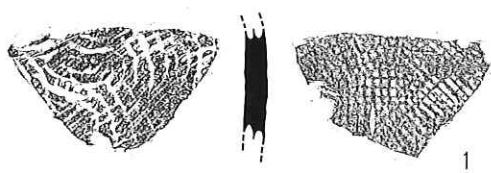


第 42 図 南出遺跡 (B 地点) 土層断面図

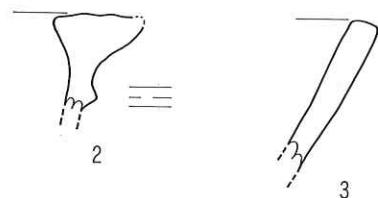
II 平成 15 年度の調査



南出遺跡 (B 地点) 1 トレンチ掘削状況

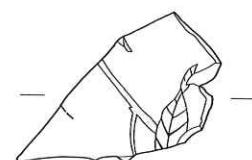


1

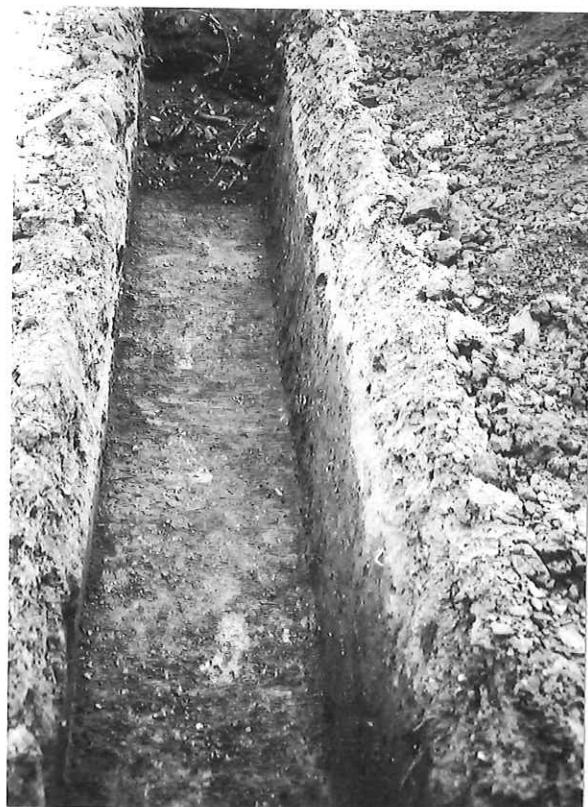


2

3



7



第 43 図 南出遺跡 (B 地点) 遺物実測図

南出遺跡 (B 地点) 1 トレンチ (西から)

10 中北遺跡（A 地点 I 区）

所 在 地：伊倉北方字古伊倉屋敷 904-1, 904-2 他

対象面積：490.74 m² (81.95 m²)

調査期間：平成 15 年 9 月 18 日～10 月 3 日

担 当 者：齋父雅史

調査地は、伊倉丘陵性台地の標高約 28 m の地点に位置する。近辺では以前、甕棺が確認されている。周辺の地形は、ほぼ正方形に近い区画で一段低い道路に囲まれ、その角には五輪塔が残され青磁片も表採できることなどから、中世居館の存在も想定される。

今回、届出地を中心に 3 本のトレンチを「コ」の字形に設定し埋蔵文化財の確認を行った。その結果、I～VI 層が確認できた。I・II 層は表土と耕作土、III 層が中世の遺物包含層で、この上面から中世及びそれ以降と判断される幅約 3 m の溝を 1 トレンチと 3 トレンチにおいて確認した。この溝は東西方向に延びるものと思われる。覆土からは中世とみられる土師器破片が少量出土したのみである。

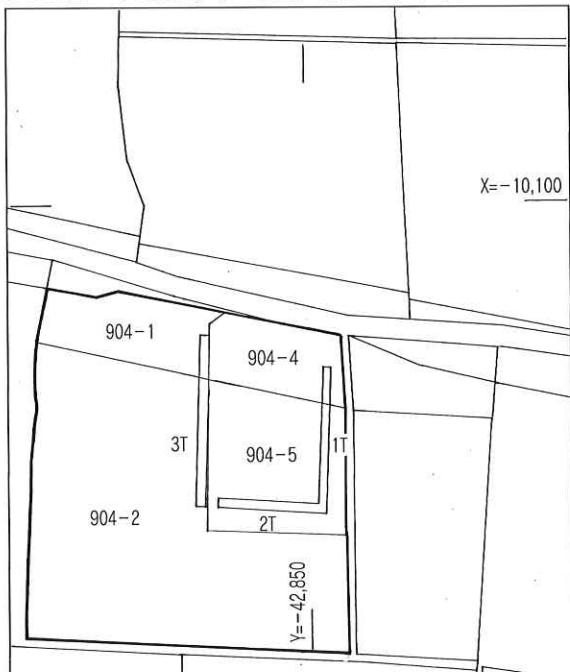
また、IV 層の上面から弥生後期の住居跡 3 基、溝、土坑、ピット数基を各トレンチで確認した。V 層は弥生以前の堆積層で、この上面から弥生中期の土坑、ピット列などを検出した。3 トレンチでは、遺構内から黒髪式系の小型甕がトレンチの壁際で出土したが、取上げ中に壁奥にも合口状に土器があったことから、小型甕棺の可能性が強い。この IV～V 層では弥生中期から終末期の遺構が切り合い、全体で遺物は少ないが、遺構密度が高い。なお、縄文の遺物は確認できず、VI 層がローム土の無遺物層と判断した。

その後の協議により設計変更が行われ、工事では II 層までしか掘削を行わないようになった。

調査後の措置は、慎重工事である。

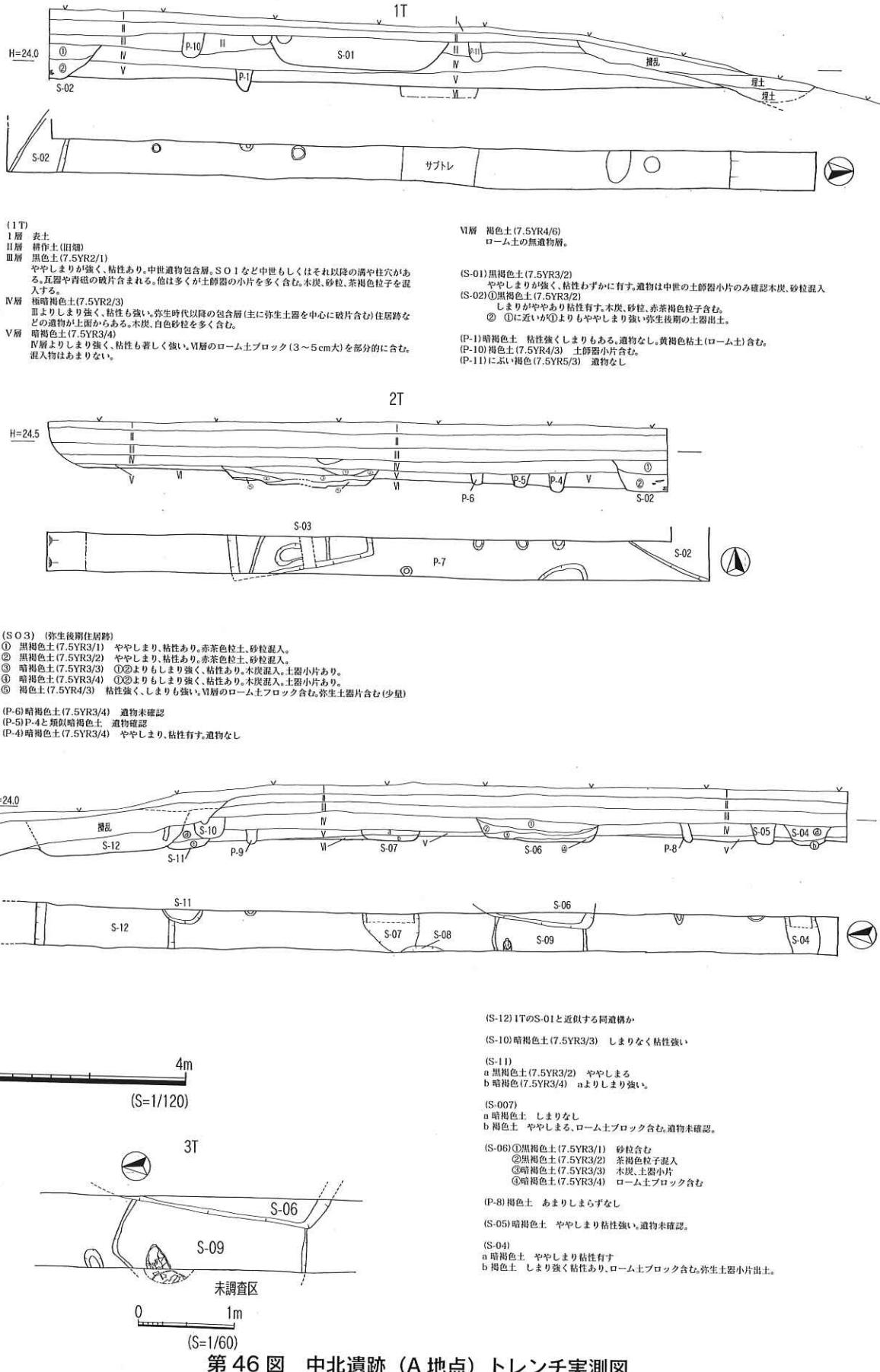


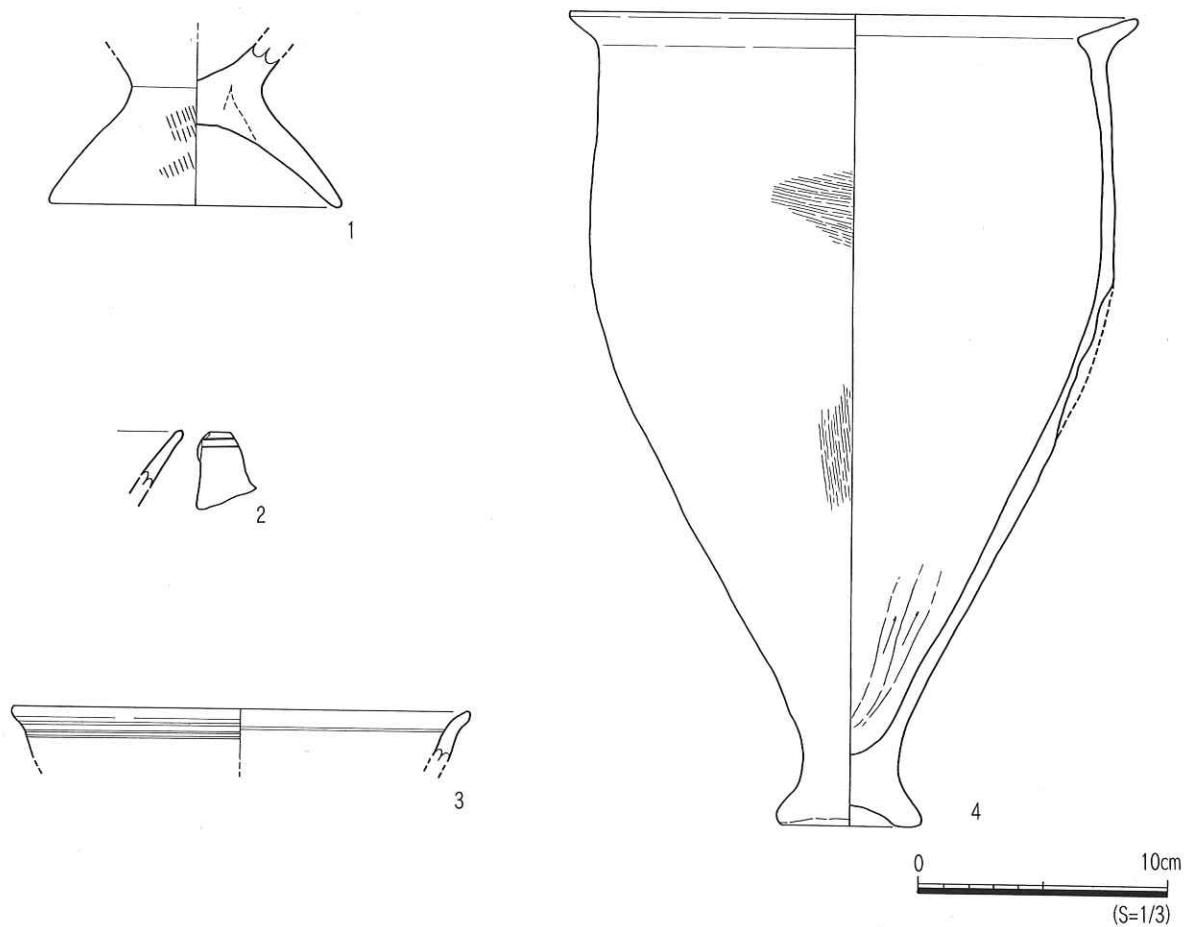
第 44 図 中北遺跡（A 地点）調査地位置図 S=1/5,000



第 45 図 中北遺跡（A 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

II 平成 15 年度の調査





第 47 図 中北遺跡（A 地点）遺物実測図



中北遺跡（A 地点）右側手前から蓋棺墓出土

11 中北遺跡（B 地点Ⅱ区）

所在 地：伊倉北方字堀口 865-2、

字古伊倉屋敷 904-2、

対象面積：1073 m²

調査期間：平成 15 年 11 月 12 日

～平成 16 年 3 月 17 日

担当 者：蘿父雅史

調査地は、菊池川左岸伊倉丘陵性台地の標高約 28 m の地点に位置する。平成 15 年 9 月に道路を挟んだ南側（904-2）の一部で確認調査を行っており、弥生時代（中期～後期）と中世を中心とした遺構・遺物を確認している。

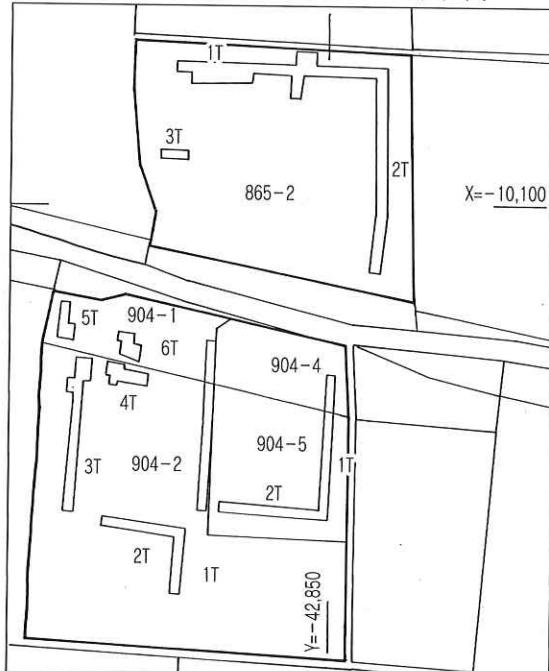
調査地の字 865-2 には 3 本のトレンチを設定して確認調査を行った。その結果、I・II 層が表土と耕作土、III 層が包含層で、IV 層の面から遺構が確認でき、弥生時代中～後期の遺構（住居跡 2 基、用途不明の竪穴状遺構 1 基、土坑数基など）、中世の土壙・ピット数基などを確認した。III 層より下に掘削が及ぶ場合は本調査が必要となるため、協議によって掘削されないこととなった。

調査地に隣接する字古伊倉屋敷 904-2 にもさらに合計 6 本のトレンチを人力により掘削した。3 トレンチの北側と 4～6 トレンチにおいて弥生時代中期の甕棺墓を確認した。甕棺は計 6 基で、その内の 3 基は北部九州系（須玖式）の合口大型棺、他の 1 基は在地系（黒髪式）の合口中型棺、また 1 基は在地系甕で削平を受けており、もう 1 基が石蓋の单棺であった。この内 2 基の須玖式大型棺は最も保存状態が良く、4 号棺においては人骨が残存していた。いずれも副葬品は確認されず、主軸は東西方向におかれており、大型棺を中心に並んでいた可能性も考えられる。

調査後の措置は、慎重工事である。



第48図 中北遺跡（B 地点）調査地位位置図 S=1/5,000

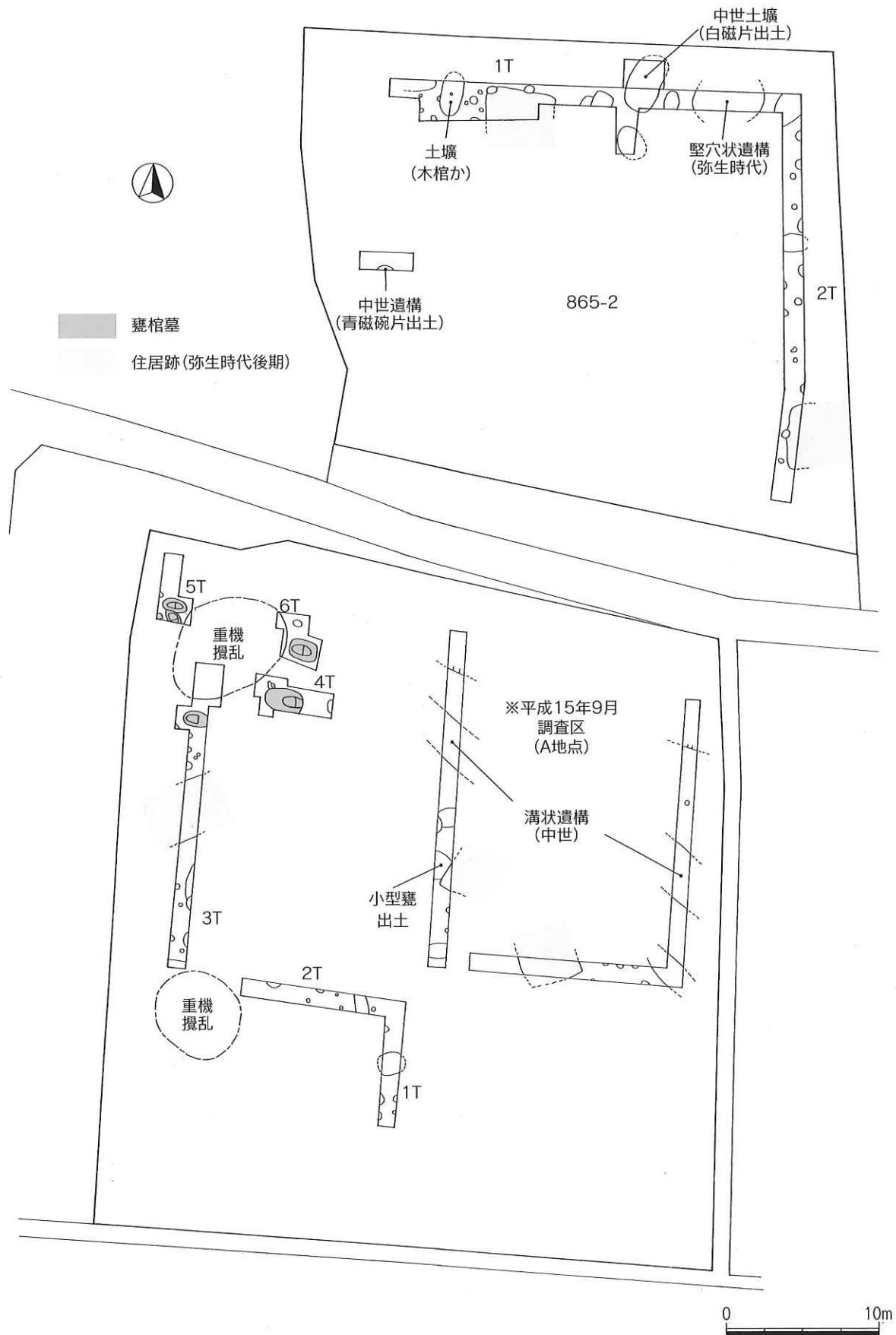


第49図 中北遺跡（B 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



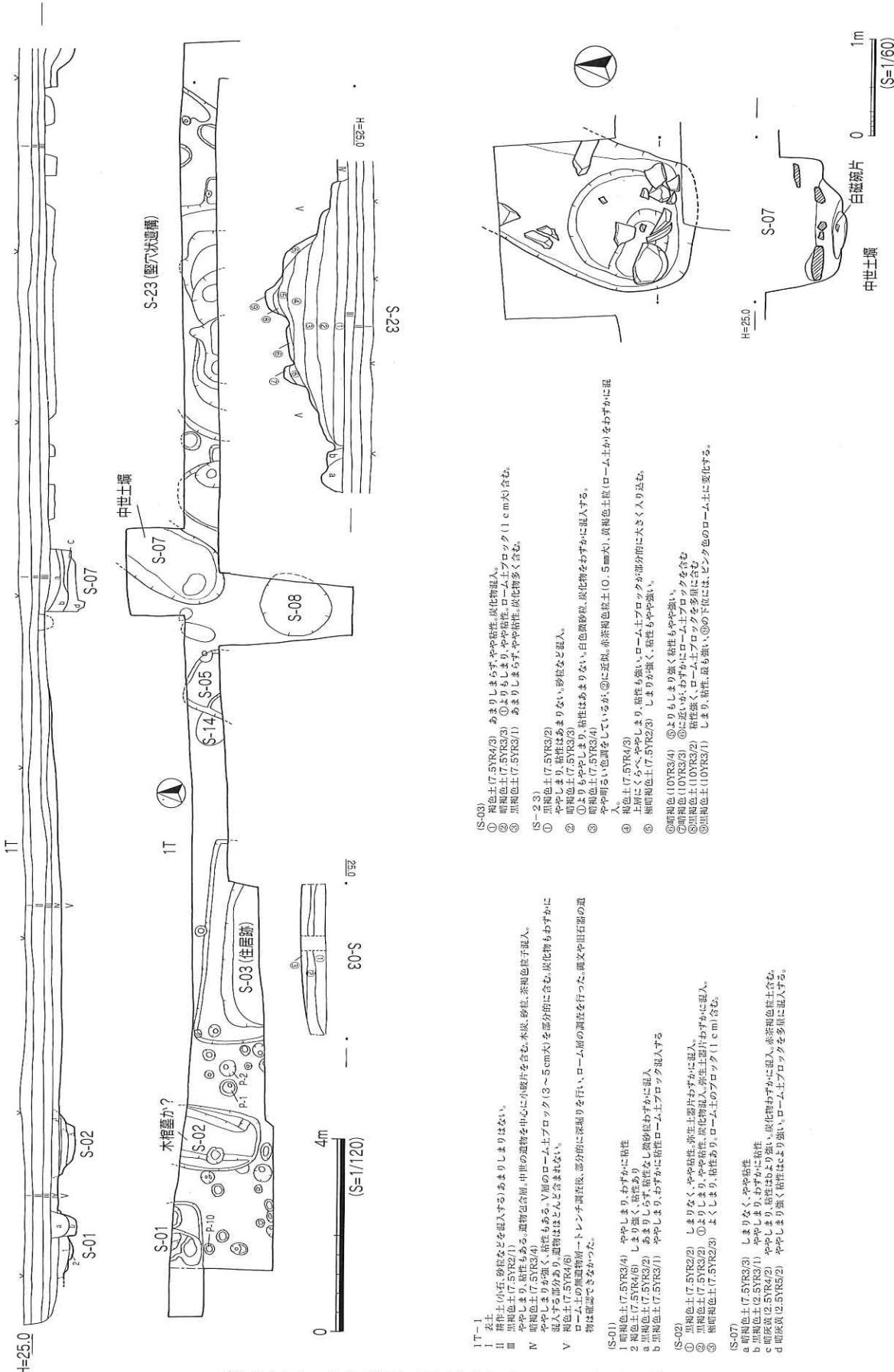
中北遺跡（B 地点）作業風景

II 平成 15 年度の調査



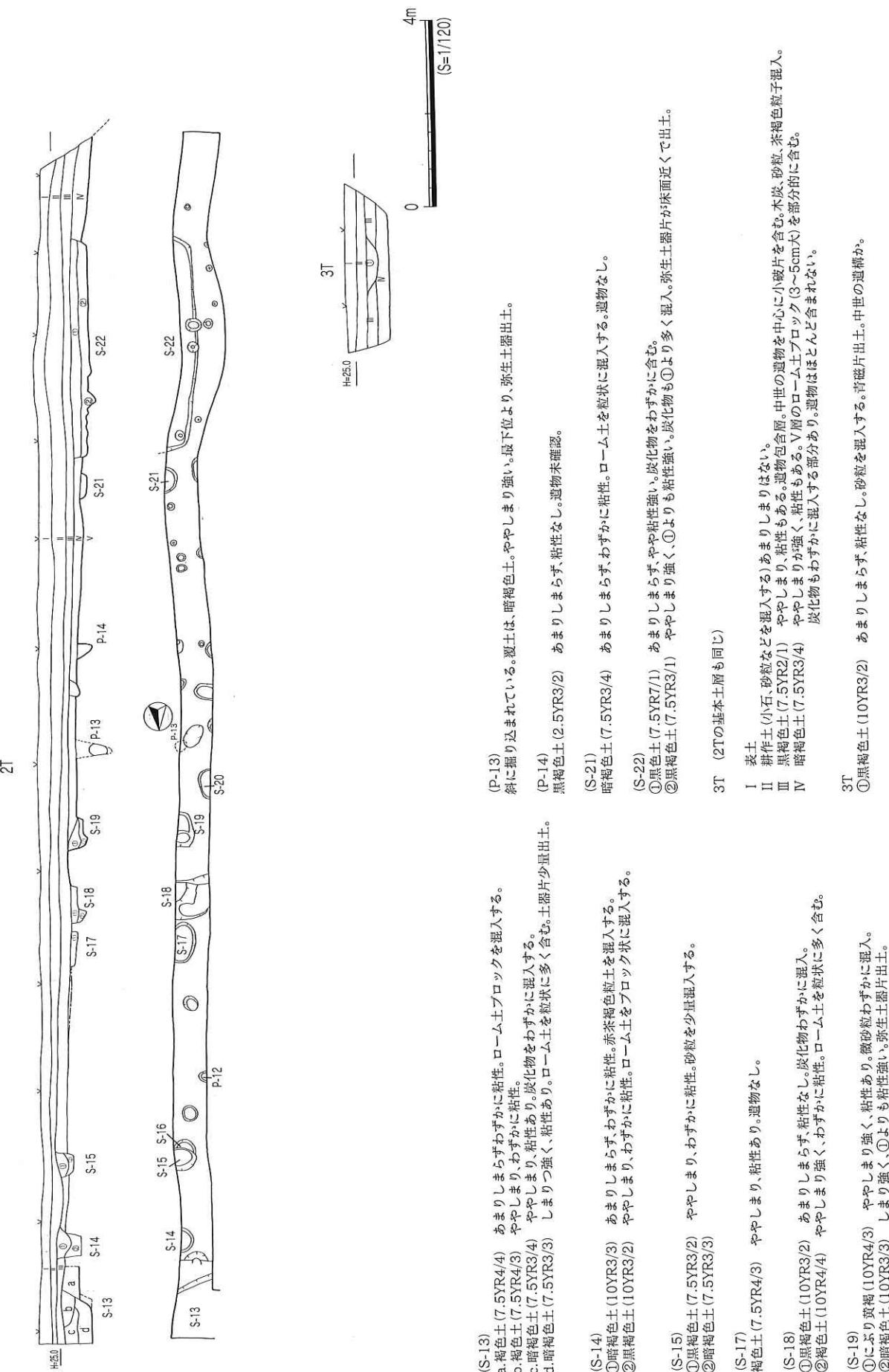
第 50 図 中北遺跡 (B 地点) 遺構配置図

II 平成 15 年度の調査



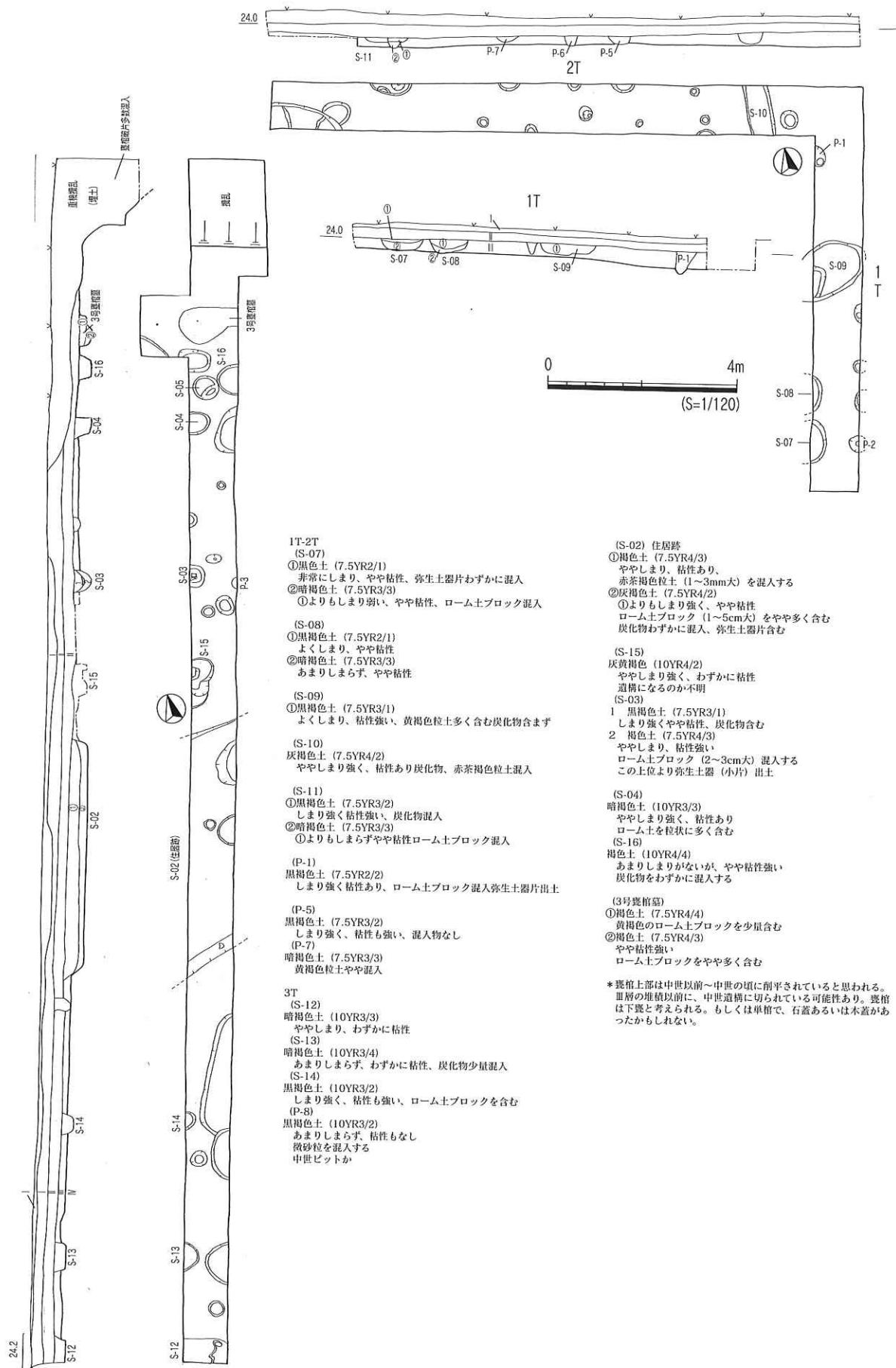
第 51 図 中北遺跡 (B 地点) トレンチ実測図①

II 平成 15 年度の調査



第 52 図 中北遺跡 (B 地点) アレンチ実測図②

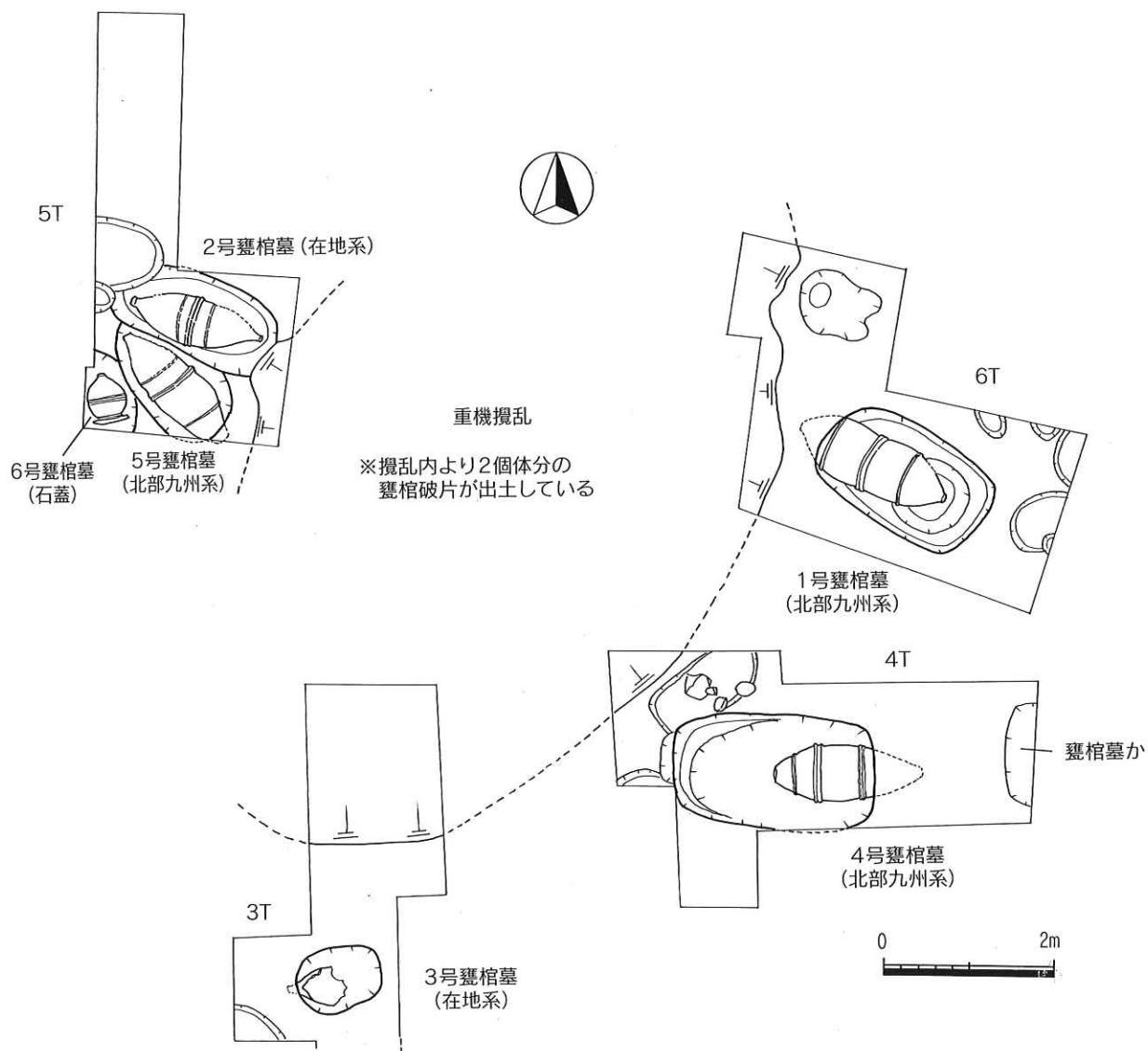
II 平成 15 年度の調査



第 53 図 中北遺跡 (B 地点) トレンチ実測図③

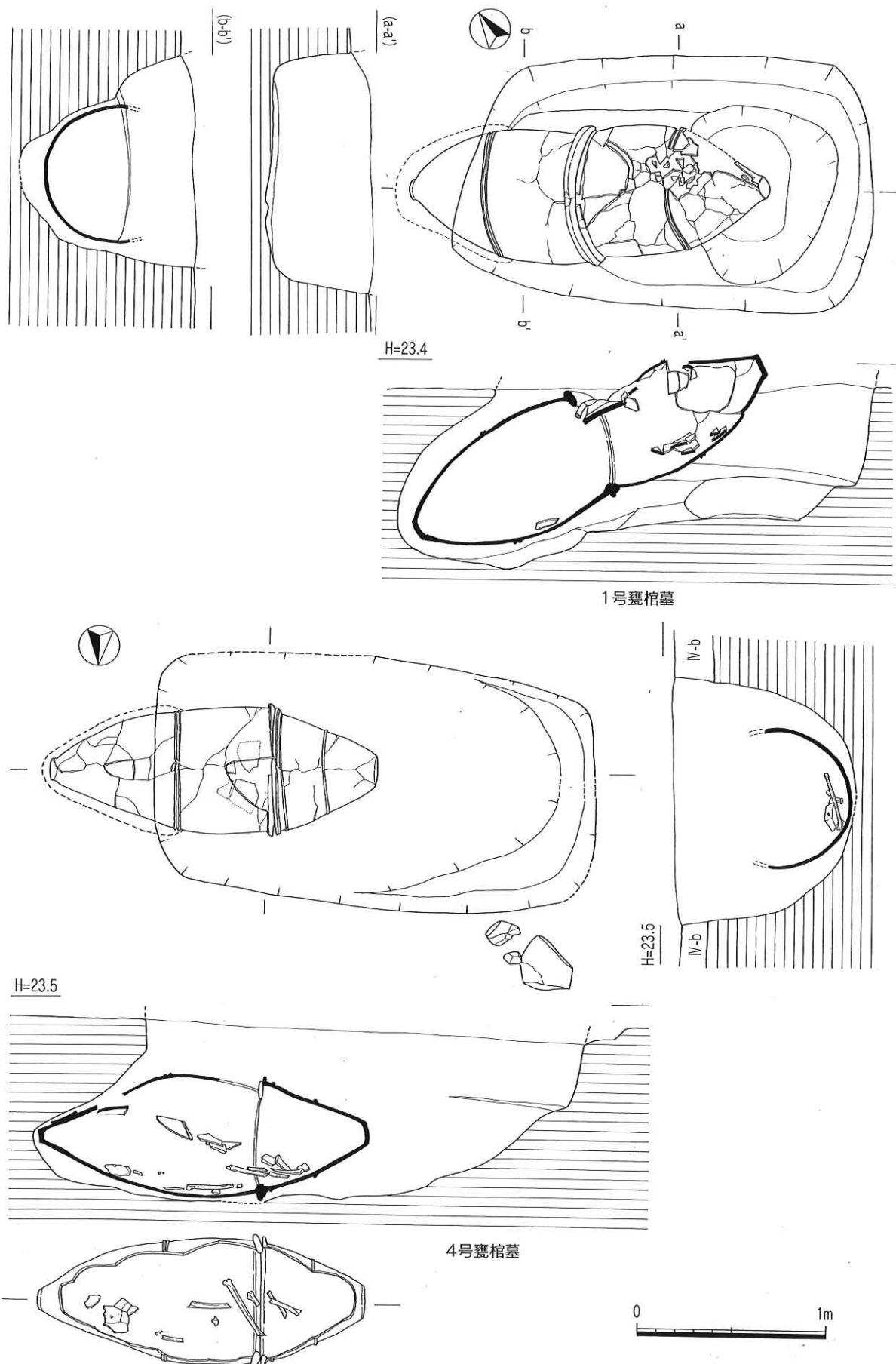


中北遺跡（B 地点）1号甕棺墓（左）と4号甕棺墓（右）



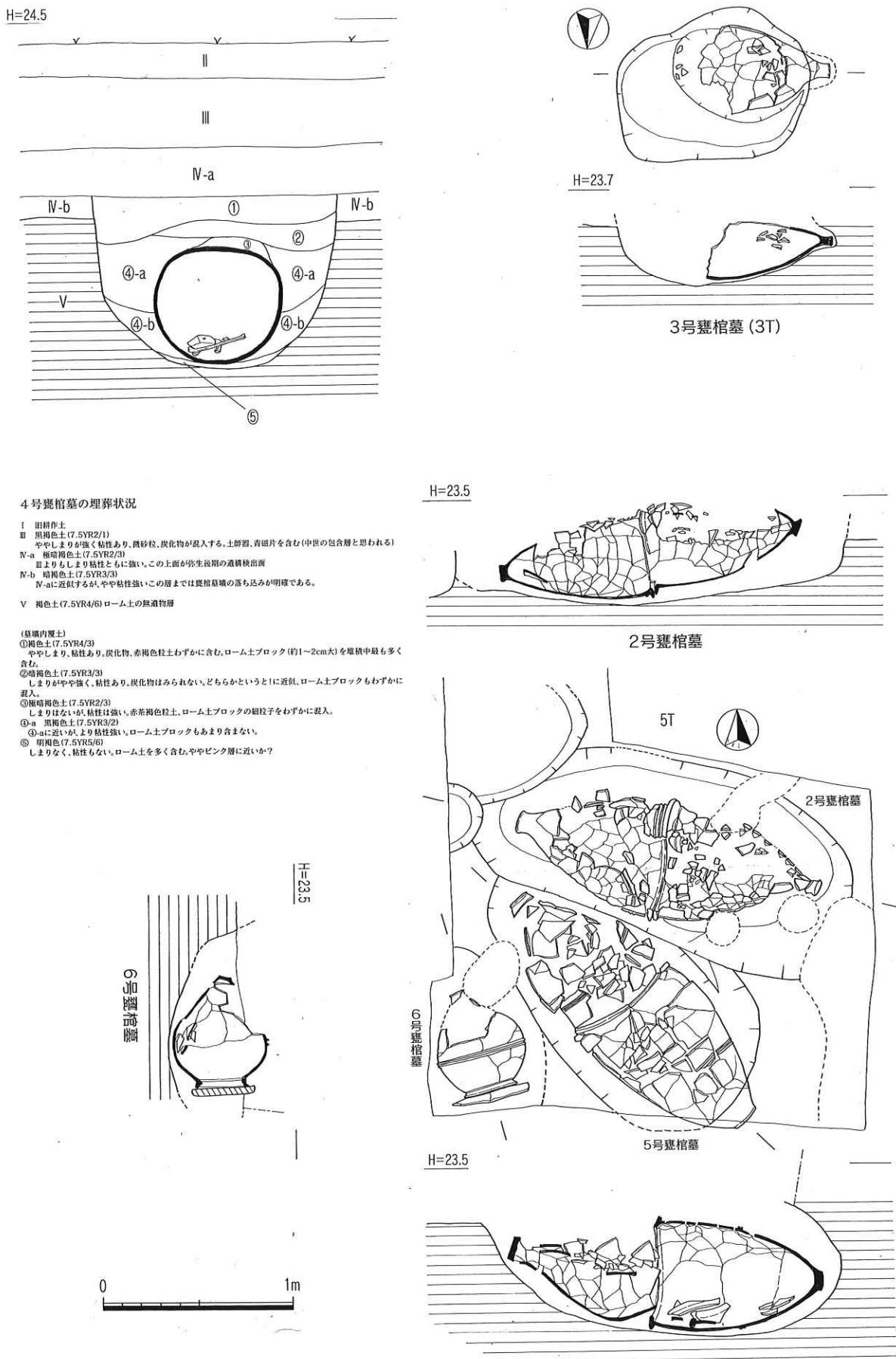
第 54 図 中北遺跡（B 地点）甕棺墓配置図

II 平成 15 年度の調査



第 55 図 中北遺跡（B 地点）甕棺墓実測図①

II 平成 15 年度の調査



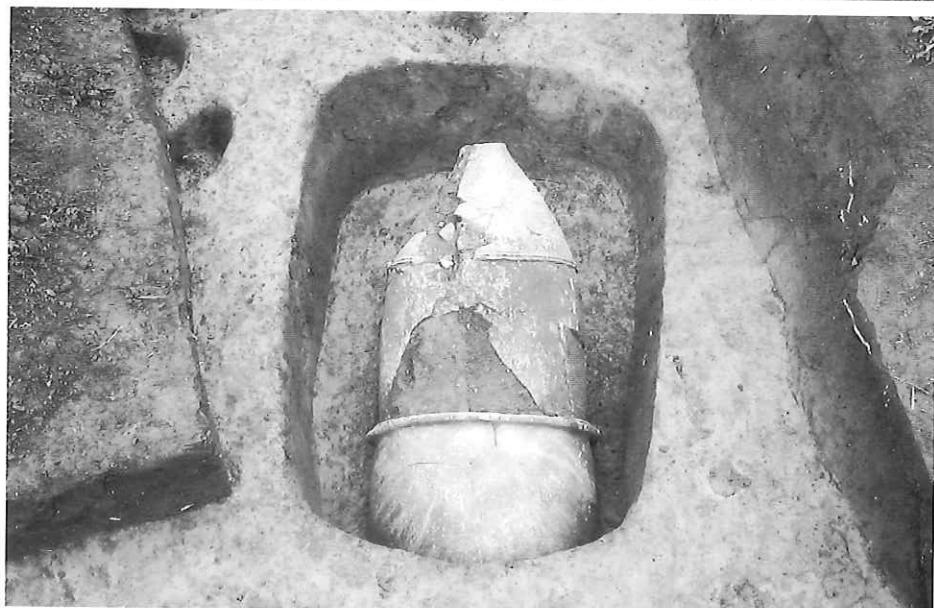
第 56 図 中北遺跡 (B 地点) 甕棺墓実測図②

II 平成 15 年度の調査

中北遺跡 (B 地点 II 区)
1 号・4 号甕棺墓



中北遺跡 (B 地点 II 区)
1 号甕棺墓



中北遺跡 (B 地点 II 区)
4 号甕棺墓





中北遺跡（B 地点 II 区）
4号甕棺墓・人骨出土状況

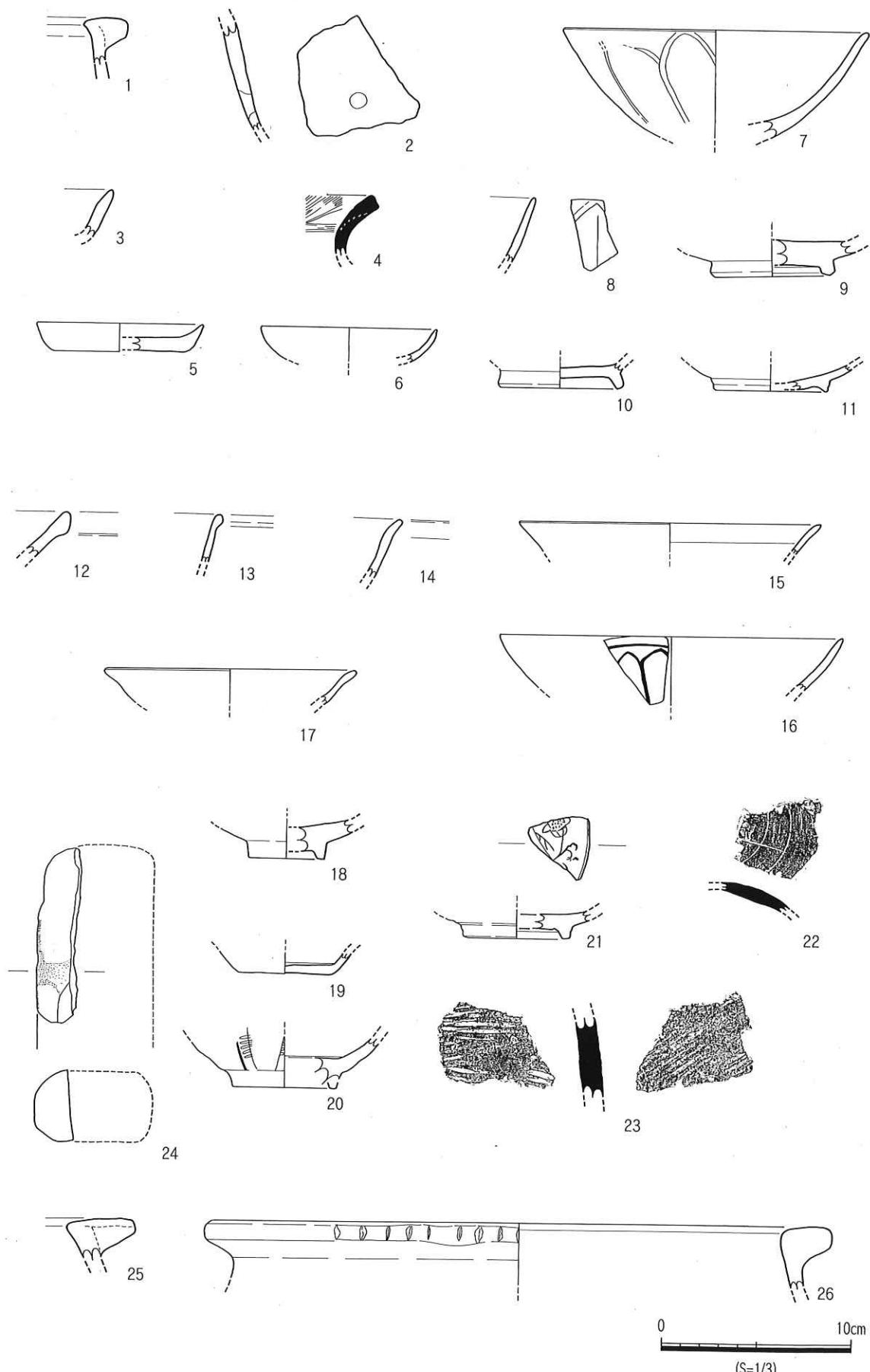


中北遺跡（B 地点 II 区）
2号・5号甕棺墓



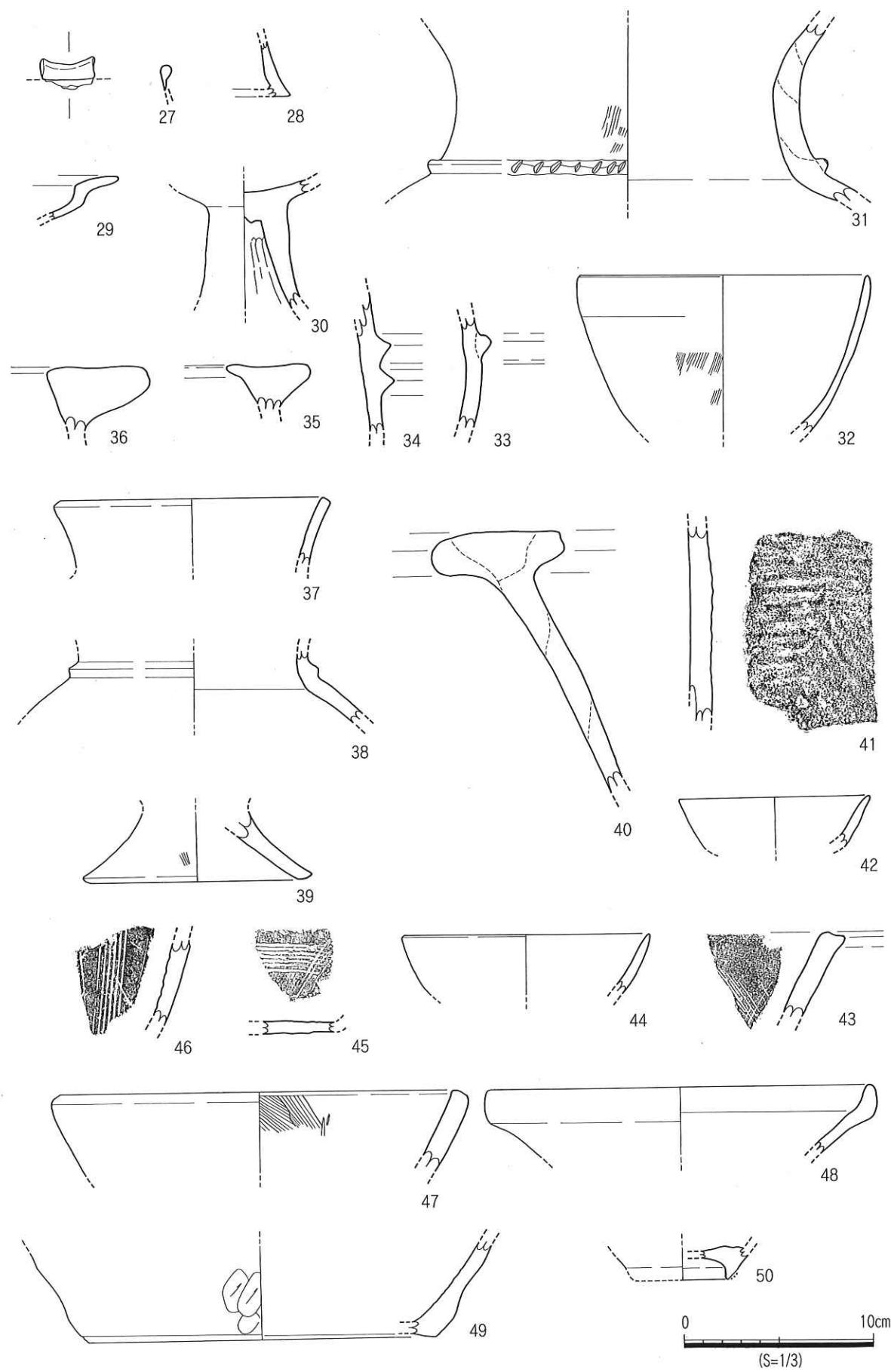
中北遺跡（B 地点 II 区）
6号甕棺墓（石蓋）

II 平成 15 年度の調査



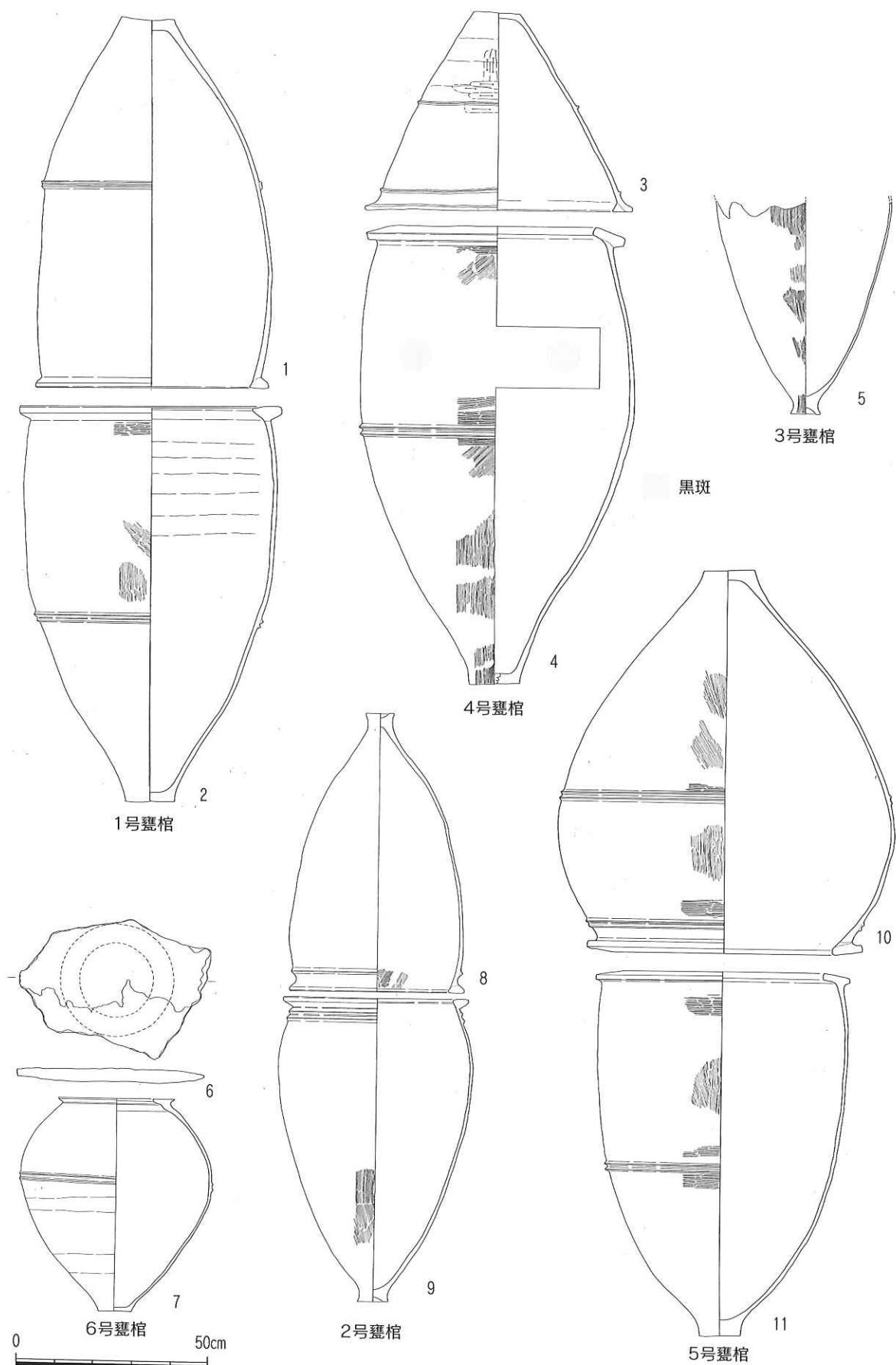
第 57 図 中北遺跡 (B 地点) 遺物実測図①

II 平成 15 年度の調査



第 58 図 中北遺跡（B 地点）遺物実測図②

II 平成 15 年度の調査



第59図 中北遺跡（B地点）甕棺実測

12 中北遺跡（C 地点Ⅲ区）

所在地：伊倉北方字五社

338-1、339-1、340-1、340-2、341

対象面積：513 m²

調査期間：平成 16 年 2 月 2 日～3 月 16 日

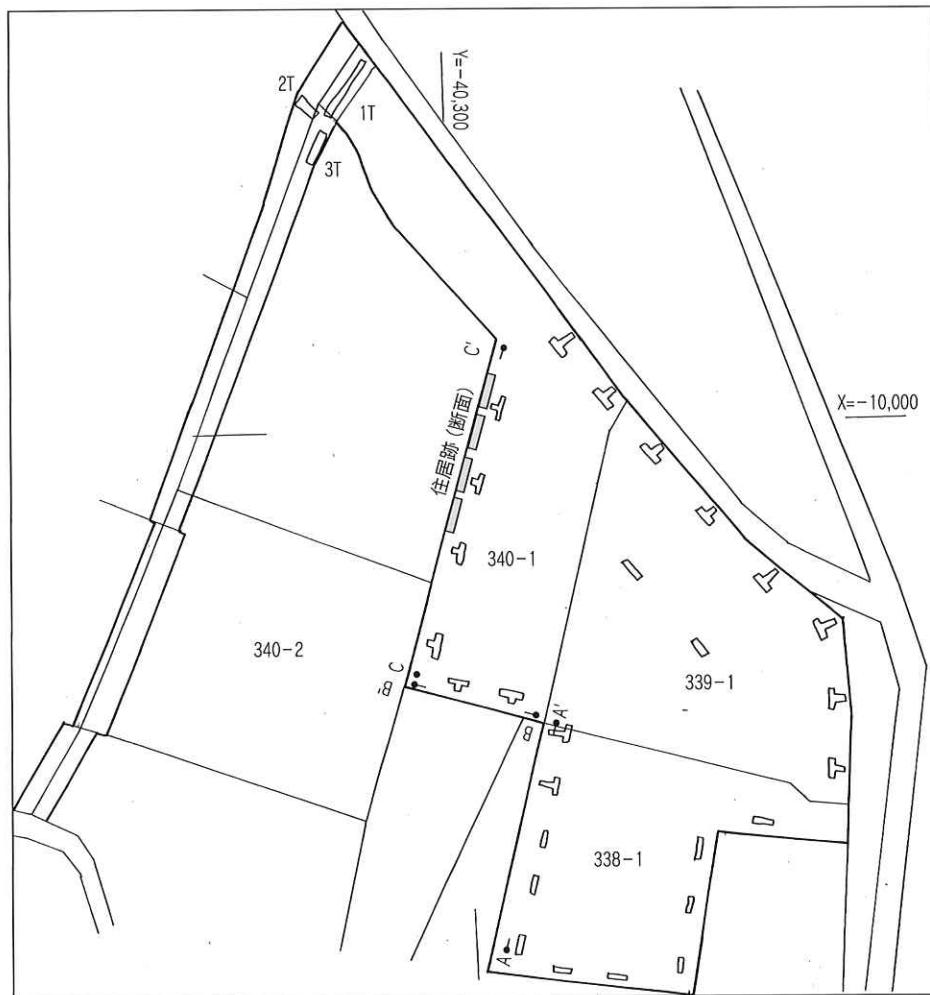
担当者：末永 崇・齋父雅史

調査地は、菊池川左岸伊倉丘陵性台地上の標高およそ 26.4 m の地点に位置する。周辺は、確認調査などで甕棺墓や弥生時代後期の住居跡などが確認されている。

調査では、工事予定地内に 3 カ所トレンチを設定し、人力で掘り下げて埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、I～V 層までを確認した。



第 60 図 中北遺跡（C 地点）調査地位置図 S=1/5,000



第 61 図 中北遺跡（C 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

II 平成 15 年度の調査

I 層は現在の畑の耕作土であり、II～IV 層については、I 層に近似するが下位の層ほどしまりが強くなる。V 層は明褐色を呈する層で、遺物は検出されず、無遺物層と判断される。このうち I～IV 層で中世の土器片を少量検出した。その他、遺構は確認されなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。

また、調査地に隣接する字五社 338-1、339-1、340-1 では土砂採取が行われていたた

め、その範囲についても確認調査を行った。調査では削平された土地の断面に遺構と思われる落ち込みが多数確認できた。踏査を行った結果、掘削された土（黒褐色土）の中にも弥生中～後期の土器が散乱していたので、表操作業を行った。また、削られた西側の土手断面に残る遺構についても精査し、弥生後期の住居跡が 4 基並んだ状態で確認できた。その内の 1 基からは多量の土器が出土した。

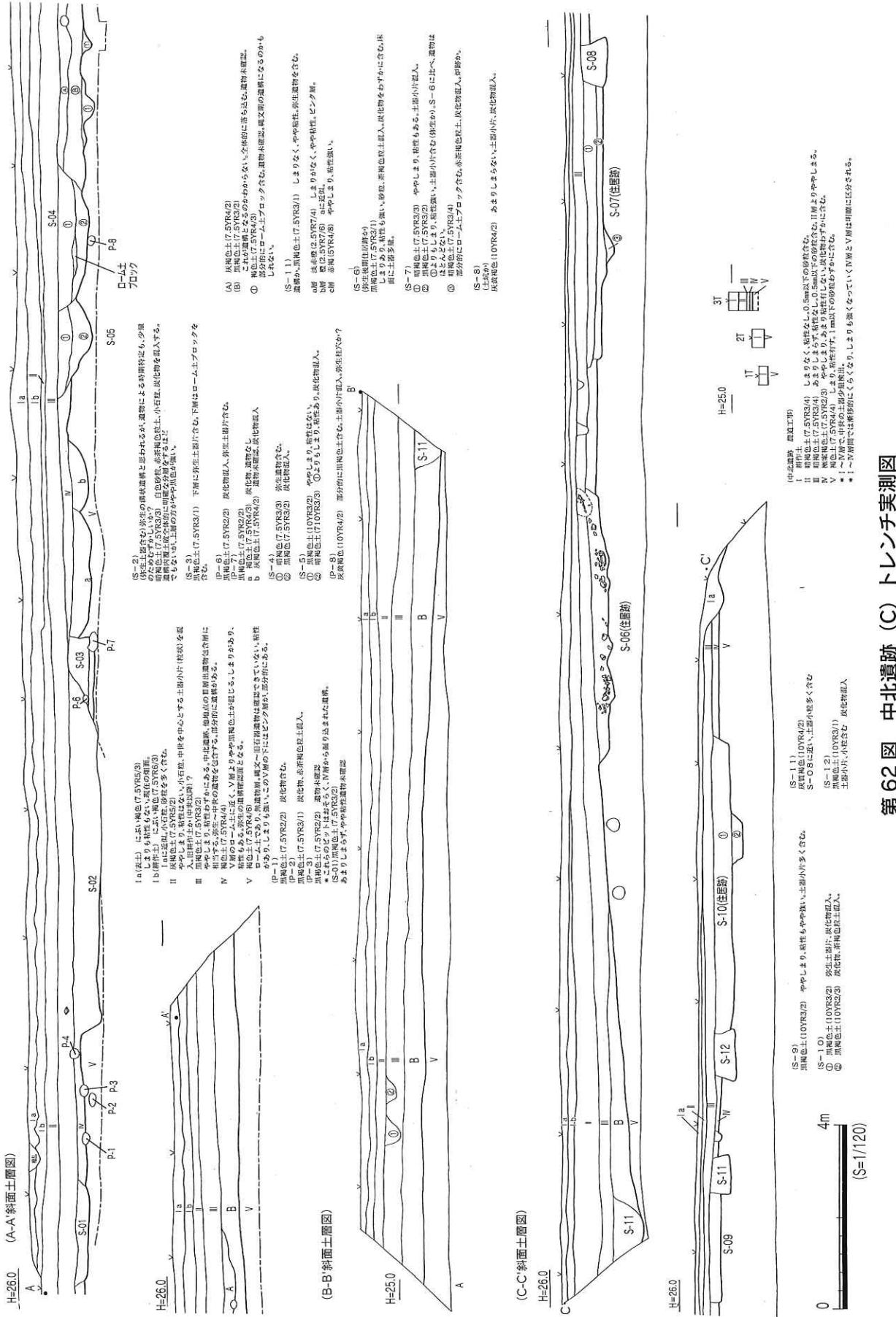


中北遺跡 (C 地点) 人物下が住居跡



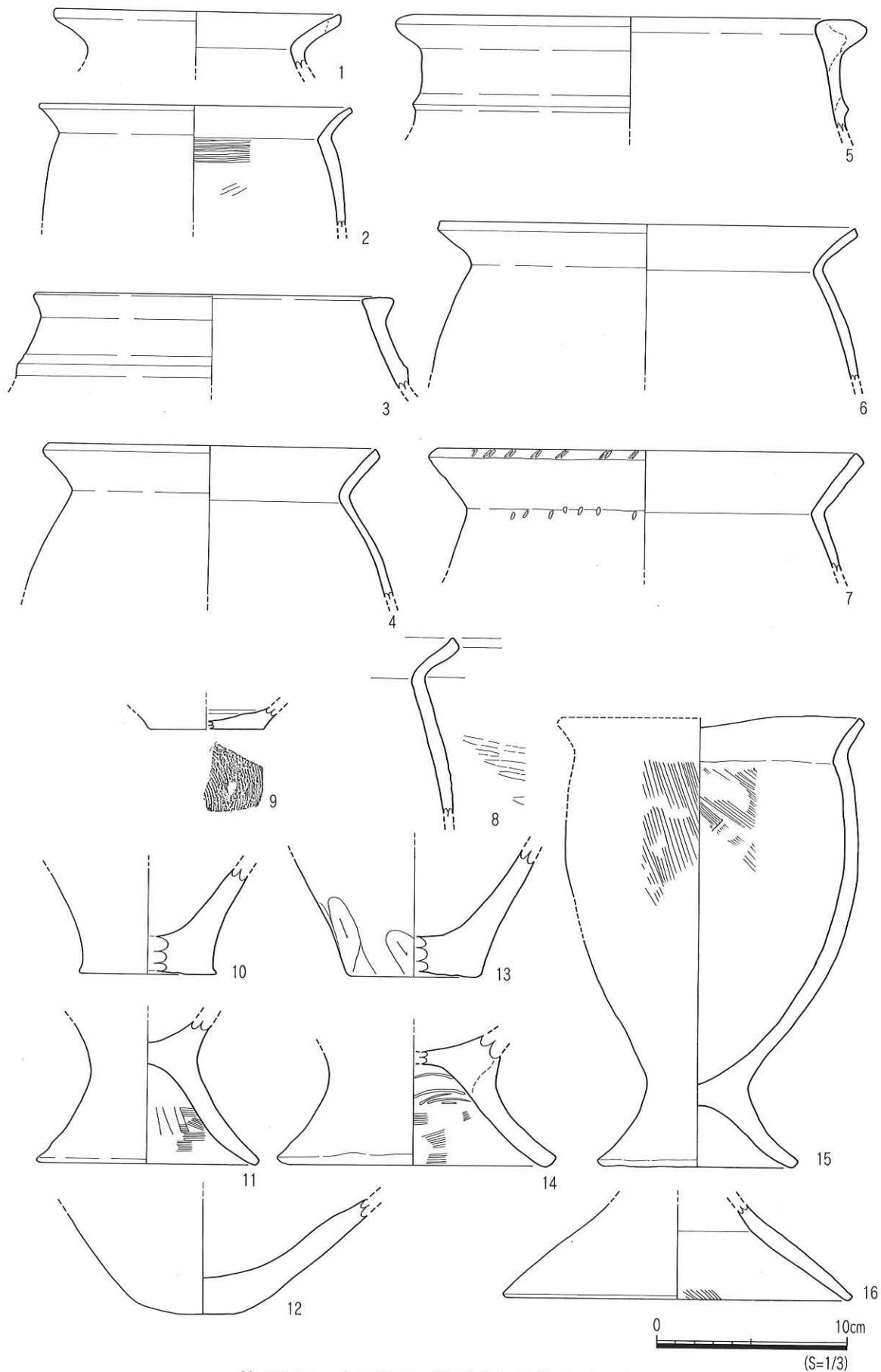
中北遺跡 (C 地点) 住居跡 (S06) 内

II 平成15年度の調査



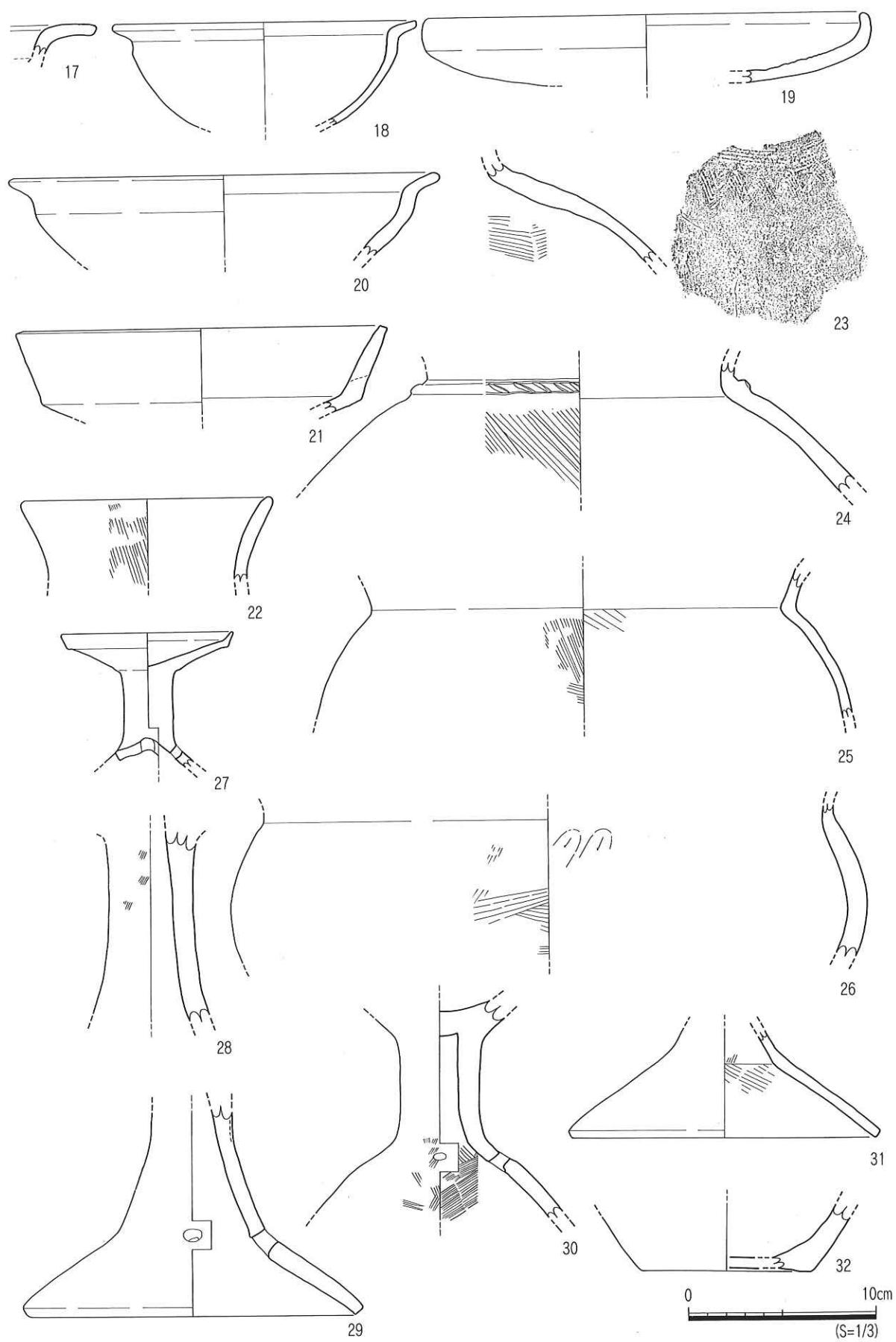
第62図 中北遺跡(C) トレシチ実測図

II 平成 15 年度の調査



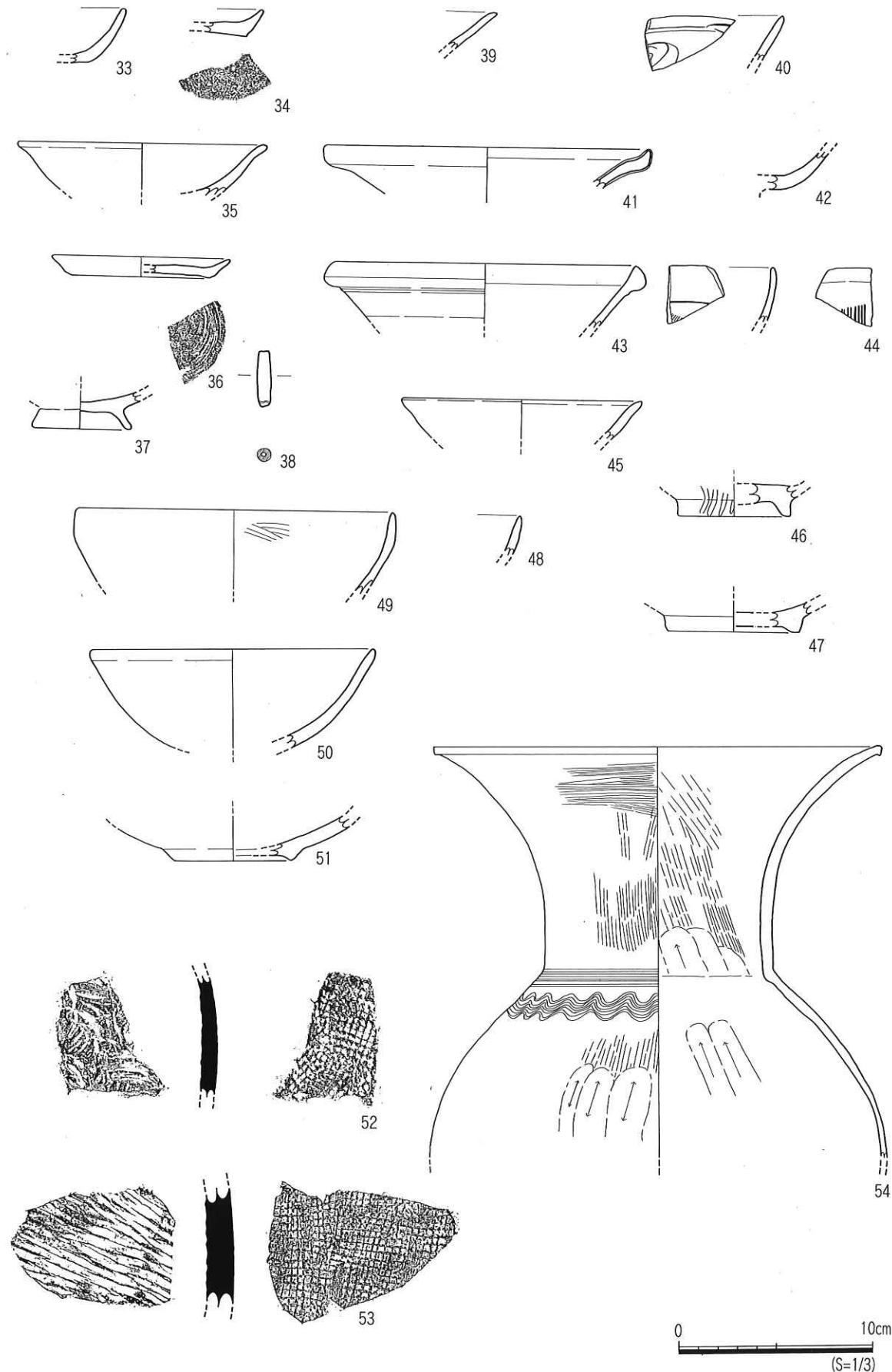
第 63 図 中北遺跡 (C 地点) 遺物実測図①

II 平成 15 年度の調査



第 64 図 中北遺跡 (C 地点) 遺物実測図②

II 平成 15 年度の調査



第 65 図 中北遺跡 (C 地点) 遺物実測図③

13 狐ん路遺跡

所在地：築地字前畠 1177-1

対象面積：1285.79 m²

調査期間：平成 15 年 9 月 22 日～10 月 6 日

調査者：末永 崇

調査地は、小代山から南に延びる丘陵上に位置し、標高 21 m ほどの地点である。

確認調査では、5 カ所にトレンチを設定し、重機及び人力により掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。調査では I 層から III 層までを確認した。I 層は建物解体後の整地層、II 層は旧耕作土、III 層は暗褐色を呈するローム層で無遺物層と判断した。そのうち III 層上面でピット数基を検出し、ピット内から中世の土師壺、土師皿などが少量出土した。敷地内は重機の掘削跡などが多く、すでに全体が大規模に造成されている。

調査後の措置は、慎重工事である。



第 66 図 狐ん路遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第 67 図 狐ん路遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

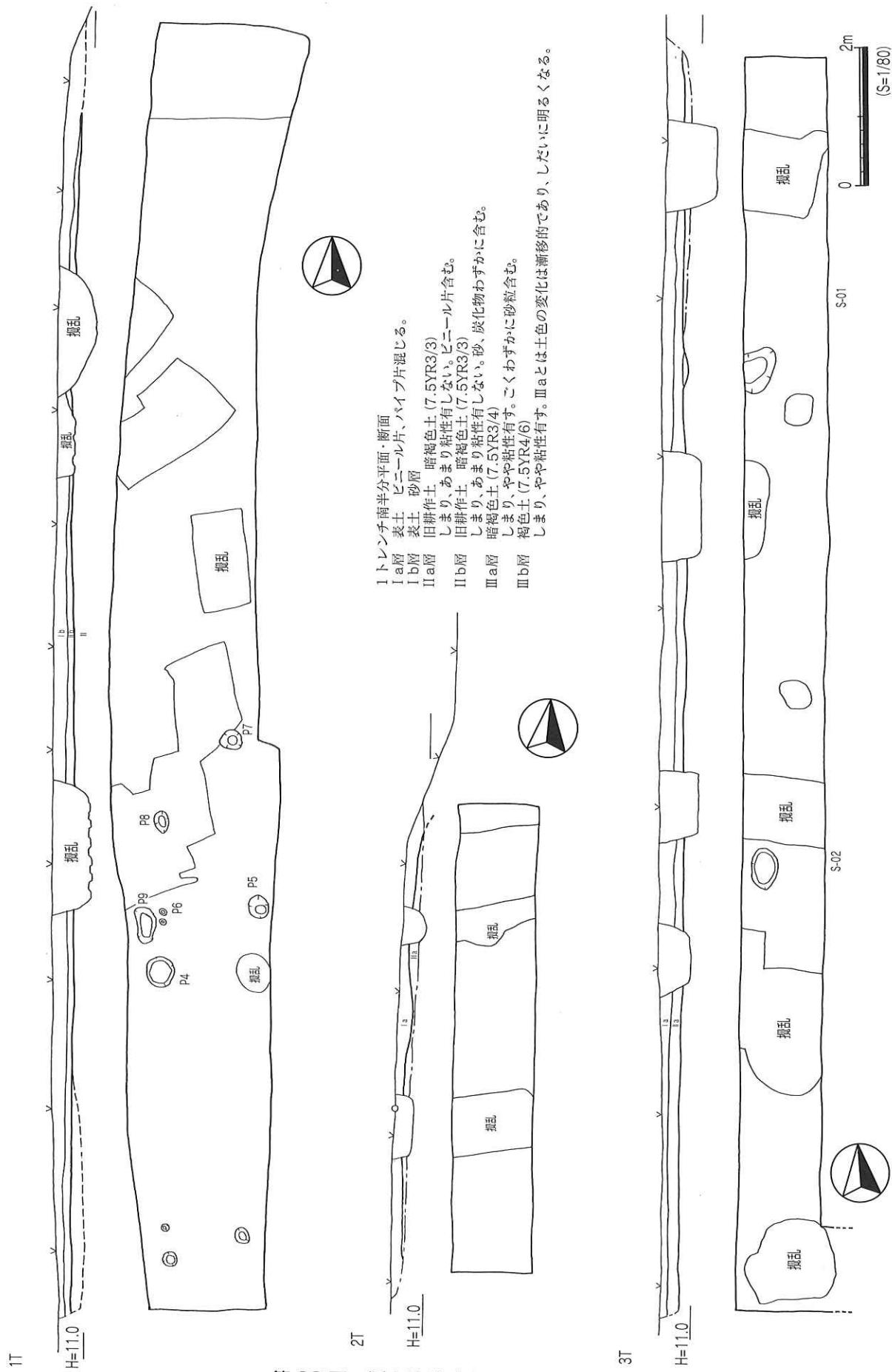


狐ん路遺跡 1 トレンチ（南から）



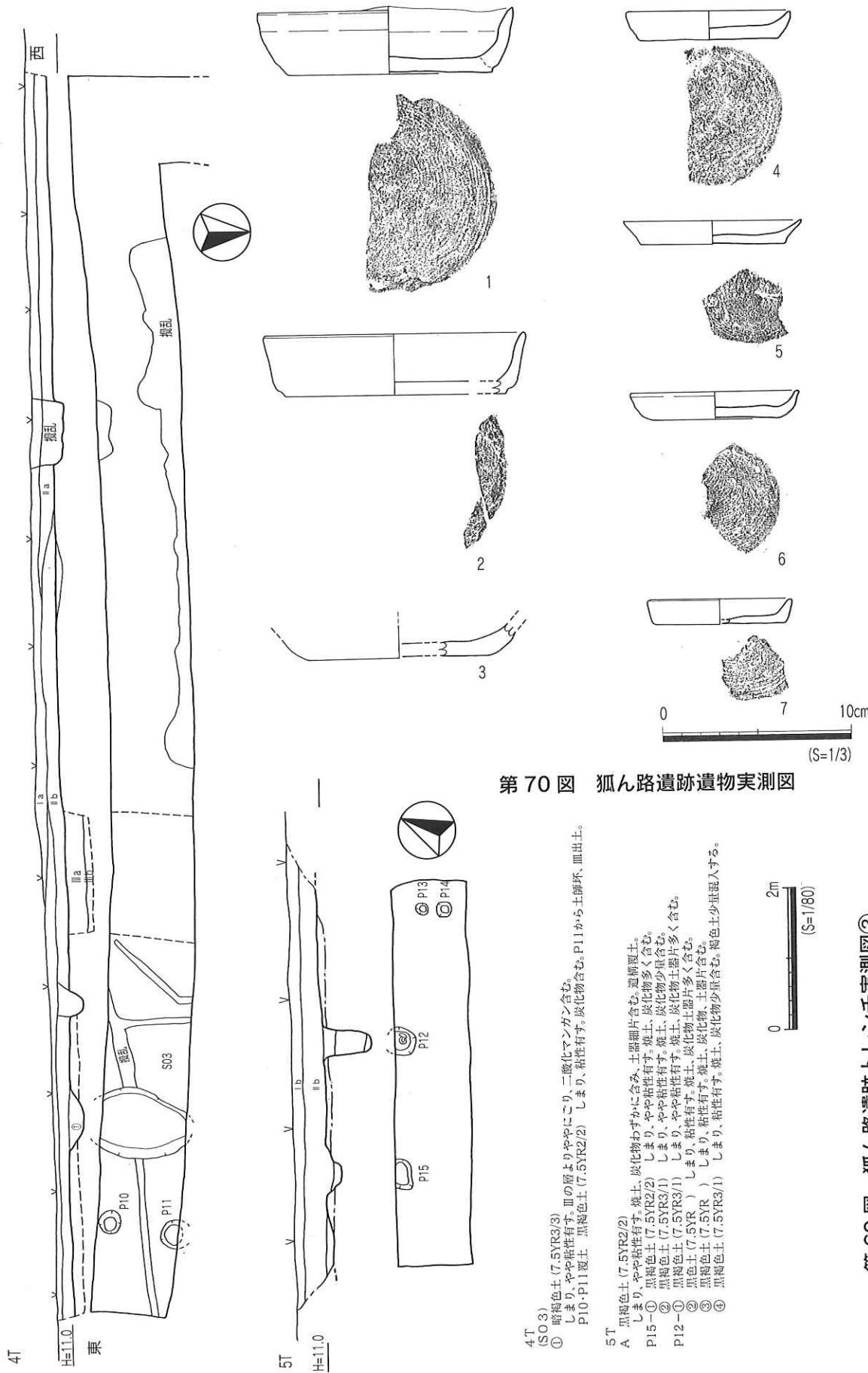
狐ん路遺跡 2 トレンチ（南から）

II 平成 15 年度の調査



第 68 図 狐塚路遺跡トレンチ実測図①

II 平成 15 年度の調査



第 69 図 狐ん路遺跡トレーンチ実測図②

14 岩崎原遺跡（A 地点）

所在 地：岩崎

769-1, 769-5, 769-6, 769-7, 769-8

対象面積：888.08 m² (267.56 m²)

調査期間：平成 15 年 11 月 6 日～11 月 7 日

担 当 者：董父雅史

調査地は、玉名市中央部の低丘陵上、標高約 18 m の地点にあたる。東側には中世の岩崎城跡が存在し、南側一帯は旧高瀬藩の敷地であった場所で、幕末に造成されている。

敷地内に 3 本のトレンチを設定し、埋蔵文化財の確認を行ったところ、土層は I～IV 層が確認できた。I 層は、以前の建物の解体整地層で、II 層は暗褐色を呈し、近世の遺物が含まれる。III 層には少量の中世の遺物が含まれ、IV 層が橙色を呈したローム土の無遺物層であった。

1 トレンチの IV 層上面において、溝状のプランを検出したので、その方向を確認するため 2 トレンチを設定した。2 トレンチにおいては弥生後期の住居跡を切って東西方向に延びる溝の落ち込みを確認した。溝の下層より中世の遺物が出土した。3 トレンチにおいては特に遺構は確認できなかった。

2 トレンチで弥生後期の住居跡を 2 基検出したが、平成 13 年度の岩崎城跡の調査で確認された弥生後期の住居跡群の範囲は、当地まで広がるものと考えられる。

調査後の措置は、慎重工事である。



第 71 図 岩崎原遺跡（A 地点）調査地位置図 S=1/5,000

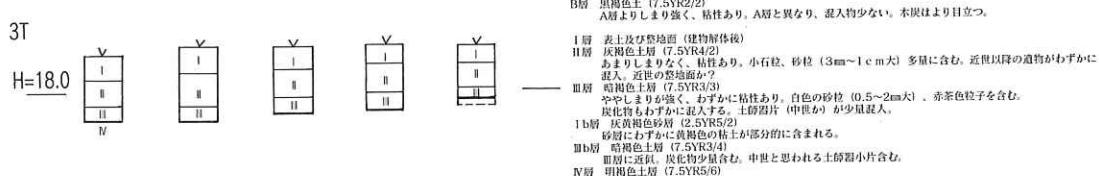
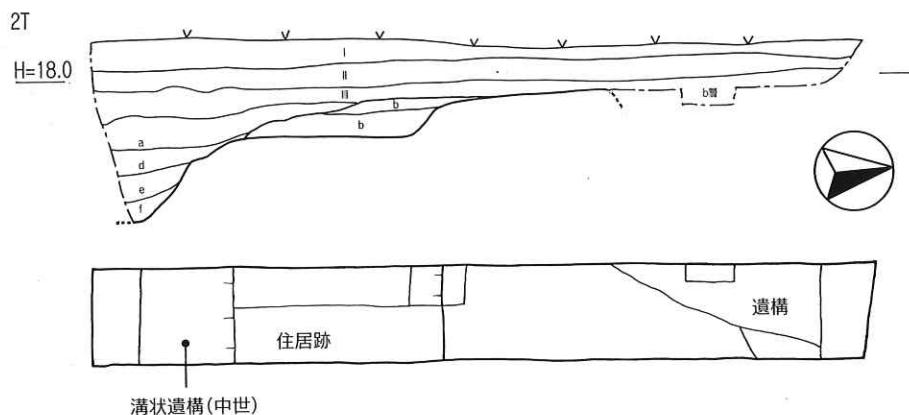
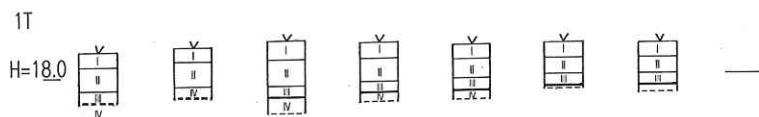
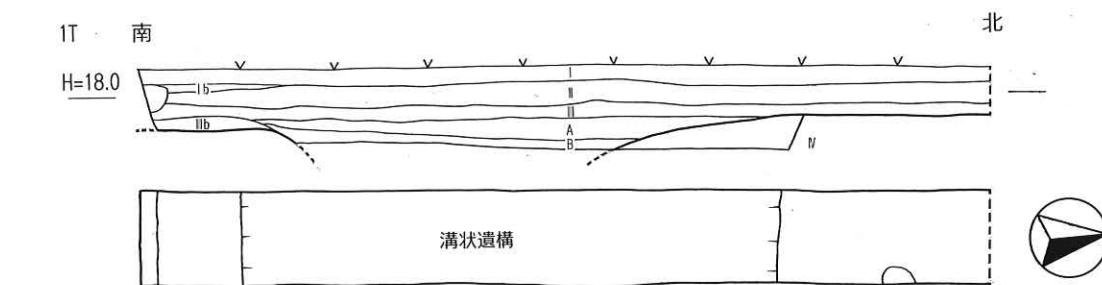


第 72 図 岩崎原遺跡（A 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



岩崎原遺跡（A 地点）1 トレンチ

II 平成 15 年度の調査



1T (西壁)
A層 黒褐色土 (7.5YR3/2)
ややしまりが強く、粘性あり。白色砂粒 (2mm~1cm大) を多量にふくむ。本撰少量混入。赤褐色の土
質小片混入。
B層 黒褐色土 (7.5YR2/2)
A層よりしまり強く、粘性あり。A層と異なり、混入物少ない。本撰はより目立つ。

II層 灰褐色土 (7.5YR4/2)
あまりしまりなく、粘性あり。小石粒、砂粒 (3mm~1cm大) 多量に含む。近世以降の遺物がわずかに
混入。近世の住居跡がある。

III層 灰褐色土 (7.5YR4/3)

ややしまり強く、わずかに粘性あり。白色の砂粒 (0.5mm~2mm大) 、赤茶色粒子を含む。

1b層 灰褐色砂層 (2.5YR5/2)

砂層にわずかに黄褐色の粘土が部分的に含まれる。

IIIb層 暗褐色土層 (7.5YR3/4)

面層に近似。灰化物少混合。中世と思われる土器片小片含む。

IV層 明褐色土 (7.5YR3/6)

ローム土。無鉱物。

2T 溝状遺構壁土

a層 黒褐色土層 (7.5YR3/1)

しまりがあり、粘性有。砂粒を多く含む。黄褐色土上 (約1cm大) 少量混入。本撰を部分的に少量含
む。近世の住居跡がある。

b層 黒褐色土 (7.5YR4/3)

ややしまり、あまり粘性ない。混入物はほとんどない。

c層 黒褐色土 (7.5YR3/3)

ややしまり、粘性有。部分的にIV層 (ローム土) ブロックを含む。灰化物混入。

d層 黑褐色土 (7.5YR2/2)

ややしまり、粘性強。混入物少ない。

e層 黑褐色土 (7.5YR2/2)

ややしまり、粘性強。中世土器小片、凝灰岩片、小石を含む。

f層 黒褐色土 (10YR2/1)

ややしまり、e層より粘性あり。弥生土器片、古代~中世土器混入。上段の住居跡からの流れ込みか。

*弥生後期の住居跡を2基発掘し、1基が中世の現状遺構に切られている。現状遺構の下層より、弥生後期の
土器片が出土したが、上段の住居跡からも出土した。同じく、中世の土器片も出土することから、住
居跡の上から残りこまれている。

13年に発掘調査した岩崎城跡で、確認された弥生後期住居跡は、当地まで範囲が広がるものと思われる。



第 73 図 岩崎原遺跡 (A 地点) トレンチ実測図



第 74 図 岩崎原遺跡 (A 地点) 遺物実測図

II 平成 15 年度の調査

15 北の崎遺跡

所在 地：田崎 11

対象面積：28.48 m²

調査期間：平成 15 年 12 月 19 日（工事立会）

担当 者：末永 崇

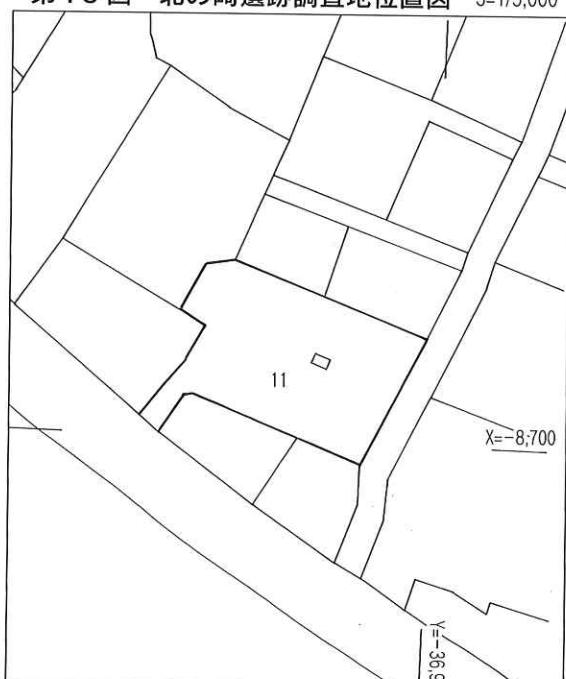
調査地は木葉川左岸で舌状に延びる丘陵の先端部に位置する標高 10m ほどの地点である。工事の内容は個人住宅の浄化槽の埋設工事であり、掘削部分は狭小である。

現地確認後の措置は、工事立会である。

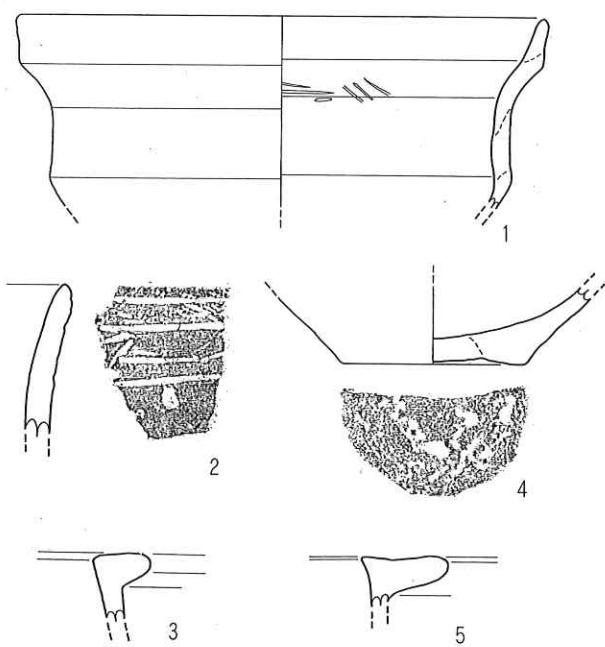
浄化槽埋設時に立会を行い、掘削部分で土坑と考えられる遺構の一部を確認した。しかし、掘削規模が狭小であるため土坑の規模や形状の詳細は不明である。須恵器の破片などを検出した。



第 75 図 北の崎遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第 76 図 北の崎遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



第 77 図 北の崎遺跡遺物実測図

16 築地館跡

所在地：築地字陳内 2368-4

対象面積：231.36 m² (80.55 m²)

調査期間：平成 16 年 1 月 27 日

担当者：末永 崇

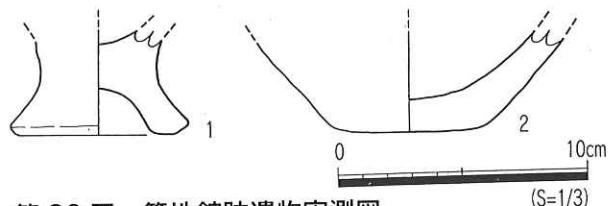
調査地は、小代山から南に広がる丘陵上に位置する、標高 20 m ほどの地点である。遺跡内は、土壘や溝など館に伴う遺構が現状でも確認される。

調査では、今回の届出地と、その北側隣接地についても併せて確認を行った。

確認調査では敷地内に 4カ所トレンチを設定し、重機により掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。

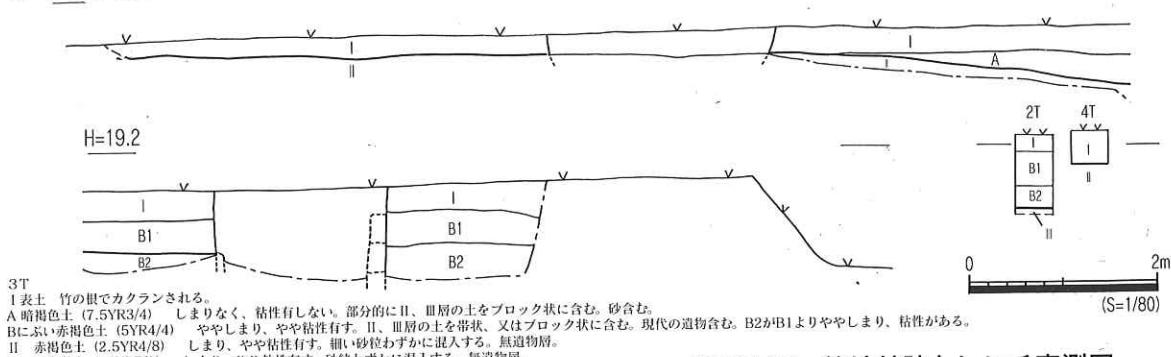
その結果、表土の直下から無遺物層と判断される赤褐色の層が確認された。以前は宅地として利用されていたようで、住宅のコンクリートブロックなどを検出し、それらの部分では、赤褐色の層より下位の灰白色の層まで削平されている。その他の遺構は検出されず、遺物は表採で中世と弥生時代の土器片を採集した。

調査後の措置は、慎重工事である。

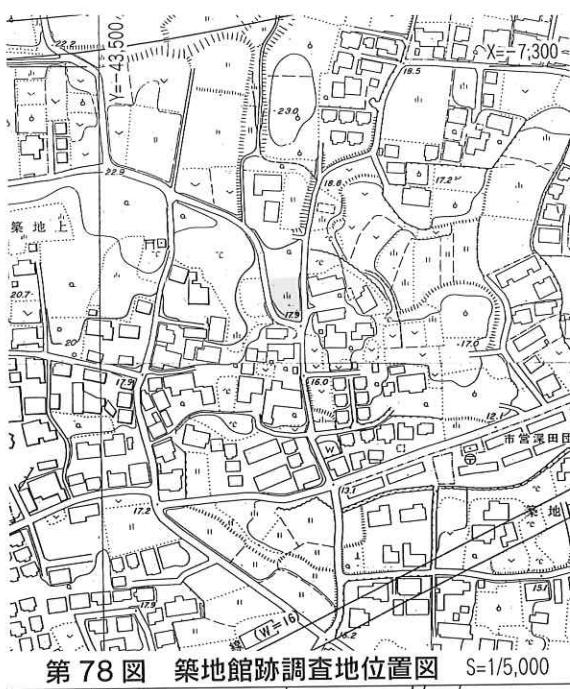


第 80 図 築地館跡遺物実測図

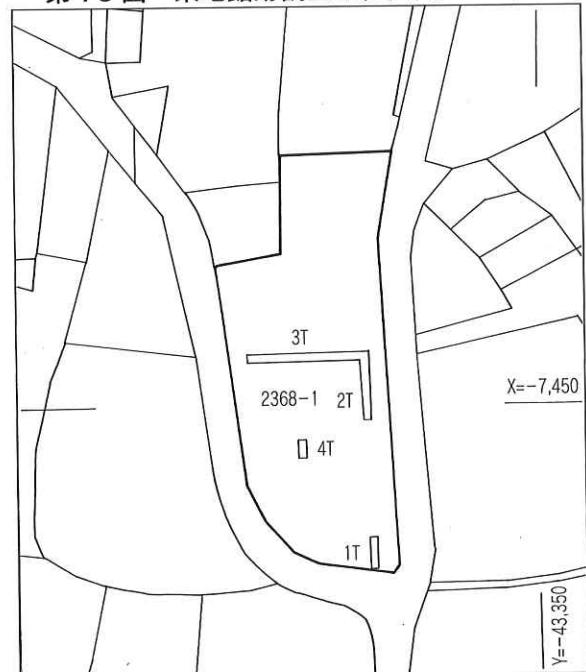
3T H=19.2 北壁



第 81 図 築地館跡トレンチ実測図



第 78 図 築地館跡調査地位置図 S=1/5,000



第 79 図 築地館跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

17 與内迫遺跡

所在 地：伊倉北方字與内迫 1249- 1

対象面積：951 m²

調査期間：平成 16 年 2 月 12 日～3 月 2 日

担当 者：齋父雅史

調査地は、菊池川左岸の伊倉丘陵性台地上に位置する、標高約 33 メートルの地点である。同丘陵西側には中北遺跡があり、弥生中期の甕棺墓群や後期の住居跡、溝、土坑、中世の溝状遺構が確認されている。甕棺は 6 基確認されており、主軸は東西方向であった。住居跡の 1 基からは大量の弥生土器が出土している。

今回の調査は農地造成に伴い調査依頼が提出された。敷地内に 4ヶ所のトレンチを設置した。重機及び人力で掘下を行い、埋蔵文化財の状況を確認した。調査では I～V 層までを確認した。調査地南東部と中央部西側の 2 箇所で住居跡が確認された。また、調査地北側には遺跡が存在しないことが確認された。

調査後に工事主体者と協議を行い埋蔵文化財に影響を及ぼさない範囲で掘削を行うことになった。

調査後の措置は、慎重工事である。



與内迫遺跡 3 トレンチ



第 82 図 與内迫遺跡調査地位置図

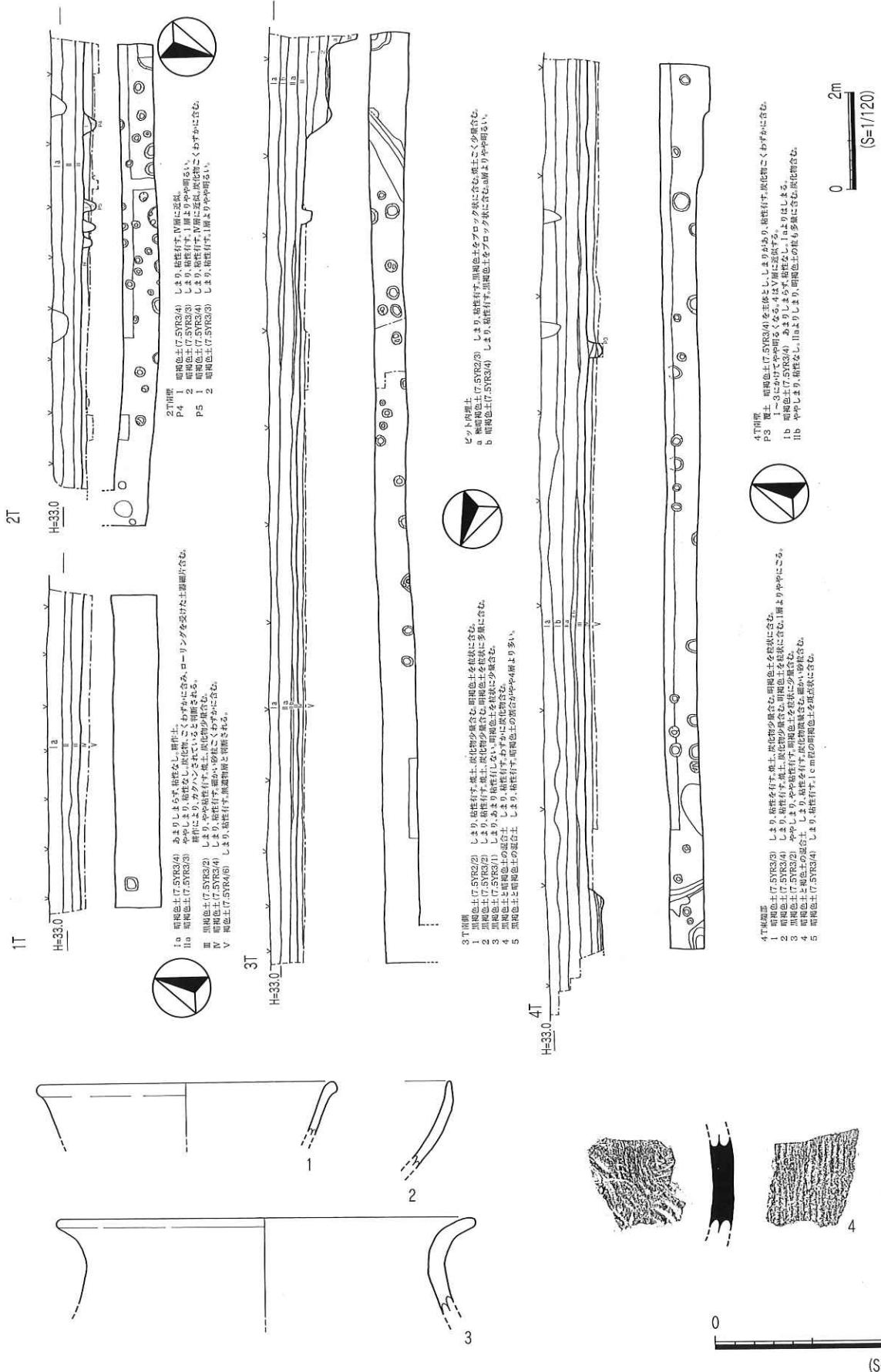


第 83 図 與内迫遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図



與内迫遺跡調査前

II 平成 15 年度の調査



第 84 図 與内迫遺跡トレンチ実測図

第 85 図 與内迫遺跡遺物実測図

18 中ん城遺跡

所在 地：片諏訪字中ノ城 24-1,23-1,17

対象面積：1530 m²

調査期間：平成 16 年 3 月 9 日～3 月 10 日

担当 者：末永 崇

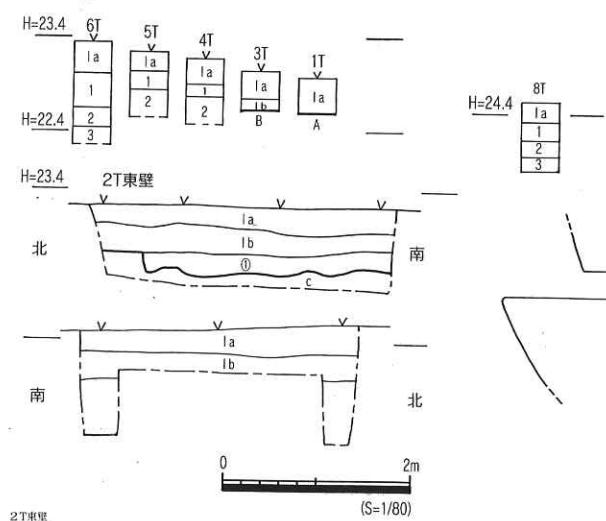
調査地は、伊倉丘陵性台地上に位置する標高 25 m 程の地点である。周辺は、中世城館である中ん城跡及び伊倉城跡として周知されている。平成 10～14 年度にかけて、市立歴史博物館によって伊倉城跡範囲確認調査が行われている。また、平成 13、14 年度には、敷地西側に隣接する市道拡張工事に伴い、調査が行われている。いずれも中世の堀状遺構や道状遺構が確認され、陶磁器や土師器が出土している。

工事の内容は、宅地の造成工事であり、敷地は現状で道から 3～4 m ほど高低差があるため、敷地を切り下げるものである。

確認調査では、敷地内の掘削可能な部分 7 カ所を人力で掘り下げて埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、中世の陶磁器などが出土し、敷地内に遺跡が広がっていることが確認された。

調査後の措置は、次年度に発掘調査を行うことになった。

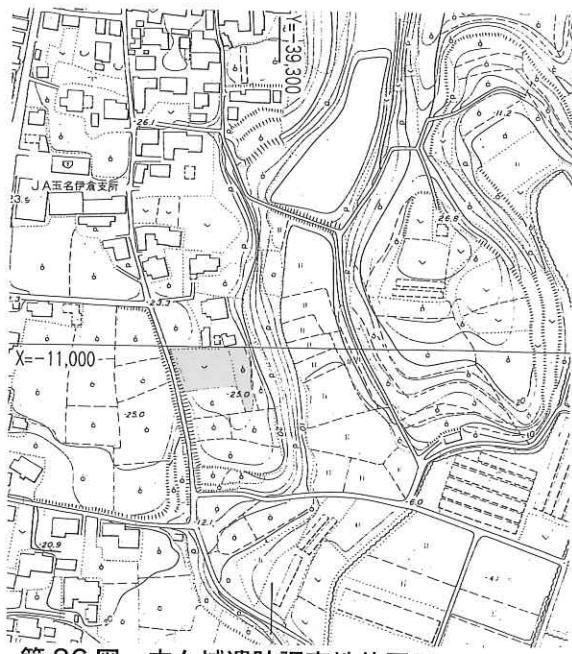


1 黒褐色土(7.5YR3/1) あまりしまらず、粘性有しない。砂混入。
2 黑褐色土(7.5YR2/1) あまりしまらず、あまり粘性有しない。明褐色土をブロック状に多量に含む。中世の土器片含む。
A 明褐色土(7.5YR5/8) しまり、中世の土器片含む。
C にぶい赤褐色土(2.5VR5/4) ややしまり、あまり粘性有しない。細かい砂、褐色、赤色の5mm～1cmの粒含む。サクサクした感触。無鉄物質。

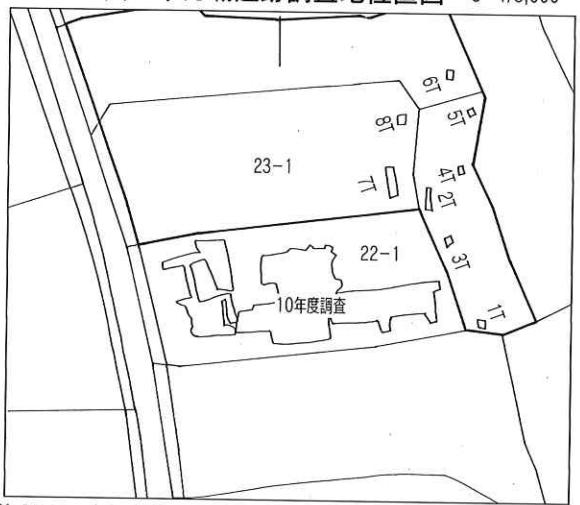
4T
1 暗褐色土(7.5YR3/1) あまりしまらず、粘性有しない。砂混入。
2 黑褐色土(7.5YR2/1) あまりしまらず、あまり粘性有しない。明褐色土をブロック状に多量に含む。中世の土器片含む。
A 明褐色土(7.5YR5/8) しまり、あまり粘性有しない。細かい砂含む。A層より赤みがかり、きめが粗かい。無鉄物質。
B 明褐色土(7.5YR5/6) しまり、あまり粘性有しない。細かい砂含む。A層より赤みがかり、きめが粗かい。無鉄物質。

5.6T
1 暗褐色土(7.5YR2/3) あまりしまらず、あまり粘性有しない。明褐色土を柱状に少量含む。中世の土器片含む。
2 黑褐色土(7.5YR2/3) ややしまり、粘性有す。明褐色土を柱状に少量含む。中世の土器片含む。

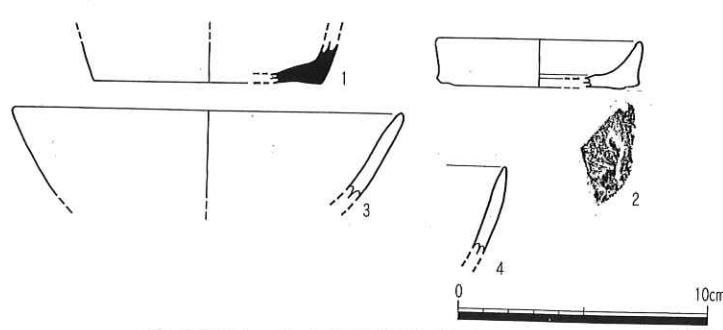
第 88 図 中ん城遺跡土層図



第 86 図 中ん城遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第 87 図 中ん城遺跡調査地周辺地籍図・トレチ配置図 S=1/1,000



第 89 図 中ん城遺跡遺物実測図

GT
1 暗褐色土(7.5YR4/3) しまり、あまり粘性有しない。細かな土器片わずかに含む。
2 黑褐色土(7.5YR3/1) しまり、粘性有す。焦土、炭化物ごくわずかに含む。中世の土器片(土師器・瓦器)少量含み、近世の土器片含まない。明褐色土をブロック状に少量含む。

8T
1 暗褐色土(7.5YR4/3) あまりしまらず、やや粘性有す。明褐色土を柱状にわずかに含む。
2 暗褐色土(2.5VR2/3) ややしまり、粘性有す。明褐色土を柱状にわずかに含む。
3 黑褐色土(7.5YR3/1) しまり、粘性有す。明褐色粘土をブロック状に少量含む。

* 1～3 游移的に暗くなる。中世の土器片含む。

19 岩崎原遺跡 (B 地点)

所在地：岩崎塔ノ本 781 外 9 筆

対象面積：8607.82 m² (778.71 m²)

調査期間：平成 16 年 3 月 18 日

担当者：末永 崇

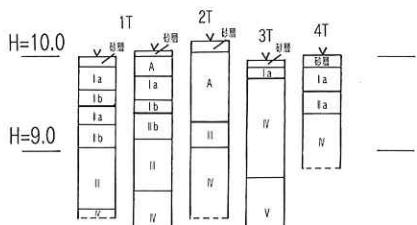
調査地は、繁根木川右岸の低丘陵上に位置する、標高 17.6 m ほどの地点である。周辺は、弥生土器の散布が確認されており、集落の存在が想定されている。幕末に高瀬藩の敷地として造成され、現在は玉名女子高校の敷地や宅地となっている。

調査は、工事予定地内に 4 カ所トレンチを設定し、重機による掘削を行い埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、I ~ V 層までを確認した。

I 層は黒褐色を呈する層で、コンクリート片など現代の建築材を多く含む。II ~ V 層は主に明褐色を呈する層で、下位の層ほど砂質土になつてゆく。遺物は検出されず、無遺物層と判断した。

以前の建物建設の際に無遺物層まで既に削平されており、遺構、遺物は確認されていない。

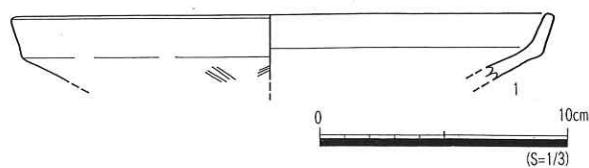
調査後の措置は、慎重工事である。



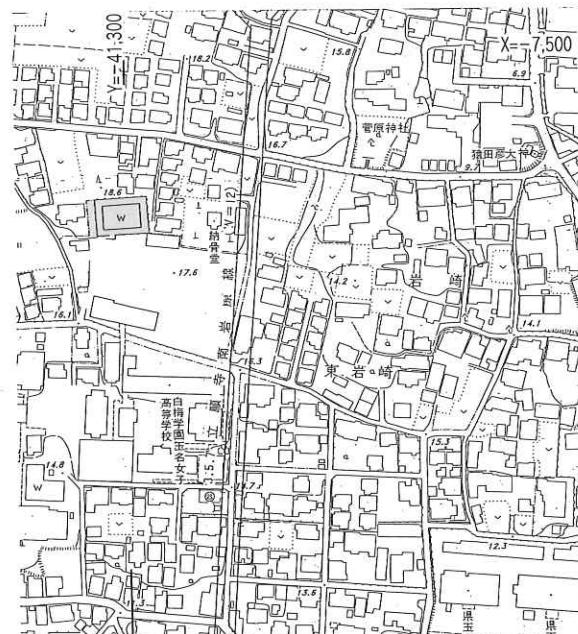
* II ~ V 層は下位になると地盤がなくなり、次第に砂質土となる。遺物は検出されず。
I 黒褐色土(7.5YR4/2) しまり、粘性有す。部分的に明褐色土がブロック状に混入する。コンクリート片等の建築材を含む。
IIa 棕色土(7.5YR4/6) しまり、粘性有す。1cm程度のレキ片わずかに含む。IIbは IIa にわずかに砂粒含む。
III 棕色土(7.5YR4/4) しまり、やや粘性有す。褐色の粘性土と砂質土の混合土。1~2cmのレキ片多く含む。
IV 明褐色砂質土(7.5YR5/6) しまり、粘性なし。1~2cmのレキ片多く含む。
V にぶ・褐色砂質土(7.5YR5/4) しまり、粘性なし。1~2cmのレキ片多く含み。IV ほどより荒ぐガリガリする。
A コンクリート片、砂石の混合。

第92図 岩崎原遺跡 (B 地点) 土層図

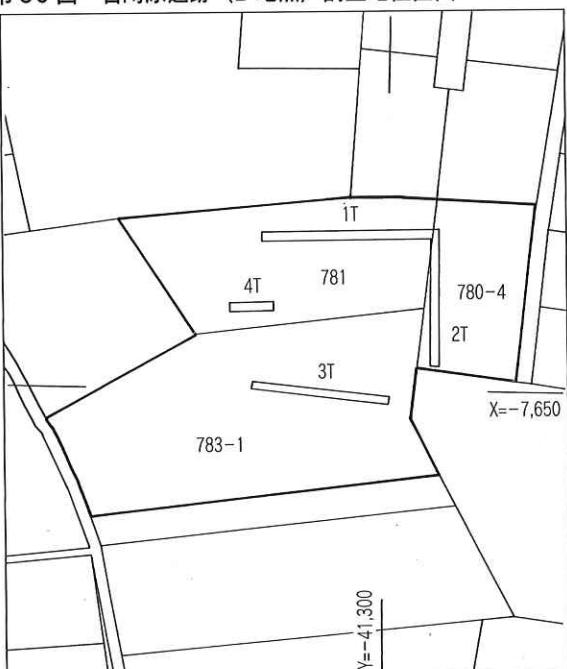
0 2m
(S=1/80)



第93図 岩崎原遺跡 (B 地点) 遺物実測図



第90図 岩崎原遺跡 (B 地点) 調査地位置図 S=1/5,000



第91図 岩崎原遺跡 (B 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



岩崎原遺跡 (B 地点) 調査地の東から

20 千田川原俵転し

所在 地：千田川原字塘添 421 ほか

対象面積：285.6 m²

調査期間：平成 15 年 3 月 15 日～3 月 31 日

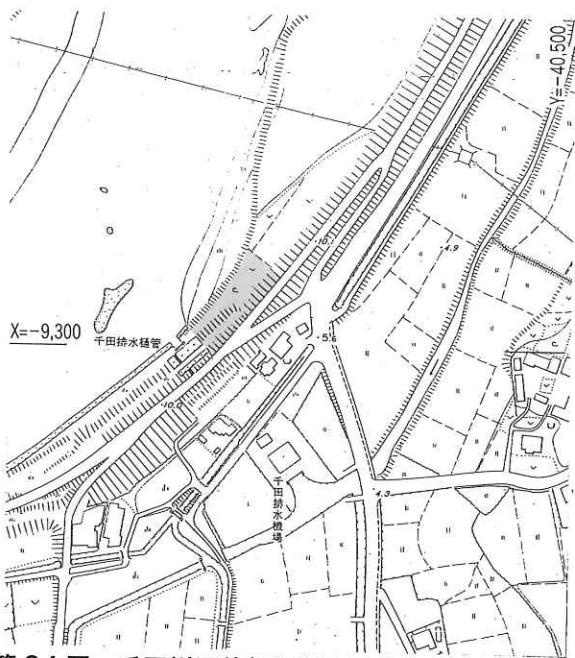
担 当 者：兵谷有利

調査地は菊池川左岸の河口より約 6.8km の地点に位置する。現状は竹林になっている。安政 2 年の『菊池川全図』（熊本県立図書館蔵）をみると対岸に所在する市登録遺跡の「高瀬船着場跡」の俵ころがし（俵をころがす石の坂道）と同様な石畳が存在することが分かる。近現代には貝灰の炉が調査地の 10m 程北東側にあり、近年まで舟着場も海からの貝を運び込む舟着場として利用されていた。また、昭和 52 年に河川改修で調査地一帯には間知石が貼られている。

今回は、埋没していると考えられる、俵ころがしが、どの程度残っているかを確認するための試掘調査である。

調査区内に 6 本のトレーナーを設定した。1 トレーナーの旧地形は西側に下がっており、最下層からは現代のビンが出土した。2 トレーナーは昭和 52 年に施された間知石が浅いところで地表面より 50cm、西側の深いところでは 2 m で確認された。3 トレーナーは一面石畠で上面から下段まで 13 列、横約 8 列で 1 枚の平均は長さ 90 × 幅 50 × 厚さ 10cm であった。また、船が接岸したと思われる場所は 1.5m 程急激な段が付いていた。この部分には川砂が堆積しており底までは確認はできなかつたが、下層より銅銭 2 枚を確認している。4 トレーナーの北側は近現代に盛土がされている。5 トレーナーは昭和 52 年に貼られた間知石が一面を覆い、その下層には近代のビン・陶器・プラスチック片が確認された。6 トレーナーの北部は近現代の搅乱を受けており、貝灰塊が混ざっている。

貝灰製作時にも舟着場として利用され、河川



第94図 千田川原俵転し調査地位置図 S=1/5,000



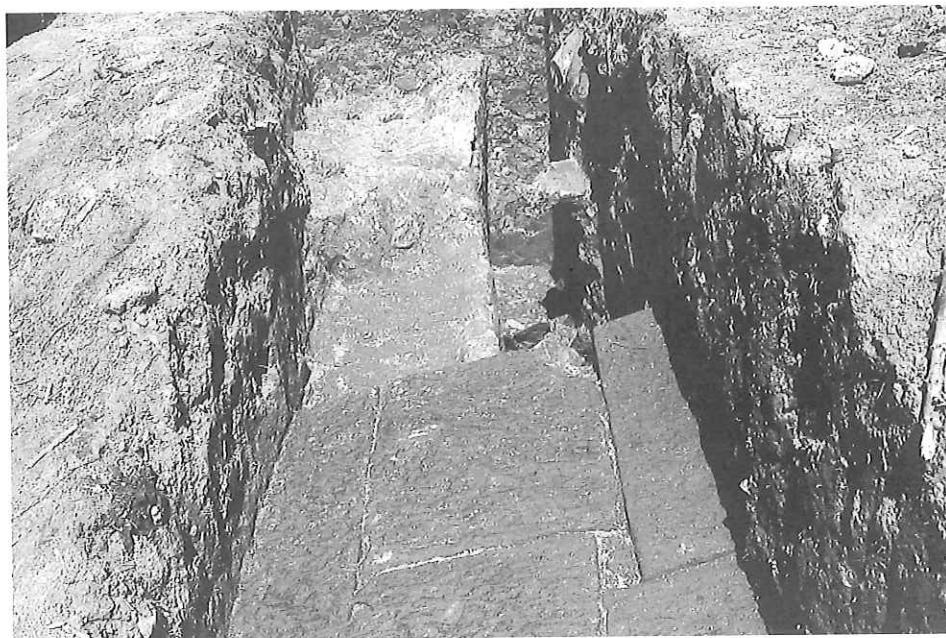
第95図 千田川原俵転し調査地周辺地籍図・トレーナー配置図 S=1/1,000



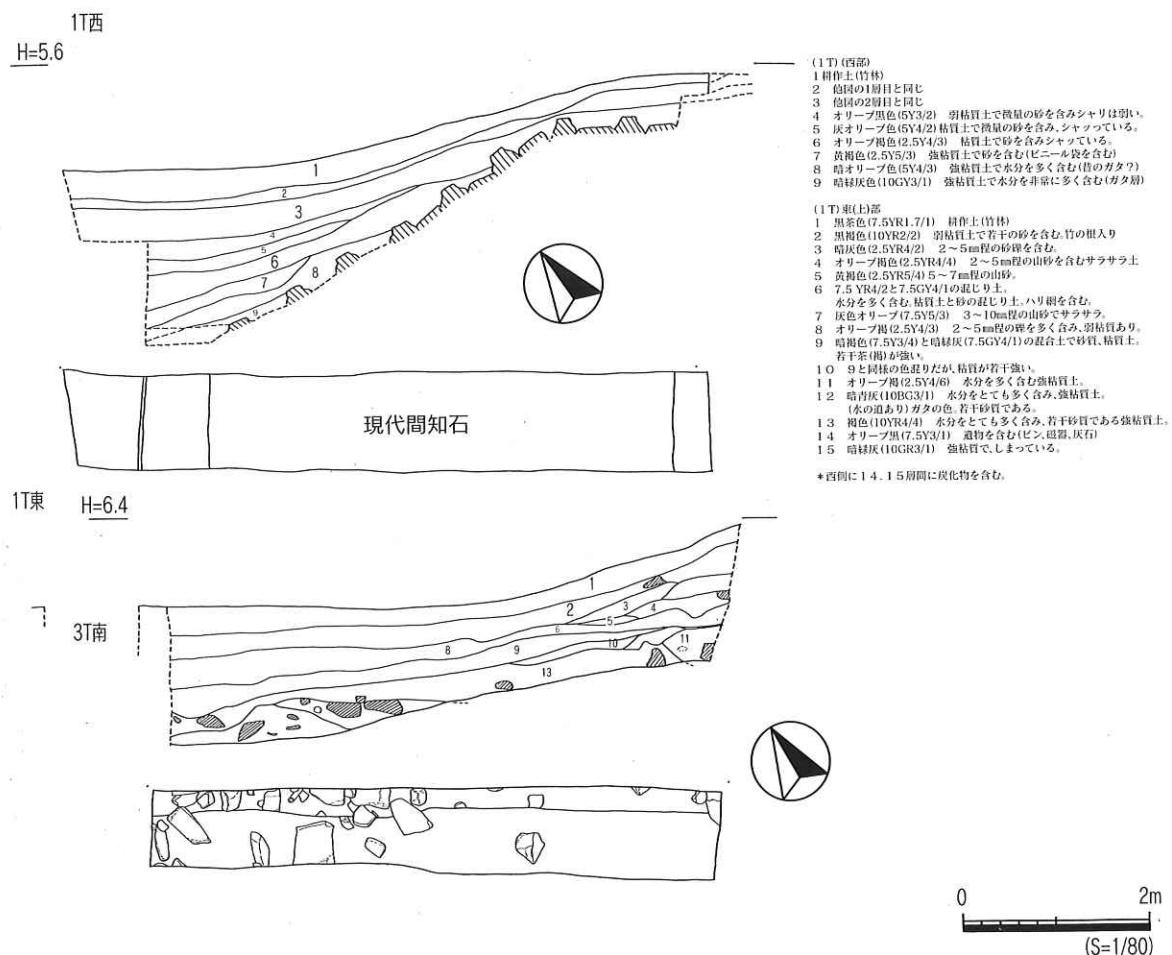
千田川原俵転し調査前

II 平成 15 年度の調査

改修で間知石が施されており、俵ころがしの遺構は大部分がその下に残っている。

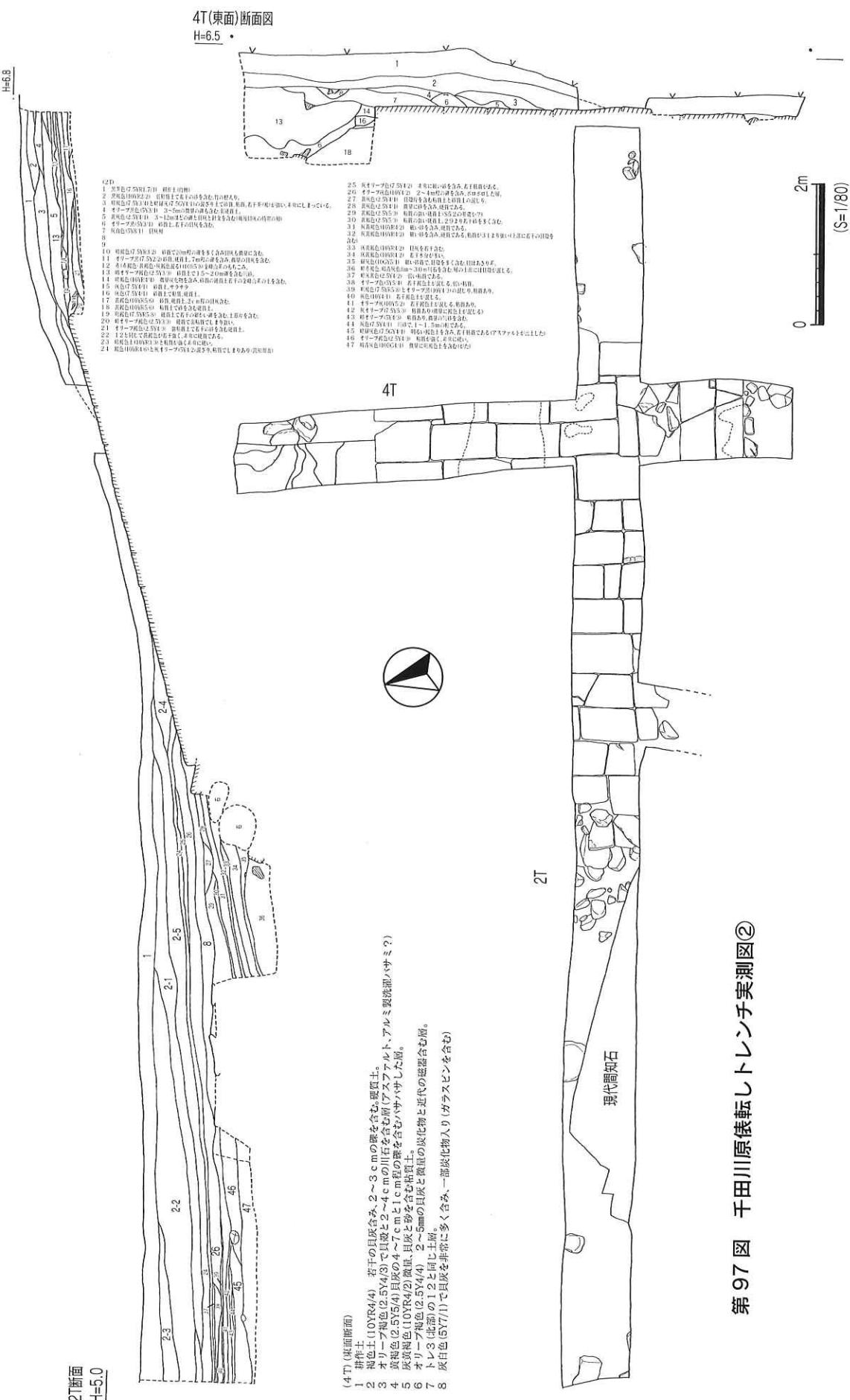


4 トレンチ北

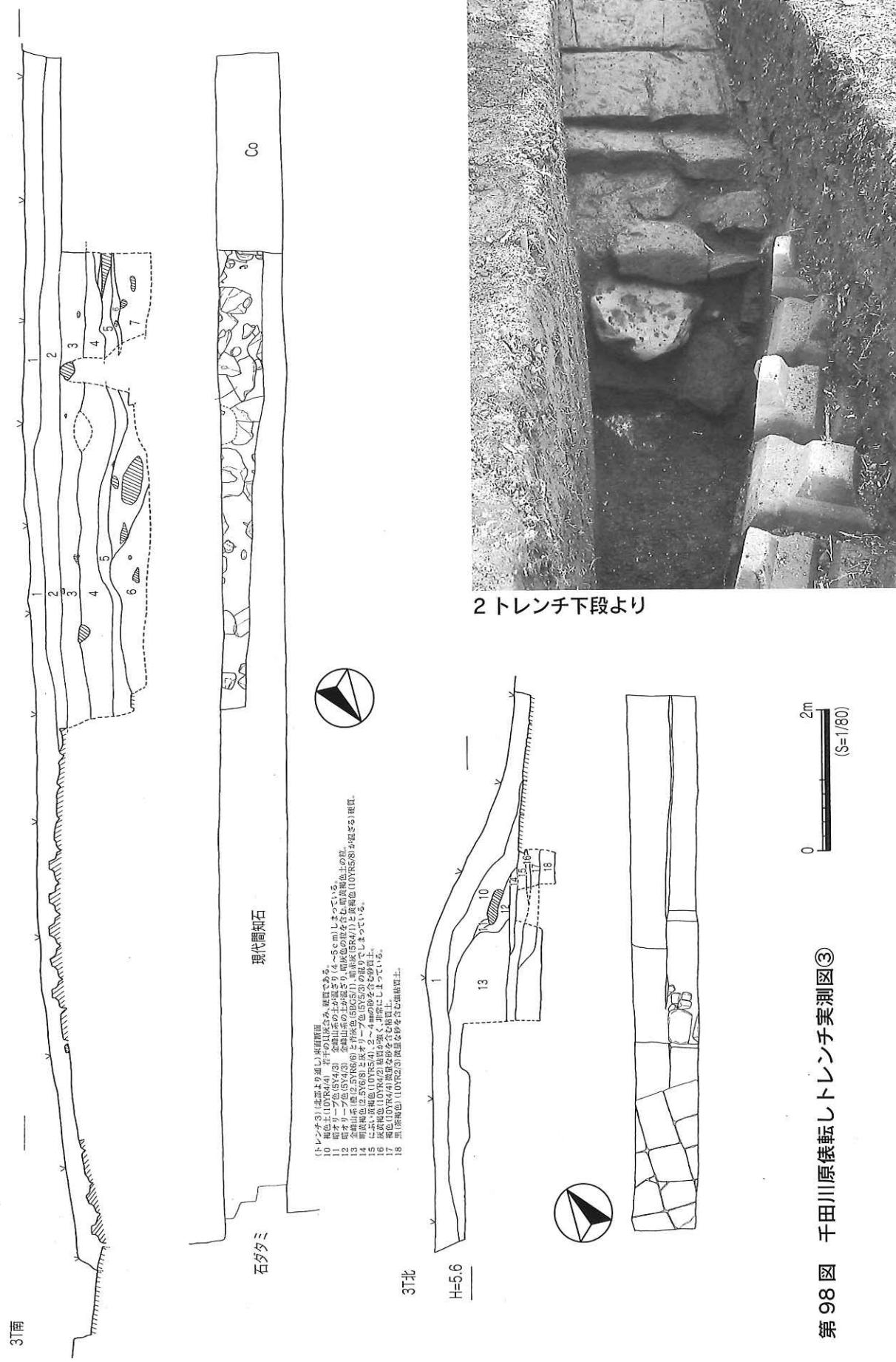


第 96 図 千田川原俵転しトレンチ実測図①

II 平成 15 年度の調査



II 平成 15 年度の調査



第98図 千田川原表転しトレンチ実測図③

II 平成 15 年度の調査



除草作業



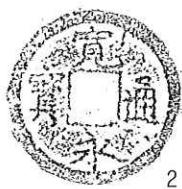
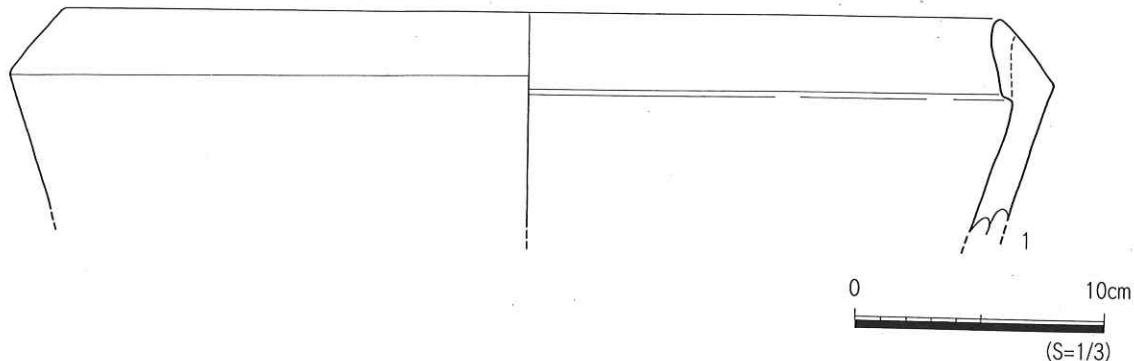
千田川原俵ころがし除草後



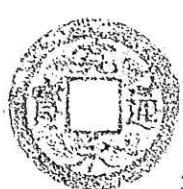
前方は菊池川



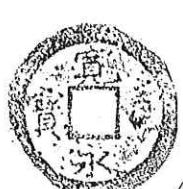
俵転し部分



2



3



4



第 99 図 千田川原俵転し遺物実測図

21 玉名平野条里跡

所在地：岩崎 122, 124, 125-1, 126

対象面積：1182.37 m² (328.05 m²)

調査期間：平成 16 年 3 月 29 日

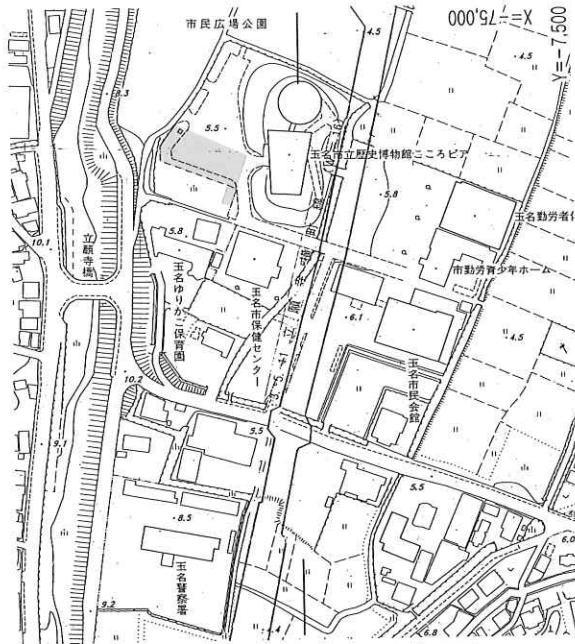
担当者：齋父雅史

調査地は、繁根木川左岸の平野部に位置する標高 5.5 m 程の地点であり、玉名市立歴史博物館こころピアの敷地内となっている。調査地の東側一帯は水田が広がっており、現況面とは約 1 m の高低差がある。

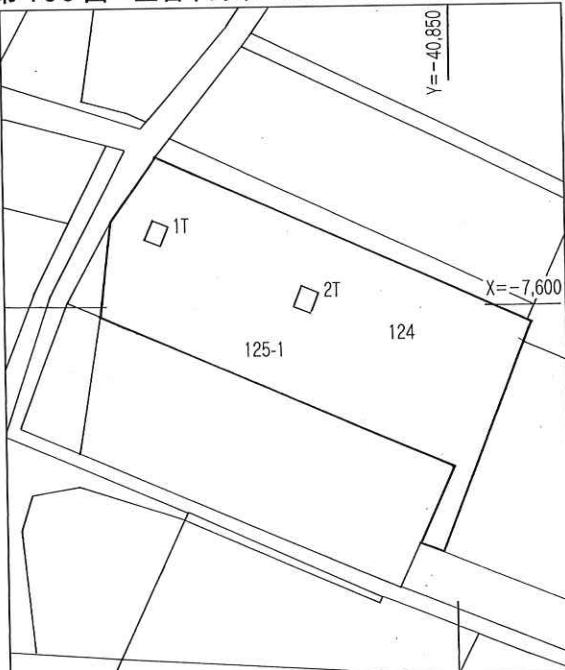
調査は、アスファルトを剥いた後、主に基盤が入る部分 2 カ所を重機で掘削して埋蔵文化財の確認を行った。

その結果、アスファルト下の土層は、碎石層（約 30 cm）や山砂層（約 50 ~ 70 cm）など現代の盛土であり、遺構・遺物などは確認できなかった。約 1.1 m 下から旧水田面と思われる層が確認できた。

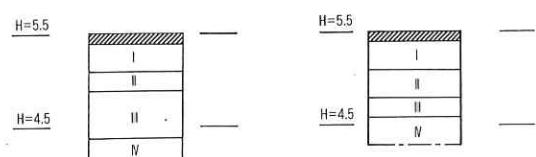
調査後の措置は、慎重工事である。



第 100 図 玉名平野条里跡調査地位置図 S=1/5,000



第 101 図 玉名平野条里跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



第 102 図 玉名平野条里跡土層図

II 平成15年度の調査

平成15年度遺物観察表

II 平成 15 年度の調査

図版番号	遺跡名	出土地点	遺物種類	器種	部位	口径	底径	高さ	調整(外)		色調(内)		胎土	焼成	実測No.	備考
									高さ	底径	色調	外				
28	南出跡(A)	4T(SQ1)F	空筒土器	壺	口部	(28.8)	-	(2.0)	-	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.4~0.6mmの白色を含む	西	83		
	南出跡(A)	9T(B)I	空筒土器	壺	口部	(24.8)	-	(1.7)	-	ナラ?	茶系(10YR6/2)	1.0~1.5mmの白色を含む	西	102		
30	南出跡(A)	6T(I)I	空筒土器	壺	腹側	-	-	(5.4)	1.7mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.8~1.3mmの白色を含む	西	90		
31	南出跡(A)	8T(SQ4)	空筒土器	壺	底部	-	(6.0)	-	-	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.6~1.2mmの白色を含む	西	97		
32	南出跡(A)	1T(VB)	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.1)	-	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.8~1.0mmの白色を含む	西	68	高台堤 3.1cm	
33	南出跡(A)	3T	空筒土器	壺	底部	-	-	(4.6)	1.7mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.8~1.2mmの白色を含む	西	69		
34	南出跡(A)	4T(SQ1)T	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.2)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.3mmの白色を含む	西	79		
35	南出跡(A)	5T(SQ2)	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.1~0.2mmの白色を含む	西	80		
36	南出跡(A)	7T(SQ3)	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.0)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.4~0.6mmの白色を含む	西	94		
37	南出跡(A)	5T(SQ4)	空筒土器	壺	底部	-	-	(6.0)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.8~1.3mmの白色を含む	西	95		
38	南出跡(A)	5T(SQ5)	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.4)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.8~1.2mmの白色を含む	西	108		
39	南出跡(A)	5T(SQ6)	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.4)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	61		
40	南出跡(A)	4T(SQ1)F	空筒土器	壺	底部	-	-	(3.7)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.3~0.6mmの白色を含む	西	92		
41	南出跡(A)	2T(SQ1)	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.1~0.2mmの白色を含む	西	110		
42	南出跡(A)	3T(F)	空筒土器	壺	底部	-	-	(3.9)	1.4mm	ミガキ	茶系(10YR6/2)	0.1~0.2mmの白色を含む	西	113	7.6cm	
43	南出跡(A)	SQ1	空筒土器	壺	底部	-	-	(4.6)	1.6mm	水ひきナラ?	灰白色(10YR6/2)	灰白色~灰褐色を含む	西	112		
44	南出跡(A)	1T(H)2	空筒土器	壺	底部	-	-	(1.2)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	114		
45	南出跡(A)	1T(H)3	空筒土器	壺	底部	-	-	(6.0)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.8~1.3mmの白色を含む	西	111	高台堤 6.7cm	
46	南出跡(A)	1T(H)4	空筒土器	壺	底部	-	-	(1.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	117	壁厚 5.5cm	
47	南出跡(A)	1T(H)5	空筒土器	壺	底部	-	-	(6.5)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.3~0.6mmの白色を含む	西	116		
48	南出跡(A)	1T(H)6	空筒土器	壺	底部	-	-	(2.3)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	119		
49	南出跡(A)	1T(H)7	空筒土器	壺	底部	-	-	(2.0)	3.5mmの突起入り	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.1~0.2mmの白色を含む	西	110		
50	南出跡(A)	1T(H)8	空筒土器	壺	底部	-	-	(2.7)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.1~0.2mmの白色を含む	西	111		
51	南出跡(A)	2T(H)1	空筒土器	壺	底部	-	-	(4.0)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.1~0.2mmの白色を含む	西	112		
52	南出跡(A)	2T(H)2	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.5~0.8mmの白色を含む	西	113		
53	南出跡(A)	2T(H)3	空筒土器	壺	底部	-	-	(4.5)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	114		
54	南出跡(A)	2T(H)4	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.3~0.6mmの白色を含む	西	115		
55	南出跡(A)	2T(H)5	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	116		
56	南出跡(A)	2T(H)6	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	117		
57	南出跡(A)	2T(H)7	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	118		
58	南出跡(A)	2T(H)8	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	119		
59	南出跡(A)	3T(H)1	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	120		
60	南出跡(A)	3T(H)2	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	121		
61	南出跡(A)	3T(H)3	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	122		
62	南出跡(A)	3T(H)4	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	123		
63	南出跡(A)	3T(H)5	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	124		
64	南出跡(A)	3T(H)6	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	125		
65	南出跡(A)	3T(H)7	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	126		
66	南出跡(A)	3T(H)8	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	127		
67	南出跡(A)	4T(H)1	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	128		
68	南出跡(A)	4T(H)2	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	129		
69	南出跡(A)	4T(H)3	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	130		
70	南出跡(A)	4T(H)4	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	131		
71	南出跡(A)	4T(H)5	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	132		
72	南出跡(A)	4T(H)6	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	133		
73	南出跡(A)	4T(H)7	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	134		
74	南出跡(A)	4T(H)8	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	135		
75	南出跡(A)	5T(H)1	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	136		
76	南出跡(A)	5T(H)2	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	137		
77	南出跡(A)	5T(H)3	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	138		
78	南出跡(A)	5T(H)4	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	139		
79	南出跡(A)	5T(H)5	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	140		
80	南出跡(A)	5T(H)6	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	141		
81	南出跡(A)	5T(H)7	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	142		
82	南出跡(A)	5T(H)8	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	143		
83	南出跡(A)	6T(H)1	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	144		
84	南出跡(A)	6T(H)2	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	145		
85	南出跡(A)	6T(H)3	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	146		
86	南出跡(A)	6T(H)4	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	147		
87	南出跡(A)	6T(H)5	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	148		
88	南出跡(A)	6T(H)6	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	149		
89	南出跡(A)	6T(H)7	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	150		
90	南出跡(A)	6T(H)8	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	151		
91	南出跡(A)	7T(H)1	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	152		
92	南出跡(A)	7T(H)2	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	153		
93	南出跡(A)	7T(H)3	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	154		
94	南出跡(A)	7T(H)4	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	155		
95	南出跡(A)	7T(H)5	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	156		
96	南出跡(A)	7T(H)6	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	157		
97	南出跡(A)	7T(H)7	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	158		
98	南出跡(A)	7T(H)8	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	159		
99	南出跡(A)	8T(H)1	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	160		
100	南出跡(A)	8T(H)2	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	161		
101	南出跡(A)	8T(H)3	空筒土器	壺	底部	-	-	(5.6)	1.6mm	ナラ?	茶系(10YR6/2)	0.2~0.5mmの白色を含む	西	162		
102	南出跡(A)	8T(H)4	空筒土器	壺	底部	-	-									

II 平成15年度の調査

III 平成 16 年度の調査

西田遺跡
亀甲遺跡
高岡原遺跡 (A 地点)
岩井口遺跡 (A 地点)
高瀬本町通遺跡 (B 地点)
中坂門田遺跡
玉名平野条里跡 (A 地点)
立願寺廃寺 (B 地点)
南出遺跡 (C 地点)
伊倉古宮原遺跡
名町遺跡
玉名平野条里跡 (B 地点)
下立願寺遺跡
高岡原遺跡 (B 地点)
與内迫遺跡
中ん城遺跡
築地市場遺跡
馬場遺跡
岩井口遺跡 (B 地点)

III 平成 16 年度の調査

1 西田遺跡

所在地：築地字梅ヶ谷 1396-12

対象面積：2346 m²

調査期間：平成 16 年 4 月 1 日

担当者：蟻父雅史

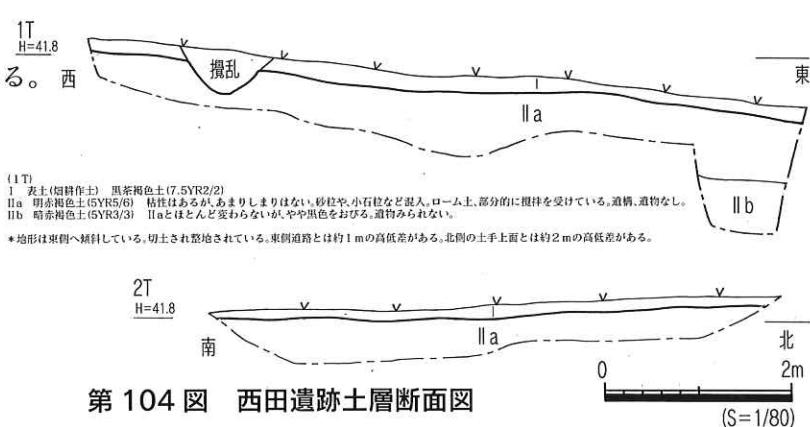
調査地は、小代山から南側へ延びる丘陵上に位置し、標高約 40 m の地点にあたる。周辺はミカン畑などとなって造成してある。

今回、土砂採取が予定されている敷地内の 2カ所にトレーニングを設定し、埋蔵文化財の確認を行った。その結果、表土（約 10 cm）の下は、礫片を含む層であり、遺構・遺物などは確認されず、無遺物層と判断した。敷地内はすでに切土され削平を受けていると思われる。

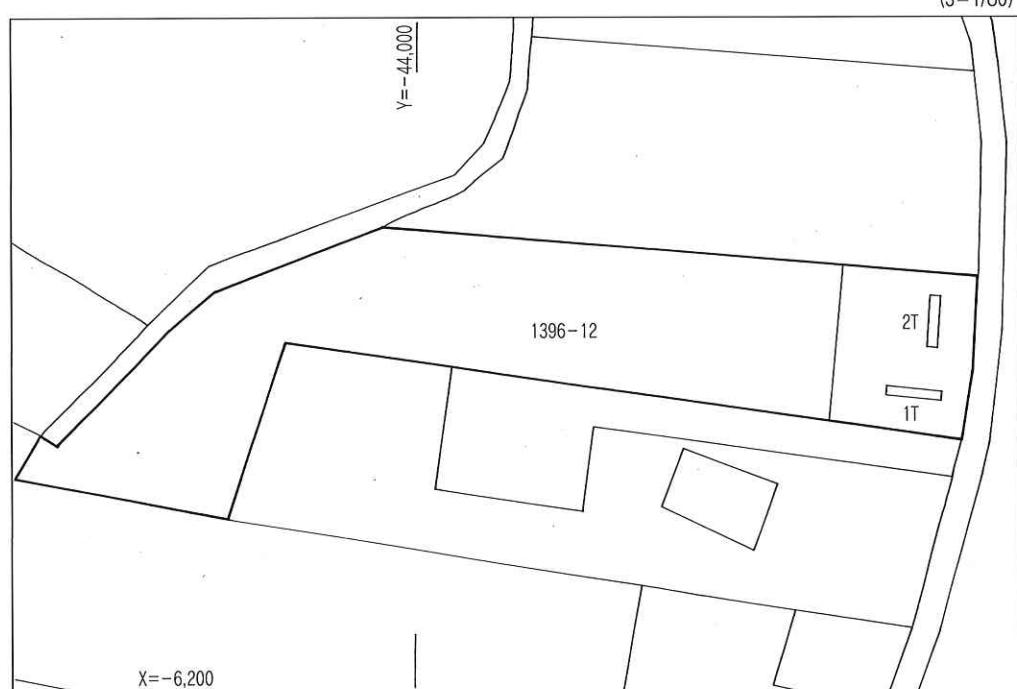
調査後の措置は、慎重工事である。西



第 103 図 西田遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第 104 図 西田遺跡土層断面図



第 105 図 西田遺跡調査地周辺地籍図・トレーニング配置図 S=1/1,000

III 平成 16 年度の調査

2 亀甲遺跡

所在地：亀甲 169-1, 169-4, 169-5, 169-6, 170

対象面積：1045.59 m² (351.15 m²)

調査期間：平成 16 年 4 月 8 日～4 月 9 日

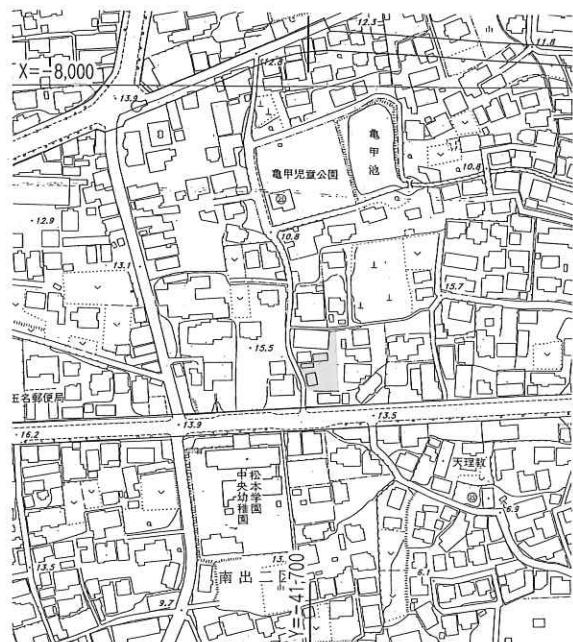
担当者：末永 崇

調査地は、玉名市中心部の国道 208 号線沿い北側に位置する標高 15 m 程の地点である。北側隣接地は、平成 15 年 2 月に確認調査を行い、鉄滓が少量出土している。敷地内は、以前は住宅が建っていたが、解体後にアスファルト敷の駐車場として利用されている。

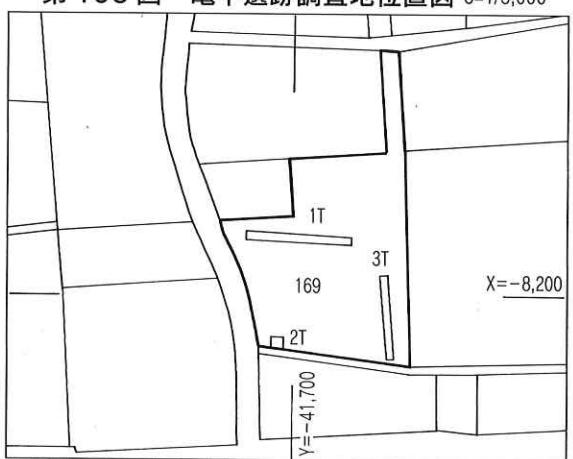
確認調査では、駐車場部分に 3 カ所トレンチを設定し、重機により掘り下げを行い埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、I～IV 層までを確認した。I～III 層まではアスファルトや碎石層である。IV 層は近世から現代の遺物を含む層で、駐車場となる以前の表土とみられる。V、VI 層は礫片を含む明褐色を呈する層で、遺物は検出されず無遺物層と判断した。1、2 トレンチで以前の建物に使用されていた鉄筋コンクリート基礎を検出した。遺物は中世～近世の遺物を少量検出した。

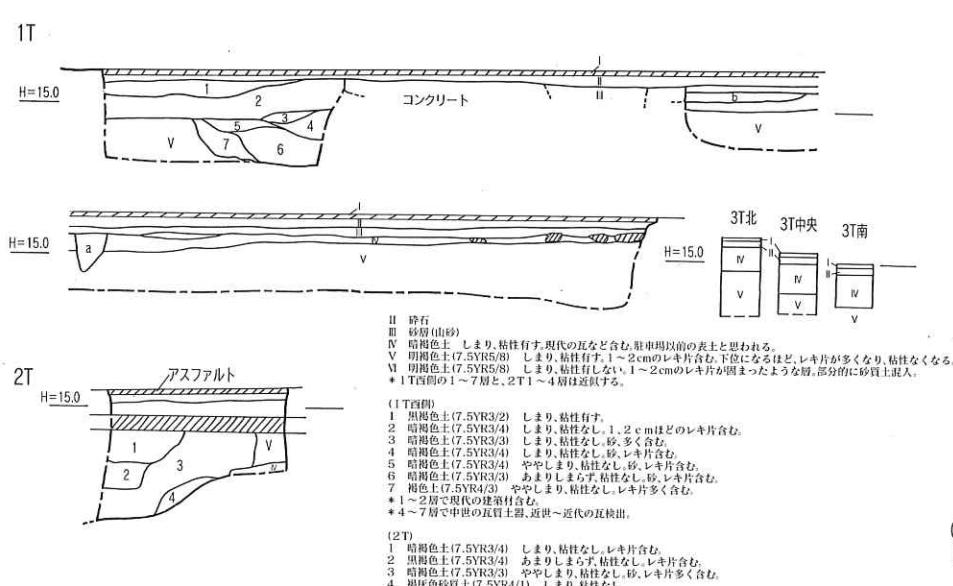
調査後の措置は、慎重工事である。



第 106 図 亀甲遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第 107 図 亀甲遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



第 108 図 亀甲遺跡土層断面図

3 高岡原遺跡（A 地点）

（1）調査に至る経緯

玉名市山田字高岡原 2042-3 において、専用住宅建設工事が計画された。

しかし、工事予定地を含む周辺は高岡原遺跡の範囲に含まれていることから、平成 16 年 4 月 1 日付で文化財保護法第 57 条の 2 による届出がなされた。これを受け、玉名市教育委員会で 4 月 15 日から 16 日にかけて確認調査を実施した。

その結果、弥生時代の住居跡など、埋蔵文化財の存在が確認された。このため取り扱いについて事業主と協議を行い、建物基礎部分の掘削については埋蔵文化財に対して影響を及ぼさないよう、工事設計が一部変更された。しかし、届出地南側の駐車場部分については切土が行われるため、発掘調査を実施することとなった。

（2）調査体制

発掘調査（平成 16 年度）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 森 義臣

調査総括 教育次長 久多見澄夫

社会教育課長 西田道也

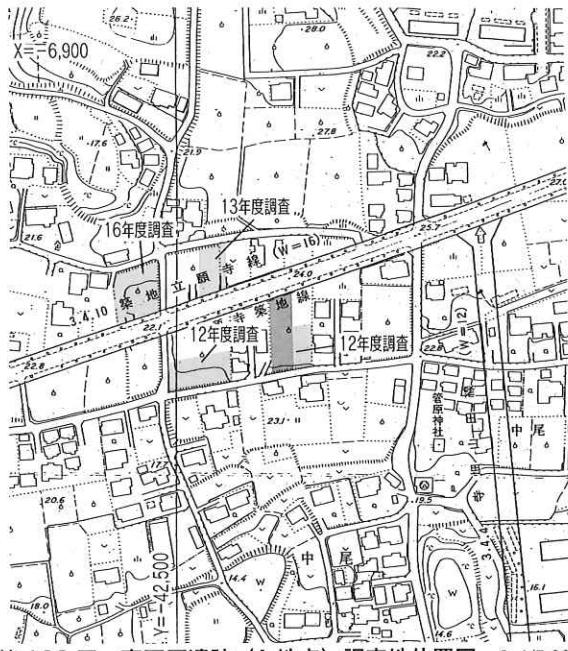
調査事務 文化係長 竹田宏司

主事 清田静香

調査担当 埋蔵文化財調査員 蠶父雅史

（確認調査、本調査）

発掘作業員 古賀武子 平野輝代



第 109 図 高岡原遺跡（A 地点）調査地位置図 S=1/5,000



第 110 図 高岡原遺跡（A 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

整理作業（平成 16 年度）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 森 義臣

調査総括 教育次長 久多見澄夫

社会教育課長 西田道也

調査事務 文化係長 竹田宏司

主事 清田静香

報告書担当 主任 兵谷有利

III 平成 16 年度の調査

埋蔵文化財調査員 薩父雅史
 整理作業員 坂崎郷子 五野富美子
 早川イツエ 古賀武子
 平野輝代

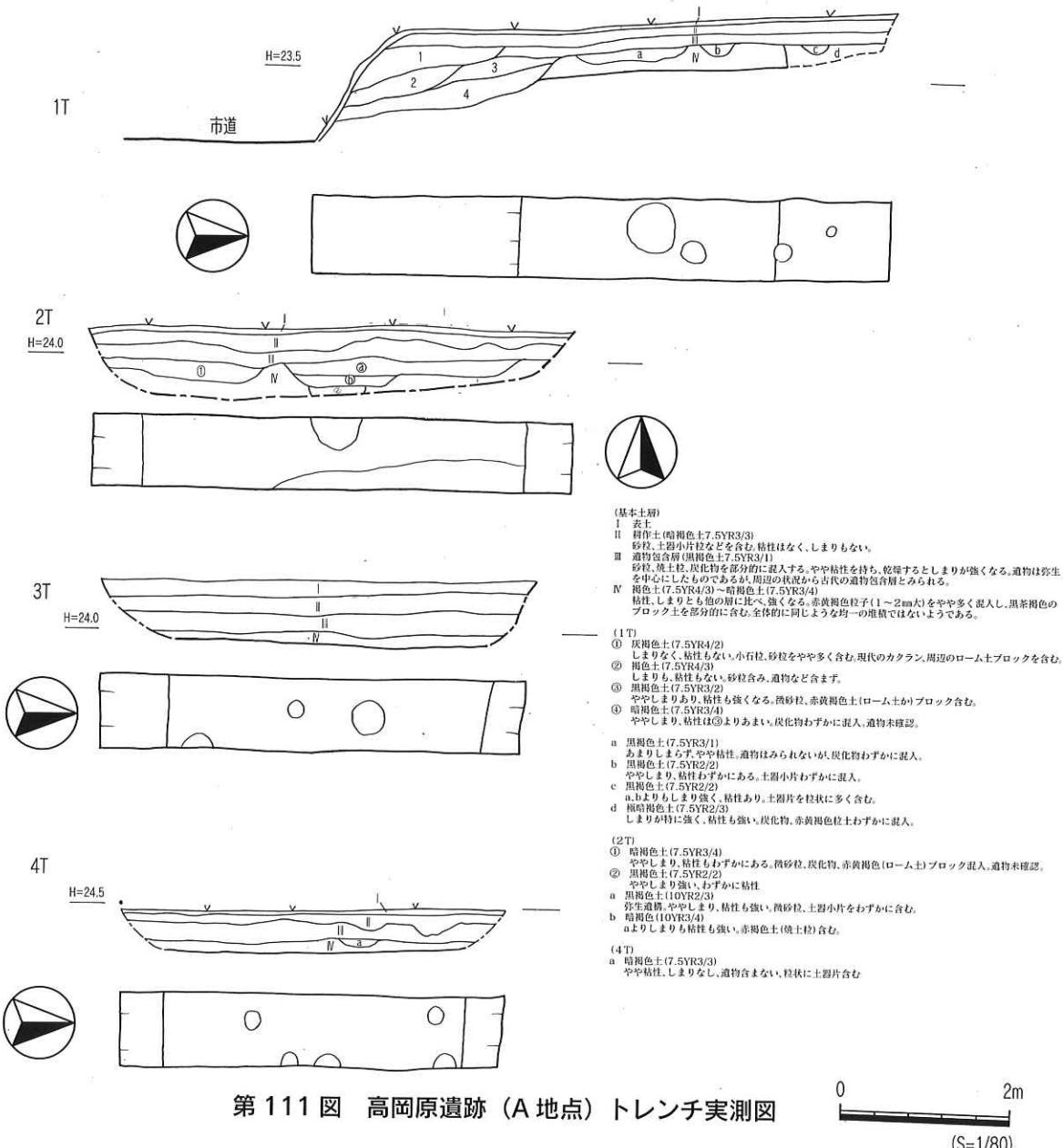
(3) 遺跡の概要

調査地は、境川東側の丘陵上に位置し、標高約 24m の地点にあたる。遺跡周辺は南から西にかけて緩やかに傾斜しており縄文時代から中世にかけての遺物散布地として周知されている。小代山南麓の低丘陵上には、弥生時代後期の集落が広範囲に存在しており、近年の発掘調査で

の検出例も多い。平成 11 年 5 月の調査では中世末から近世初頭の溝状遺構を検出した。12 年 5 月の調査は今回の調査地東側に隣接しており、住居跡、古代の道路状遺構などが検出された。平成 13 年 6 月には調査地北西側の調査が行われており、弥生時代後期の住居跡や古代の道路状遺構などが検出されている。調査地周辺では古代の玉名郡衙や、調査地西側の高岡城伝承地などの考慮が必要であろう。

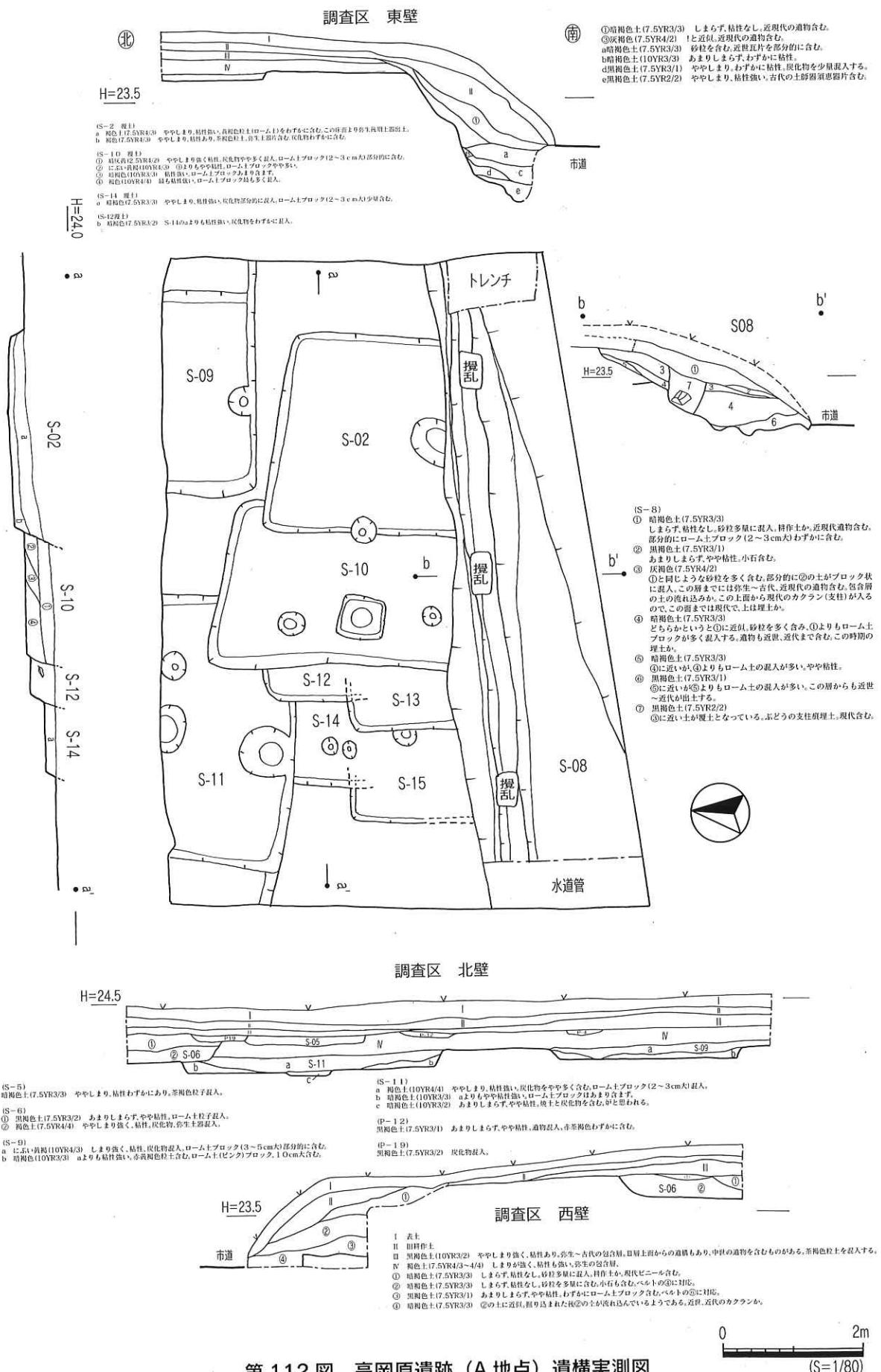
(4) 確認調査

確認調査は敷地南側の駐車場部分で切土され



第 111 図 高岡原遺跡 (A 地点) トレンチ実測図

III 平成 16 年度の調査



III 平成16年度の調査

る範囲内に4箇所トレンチを設定し重機及び人力で掘下げを行い、埋蔵文化財の状況を確認した。調査ではI～IV層までを確認した。各層の内容は以下のとおりである。

I層 表土

II層 暗褐色土 (7.5YR 3/ 3)

砂粒、土器小片粒を含む。粘性はなく、しまりもない。

III層 黒褐色土 (7.5YR 3/ 1)

砂粒、焼土粒、炭化物が部分的に混入する。やや粘性を持ち乾燥するとしまりが強くなる。遺物は弥生を中心としたものであるが、周辺の状況から古代の遺物包含層とみられる。

IV層 褐色土 (7.5YR 4/ 3) ~暗褐色土
(7.5YR 3/ 4)

粘性、しまりとも他の層に比べ強くなる。赤黄褐色粒子 (1～2mm大) をやや多く混入し、黒茶褐色のブロック土を部分的に含む。全体的に同じような均一の堆積ではないようである。遺物は確認していないが縄文の堆積層と考えられる。この層の上面が弥生時代の遺構検出面である。

(5) 調査の経緯及び方法

確認調査後、主体者と協議を行い、建物基礎部分については設計上埋蔵文化財に影響を与えないが南側道路に面した駐車場部分については切土が行われるため、発掘調査を行うことになった。調査ではI、II層を重機で掘削を行い、III層目より人力による掘削を行った。遺構はそれぞれ番号を付けて掘下げた。

各遺構の実測は、住居跡1/20スケール、溝跡1/20スケール、土層断面1/20スケールで行った。調査時の写真撮影は、35mmのカラーリバーサル及びモノクロフィルムで行った。

(6) 遺構と遺物

住居跡 (S-02)

調査区東側に位置し、東西の一辺が1.42mで南北の一辺は古代の道路状遺構に切られており1.22mまで確認できた。検出面からの深さは約0.2mで、南側には深さ約0.16mの浅い掘り込みを確認した。覆土中からは弥生時代後期の土器が出土した。

住居跡 (S-09)

調査区北東側に位置し、東西の一辺は東端が調査区外であり約1.7m、南北は北端が調査区外であり約0.68mまでしか確認できなかった。検出面から床面までの深さは約30cmで東側壁際には床面より0.12mの段差がある残存幅で約0.75mのベッド状遺構の一部が確認された。覆土中からは弥生時代後期の土器が出土した。

住居跡 (S-10)

調査区中央部に位置し、平面は南北に長い長方形を呈する住居跡で、東西約1.2m、南北は古代道路状遺構に切られているが約1.7mまで確認した。検出面からの深さは約0.24mである。直径約0.16mの柱穴が2個あり、この中間部分には一辺約0.32mで正方形を呈する炉を確認した。覆土中からは弥生時代後期のミニチュア土器が出土した。

住居跡 (S-11)

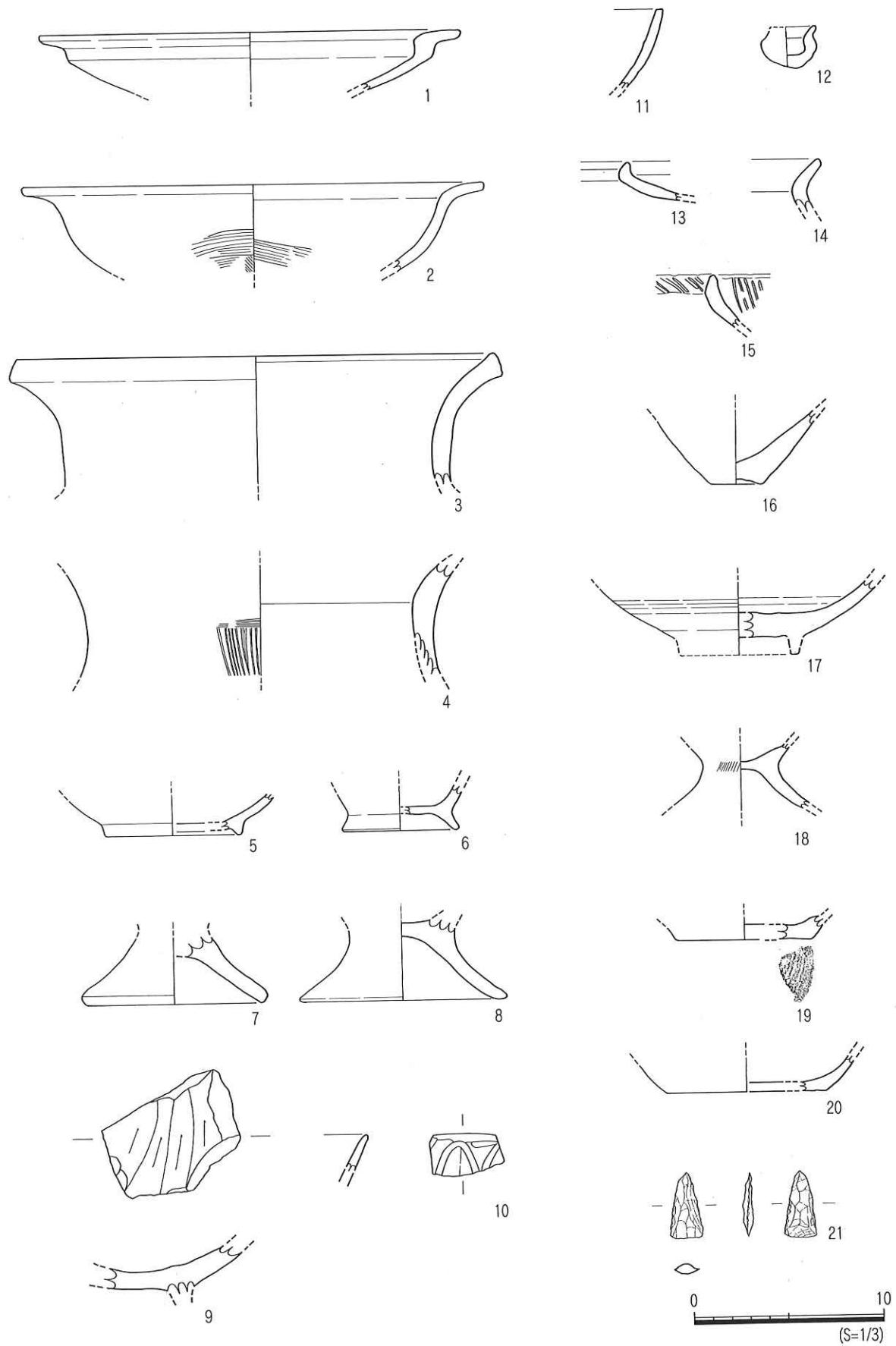
調査区北西側に位置し、東西約1.9m、南北は北端が調査区外であるため0.93mまで確認した。検出面からの深さは約0.3mである。南壁面に接するように直径約0.4m、深さ0.2mの土坑があり、北壁の際には橢円形を呈する0.25×0.35mの炉が確認できた。覆土中からは弥生時代後期の土器が出土した。

住居跡 (S-12)

調査区中央部に位置し、東西の残存は約0.25mで住居跡 (S-10) に切られており、南北の残存は約0.6mまで確認した。検出面からの深さは約0.2mであった。

覆土中からは弥生時代の土器片が少数出土した。

III 平成 16 年度の調査



第 113 図 高岡原遺跡 (A 地点) 遺物実測図①

III 平成 16 年度の調査

住居跡 (S-13)

調査区中央部西側に位置し、東西の残存は約 0.43m で住居跡 (S-10) に切られており、南北の残存は約 0.72m まで確認した。検出面からの深さは約 0.27m であった。住居跡 (S-12) との前後関係は確認できなかった。

覆土中からは弥生時代の土器片が少数出土した。

住居跡 (S-14)

調査区西側に位置し住居跡の一部と考えられる。

覆土中から弥生の土器片が出土した。

住居跡 (S-15)

調査区の南西に位置し、東西に約 0.23m、南

北に約 0.53m しか確認できておらず、周辺の住居跡の検出状況から住居跡の一部と考えられる。

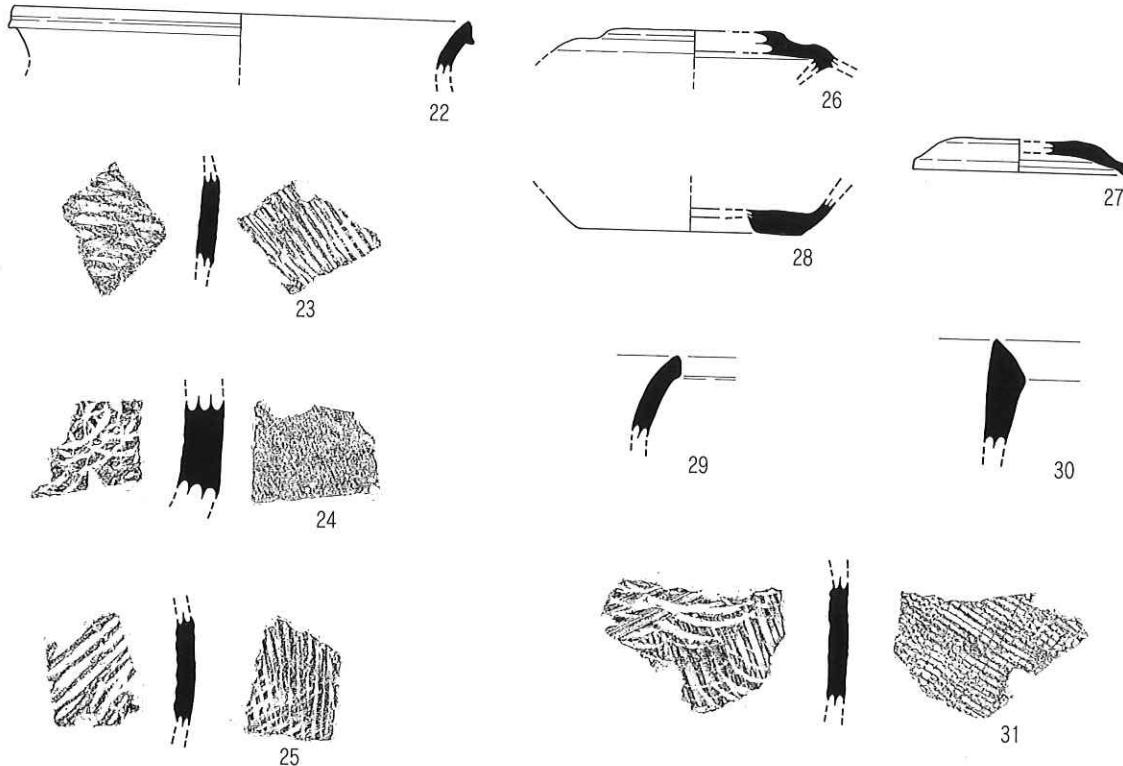
覆土中からは弥生時代の土器片が少数出土した。

(7) まとめ

弥生時代後期の住居跡約 8 基を確認した。多くの住居跡が切り合っていた。遺物の出土は少量であった。1 基の住居内にあった炉の中からは、祭祀などに使用したと考えられる小型の壺（ミニヨウ土器）が 1 点出土した。当時の祭祀や生活を考えるうえで貴重な資料となった。



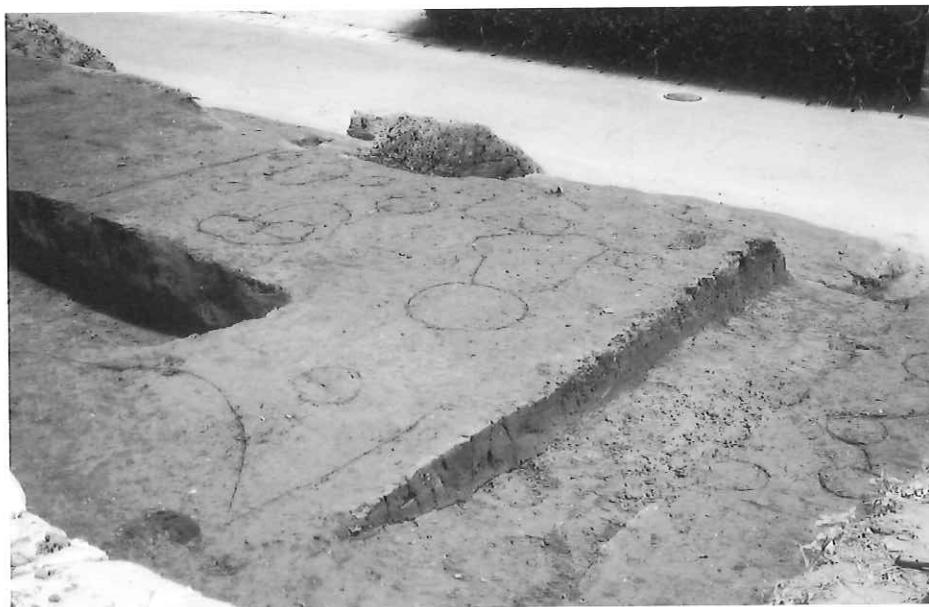
高岡原遺跡 (A 地点) 遺構完掘状況



第 114 図 高岡原遺跡 (A 地点) 遺物実測図②



III 平成 16 年度の調査



岩崎原遺跡（A 地点）
遺構検出状況



岩崎原遺跡（A 地点）
S-08 土層断面



岩崎原遺跡（A 地点）
S-02

III 平成 16 年度の調査

4 岩井口遺跡 (A 地点)

所在 地：伊倉北方字岩井口前

1542-1, 1543-1, 1533

対象面積：11789.79 m² (3007.42 m²)

調査期間：平成 16 年 5 月 10 日～5 月 21 日

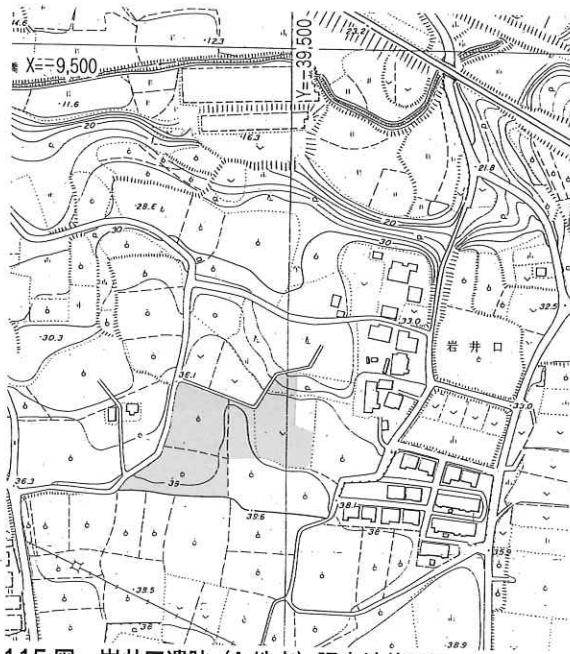
担 当 者：古閑敬士

調査地は伊倉丘陵性台地上、標高 35 m 前後の地点である。現況は牧草地などで、南側の特別養護老人ホームさくら苑敷地より 2 m ほど低い。この老人ホーム建設に先立ち、平成 9 年 7 月に確認調査を実施している。このときは、中世の遺物が数点出土したが、遺構は確認されていない。

当地については平成 16 年 4 月に調査依頼が提出され、5 月 10 日から 21 日にかけて確認調査を行っている。増築工事と盛土による造成予定地について、計 9 本のトレンチを設定して埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、耕作土からは遺物が少量出土したが、耕作土の下位はローム土で、遺構は確認されなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。



第 115 図 岩井口遺跡 (A 地点) 調査位置図 S=1/5,000



第 116 図 岩井口遺跡 (A 地点) 調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/2,000

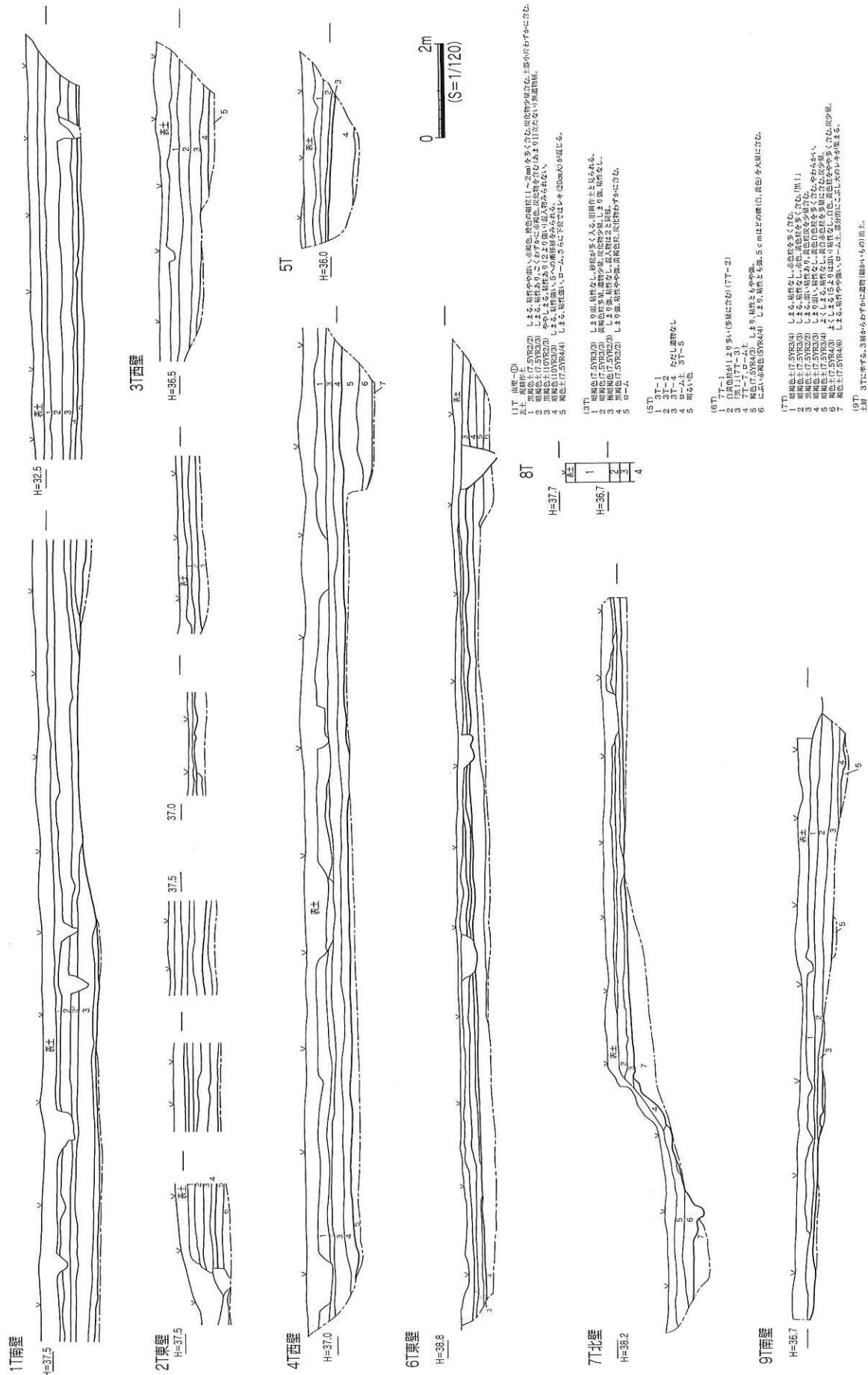


岩井口遺跡 (A 地点) 調査前 (北側)



岩井口遺跡 (A 地点) 6 トレンチ (南東から)

III 平成 16 年度の調査



第 117 図 岩井口遺跡 (A 地点) 土層断面図

III 平成 16 年度の調査



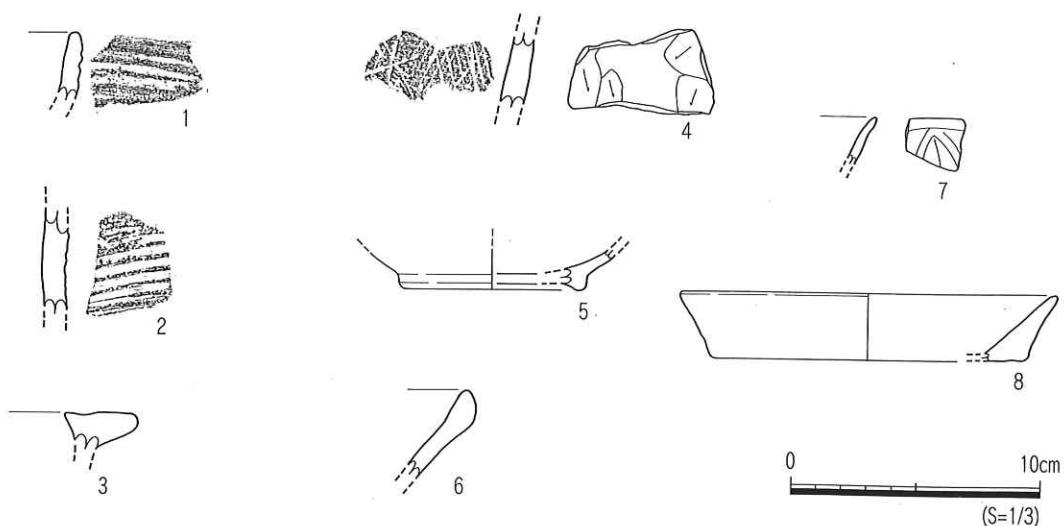
岩井口遺跡 (A 地点) 1 トレンチ (東から)



岩井口遺跡 (A 地点) 2 トレンチ (南から)



岩井口遺跡 (A 地点) 8 トレンチ (南から)



第 118 図 岩井口遺跡 (A 地点) 遺物実測図

5 高瀬本町通遺跡（B 地点）

所在地：高瀬字本町 232-4

対象面積：117.16 m² (78.03 m²)

調査期間：平成 16 年 5 月 14 日

担当者：蟻父雅史

調査地は、菊池川右岸の自然堤防上、標高約 8 m の地点に位置し、周辺は江戸末期～明治期に建てられた町屋などが残っている。

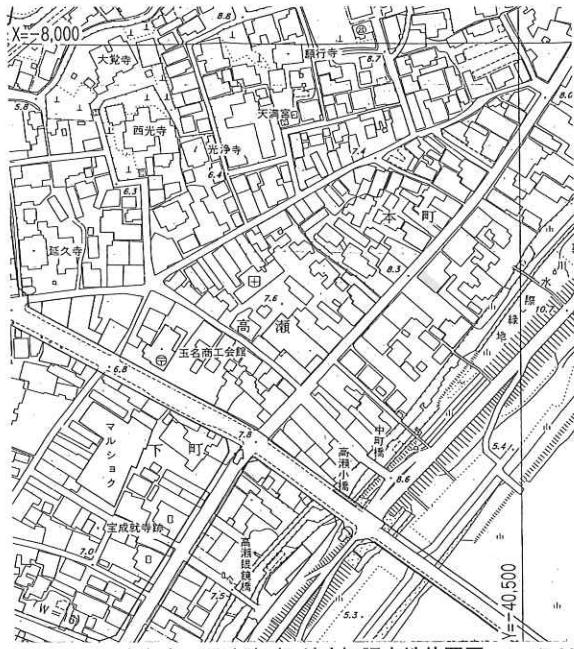
今回、敷地の面積が狭く、隣接する古い木造建物への影響などを考慮し、トレーナー設定や掘削範囲に制限を受けざるを得なかった。その中で、計 3カ所のトレーナーを設定して埋蔵文化財の確認を行った。

その結果、1 トレーナー北壁の隣地境界線に沿って近世～近代にかけて建造されたと思われる建物礎石（凝灰岩切石列）を検出した。間口 3 間の建物であったと考えられる。東側では下層からやや幅の異なる礎石列が出土したので、さらに以前の建物があったものと思われる。それら上段と下段の礎石の間には瓦片漆喰壁片などが含まれるため、幾度か解体や盛土が行われているようである。

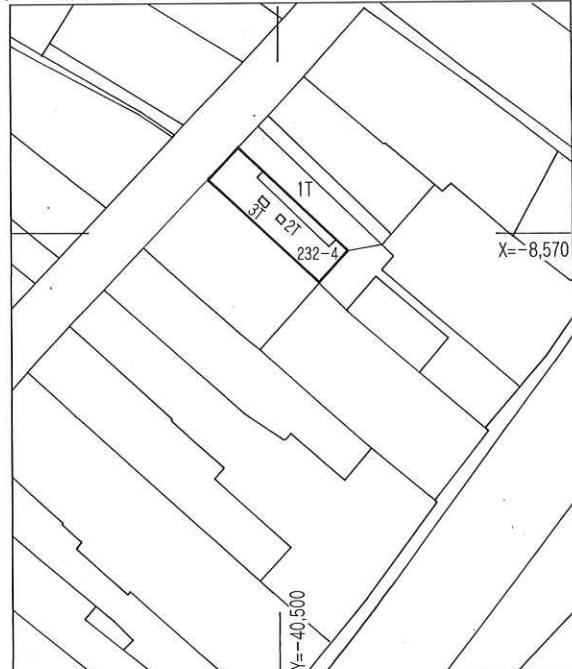
3 トレーナーは、約 2 m 下まで掘削をして土層の確認を行った。地表より約 40cm 下までには近世～近代の陶磁器が出土、約 70cm 下の層（IV 層）からは中世の遺物小片が 3 点出土したが、遺構は確認されていない。また、その下の層から遺構・遺物は確認されなかった。

調査後の措置は、基礎工事時の工事立会である。

なお、工事立会では遺構、遺物は確認されなかった。



第 119 図 高瀬本町通遺跡（B 地点）調査地位置図 S=1/5,000

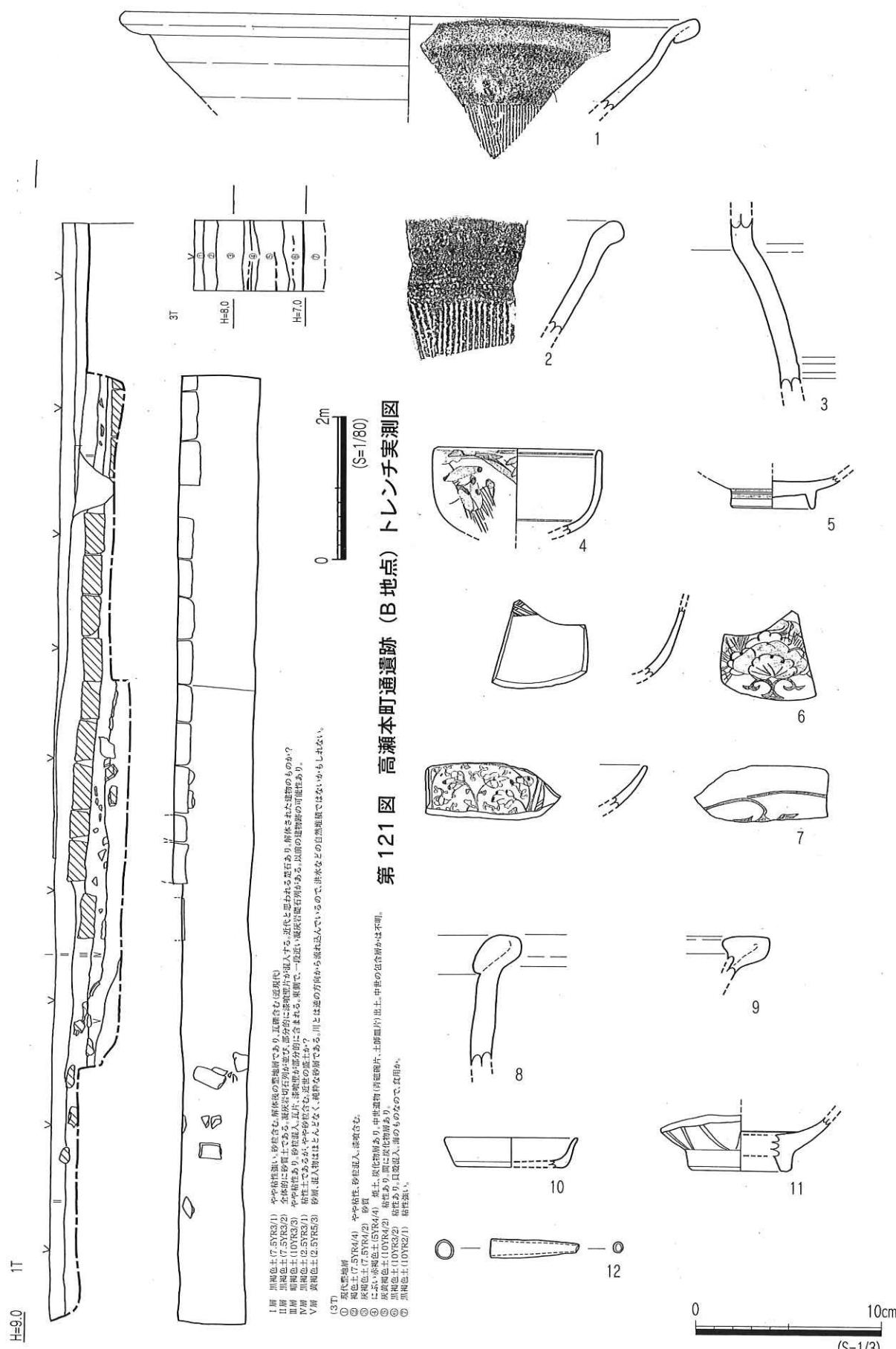


第 120 図 高瀬本町通遺跡（B 地点）調査地周辺地籍図・トレーナー配置図 S=1/1,000



高瀬本町通遺跡（B 地点）菊水堂跡地工事中東より

III 平成 16 年度の調査



第 122 図 高瀬本町通遺跡 (B 地点) 遺物実測図

6 中坂門田遺跡

所在 地：中坂門田字山伏 156-1, 156-3, 155

対象面積：215 m²

調査期間：平成 16 年 5 月 26 日

担当 者：末永 崇・蠶父雅史

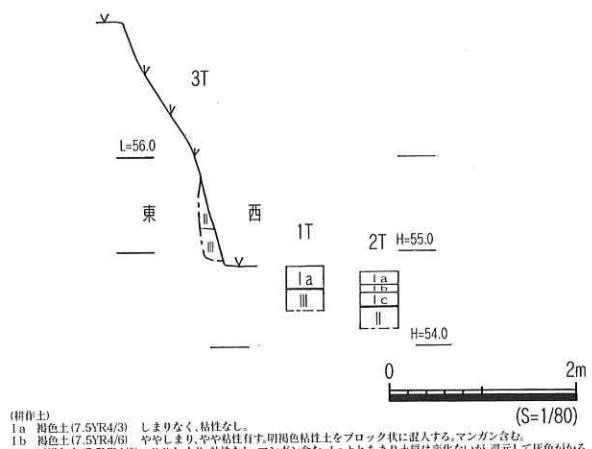
調査地は、菊池川左岸伊倉丘陵性台地上に位置する標高 57 m 程の地点である。周辺は、本来は西へ向けての傾斜地であったとみられるが、既に造成され畑として利用されている。

敷地内はほぼ平坦であり、東側隣接地とは 2 m ほどの高低差がある。土地所有者の話では、畑を切土し造成したとのことだった。

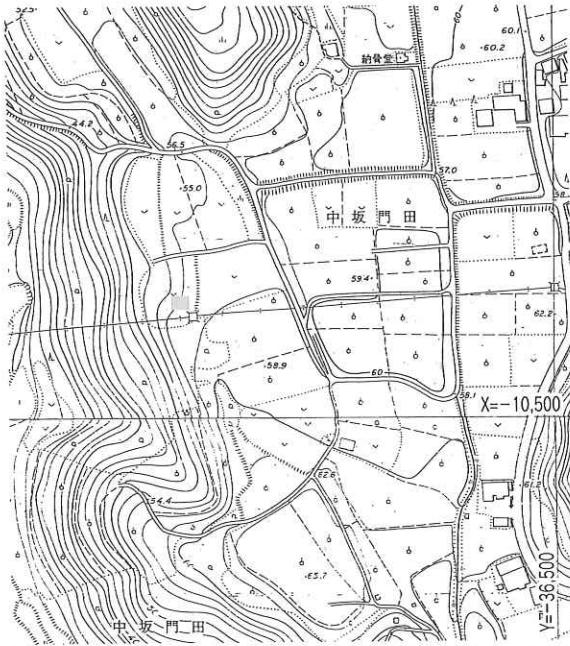
調査では、工事予定地に 3 カ所トレンチを設定し、人力で掘り下げて埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、I 層から III 層までを確認した。I 層は畑の耕作土で、中世の土器片を少量検出した。II 層及び III 層は、暗褐色から赤褐色を呈する層で、遺物は検出されず無遺物層と判断した。東側斜面に設定した 3 トレンチでの土層観察では、調査した敷地の II・III 層が少なくとも 1 m 以上削平されているのが確認され、II 層より上位は残存していないとみられる。よって、遺跡は過去の土地利用の過程すでに消滅していると判断される。

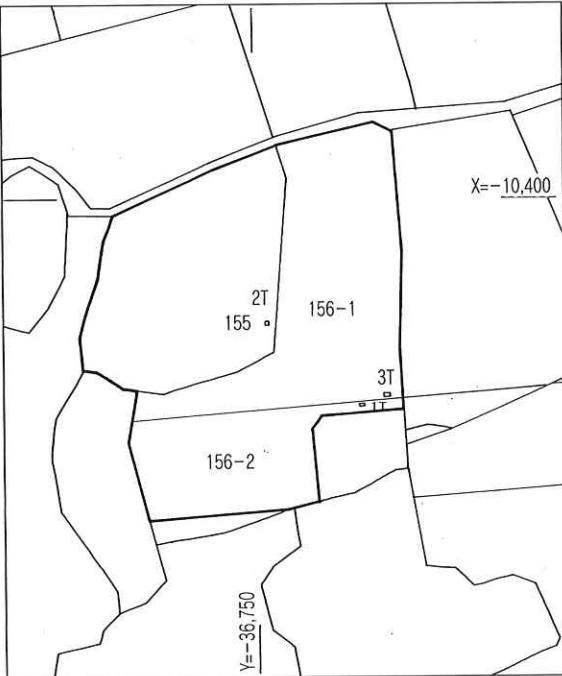
調査後の措置は、慎重工事である。



第 125 図 中坂門田遺跡土層図



第 123 図 中坂門田遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第 124 図 中坂門田遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



中坂門田遺跡調査前

III 平成 16 年度の調査

7 玉名平野条里跡（A 地点）

所在 地：両迫間字築樂 450 番 2 地先

～454 番 2 地先まで

対象面積：335 m²

調査期間：平成 16 年 5 月 27 日

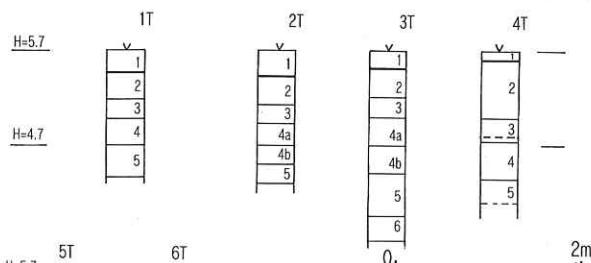
担 当 者：古閑敬士

調査地は、玉名平野の北西部に位置し、標高 5～6 m 程度の地点である。現況は市道寺町大坊線のうち長さ 50 m、幅 5 m 程度の未舗装道路であり、その周辺は水田となっている。また南側は玉名バイパスに接続している。

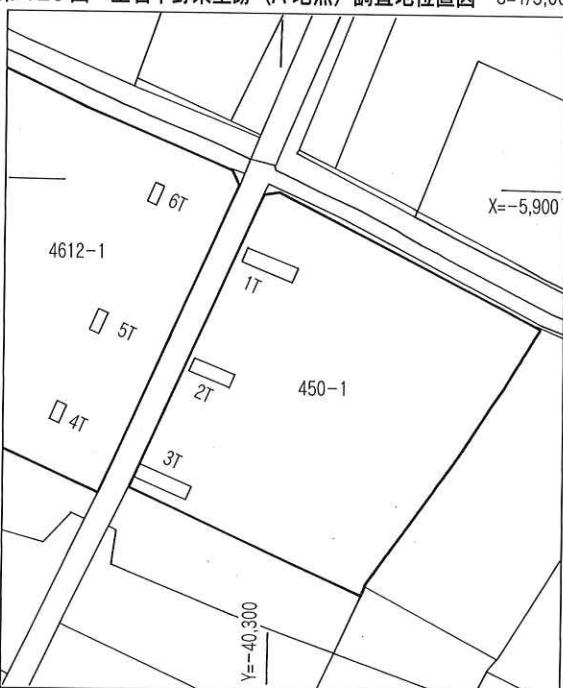
工事の内容は寺町大坊線の既存道路の拡幅と舗装である。寺町大坊線に関しては平成 8 年度、平成 9 年度、平成 10 年度に確認調査を実施しており、その結果は遺物・遺構等確認されていない。また、玉名バイパス建設に先立つ熊本県教育庁文化課による試掘調査においても、当該地付近では遺物包含層・遺構は確認されていない。

今回の工事予定地及び今後の拡幅予定地に、計 6 本のトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を調査した。

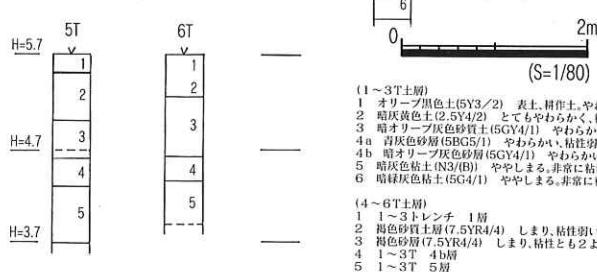
その結果、各トレンチとも 1.5m から 2m 下まで掘削を行ったが、トレンチ内において埋蔵文化財は確認できなかった。今後の措置は、慎重工事である。



第 126 図 玉名平野条里跡（A 地点）調査地位置図 S=1/5,000



第 127 図 玉名平野条里跡（A 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



- (1～3T 土層)
 1 オリーブ黒色土(5Y3/2) 表土、耕作土、やわらかく、粘性あり。
 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2) とてもやわらかく、粘性あり、粗い砂粒を大量に含む。
 3 暗オリーブ灰色砂質土(5GY4/1) やわらかく、粘性あり、下位にマンガゴ(褐色 '7.5YR4/6')鉄分の沈着が見られる。
 4a 青灰色砂層(5BG5/1) やわらかい、粘性弱、1mm 大の砂砾、水にじみ出でくる、くずれやすい。
 4b 明オリーブ灰色砂層(5GY4/1) やわらかい、粘性弱、2mm 大の砂砾、水にじみ出でくるうえ、妙の粒子が大きいため、大変くずれやすい。
 5 暗灰黑色粘土(N3(B)) ややしる、非常に粘性が強い、むずかに細かい砂粒を含む。
 6 暗綠灰色粘土(5G4/1) ややしる。非常に粘性が強い、ほとんど泥人物なし。

- (4～6T 土層)
 1～3T トレンチ 1 層
 2 暗褐色砂層(7.5YR4/4) しまり、粘性弱い、砂が主。
 3 暗褐色砂層(7.5YR4/4) しまり、粘性弱い、土などもほとんど含まない。(下位にはマンガン、鉄分が多く含む。
 4 1～3T 4b 層
 5 1～3T 5 層
 6 1～3T 6 層

第 128 図 玉名平野条里跡（A 地点）土層図



第 129 図 玉名平野条里跡（A 地点）遺物実測図

8 立願寺廃寺（B 地点）

所在 地：立願寺字塔ノ尾 1205-1

対象面積：307.5 m²

調査期間：平成 16 年 6 月 15 日

～平成 16 年 6 月 16 日

担当 者：古閑敬士

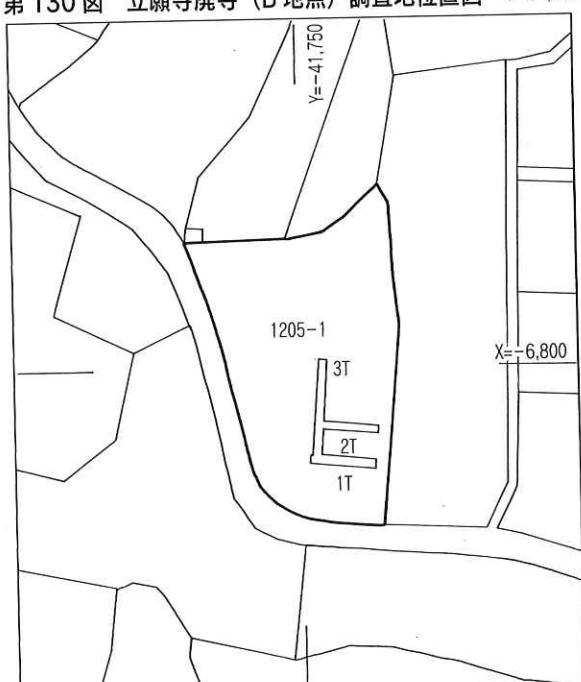
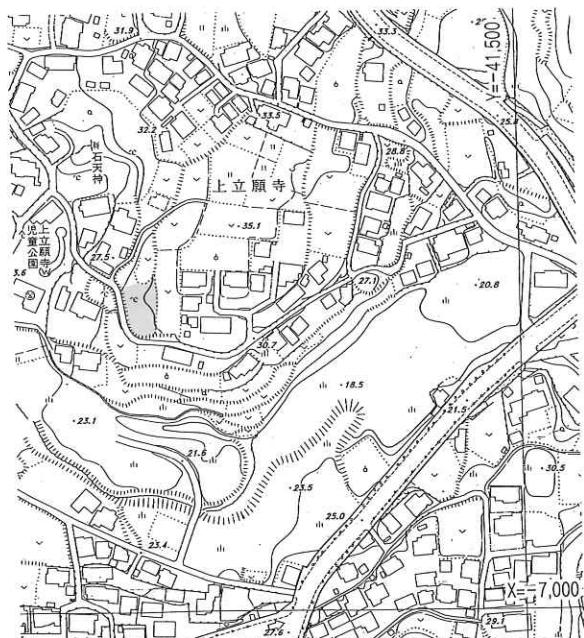
調査地は、小代山から南に延びる台地上に位置し、標高 33 m ほどの地点である。現況は畠地で、寺域と見られる範囲の南西端にあたる。

寺域の中心と見られる北側一帯は過去数回の発掘調査・確認調査が行われ、多量の瓦や建物の礎石などが出土している。

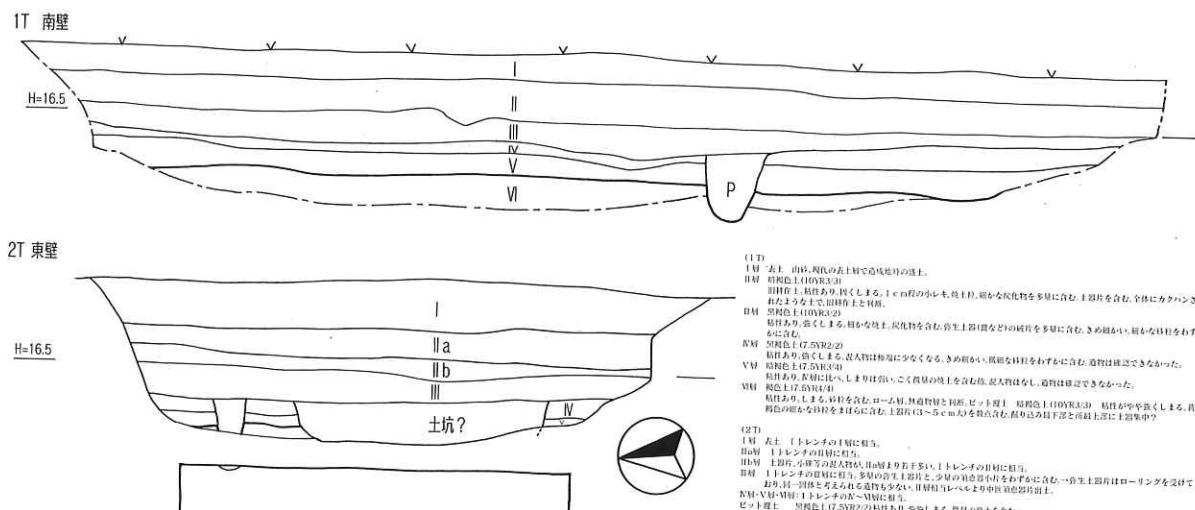
建物の 1 階は駐車場として道路面まで約 3 m を削平する計画のため、当該地の南側を中心に 3 本のトレーンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。なお、敷地南側は進入路として既に削られているため、トレーンチは設定していない。

その結果、1 トレーンチと 3 トレーンチ南側の III 層から須恵器が数点出土した。2 トレーンチ・3 トレーンチ北側では耕作土（II 層）の下はローム土の無遺物層と判断した。また遺構は確認できなかった。

調査後の措置は、工事立会である。

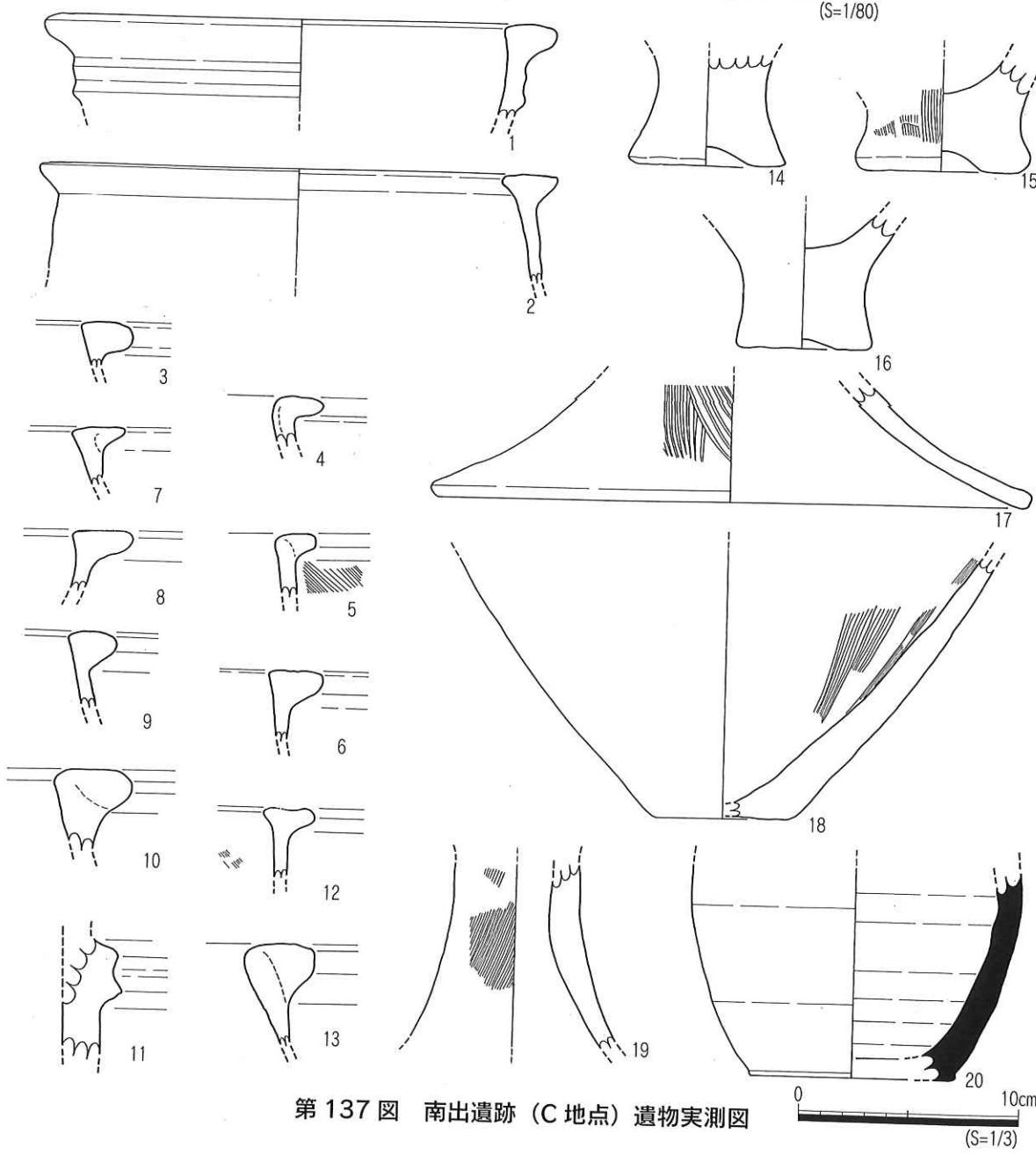


III 平成 16 年度の調査



第 136 図 南出遺跡 (C 地点) トレンチ実測図

0 2m
(S=1/80)



第 137 図 南出遺跡 (C 地点) 遺物実測図

0 10cm
(S=1/3)

10 伊倉古宮原遺跡

所在地：宮原字宮川

476-10,476-11,476-12,478-3

対象面積：784.32 m² (161.54 m²)

調査期間：平成 16 年 7 月 12 日

担当者：古閑敬士

調査地は菊池川左岸伊倉丘陵性台地上の、標高約 33 m の地点である。現況は畠地で弥生土器等の散布が見られる。隣接地では平成 13 年度に確認調査を行い、表土下 5 cm 前後で遺構を確認している。

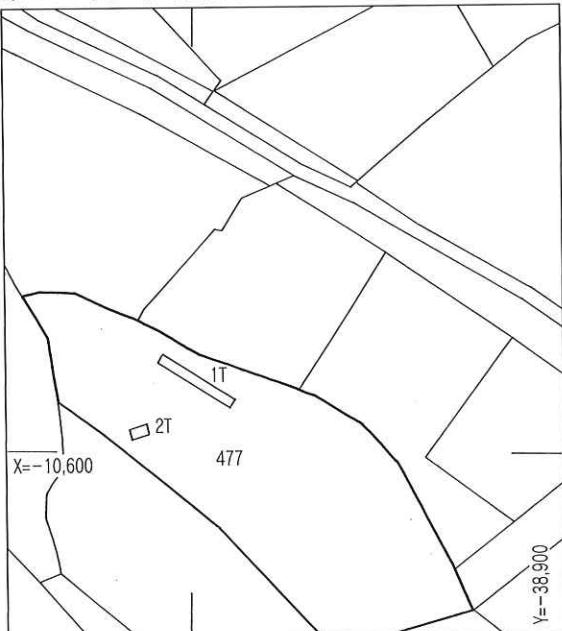
今回、建物予定地内に 2 本のトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、1 トレンチでは、厚さ約 60cm の客土（I 層）と約 40cm の旧耕作土（II a・II b 層）をはいだ時点で、III 層および IV 層を確認した。III 層は遺物包含層で、弥生時代中期の土器数点が出土した。IV 層はローム層であった。また、III・IV 層の平面での状況から、南へ傾斜している土地が削平されていることを確認した。2 トレンチでは約 1.7 m の深さで土坑 2 基を確認した。2 トレンチでも旧耕作土の直下に IV 層が堆積しており、1 トレンチ同様、削平を受けている。

調査後の措置は、慎重工事である。

その後、浄化槽工事の連絡を受けて工事立会を行ったが、1 トレンチの堆積状況と同様で、遺物は出土しなかった。



第 138 図 伊倉古宮原遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第 139 図 伊倉古宮原遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

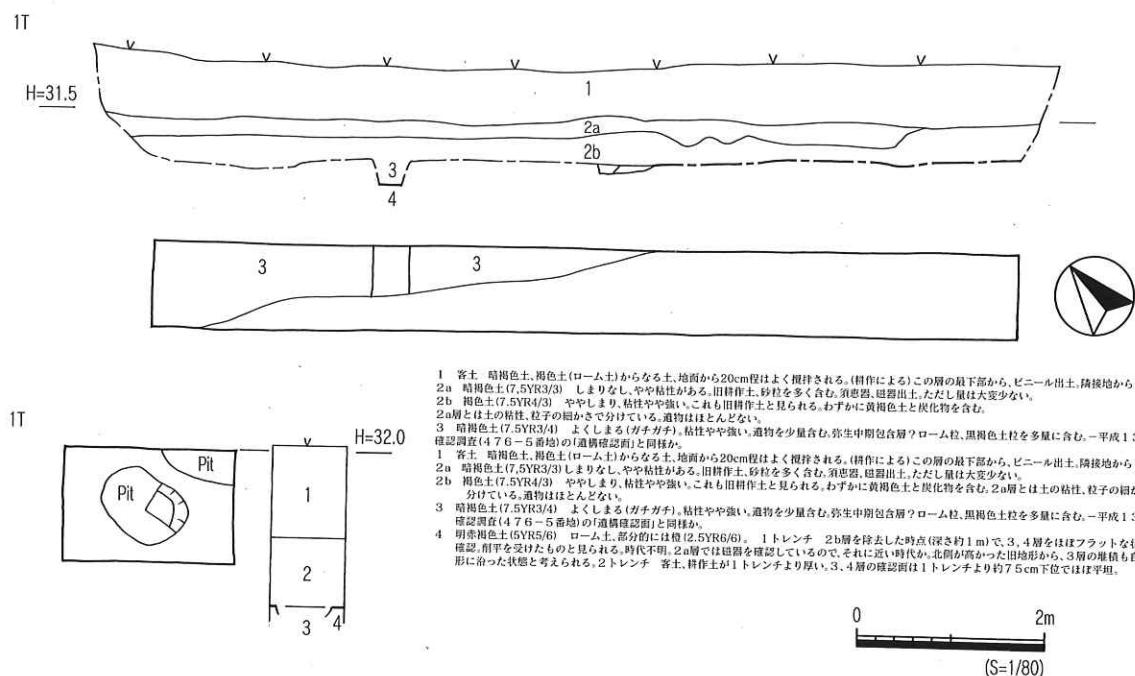


伊倉古宮原遺跡調査地（東から）

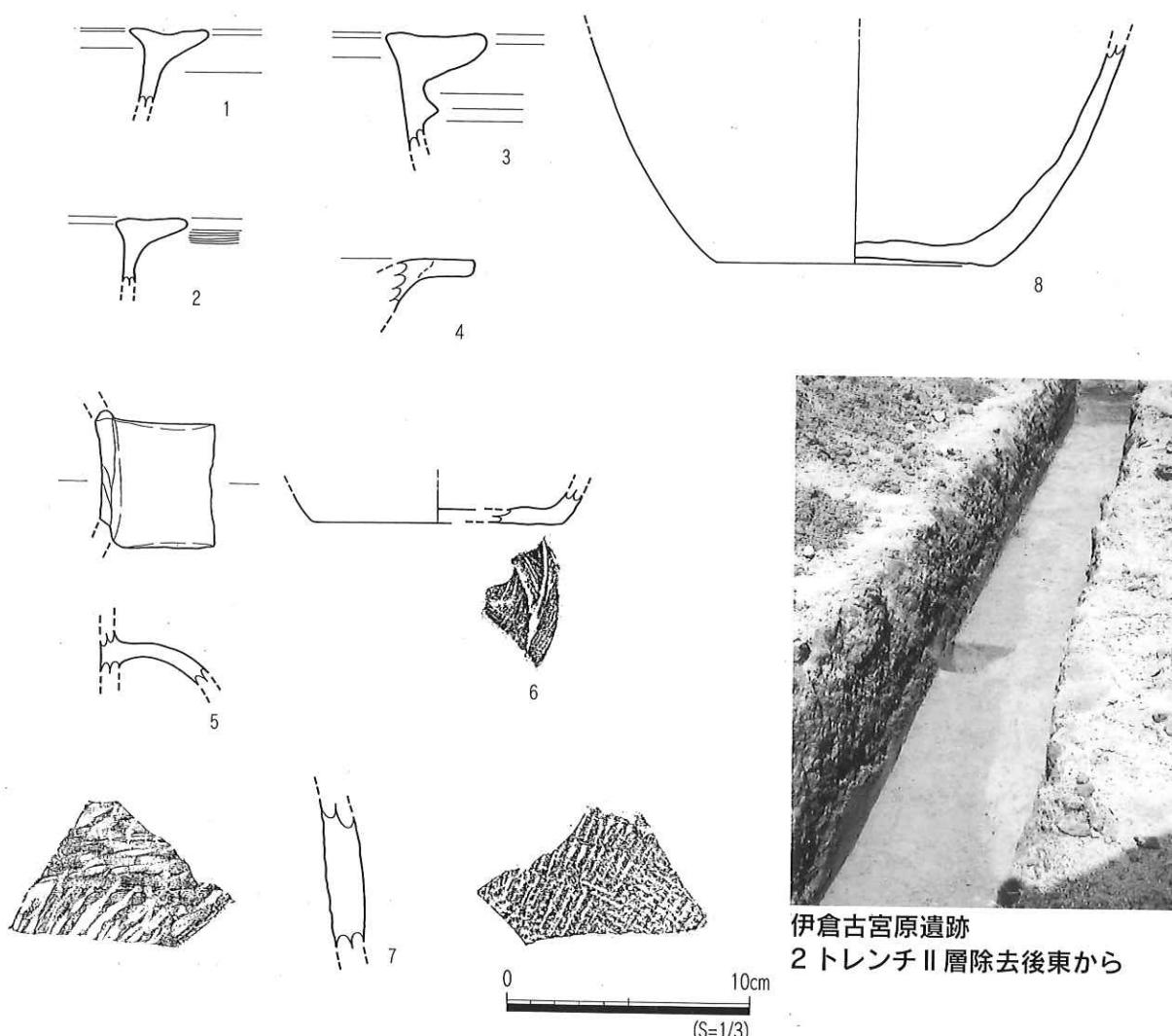


伊倉古宮原遺跡 1 トレンチ東より

III 平成 16 年度の調査



第 140 図 伊倉古宮原遺跡トレンチ実測図



第 141 図 伊倉古宮原遺跡遺物実測図

III 平成 16 年度の調査

11 名町遺跡

所在地：下字名町 273-1

対象面積：3802.76 m²

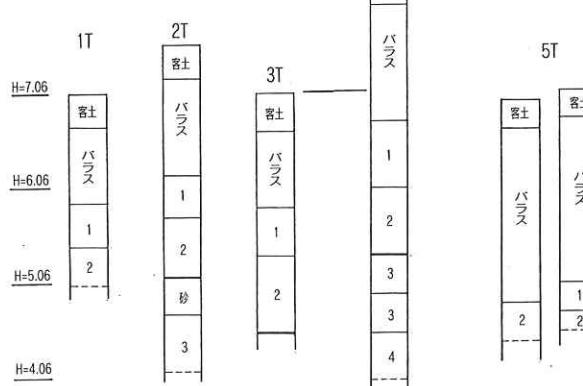
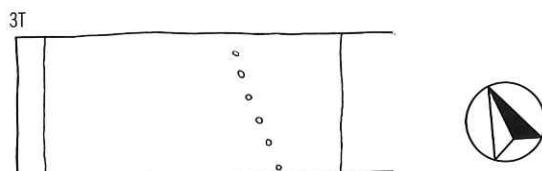
調査期間：平成 16 年 7 月 26 日～年 7 月 27 日

担当者：古閑敬士

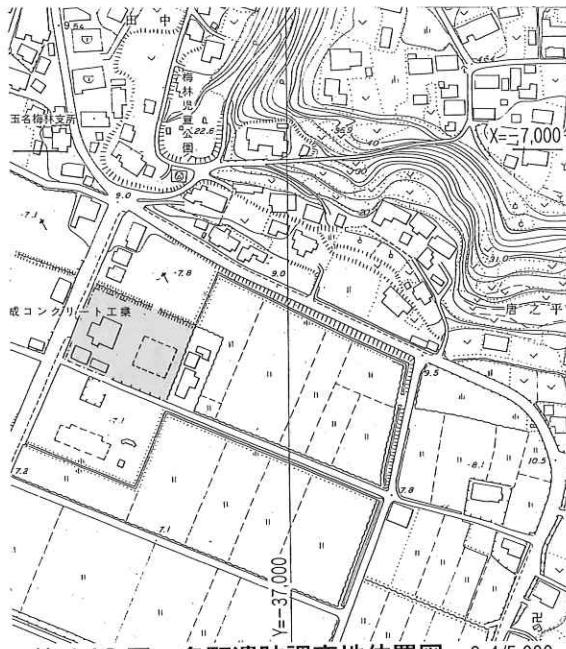
調査地は、菊池川左岸の平野部に位置する標高 7.8 m ほどの地点である。現況は工場で、以前の建物のコンクリート基礎や既存の建物があるため制約を受けたが、新設建物の基礎部分を中心に計 6 本のトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、表土以下は砂利等による客土層で、その下は氾濫などによる粘土層や砂層が堆積していた。3 トレンチでは、粘土層内で南北に並ぶ杭列を確認したが、5 トレンチの粘土 II 層では機械で加工された板が出土しており、この粘土層の堆積もかなり新しいものと考えられる。遺物は、粘土 II 層より土師器が 1 点だけ出土している。最大で地表下 4.3 m まで掘削を行ったが、他に明確な遺構・遺物は確認していない。

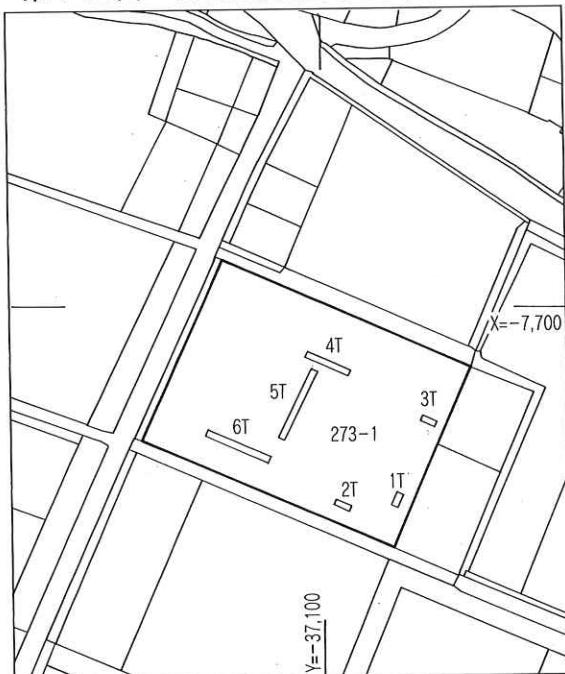
調査後の措置は、慎重工事である。



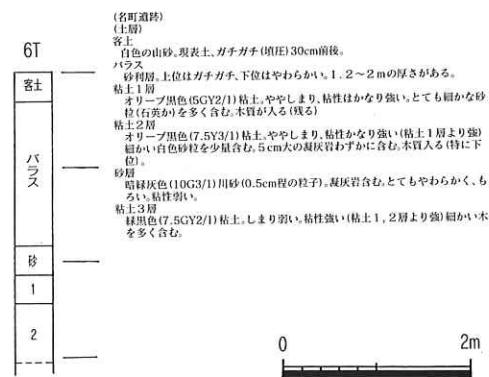
第 144 図 名町遺跡トレンチ実測図



第 142 図 名町遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第 143 図 名町遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000



(S=1/80)

III 平成 16 年度の調査

12 玉名平野条里跡 (B 地点)

所在 地：中字河原 1191-2, 1191-3, 1198

対象面積：2656.9 m²

調査期間：平成 16 年 8 月 23 日～8 月 25 日

担当 者：大倉千寿

調査地は、境川の西側に位置し、標高約 7 m 前後の地点に位置する。現況は資材置き場である。

平成 16 年 7 月 20 日に調査依頼が出されたのを受け、敷地内の掘削可能な場所に 5 本のトレーニングを設定し、確認調査を実施した。調査の結果、地表面から最大 2.2 m の深さまで掘削し、I～X 層を確認した。I・II 層は地表面から約 0.8m の深さまで表土及び現代の盛土層であった。III 層以下は粘質土層と砂層が交互に堆積しており、境川の氾濫原もしくは旧河道であったと考えられる。遺物は III 層から近・現代の陶磁器片がわずかに出土したのみである。他に明確な遺構や遺物包含層は確認できなかった。

なお、1191-3 番地は面積が狭小で、国道に面しているため掘削が行えなかった。

調査後の措置は、慎重工事である。

第 145 図 玉名平野条里跡 (B 地点) 調査地位置図 S=1/1,500

第 146 図 玉名平野条里跡 (B 地点) 調査地周辺地籍図・トレーニング配置図 S=1/1,000

I	表土・砂石
IIa	盛上・山砂
IIb	青灰色(5BG5/1) 砂層、下位にビニール等混入。
IIc	黒色(10Y2/1) 砂層、鐵物を多量に含む。燒成を受ける。
III	黒色(10Y2/1) 粘性あり、ややしまる。わじょうに細かな砂粒を多量に含む。(混砂粘質土層)。小レキ、貝殻片(じじみ等淡水貝)をまばらに含む。近・現代の陶磁器片をわずかに含む。
IV	オリーブ黑色(5Y3/2) わづかに粘性あり、しまり弱。0.5mm以下の砂粒を多量に含む。小レキ貝殻片をまばらに含む。(混砂粘質土層)
V	灰褐色(10Y4/2) 粘性あり、しまり弱。0.5mm以下の砂粒を多量に含む。IV 層より砂粒が多い。(砂質土層)
VI	オリーブ黑色(5Y3/2) 粘性あり、しまり弱。砂層、砂粒の大きさは 0.5mm以下。(砂層)
VII	灰褐色(10Y4/2) 粘性あり、しまり弱。砂層、砂粒の大きさは 0.5mm以下。(砂層)
VIII	黄褐色(10Y5/6) 粘性あり、しまる。微化鉄、細かな砂粒を多量に含む。(粘土層)マンガン含まない。道筋なし。
IX	青灰色(10Y5/1) 粘性が強く感じる。非常に細かな砂粒を少量含む。抗と考えられる加工痕のある本片をわずかに含む。(粘土層)
X	灰色(10Y5/1) 粘性、しまり弱。砂層、砂粒の大きさは 0.5mm以下。(砂層)

* IIb 層は 2T のみ確認。
IIc 層は 3～5T で確認。

第 147 図 玉名平野条里跡 (B 地点) 土層図

- 100 -

13 下立願寺遺跡

所在地：立願寺字東段 656-1 他 14 筆

対象面積：16876.93 m² (7140.76 m²)

調査期間：平成 16 年 9 月 3 日

担当者：古閑敬士・荒木隆宏

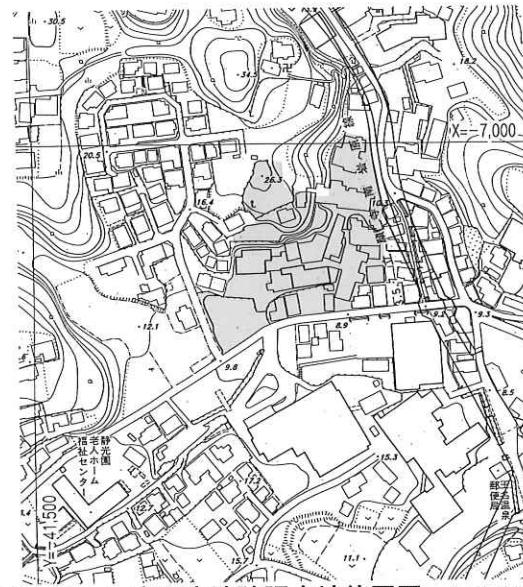
調査地は、小代山から南に延びる丘陵の南側裾部に位置し、標高 10 ~ 20 m 程の地点である。周辺は南側への傾斜地であったとみられるが、大部分が温泉旅館建造の際に造成されており、既に地形は大きく改変されている。

建物予定地の背後の崖面で土層を観察したところ、上部からローム土が露出していた。届出地の南・東側の平坦地は過去の温泉旅館等による土地の造成で遺構等が既に削り取られていると考えられる。このため、遺構の存在の可能性がある標高 25 m 前後の平坦部分について、造成工事範囲内にトレンチを 2 本設定した。また、周辺の状況を把握するため今回造成は行われない開発区域内にも 1 本のトレンチを設定し、調査を実施した。

調査の結果、1・2 トレンチ北側では 2 m 近い盛土が確認され、その下位は順次旧表土とローム土の堆積であった。3 トレンチ東側では 1・2 トレンチと同様の堆積状況で、西側では削平を受けており、表土直下はローム土であった。いずれのトレンチにおいても遺構・遺物は確認できなかった。

地形図と各トレンチの土層堆積などから、調査を行った平坦部分について、2 トレンチから 1 トレンチの周辺までは厚い盛土、3 トレンチでは、丘陵頂部の削平と東側への急激な傾斜となる旧地形を把握できた。なお、今回は 1 トレンチより北側については造成予定地外であるため、埋蔵文化財の状況は確認していない。

調査後の措置は、慎重工事である。



III 平成 16 年度の調査



下立願寺遺跡調査前（西から）



下立願寺遺跡調査風景

第 150 図 下立願寺遺跡レンチ実測図

14 高岡原遺跡（B 地点）

所在地：山田字高岡 2050 番 1

対象面積：1007 m² (146.2 m²)

調査期間：平成 16 年 11 月 24 日～11 月 26 日

担当者：大倉千寿

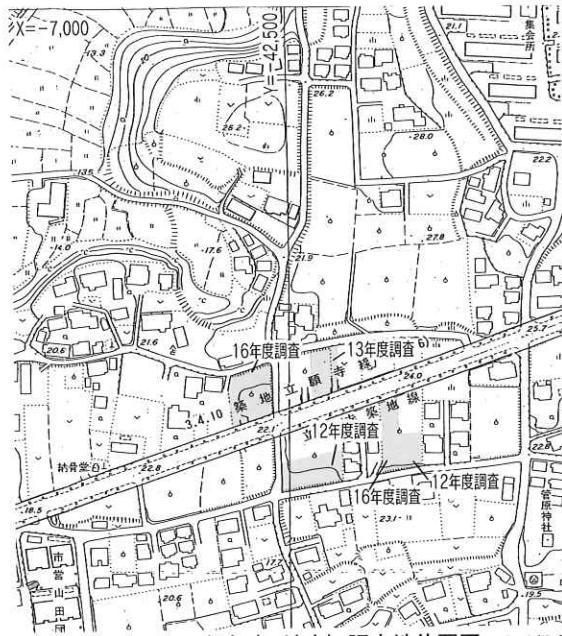
調査地は、境川の東側丘陵上に位置し、標高約 23 m の地点にあたる。現状は畠地である。周辺は、近年数カ所の確認調査が行われている。また、南側に隣接する都市計画街路築地立願寺線では、平成 5 年に発掘調査が行われ、弥生時代、中世の遺構が確認されている。

今回、届出地内に 6 本のトレントを設定し、埋蔵文化財の確認調査を実施した。その結果、I～V 層を確認した。I・II 層は表土及び旧耕作土であった。III 層は弥生の遺物包含層で、IV 層では遺物を確認していないが、縄文時代の堆積層であると考えられる。IV 層まで耕作等による搅乱を受けており、III 層は部分的に残るのみであった。V 層はローム層である。遺構の状況は、調査地南側は II 層直下でピット、小穴、溝状遺構等を確認しており、III 層上面からの掘り込みであったと考えられる。周辺の調査状況から、中世の遺構であると判断した。IV 层上面は弥生の遺構検出面で、住居跡、ピット、土坑等を確認している。北側は V 層まで搅乱が及んでいるため、遺構は既に消滅していると判断した。

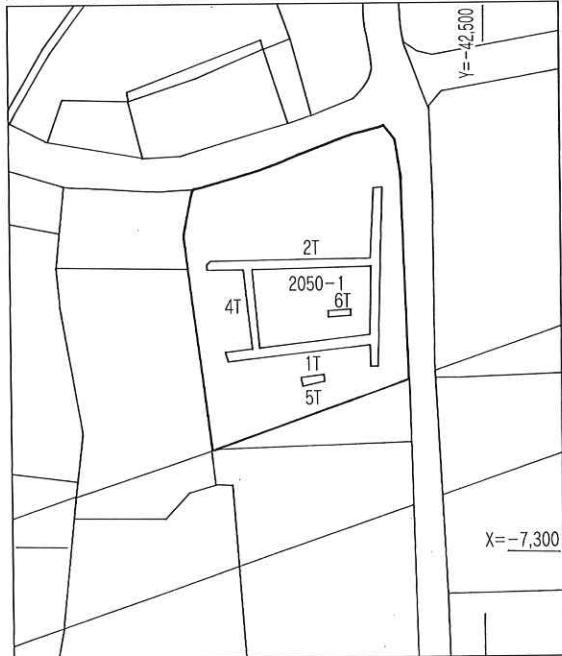
調査後の措置は、平成 17 年度に発掘調査を行うことになった。



高岡原遺跡（B 地点）2 トレント西から



第 151 図 高岡原遺跡（B 地点）調査地位置図 S=1/5,000

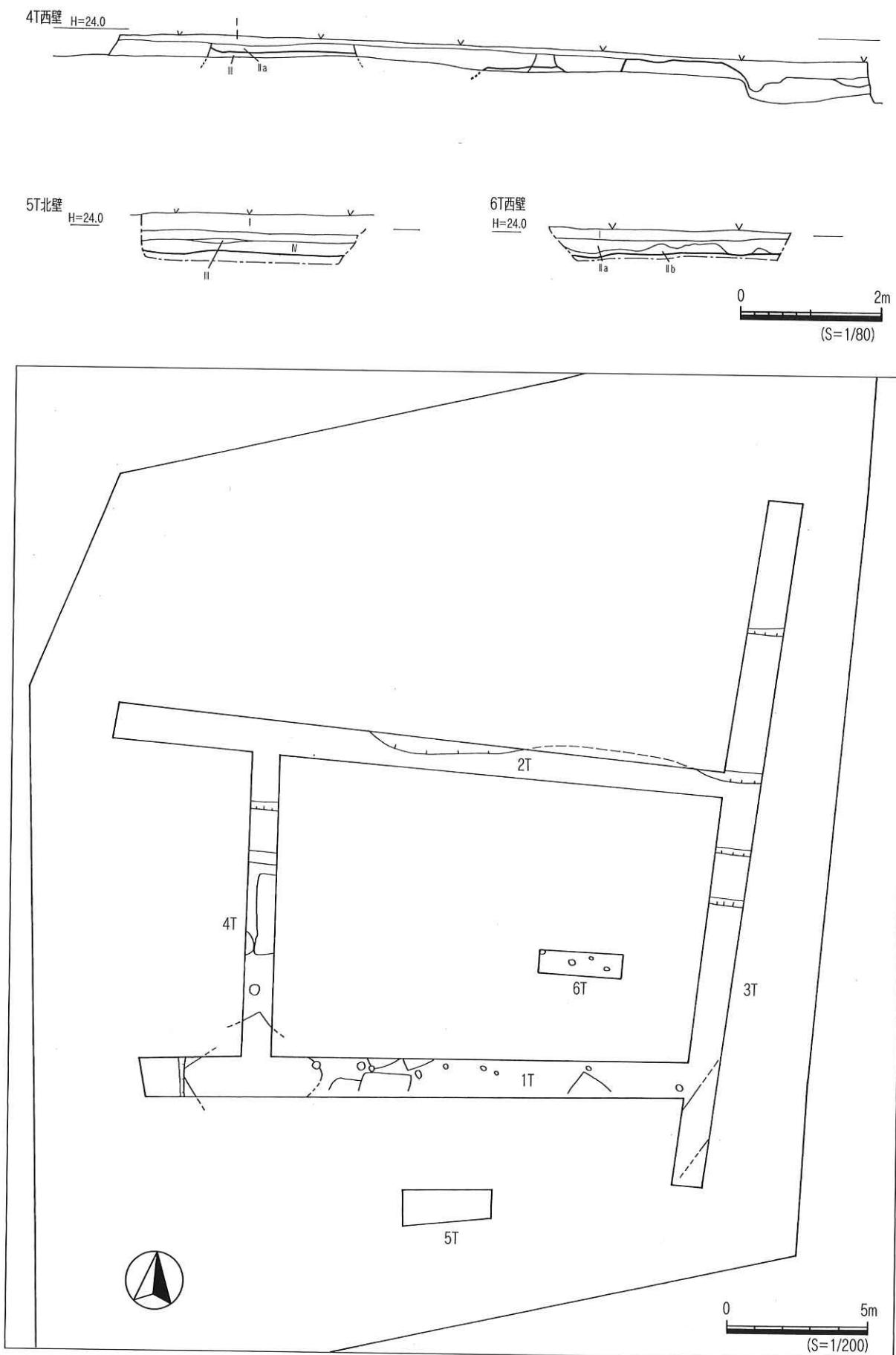


第 152 図 高岡原遺跡（B 地点）調査地周辺地籍図・トレント配置図 S=1/1,000



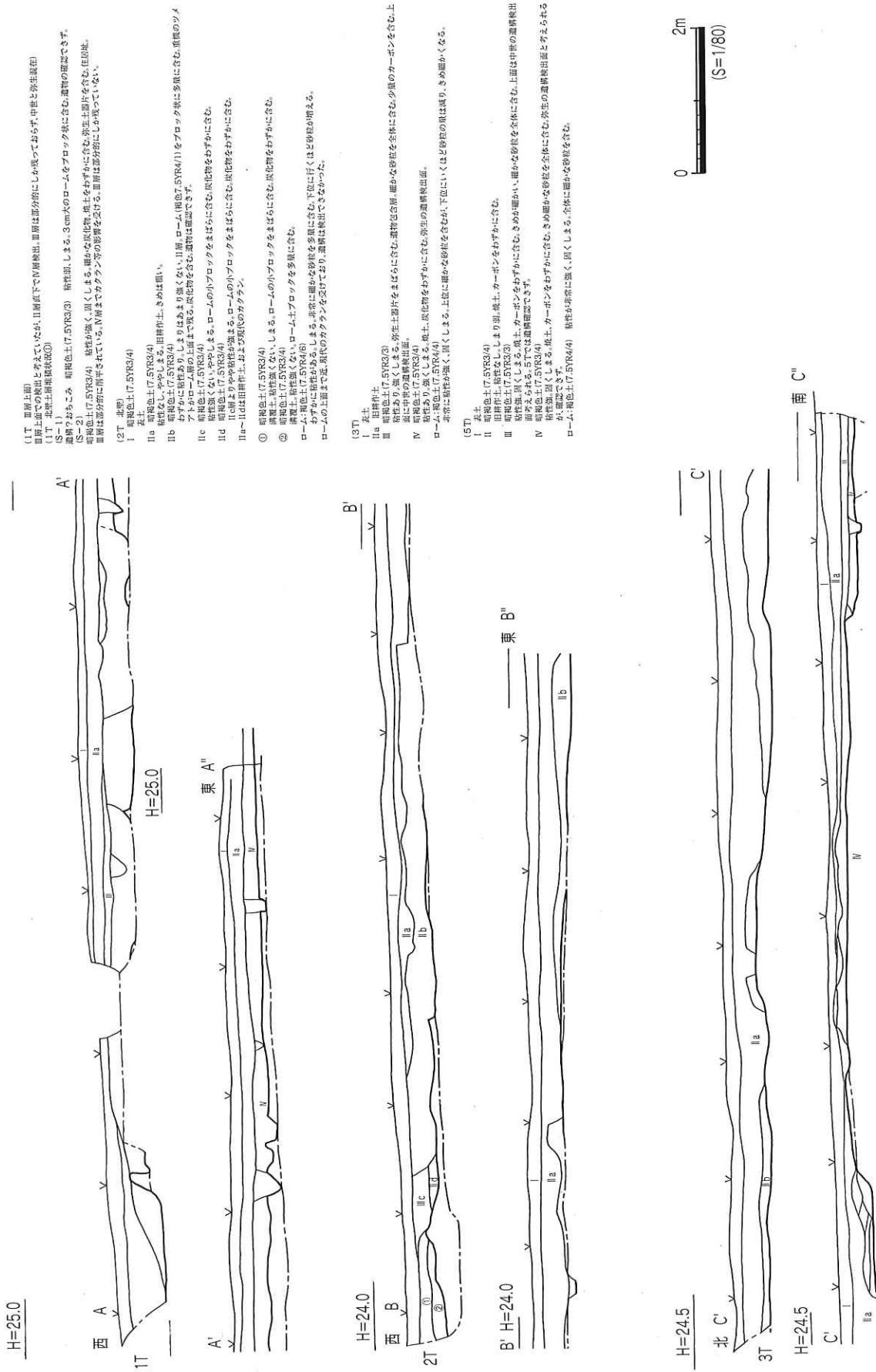
高岡原遺跡（B 地点）1 トレント III, IV 层上面検出状況西から

III 平成 16 年度の調査



第 153 図 高岡原遺跡 (B 地点) トレンチ実測図①

III 平成 16 年度の調査



第 154 図 高岡原遺跡 (B 地点) トレンチ実測図②

III 平成 16 年度の調査

15 與内迫遺跡

(1) 調査に至る経緯

玉名市伊倉北方字與内迫 1249-1 において、敷地全体を掘下げる農地造成工事が計画された。当地を含む一帯は遺跡範囲には含まれていないが、同じ台地上は弥生時代の甕棺墓などが確認されていることから、平成 16 年 1 月 21 日に試掘調査依頼の届出がなされた。これを受け玉名市教育委員会で平成 16 年 2 月 12 日から 3 月 17 日にかけて確認調査を実施した。

その結果、調査地中央部より南側半分には弥生時代の住居跡など、埋蔵文化財の存在が確認された。そのため事業主と協議を行い、埋蔵文化財に影響を及ぼさない範囲で掘下げを行うこととなった。また、平成 16 年 5 月 27 日に與内迫遺跡の遺跡地図変更がなされた。

しかし、平成 16 年 11 月 17 日に事業主より再度全面掘削の相談があり、18 日付で事業主より文化財保護法第 57 条の 2 による届出がなされ、19 日に新に確認調査を行った。その結果、本調査を 12 月 20 日から 24 日まで実施した。

(2) 調査体制

発掘調査（平成 16 年度）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 森 義臣

調査総括 教育次長 久多見澄夫

社会教育課長 西田道也

調査事務 文化係長 竹田宏司

主事 清田静香

調査担当 埋蔵文化財調査員 蠶父雅史

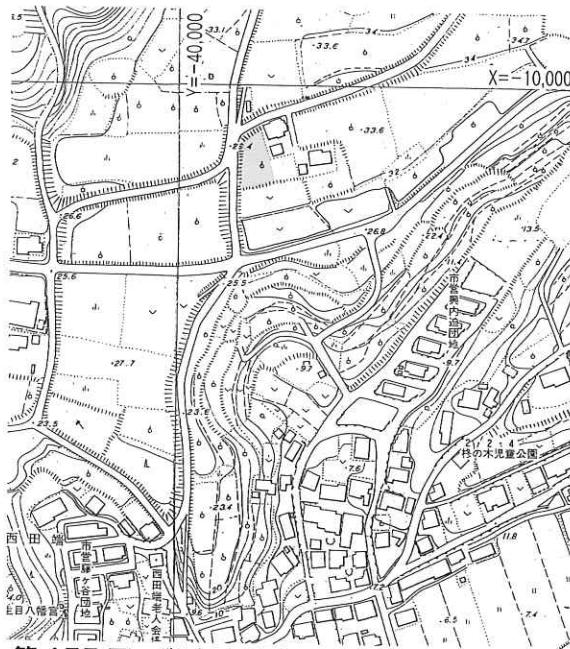
（平成 15 年度確認調査、本調査）

技師 末永 崇（本調査）

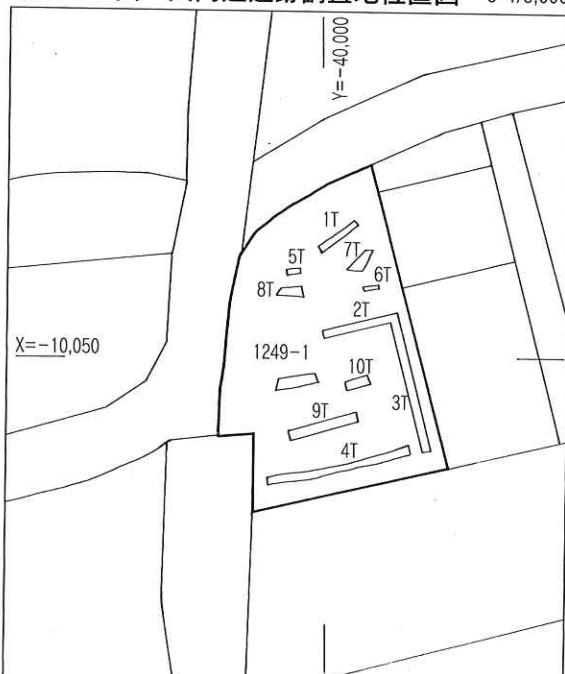
発掘作業員 古賀武子 平野輝代

整理作業（平成 16 年度）

調査主体 玉名市教育委員会



第 155 図 與内迫遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第 156 図 與内迫遺跡調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S=1/1,000

調査責任 教育長 森 義臣

調査総括 教育次長 久多見澄夫

社会教育課長 西田道也

調査事務 文化係長 竹田宏司

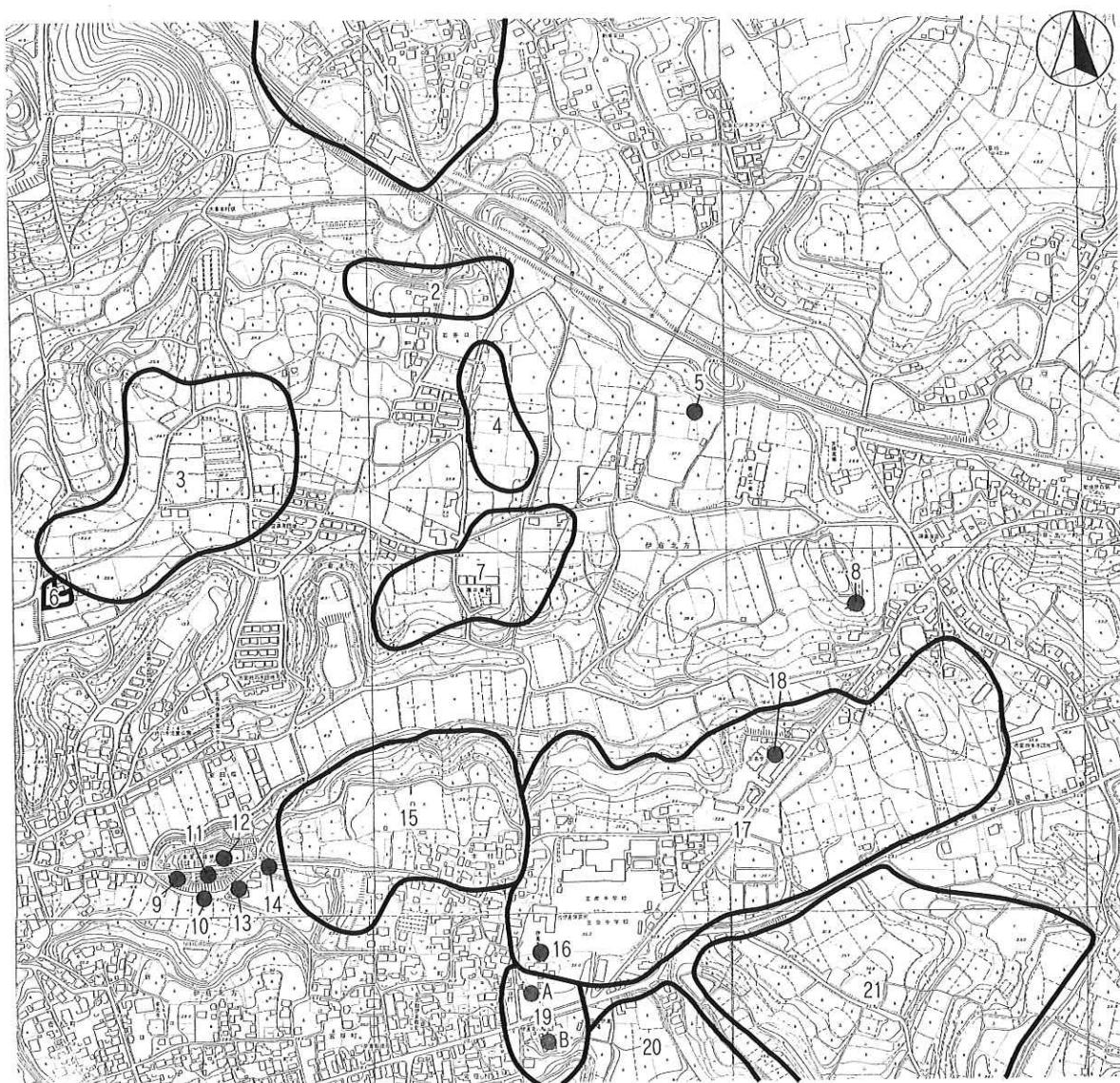
主事 清田静香

報告書担当 主任 兵谷有利

埋蔵文化財調査員 蠶父雅史

整理作業員 坂崎郷子 五野富美子

III 平成 16 年度の調査



第 157 図 與内迫遺跡周辺遺跡分布図 S=1/10,000

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1 立山遺跡 | 13 本堂山古塔碑群 |
| 2 岩井口横穴 | 14 本村屋敷古塔碑群 |
| 3 銅遺跡 | 15 本村遺跡 |
| 4 名称不明 | 16 伊倉八幡古墳 |
| 5 垣塚古墳 | 17 伊倉宮の後遺跡 |
| 6 與内迫遺跡 | 18 伊倉宮の後甕棺群 |
| 7 名称不明 | 19 伊倉八幡宮境内遺跡 |
| 8 伊倉犬塚古墳 | 20 伊倉宮川遺跡 |
| 9 振倉謝公墳 | 21 伊倉古宮原遺跡 |
| 10 中尾山報恩寺跡 | A 伊倉北八幡宮 |
| 11 大宮司宇佐一族の墓・石碑 | B 伊倉南八幡宮 |
| 12 補陀落渡海碑 | |

III 平成16年度の調査

早川イツエ 古賀武子 平野輝代

(3) 遺跡の概要

調査地は、菊池川左岸の伊倉丘陵性台地上に位置する、標高約33mの地点である。周辺には同丘陵の西側に位置する中北遺跡がある。中北遺跡は弥生中期の甕棺墓群や後期の住居跡や溝、土坑、中世の溝状遺構が確認されている。甕棺は6基確認されており、その内、3基が須玖式の合口大型棺、1基が在地系（黒髪式）の合口中型棺、1基は在地系甕棺すでに削平を受けたもので、もう1基は石蓋の单棺であった。副葬品は出土していないが4号甕棺には人骨が残存していた。主軸は東西方向であった。住居跡は4基並んだ状態で出土し、その内の1軒からは大量の弥生土器が出土している。

また、調査地の西側には古伊倉屋敷、南側には伊倉の町筋があり中世や近世には菊池川水運で港町として栄えた町であり、遺跡の多い地域である。

(4) 確認調査

平成16年2月の確認調査は敷地内の4箇所にトレンチを設定した。また、平成16年11月19日の確認調査ではさらに7箇所のトレンチを設置し、重機及び人力で掘下げを行い、埋蔵文化財の状況を確認した。調査ではI～V層までを確認した。各層の内容は以下のとおりである。

I層 黒褐色土 (7.5YR 2/ 2)

しまり、粘性有す。焼土・炭化物を少量含む。明褐色土を粒状に含む。搅乱層。ローリングを受けた土器片をわずかに含む。

II層 黒褐色土 (7.5YR3/ 2)

しまり、粘性有す。焼土・炭化物を少量含む。明褐色土を粒状に多量に含む。搅乱層。ローリングを受けた土器片をわずかに含む。

III層 黒褐色土 (7.5YR 3/1)

しまり、余り粘性を有しない。明褐色土を粒状に少量含む。

IV層 暗褐色土と暗褐色土の混合土 (7.5YR 3/ 3)

しまり、粘性有す。わずかに炭化物を含む。

V層 黒褐色土と暗褐色土の混合土

しまり、粘性有す。暗褐色土の割合がやや4層より多い。ローム土。

(5) 調査の経緯及び方法

確認調査で調査地南東部と中央部西側に住居跡が確認され、調査地北側には遺跡が存在しないことが確認された。よって、届出地の南側半分を全面調査することになった。

I～III層目までは重機による掘削を行い、III層目からは人力による掘削を行い、IV層上面で遺構検出を行った。遺構はそれぞれ番号を付けて掘下げた。

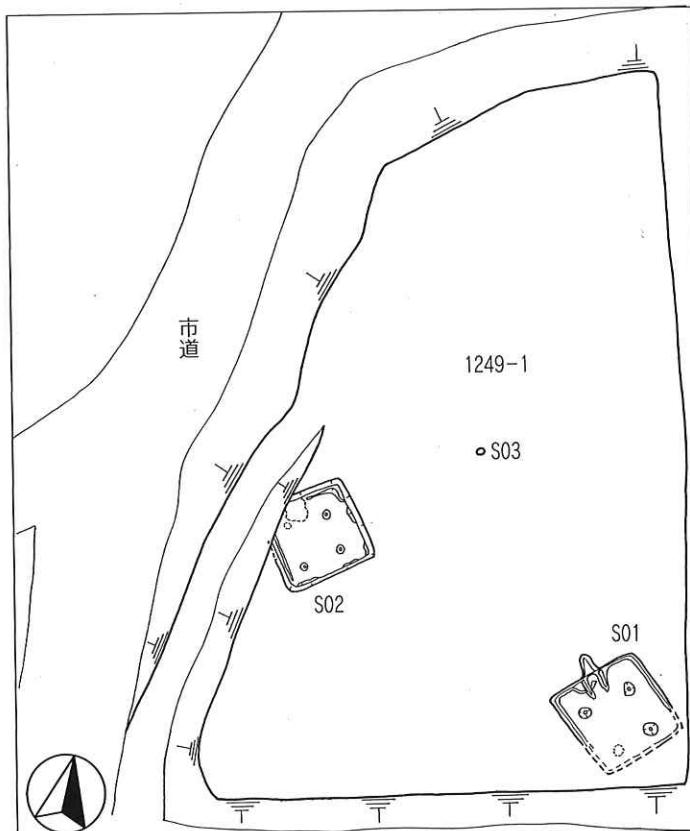
各遺構の実測は、住居跡1/20スケール、土層断面1/20スケールで行った。調査時の写真撮影は、35mmのカラーリバーサル及びモノクロフィルムで行った。

(6) 遺構と遺物

1号住居跡 (S-O 1)

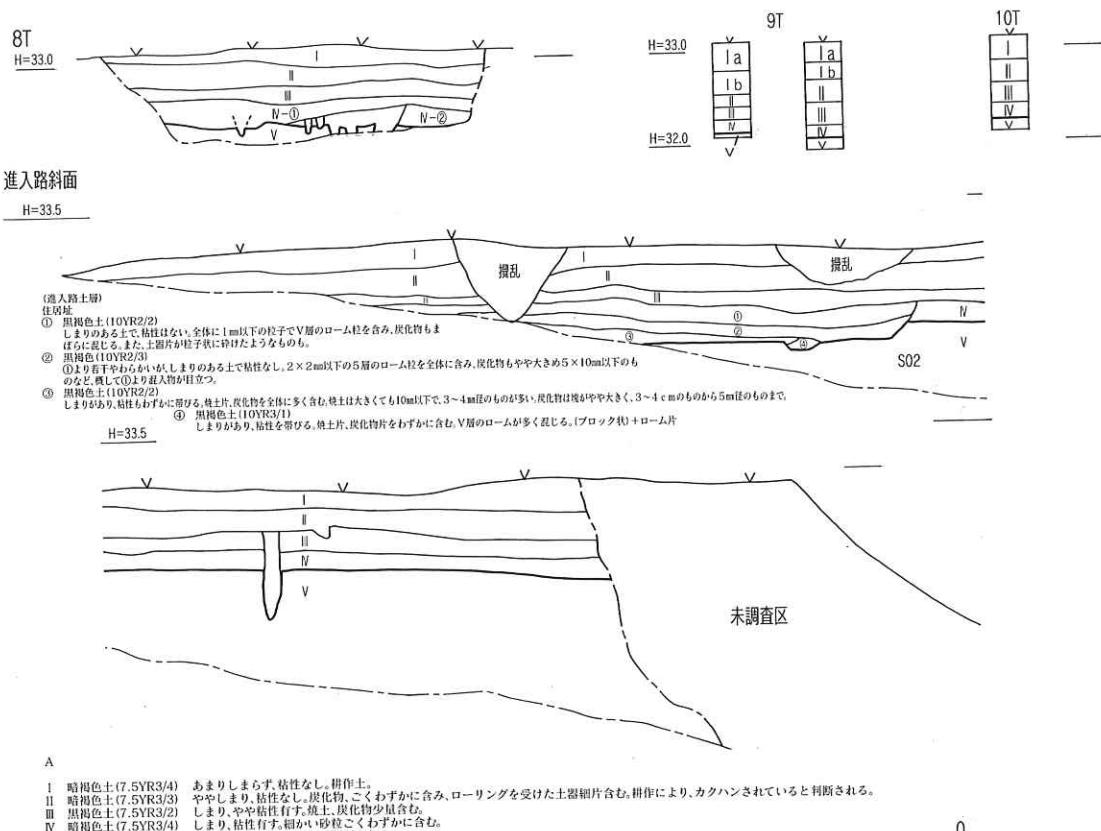
調査区の北東部端において、IV層上面で検出した。平面形は正方形を呈し、東西5.5m×南北約5.5mで床面は検出面から30cmを測り、3cmほどの張床が施されている。床面でピットを3基確認しており、4本柱の住居と考えられる。住居の北壁面に煙道付カマドが設置されており、カマドの掘方の左部分には壺の口縁部から胴部までの個体が逆さまに置かれていた。遺物は土師器、石器、須恵器などが少量出土している。

III 平成 16 年度の調査



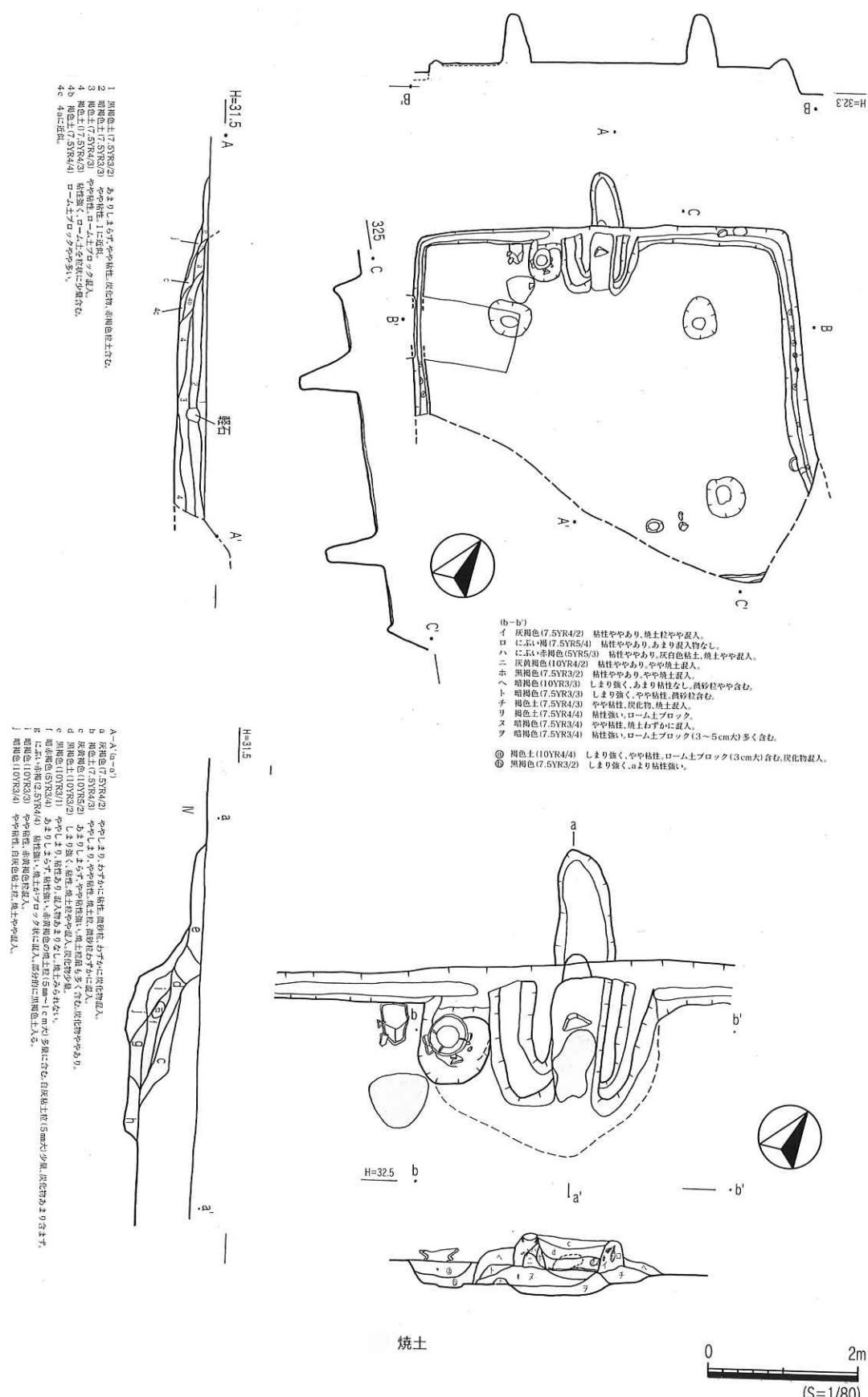
第 158 図 與内迫遺跡遺構配置図

0 20m
(S=1/400)



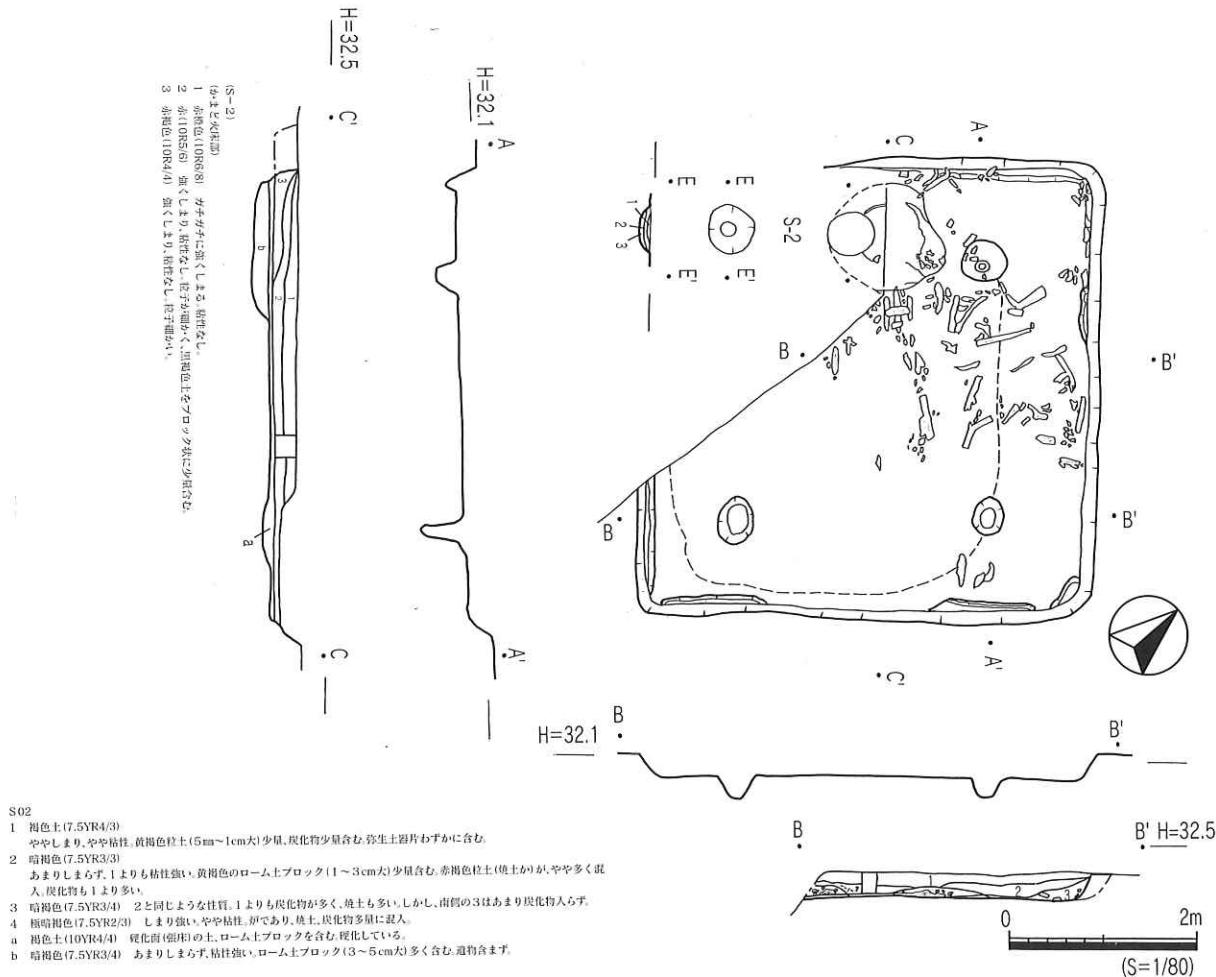
第 159 図 與内迫遺跡土層断面図

III 平成 16 年度の調査

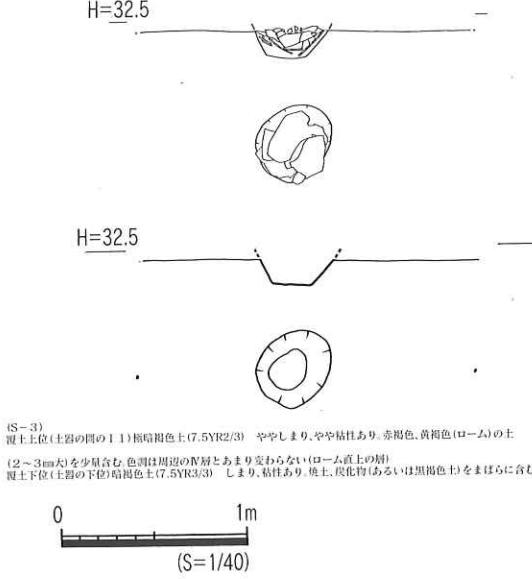


第 160 図 與内迫遺跡 S01 実測図

III 平成 16 年度の調査



第 161 図 與内迫遺跡 S02 実測図



第 162 図 與内迫遺跡 S03 実測図



III 平成 16 年度の調査

2号住居跡 (S-O2)

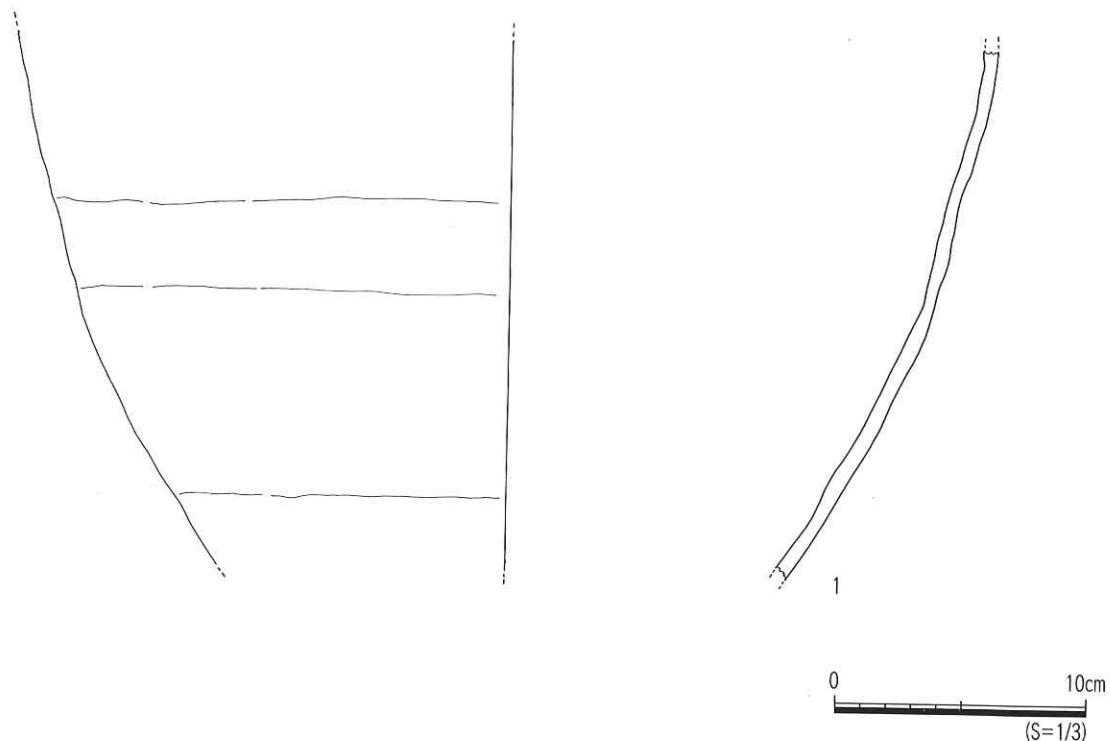
調査区の西側（入口付近）において、IV層上面で検出した。平面形は正方形を呈し、南北4.9m×東西4.8mで床面は検出面から30cmを測り、2~4cmの張床が施されている。住居床面には火災のため炭状になった建材が無数確認された。床面にはピットを3基確認しており、4本柱の住居と考えられる。残り1本は入口部分のコンクリートが施された下に存在するものと思われる。住居の北壁に接してカマドが設置されていたが、入口取り付けの際に掘削されており焼土の硬化面のみ確認できる。また、南側壁の中央部には張床の下面より東西1.6m×南北1.5mの土坑が確認され、場所的に住居の入口に関係する土坑と考えられる。遺物は土師器などが出土している。

1号埋設土器

調査区中央部において、V層上面で検出した。一部表土剥ぎの段階で遺構上面を掘削しそぎたが、平面形は直径0.5mの円形を呈した土坑に埋設された縄文土器の深鉢を確認した。

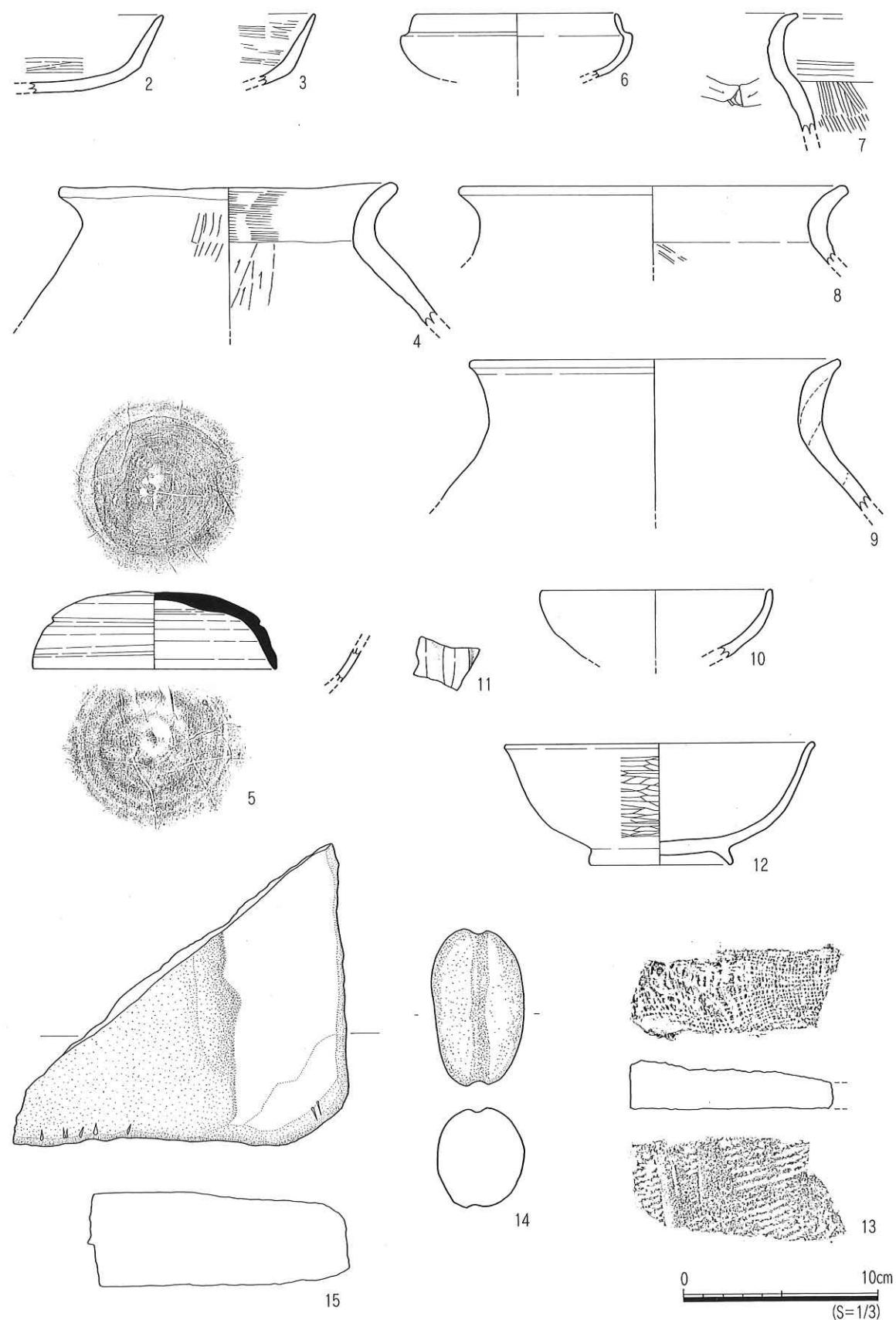
(7) まとめ

調査地のすぐ西側に存在する中北遺跡は弥生時代後期の住居跡や甕棺群が存在する遺跡で、今回の調査でも同時期の遺跡が検出されることが予測されていた。しかし、今回の発掘調査で出土遺物より古墳時代中期と思われる住居跡が確認された。玉名でのカマドを設置した住居跡の出土は例が少なく、古墳時代の住居跡研究にとって重要な資料となった。調査地周辺の古墳時代の遺跡については今後の検討課題としたい。



第163図 與内迫遺跡遺物実測図①

III 平成 16 年度の調査



第 164 図 與内迫遺跡遺物実測図②

16 中ん城遺跡

所在 地：片諏訪字中ノ城 24-1,23-1,17

対象面積：1,570 m²

調査期間：平成 17 年 1 月 24 日～2 月 28 日

担当 者：末永 崇・齋父雅史

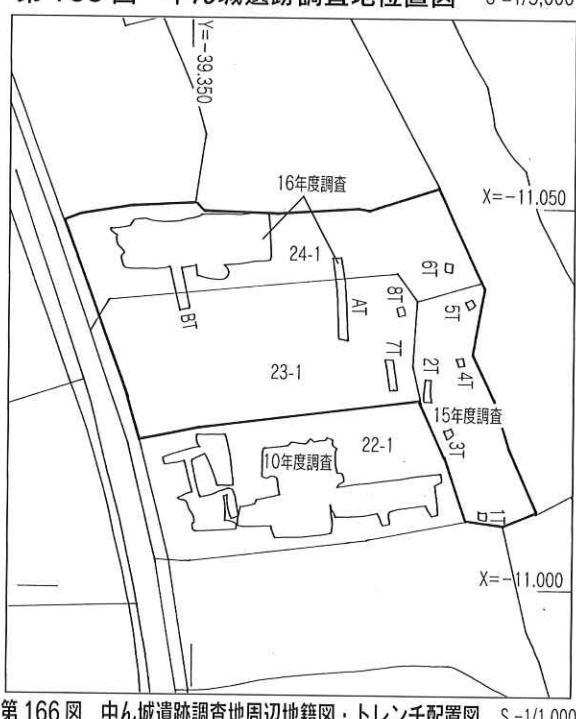
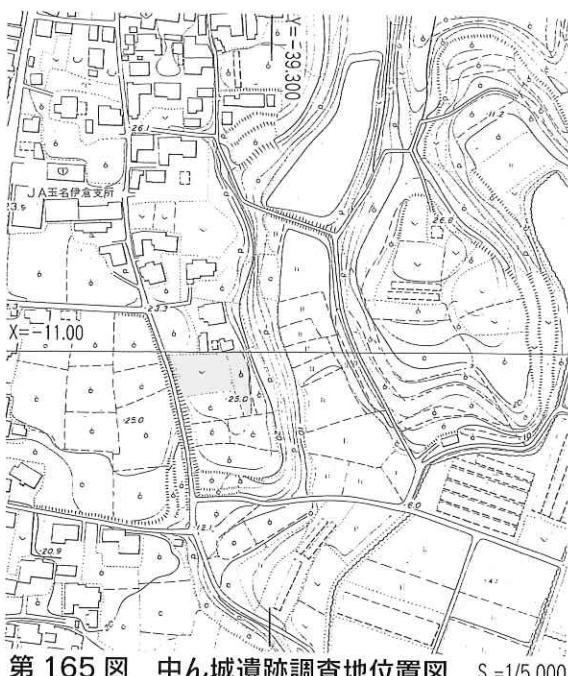
1 調査に至る経緯

玉名市片諏訪字中ノ城 24-1,23-1,17において、土地を切り下げる専用住宅建設工事が計画された。しかし当地を含む周辺は、中世の城館跡として周知されているため、平成 16 年 2 月 10 日、有限会社南建設から確認調査依頼が提出された。これを受け玉名市教育委員会では、平成 16 年 3 月 9 日から 10 日にかけて確認調査を行い、埋蔵文化財の状況を確認した。（平成 15 年度の調査 P64）その結果、工事が埋蔵文化財に対して影響を与えることが明らかになったため、保存のための協議を行い、工事内容を変更して掘削する面積を減らし、埋蔵文化財を可能な限り保存できるよう協力を得ることができた。しかし、工事で破壊が免れない敷地への進入路部分のみは発掘調査を行い記録保存することとなった。

平成 15 年度の確認調査では、敷地西側に隣接する道路部分の調査（平成 13～14 年度市道改良工事に伴う発掘調査）の結果から埋蔵文化財が存在することは明らかであったため、敷地東側を中心にトレンチ（第 87 図 1 T～8 T）を設定して調査を行った。その結果、工事対象地のうち、24-1 番地と 23-1 番地の全域に渡って埋蔵文化財が存在し、1 m ほど段落ちした東側の 17 番地についても、敷地北側の 4～6 T において遺物包含層又は遺構とみられる層位が確認された。

2 調査の方法

今回の調査区の、西側道路部分の調査や、南側敷地の調査（平成 10 年度）では、中世と古



0 5cm
(S=1/2)
S -01 出土古銭

墳時代の遺構が検出されており、最低2面の遺構検出面の存在が予想された。さらに遺構密度も高く、遺構の切り合いも複雑であると想定された。したがって、層位と遺構との関係などを十分把握して調査を進めていくため、重機による表土剥ぎ後、調査対象範囲を2m×2mのグリッド(G)で分割し、南北3G、東西10Gを配置した。そして西側から順に番号を付けて1G～30Gとした。人力による掘り下げはグリッド単位とし、市松模様に互い違いに掘り下げるこことを基本とした。グリッドごとの掘削で、遺構を確認した場合はそのグリッドの掘削は中止し、隣接するグリッドも含めてサブトレンチを入れるなどして遺構の全体や切り合いの把握に努めた。その確認された層位は以下のとおり。

I層 表土

耕作により搅乱されている。土器細片を含む。

II層 暗褐色土 (7.5YR3/4)

締まりがあり、粘性有す。上面で中世の遺構が検出される。

III層 褐色土 (7.5YR3/3)

締まりがあり、粘性有す。

この中で、II層以下は無遺物層と判断される。II層は本来まだ上位が存在したとみられるが、耕作等で削平されている。II～III層にかけては次第に色調が明るくなる。遺構はII層上面で検出できたが、検出が困難な部分はII層下位又はIII層上面まで掘り下げて検出した部分もある。検出した遺構は、柱穴や小穴はP、それ以外はSの通し番号を付けて掘り下げた。

掘り下げ後、遺構の写真撮影は35mmのモノクロ、リバーサル、カラーネガフィルムで行い、敷地全体の写真撮影は6×7のモノクロ及びリバーサルフィルムで行った。遺構の実測は1/20スケールで行い、一部1/10スケールでも行った。

調査において、溝状遺構のS-2が検出された

ため、その規模を確認するために事業敷地内の東側にAトレンチ、調査対象範囲から南側にBトレンチを設定し、掘削して調査した。(第169図)

3 遺構と遺物

S-1 (第173図)

6G、9Gにて検出した。北側は削平され失われている。平面形は方形を呈するとみられ、南北1.5m以上、東西約2.6m、深さ約95cmを測る。覆土下位には炭化物が集中しており、底面の中央には特に集中する長方形の部分がみられた。また、底面の壁面に沿って10カ所のピットが検出された。

S-2 (第171図)

調査区南側で検出した。東西に延びる溝状の遺構で、幅6.3m以上、検出面からの深さ約1.3m、東西13m以上を測る。S-4に切られ、S-3,S-5を切る。南側の大部分は調査範囲外であったため、Bトレンチを掘削して部分的に幅を確認した。東側は調査範囲外に延びる。西側は次第に浅くなっている、さらに西側の市道改良工事に伴う発掘調査では、延長上には溝状遺構は確認されていない。

S-3 (第172図)

10Gを中心に検出した。平面形は方形を呈するとみられ、南北2.2m以上、東西3.2m、深さ約1.7mを測る。南側はS-2に切られる。遺構の南東側は、S-2に切られた別の遺構が存在した可能性があるが確認できなかった。

S-4 (第172図)

16G,19Gで検出した。平面形は方形を呈し南北約2.5m、東西約2.35m、深さ約90cmを測る。S-2を切るが、当初は切り合いに気付かずS-2の掘り下げ中に検出した。覆土下位から多量の凝灰岩片が出土した。

S-5 (第171図)

4Gで検出した。平面形は長方形を呈するとみ

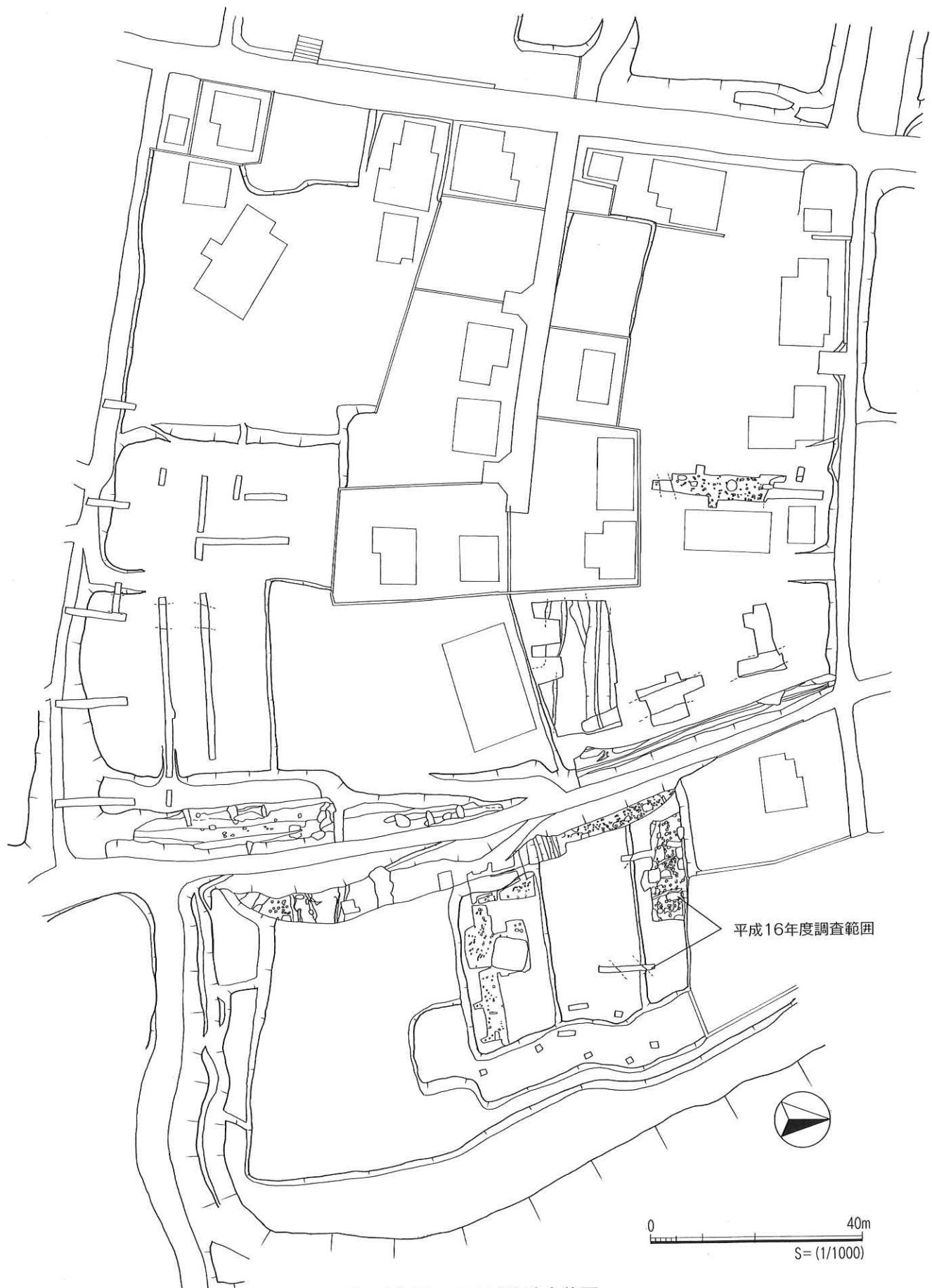
III 平成 16 年度の調査



第 167 図 中ん城遺跡周辺遺跡分布図 S=1/10,000

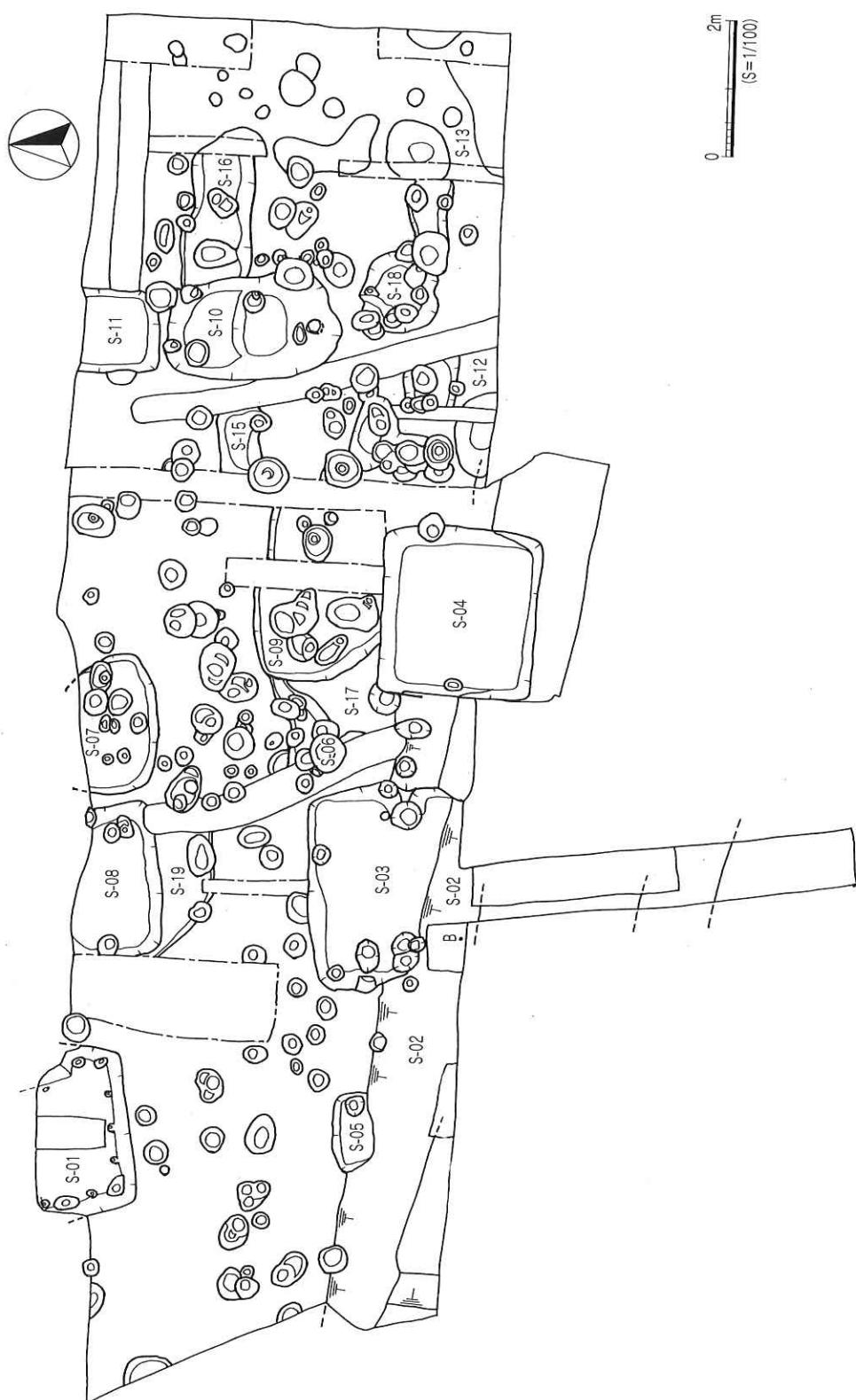
- | | | |
|-------------|-------------|----------------|
| 1 伊倉八幡古墳 | 12 伊倉宮原町遺跡 | 23 伊倉南八幡宮社古塔碑群 |
| 2 伊倉八幡宮境内遺跡 | 13 名称不明 | 24 名称不明 |
| 3 伊倉宮川遺跡 | 14 屋敷古塔碑群 | 25 名称不明 |
| 4 神宮寺跡 | 15 肥後四位官の墓 | 26 名称不明 |
| 5 伊倉古宮原遺跡 | 16 鍛冶屋町製鉄跡 | 27 片諏訪貝塚 |
| 6 桜井川製鉄跡 | 17 西屋敷六地蔵塔 | 28 片諏訪遺跡 |
| 7 唐人町貝塚 | 18 印鑰神社古墳 | 29 清国父恵助の墓 |
| 8 桜井山安住寺跡 | 19 宮原土井の内遺跡 | 30 野部田遺跡 |
| 9 伊倉丹倍津跡 | 20 伊倉城跡古碑 | A 伊倉北八幡宮 |
| 10 唐人町遺跡 | 21 中ん城跡 | B 伊倉南八幡宮 |
| 11 鍛冶屋町遺跡 | 22 禮社遺跡 | |

III 平成 16 年度の調査



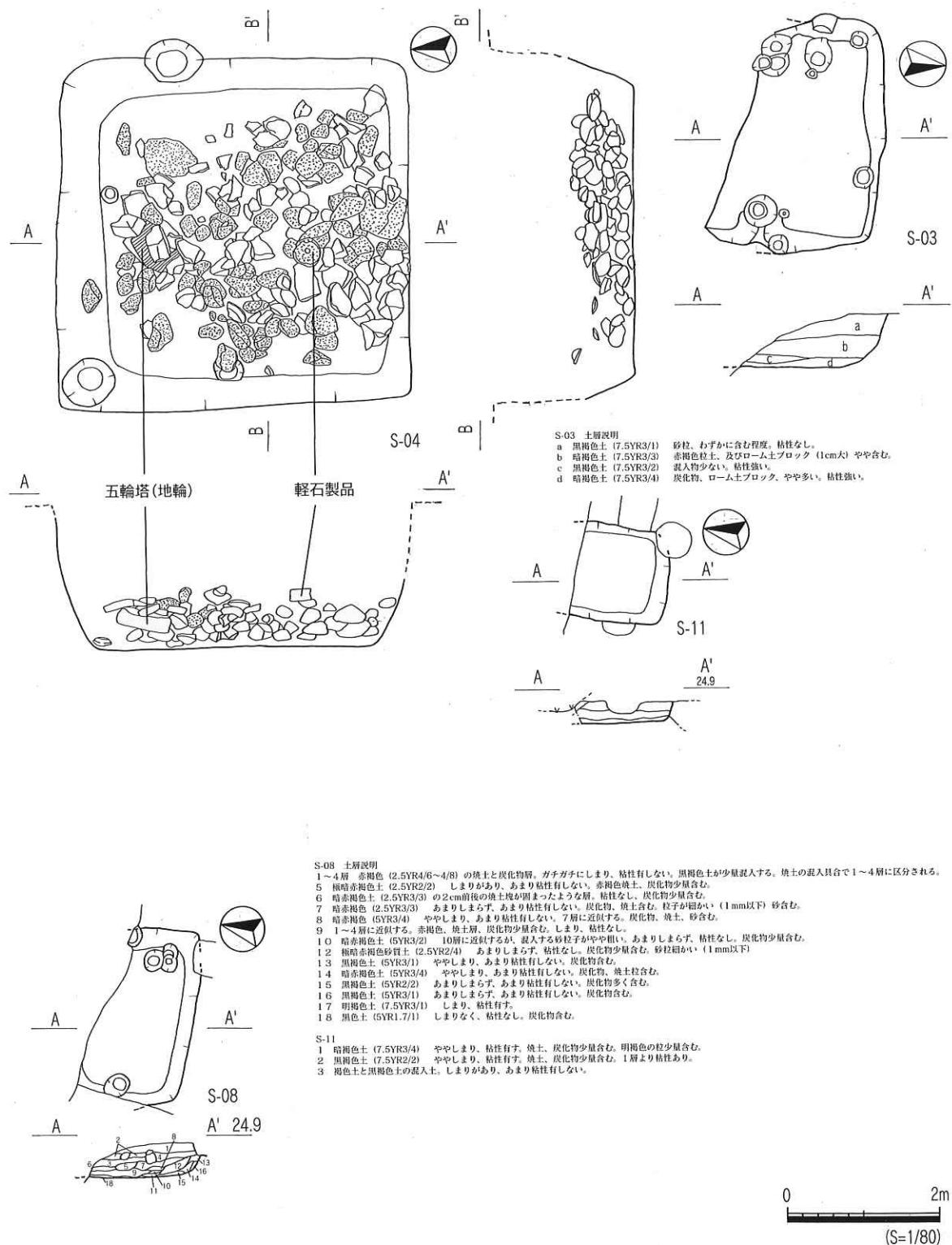
第 168 図 中ん城遺跡全体図

III 平成 16 年度の調査



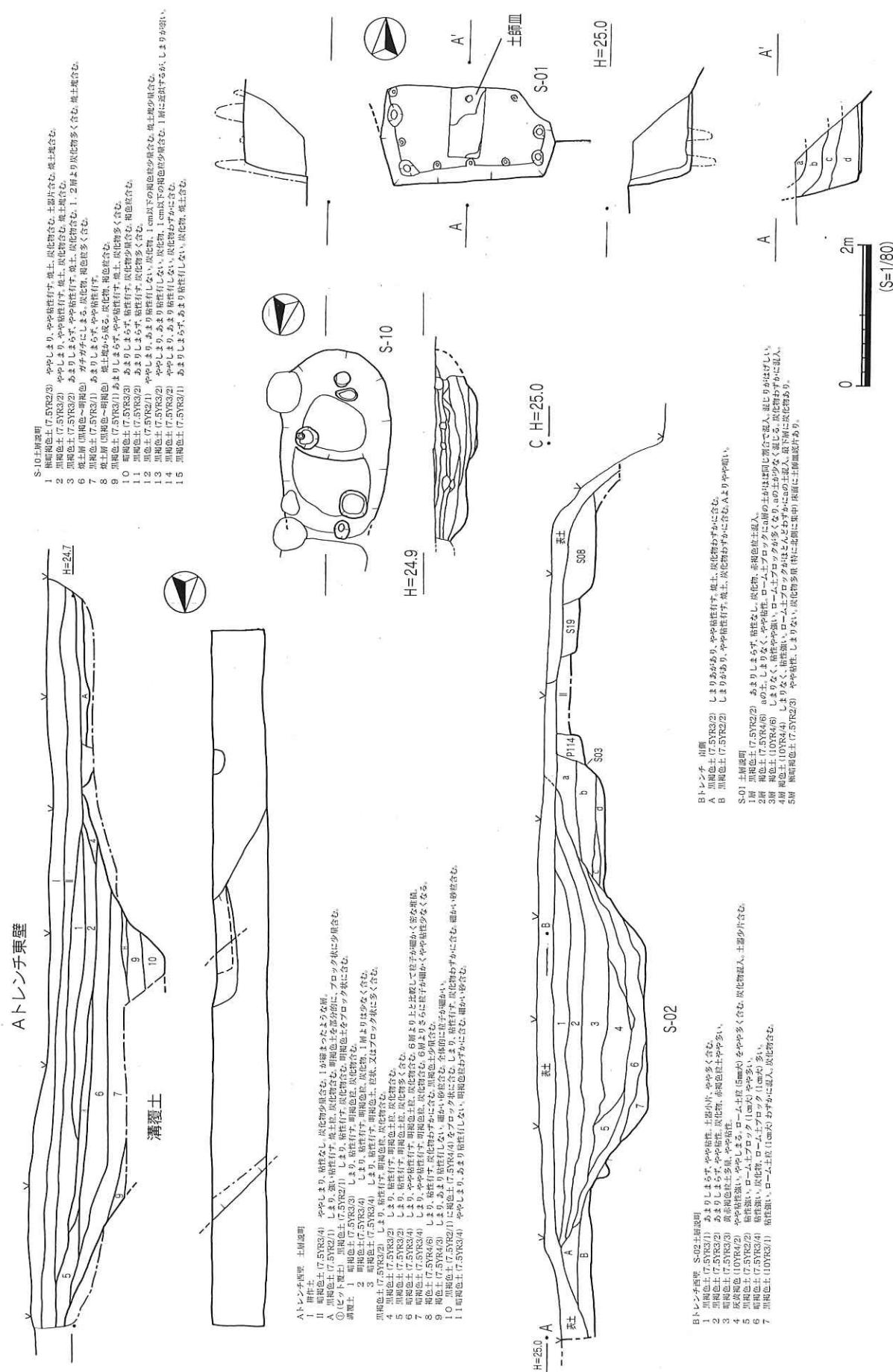
第 171 図 中ん城遺跡遺構実測図①

III 平成 16 年度の調査

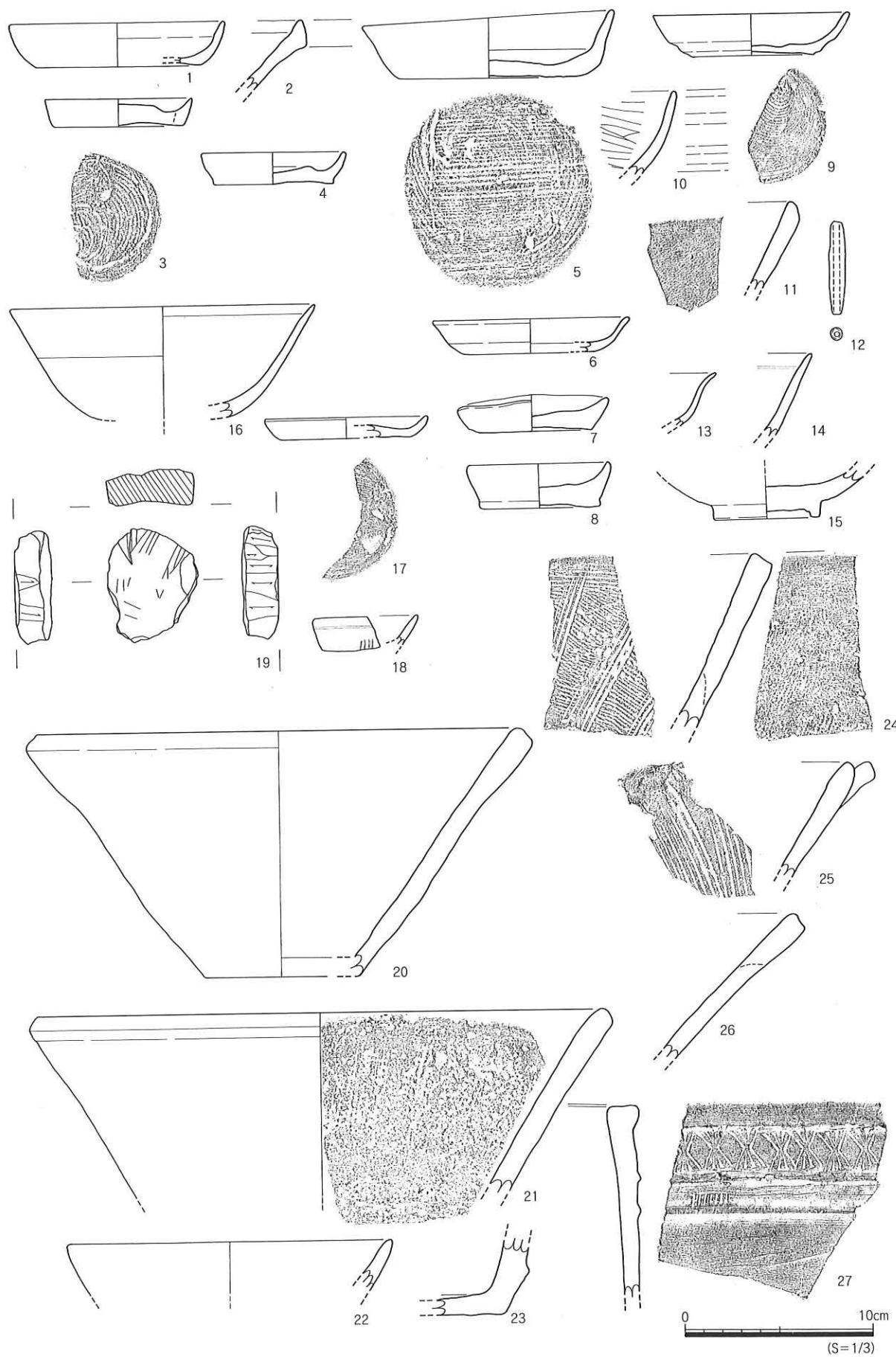


第 172 図 中ん城遺跡遺構実測図②

III 平成 16 年度の調査

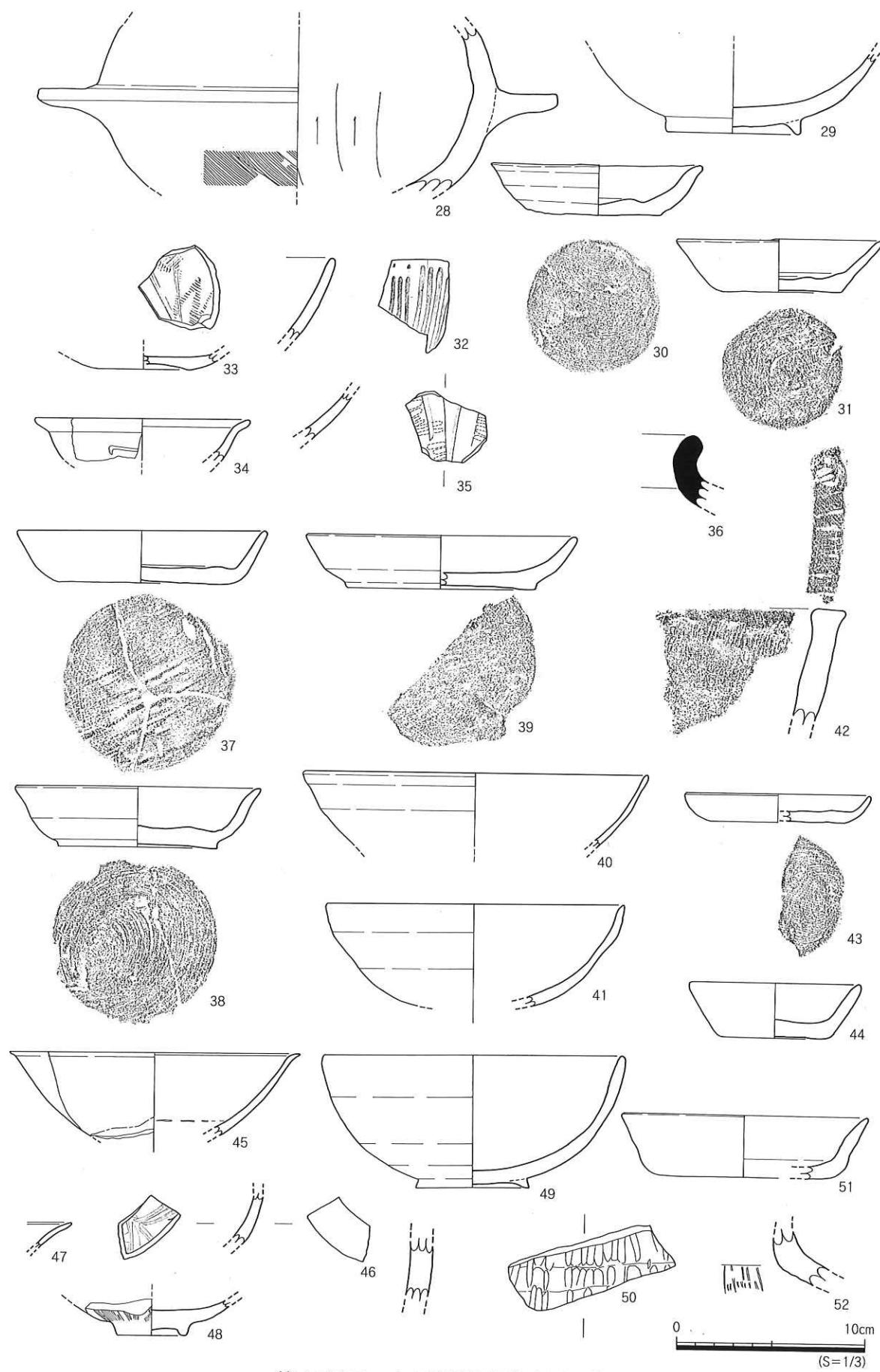


III 平成 16 年度の調査



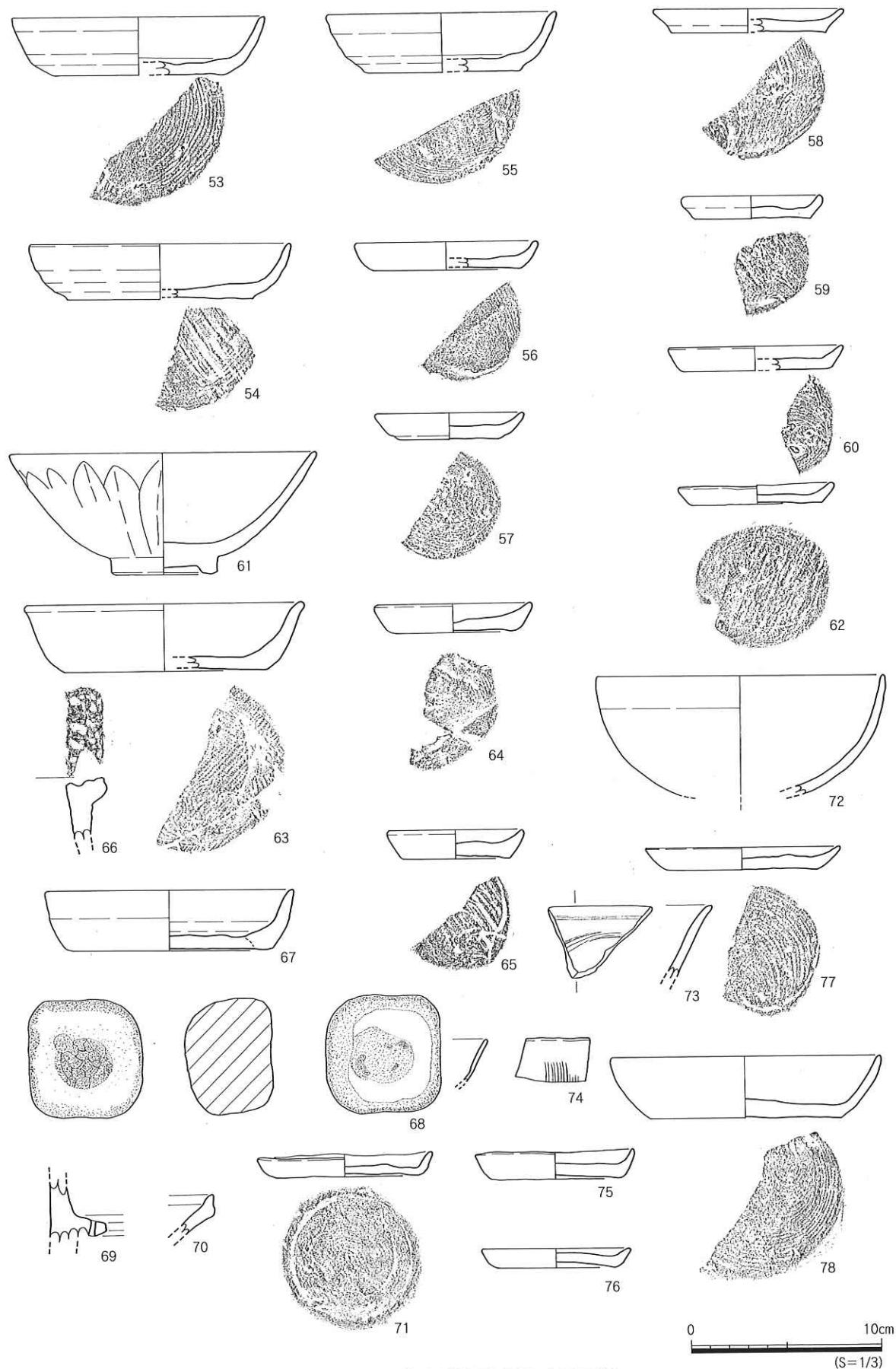
第 174 図 中ん城遺跡遺物実測図①

III 平成 16 年度の調査



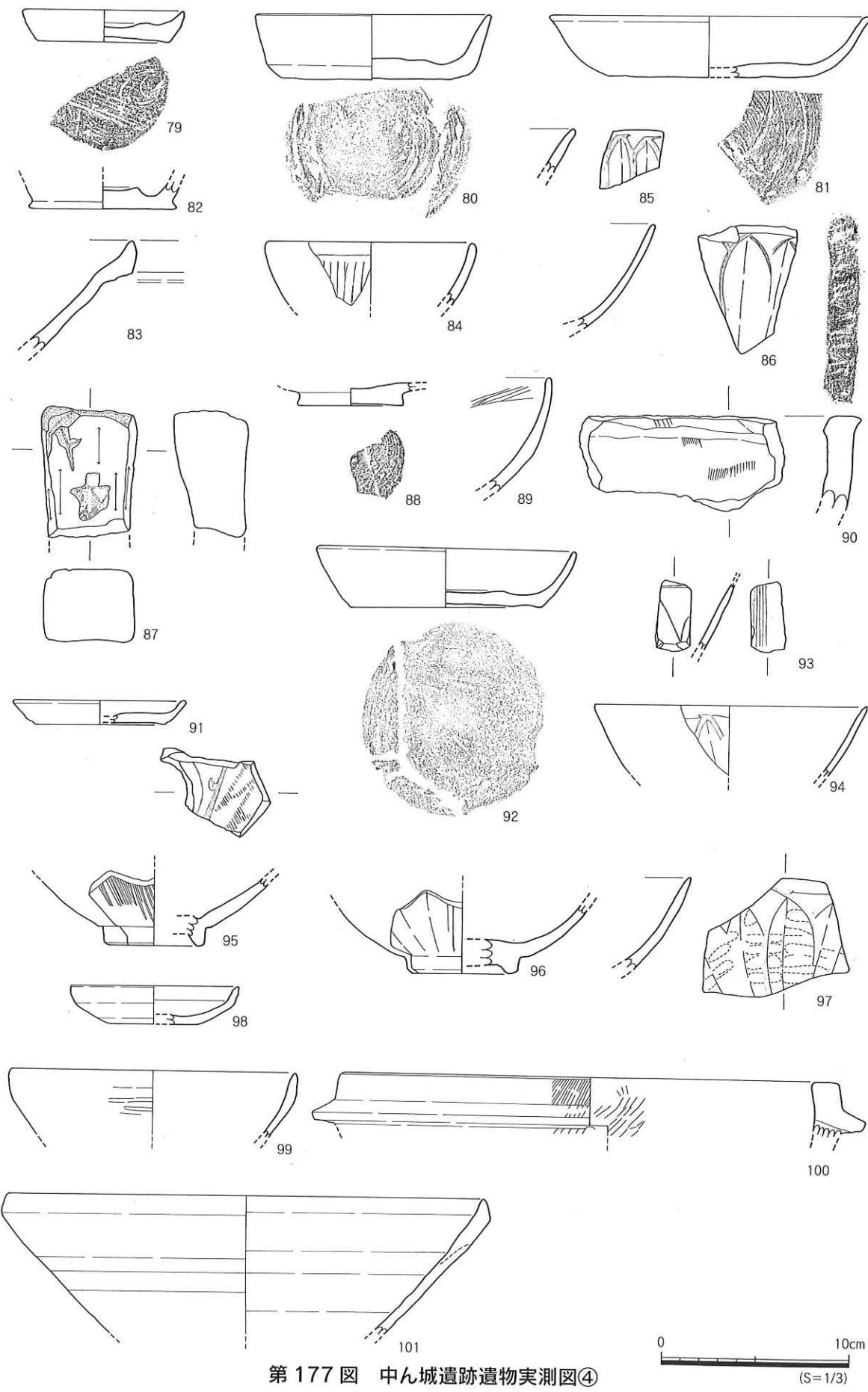
第 175 図 中ん城遺跡遺物実測図②

III 平成 16 年度の調査



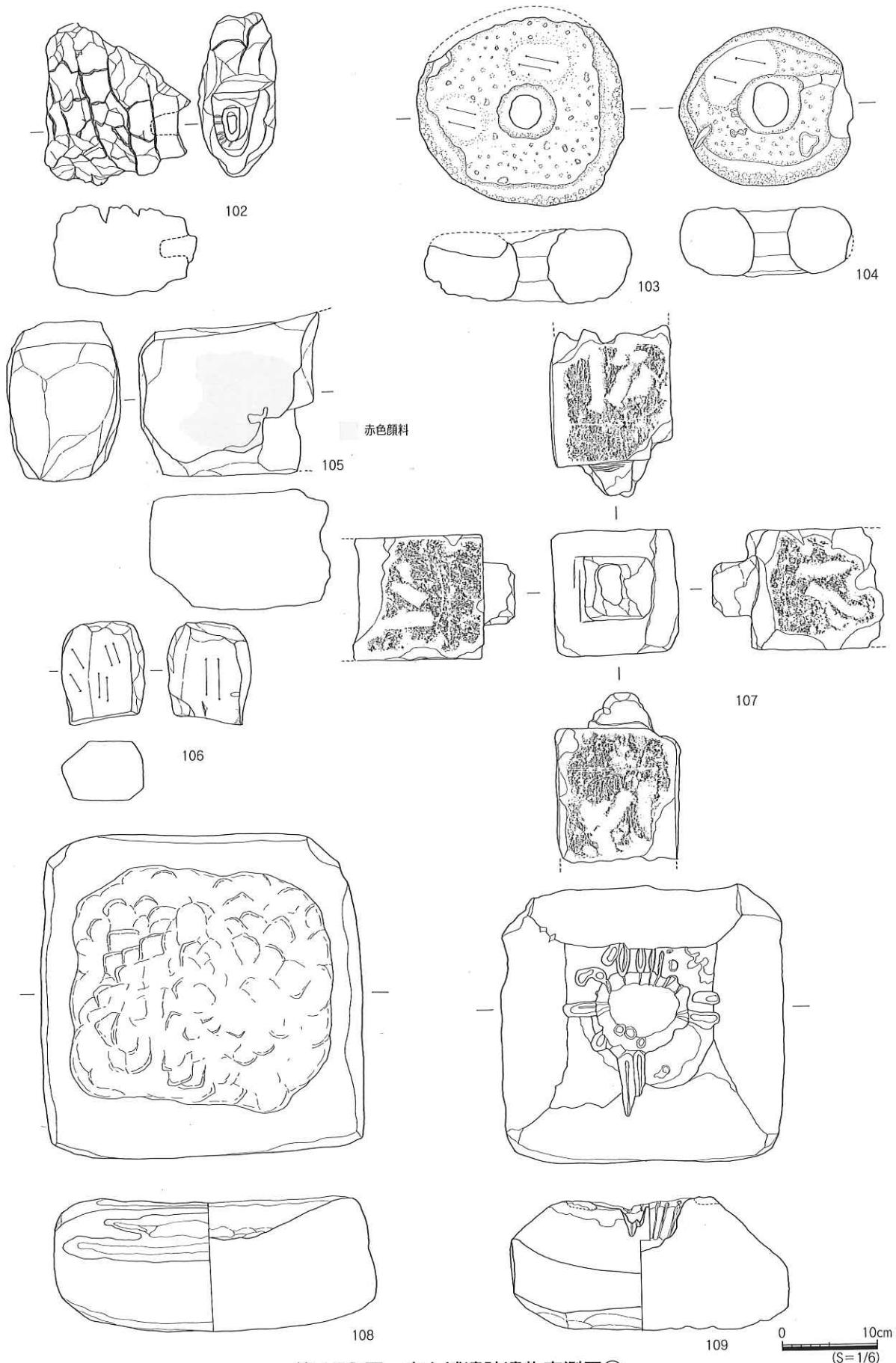
第 176 図 中ん城遺跡遺物実測図③

III 平成 16 年度の調査



第 177 図 中ん城遺跡遺物実測図④

III 平成 16 年度の調査



第 178 図 中ん城遺跡遺物実測図⑤

III 平成 16 年度の調査



中ん城遺跡
調査敷地（南東から）



中ん城遺跡
調査区完掘状況（東から）



中ん城遺跡
1～12G 完掘状況（南から）

III 平成 16 年度の調査



中ん城遺跡
13~21G 完掘状況（南から）



中ん城遺跡
19~30G 完掘状況（南から）



中ん城遺跡
1~10G 完掘状況（東から）

III 平成 16 年度の調査



17 築地市場遺跡

所在地：築地字市場 88-1,88-2

対象面積：1049.76 m² (501.05 m²)

調査期間：平成 17 年 1 月 28 日

担当者：古閑敬士

調査地は玉名台地の南端部に位置する標高 17m 前後の地点である。周辺は国道 208 号線に面した商業地域であり、店舗等が建ち並んでいる。調査地北側に隣接する畠地には土器片・須恵器片の散布が認められた。また南側に位置する大規模パチンコ店建設の際には、多量の遺物が出土したと伝えられるが、建物は玉名市域外（岱明町）であり、詳細は不明である。なお、100 m ほど東の地点でも過去の店舗建設の際に弥生時代の遺構・遺物が発見されている。

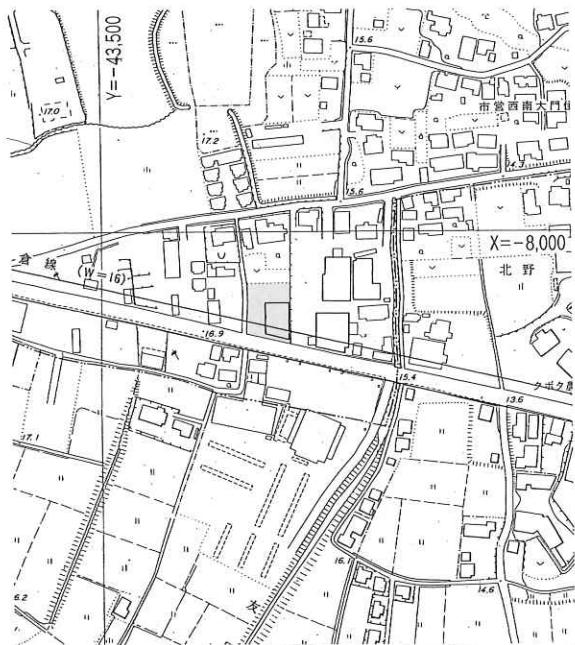
今回、既設建物解体及び駐車場跡地のアスファルト除去後、建物建設予定地内の 3 カ所にトレーニングを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、1・2 トレーニングでは II 層（遺物包含層）で弥生時代後期の土器片、住居跡及び溝とみられる遺構を数基、また、3 トレーニングでも弥生時代後期の遺物包含層と掘り込みを確認した。

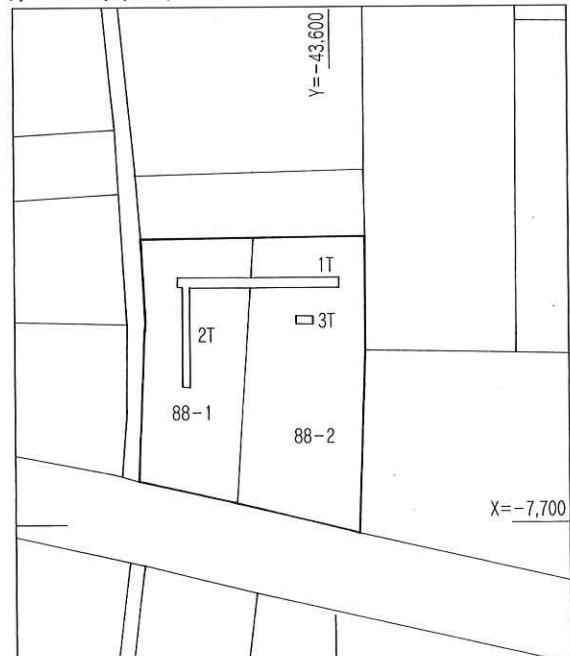
確認調査終了後、事業主体者と協議を行い遺物包含層まで掘削が及ばないよう計画変更がなされた。

調査後の措置は、工事立会である。

なお、工事立会では、表土及び旧耕作土層より少量の遺物が出土した。



第 179 図 築地市場遺跡調査地位置図 S=1/5,000

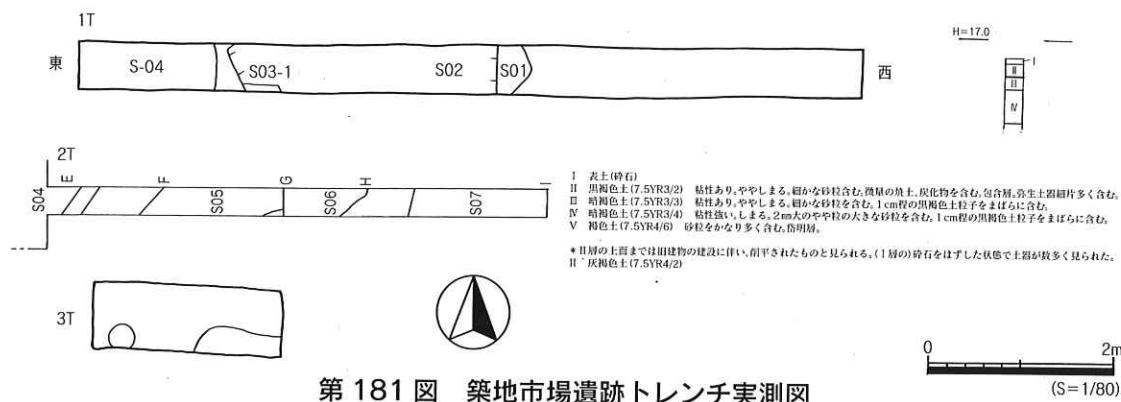


第 180 図 築地市場遺跡調査地周辺地籍図・トレーニング配置図 S=1/1,000

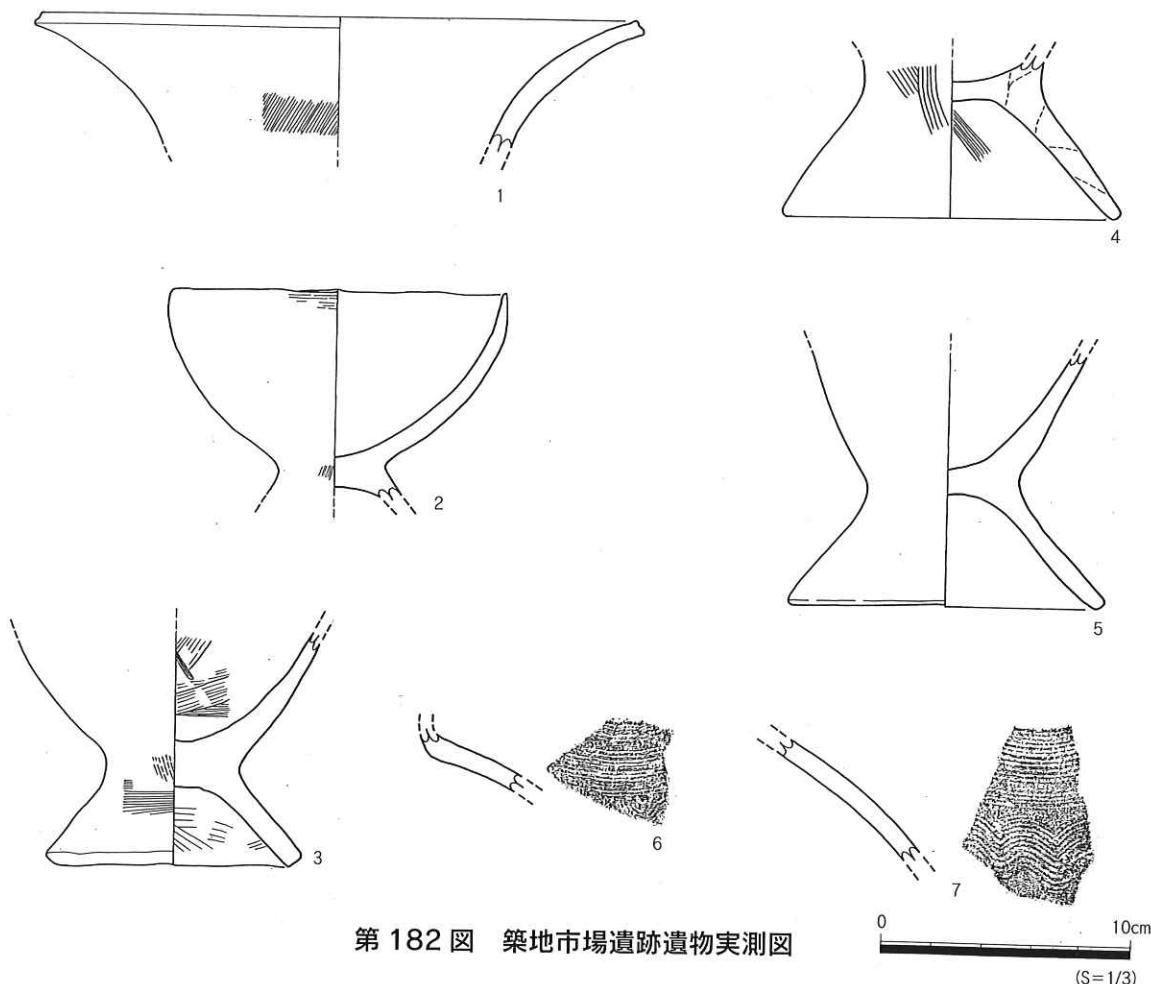


築地市場遺跡調査前

III 平成 16 年度の調査



第 181 図 築地市場遺跡トレンチ実測図



第 182 図 築地市場遺跡遺物実測図



築地市場遺跡 3 トレンチ掘削北東から

18 馬場遺跡

所在地：中尾字馬場 287, 291-1, 291-2, 294-2

対象面積：746.6 m² (220.29 m²)

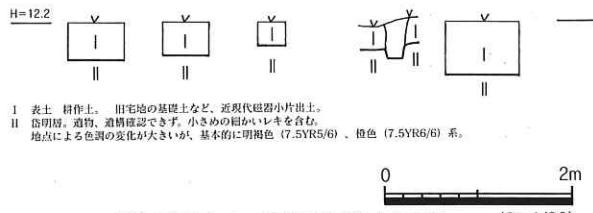
調査期間：平成 17 年 3 月 2 日

担当者：古閑敬士

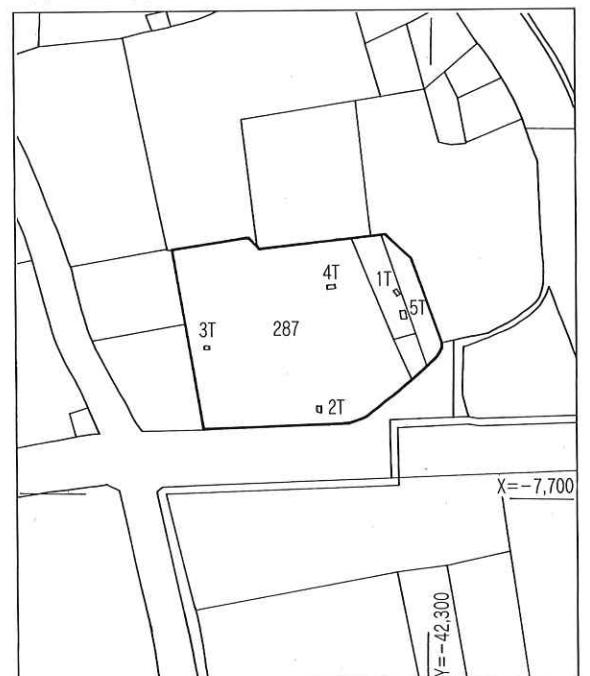
調査地は、小代山から南に延びる丘陵に位置し、標高 11 m ほどの地点である。以前住宅が建っていたが解体され、現在は南側の一部を畠地として利用している。今回の工事は共同住宅の建築で、基礎部分には深さ 4 m まで地盤改良が行われる。

敷地内に 5 カ所のトレーニングを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、厚さ 20 ~ 50cm の表土（耕作土）以下は礫混じりの黄褐色や明褐色の土層で、無遺物層と判断した。いずれのトレーニングにおいても遺構、遺物は確認されなかった。過去、住宅の建築などで敷地全体が既に削平を受けているとみられる。

調査後の措置は、慎重工事である。



第 185 図 馬場遺跡土層図 (S=1/80)



馬場遺跡調査前



馬場遺跡 1 トレーニング

19 岩井口遺跡（B 地点）

所在 地：伊倉北方字岩井口

1520,1521-1～1521-5

対象面積：5524 m²

調査期間：平成 17 年 3 月 24 日～3 月 29 日

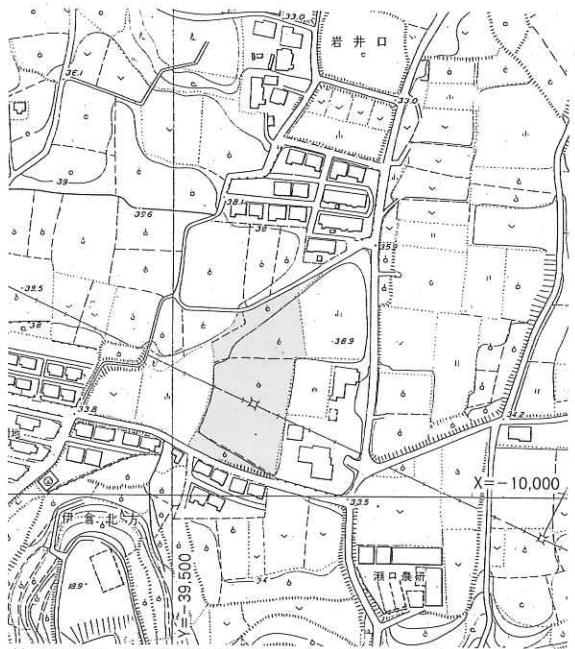
担当 者：古閑敬士

調査地は、菊池川左岸の伊倉丘陵性台地上に位置する標高 35 m 程の地点である。現状は果樹園でミカンの木を撤去後、確認調査を行った。周辺では老人養護施設の建設とその増築に伴い、平成 9 年 7 月と平成 16 年 5 月に確認調査を行っている。

調査地の北端は北東から南西にかけて掘状の地形となっている。この部分は掘削予定範囲には含まれていないが、盛土が予定されているため、1 トレンチを設定し、掘削を行った。また掘削予定範囲に 5 本のトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、1 トレンチでは底面まで確認できなかったが堆積の状況や下位の VI 層から近世以降と見られる磁器が出土していることから、掘状の地形は近年の耕作に伴う改変の結果であると考えられる。2～6 トレンチについては、IV 層上面まで掘削を行い、3 トレンチでは土坑を 1 基、他のトレンチでもピット数基を検出した。IV 層以下はローム土の無遺物層である。遺物は表土層からの出土のみであった。

調査後の措置は、工事立会である。



第 186 図 岩井口遺跡（B 地点）調査地位置図 S = 1/5,000



第 187 図 岩井口遺跡（B 地点）調査地周辺地籍図・トレンチ配置図 S = 1/1,000



岩井口遺跡（B 地点）調査地北から

I 表土層、みかん畠の土、近世・近代鉢器をわざかに含む。
II 黒褐色土(10YR3/2)。しまり弱、粘性弱、炭化物、赤褐色の土(燒土、ローム土、土器の断片)を含む。
III 地耕作土とされる。しまり弱、粘性弱、炭化物、赤褐色の土(燒土、ローム土、土器の断片)を含む。

IV 黒褐色土(10YR2/3)。
ややしまり、粘性弱、ローム土の断片を含む。地中に立つ鉢器なし。遺物の出土なし。

V 烧土(7.5YR4/3)。
ややしまる。粘性弱、立つ鉢器なし。遺物の出土なし。

VI 烧土(7.5YR4/6)。
しまる。粘性弱、立つ鉢器なし。遺物の出土なし。

VII 烧土(7.5YR3/4)。
しまりやや強。粘性弱、ローム土、下にはやや砂質。全体には粘質ローム層①。

VIII 烧土(7.5YR5/4)。
しまり弱、粘性やや弱。ローム土、全体に砂質、白色を含む。ローム層②。

IX 烧土(7.5YR6/3)。
しまり弱、粘性やや弱。ローム土、白色、黑色を多量含む。ローム層③。

X 烧土(7.5YR6/3)。
しまり弱、粘性やや弱。ローム土、白色、黑色を多量含む。ローム層④。

*ローム層①～④は1トレンチの断面図。一厚さは断面図。

(1) 土層断面
① 黑褐色土(7.5YR3/2)。しまり弱、2断よりの焼れ込んだ焼色土(7.5YR4/6)を多量に混入する。

② 表土、粘性なし。しまり弱、ごく微の燒土を含む。

③ 焼褐色土(7.5YR3/3)。
粘性なし。しまり弱。褐色土層(2断相当 1 cm幅)をまばらに含む。

④ 焼褐色土(7.5YR3/2)。
粘性なし。しまり弱。褐色土層(2断相当 1 cm幅)をまばらに含む。

⑤ 焼褐色土(7.5YR3/4)。
しまり弱も若干ある。ごく微のカーボン焼土を含む。下段及び頂部は2.3 cmと1 cmの2段階で互層状。

⑥ 焼褐色土(7.5YR3/3)。
粘性なし。しまり弱。褐色土層(2断相当 1 cm幅)をまばらに含む。

⑦ 焼褐色土(7.5YR3/2)。
粘性なし。しまり弱。褐色土層(2断相当 1 cm幅)をまばらに含む。

⑧ 焼褐色土(7.5YR3/2)。
しまり弱。褐色土層(2断相当 1 cm幅)をまばらに含む。

⑨ 焼褐色土(7.5YR3/2)。
しまり弱。褐色土層(2断相当 1 cm幅)をまばらに含む。

⑩ 焼褐色土(7.5YR3/3)。
しまり弱。褐色土層(2断相当 1 cm幅)をまばらに含む。

⑪ 焼褐色土(7.5YR3/2)。
しまり弱。褐色土層(2断相当 1 cm幅)をまばらに含む。

⑫ 焼褐色土(7.5YR3/2)。
しまり弱。褐色土層(2断相当 1 cm幅)をまばらに含む。

⑬ 近世以前の盛り込みの可能性があるが、トレチカル層不可能だったため、形状等は不明。遺物も確認

出来なかった。

1. 表土、黒褐色土(7.5YR3/2)。山層

2. 黑褐色土(7.5YR4/6)。しまる。

3. 粘褐色土(7.5YR4/6)。しまり弱。2断よりも若干薄めらしい。

4. 黑褐色土(5YR5/6)。

5. はじめ焼褐色土(10YR5/3)。

ローム、粘性あり。しかし、粗粒を含む。

6. はじめ焼褐色土(10YR5/3)。

ローム、粘性あり。しかし、粗粒を含む。

7. はじめ焼褐色土(10YR5/3)。

ローム、粘性あり。しかし、粗粒を含む。

8. はじめ焼褐色土(10YR5/3)。

ローム、粘性あり。しかし、粗粒を含む。

9. はじめ焼褐色土(10YR5/3)。

ローム、粘性あり。しかし、粗粒を含む。

10. はじめ焼褐色土(10YR5/3)。

ローム、粘性あり。しかし、粗粒を含む。

11. はじめ焼褐色土(10YR5/3)。

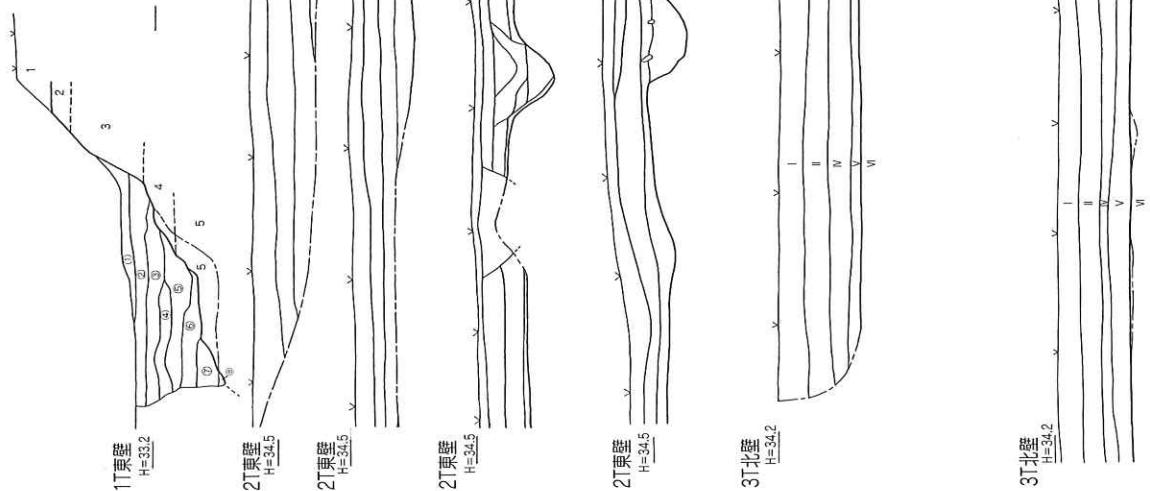
ローム、粘性あり。しかし、粗粒を含む。

12. はじめ焼褐色土(10YR5/3)。

ローム、粘性あり。しかし、粗粒を含む。

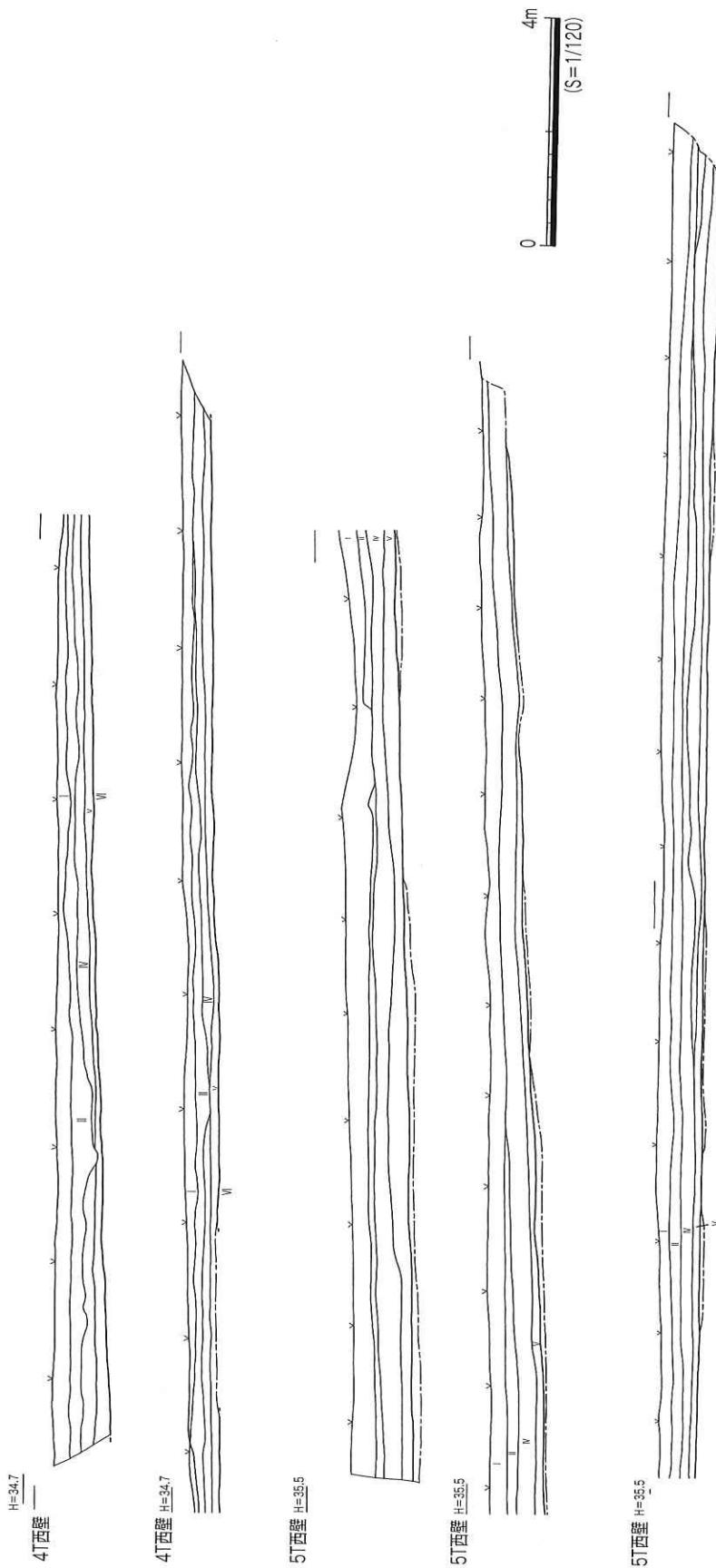
13. はじめ焼褐色土(10YR5/3)。

ローム、粘性あり。しかし、粗粒を含む。

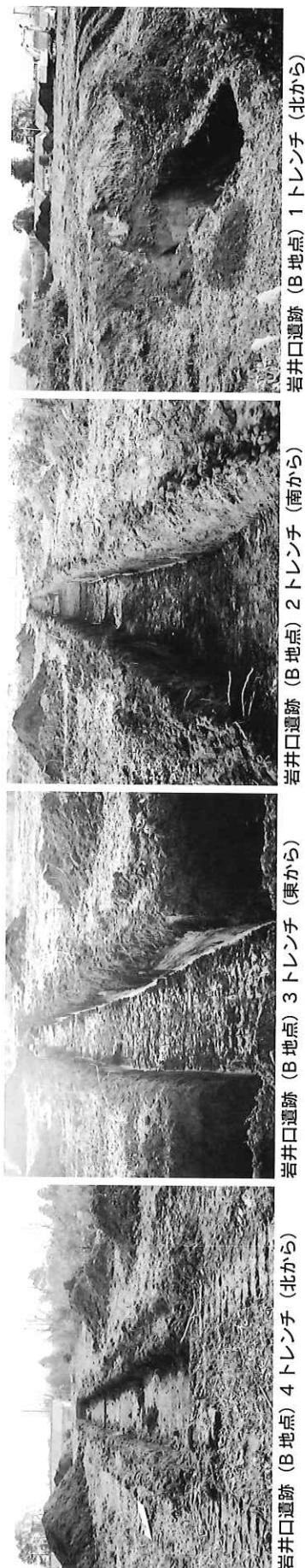


第188図 岩井口遺跡(B地点) 土層断面図①

III 平成 16 年度の調査



第 189 図 岩井口遺跡 (B 地点) 土層断面図②



平成16年度遺物観察表

III 平成 16 年度の調査

図版番号	番号	遺跡名	出土地点	遺物種類	器品種	部位	口径	底径	器高	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	焼成	実測[m]	備考
16	17	雨出跡(C)	2T 黒泥色土層	茶色土器	脚付壺	加部	-	3.1	(5.9)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR7/4)	0.2~2.0mmの白色部分を多く含む	西	419		
18	19	雨出跡(C)	2T 黑泥色土層	茶色土器	脚付壺	裏	-	(13.0)	(5.0)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR7/4)	0.2~0.4mmの白色部分を多く含む	西	413		
第137回	20	雨出跡(C)	2T 黑泥色土層	茶色土器	脚付壺	裏	-	(13.0)	(5.0)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR7/4)	0.8~2.0mmの白色部分を多く含む	西	414		
1	2	雨古谷地跡	灰瓦	中空筒瓦	直	脚部	-	(4.6)	(9.1)	ロクロ	ロクロ	赤褐色(2.5YR4/1)	赤褐色(2.5YR4/1)	西	408	底面 2.25~4.5	
3	4	雨古谷地跡	瓦片	中空筒瓦	直	脚部	-	(2.9)	(2.6)	ナラ	ナラ	淡黄(12.5YR3/1)	0.2~0.4mmの白色部分を多く含む	西	397		
第141回	5	雨古谷地跡	瓦片	中空筒瓦	直	脚部	-	(4.8)	(4.8)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR7/3)	0.2~0.4mmの白色部分を多く含む	西	417		
6	7	雨古谷地跡	瓦片	中空筒瓦	直	脚部	-	(2.1)	-	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR7/3)	0.2~0.4mmの白色部分を多く含む	西	421	底面 植(2.5YR6/8)	
8	9	雨古谷地跡	瓦片	中空筒瓦	直	脚部	-	(5.0)	(1.3)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR7/4)	0.2~0.3mmの白色部分を多く含む	西	423		
第163回	10	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(5.5)	(8.8)	ナラ	ナラ	にぶい黄(7.5YR14/1)	0.2~0.3mmの白色部分を多く含む	西	424		
11	12	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(2.0)	(2.0)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR7/4)	0.2~0.3mmの白色部分を多く含む	西	427	瓦手	
13	14	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.0)	(3.7)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR7/4)	0.2~0.3mmの白色部分を多く含む	西	425		
15	16	雨内田跡	S-02	土器	口縁部	直	-	(7.5)	(4.0)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR7/4)	0.2~0.3mmの白色部分を多く含む	西	508		
17	18	雨内田跡	S-02	土器	口縁部	直	-	(3.4)	(6.1)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR7/4)	0.2~0.3mmの白色部分を多く含む	西	501	瓦	
第164回	19	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.1)	(4.1)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR5/3)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	502		
20	21	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(7.9)	(7.9)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR5/3)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	503		
22	23	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(3.5)	(3.5)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR5/2)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	507		
24	25	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(1.7)	(1.7)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR5/1)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	515	片笠川用	
26	27	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(3.7)	(3.3)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR6/2)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	512		
28	29	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.0)	(4.0)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR6/2)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	513	瓦 高(10.5mm)	
30	31	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(5.7)	(4.5)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR7/4)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	506	帽(14.5mm)	
32	33	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(3.9)	(3.6)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR7/4)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	549		
34	35	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(3.8)	(1.5)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR8/4)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	547		
36	37	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(5.0)	(5.0)	ナラ	ナラ	にぶい黄(12.5YR8/4)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	545	瓦	
38	39	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(5.6)	(5.6)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR8/4)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	553		
40	41	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(5.2)	(3.1)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR8/4)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	565		
42	43	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(5.2)	(3.7)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR8/4)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	562		
44	45	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(5.2)	(3.3)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR8/4)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	550		
第173回	46	雨内田跡	S-02	土器	口縁部	直	-	(5.2)	(3.5)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR8/4)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	544	瓦	
47	48	雨内田跡	S-02	土器	口縁部	直	-	(5.0)	(3.5)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR8/4)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	564		
49	50	雨内田跡	S-02	土器	口縁部	直	-	(5.2)	(3.1)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR8/4)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	543	瓦(14.2cm) 高(10.5mm)	
51	52	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(5.7)	(4.5)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR7/4)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	612		
53	54	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(3.6)	(1.5)	ナラ	ナラ	にぶい黄(10YR7/4)	0.1~0.2mmの白色部分を多く含む	西	563		
55	56	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(3.8)	(1.7)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	601	高(14.5mm)	
57	58	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(5.0)	(3.6)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	562		
59	60	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(5.6)	(3.5)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	570		
61	62	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(5.2)	(3.2)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
63	64	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
65	66	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
67	68	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
69	70	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
71	72	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
73	74	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
75	76	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
77	78	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
79	80	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
81	82	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
83	84	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
85	86	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
87	88	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
89	90	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
91	92	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
93	94	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
95	96	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
97	98	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
99	100	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
101	102	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
103	104	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
105	106	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
107	108	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
109	110	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
111	112	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
113	114	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
115	116	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
117	118	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
119	120	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
121	122	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
123	124	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
125	126	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
127	128	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
129	130	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
131	132	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
133	134	雨内田跡	S-01	土器	口縁部	直	-	(4.3)	(4.3)	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	水ひきナラ	西	571		
135	136	雨内田跡	S-01	土器</td													

III 平成 16 年度の調査

図版番号	番号	遺跡名	出土地点	遺物種類	器種	部位	口径	底径	器高	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	焼成	実測HQ	備考
46	S-10	中-城跡	S-10 中~下層	瓶	碗?	唇部	—	—	(2.9)	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	574	M=0.1mH=2.5	
47	S-10	中-城跡	S-10 中~下層	白磁	碗	口~底部	—	—	(1.3)	(1.9)	(1.9)	白色(10Y 8/1)	灰色で黒點	灰	625	M=0.1mH=2.5	
48	S-10	中-城跡	S-10 中~下層	白磁	碗	口~底部	6.1	3.0	7.0	回転子(底付回転)	(底付)	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	587	底と側面	
49	S-10	中-城跡	S-10 中~上層	白磁	碗	口~底部	—	—	(2.5)	—	—	白色(10Y 8/1)	灰色で黒點	灰	575	底と側面	
50	S-10	中-城跡	S-10 中~下層	清石臼	碗	口~底部	—	—	(2.6)	3.3	水びきナデ、糸切り	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	621	底と側面
51	S-10	中-城跡	S-10 上層	清石臼	碗	口~底部	—	—	(2.6)	(4.2)	水びきナデ、糸切り	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	573	底と側面
52	S-10	中-城跡	S-10 中~下層	白磁	碗	口~底部	(6.7)	(4.5)	3.1	水びきナデ、糸切り	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	577	底と側面	
53	S-10	中-城跡	S-10 中~下層	白磁	碗	口~底部	(6.9)	(4.9)	2.9	水びきナデ、糸切り	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	595	底と側面	
54	S-10	中-城跡	S-10 中~下層	白磁	碗	口~底部	(6.0)	(4.0)	3.1	回転子(底付)	回転子	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	576	底と側面	
55	S-10	中-城跡	S-10 中~下層	白磁	碗	口~底部	(4.8)	(3.8)	1.5	ナデ、糸切り	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	572	底と側面	
56	S-10	中-城跡	S-10 上層	白磁	碗	口~底部	(3.9)	(2.7)	1.3	カワリナデ(ナラ)	カワリナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	578	底と側面	
57	S-10	中-城跡	S-10 中~下層	白磁	碗	口~底部	5.0	4.0	1.2	水びきナデ	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	593	底と側面	
58	S-10	中-城跡	S-10 上層	白磁	碗	口~底部	(3.7)	(3.0)	1.2	水びきナデ	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	592	底と側面	
59	S-10	中-城跡	S-10 上層	白磁	碗	口~底部	(4.6)	(3.9)	1.2	水びきナデ	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	591	底と側面	
60	S-10	中-城跡	S-10 上層	白磁	碗	口~底部	(6.2)	(5.4)	—	水びきナデ、糸切り	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	590	底と側面	
61	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(4.0)	(3.4)	1.1	水びきナデ、糸切り、底付	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	594	底と側面	
62	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(7.4)	(5.4)	3.5	水びきナデ、糸切り	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	593	底と側面	
63	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(4.1)	(3.0)	1.5	ナデ、糸切り	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	603	底と側面	
64	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(3.6)	(2.8)	1.5	回転子(ナラ)	回転子	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	604	底と側面	
65	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(3.7)	(3.0)	1.5	水びきナデ	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	605	底と側面	
66	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(3.7)	(3.0)	1.5	ナデ	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	606	底と側面	
67	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(6.5)	(5.0)	3.15	ナデ、糸切り、底付	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	623	底と側面	
68	P-21	中-城跡	P-21 上層	白磁	碗	口~底部	(3.6)	(3.0)	1.5	ナデ	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	611	底と側面	
69	P-21	中-城跡	P-21 上層	白磁	碗	口~底部	(3.6)	(3.0)	1.5	ナデ	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	609	底と側面	
70	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(7.6)	(6.2)	1.2	水びきナデ、糸切り	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	615	底と側面	
71	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(7.6)	(6.2)	1.2	水びきナデ	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	610	底と側面	
72	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(7.6)	(6.2)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	588	底と側面	
73	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(7.6)	(6.2)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	616	底と側面	
74	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(4.15)	(3.4)	1.5	ナデ	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	642	底と側面	
75	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(3.9)	(3.1)	1.0	水びきナデ	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	614	底と側面	
76	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(5.1)	(3.9)	1.2	ナデ	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	630	底と側面	
77	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(7.1)	(5.0)	3.2	回転子(ナラ)	回転子	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	596	底と側面	
78	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(4.2)	(3.5)	1.6	水びきナデ、糸切り	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	621	底と側面	
79	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(6.4)	(5.4)	3.4	ナデ	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	533	底と側面	
80	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(8.6)	(7.6)	3.4	水びきナデ	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	534	底と側面	
81	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(3.9)	(3.5)	1.5	ナデ	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	535	底と側面	
82	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(5.6)	(5.6)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	542	底と側面	
83	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(5.6)	(5.6)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	541	底と側面	
84	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(5.6)	(5.6)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	523	底と側面	
85	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(5.6)	(5.6)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	619	底と側面	
86	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(5.6)	(5.6)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	650	底と側面	
87	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(5.6)	(5.6)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	532	底と側面	
88	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(5.6)	(5.6)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	643	底と側面	
89	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(5.6)	(5.6)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	539	底と側面	
90	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(5.6)	(5.6)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	619	底と側面	
91	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(4.55)	(3.4)	3.3	回転子(ナラ)底付	回転子	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	656	底と側面	
92	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(6.9)	5.1	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	629	底と側面	
93	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(7.2)	—	(5.5)	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	641	底と側面	
94	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(7.2)	—	(3.6)	水びきナデ	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	650	底と側面	
95	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(7.2)	—	(2.8)	ナデ	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	534	底と側面	
96	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(7.2)	—	(2.95)	ナデ	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	652	底と側面	
97	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(7.2)	—	(2.95)	ナデ	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	617	底と側面	
98	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(4.4)	(2.4)	2.0	水びきナデ	水びきナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	530	底と側面	
99	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(7.5)	—	(3.4)	ナデ	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	641	底と側面	
100	P-19	中-城跡	P-19 上層	白磁	碗	口~底部	(13.0)	—	(2.7)	ナデ	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	650	底と側面	
101	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(12.5)	—	(7.25)	ナデ	ナデ	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	518	底と側面	
102	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(17.2)	15.4	9.5	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	653	底と側面	
103	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(18.6)	21.7	7.8	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	516	底と側面	
104	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(16.5)	18.4	7	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	652	底と側面	
105	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(17)	18.4	12.2	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	519	底と側面	
106	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(11)	8.6	6.4	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	521	底と側面	
107	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(18)	12.5	12.5	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	520	底と側面	
108	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(29)	29.5	13.5	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	645	底と側面	
109	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(6.7)	(8.0)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	647	底と側面	
110	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(4.9)	(9.1)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	517	底と側面	
111	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(6.6)	(6.6)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	519	底と側面	
112	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(6.6)	(6.6)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	521	底と側面	
113	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(6.6)	(6.6)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	522	底と側面	
114	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(6.6)	(6.6)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點	灰	523	底と側面	
115	S-14	中-城跡	S-14 上層	白磁	碗	口~底部	(6.6)	(6.6)	—	—	—	黒オリーブ(2.5GY 7/1)	灰色で黒點</				

報告書抄録

ふりがな	たまなししないいせきちようさほうこくしょさん						
書名	玉名市内遺跡調査報告書Ⅲ						
副書名	平成15・16年度調査						
巻次							
シリーズ名	玉名市文化財調査報告						
シリーズ番号	第15集						
編著者名	兵谷有利 末永崇 薩父雅史 竹田宏司 田中康雄 荒木隆宏 古閑敬士 大倉千寿						
編集機関	玉名市教育委員会						
所在地	〒869-0292 熊本県玉名市岱明町野口2129						
発行年月日	平成18年3月30日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ一ド 市町村	北緯 遺跡番号	南経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
いわさきじょうあと 岩崎城跡	たまなし いわさき 玉名市岩崎	43206	221	32° 55' 46"	130° 33' 34"		
たかおかばしのいせき 高岡原J遺跡	たまなし やまだ 玉名市山田	43206	174	32° 56' 03"	130° 33' 36"		
たまなこうこうこうていいせき 玉名高校校庭遺跡	たまなし しなか 玉名市中	43206	178	32° 55' 51"	130° 32' 51"		
よしまるじいせき 吉丸西遺跡	たまなし してらだ 玉名市吉田	43206	251	32° 55' 05"	130° 35' 18"		
りょうじんじいじ 立願寺廢寺	たまなし しりょうじ 玉名市立願寺	43206	94	32° 56' 18"	130° 33' 16"		
おひでいせき 南出遺跡	たまなし しなか 玉名市中	43206	184	32° 55' 40"	130° 32' 56"		
なかないせき 中北遺跡	たまなし いくらきたかた 玉名市伊倉北方	43206	301	32° 54' 40"	130° 54' 40"		
まつなん まちいせき 狐塚遺跡	たまなし しふじ 玉名市築地	43206	170	32° 55' 47"	130° 33' 43"		
いわさきいせき 岩崎原遺跡	たまなし いわさき 玉名市岩崎	43206	219	32° 55' 57"	130° 33' 24"		
きたのいせき 北の崎遺跡	たまなし したさき 玉名市田崎	43206	494	32° 55' 15"	130° 36' 21"		
ついじやくあと 築地館跡	たまなし しふじ 玉名市築地	43206	168	32° 56' 06"	130° 31' 55"		
よないほこいせき 與内迫遺跡	たまなし いくらきたかた 玉名市伊倉北方	43206	497	32° 54' 42"	130° 34' 13"		
なかんじういせき 中ん城遺跡	たまなし かたすわ 玉名市片諫訪	43206	324	32° 54' 10"	130° 34' 36"	平成16年4月1日	
せんだがわらわらこころがし 千田川原俵転がし	たまなし せんだがわら 玉名市千田川原	43206	—	32° 55' 08"	130° 33' 43"	平成17年3月31日	
たまなへいじょうりあと 玉名平野条里跡	たまなし いわさき ほか 玉名市岩崎ほか	43206	483	32° 56' 10"	130° 34' 20"		
にじたいせき 西田遺跡	たまなし しふじ 玉名市築地	43206	53	32° 56' 42"	130° 32' 03"		
かめのこいせき 龜甲遺跡	たまなし かめのこ 玉名市龜甲	43206	190	32° 55' 34"	130° 33' 26"		
たかおかばらいせき 高岡原遺跡	たまなし やまだ 玉名市山田	43206	174	32° 56' 03"	130° 32' 53"		
いわいちらいせき 岩井口遺跡	たまなし いくらきたかた 玉名市伊倉北方	43206	460	32° 54' 48"	130° 34' 31"		
なまかさんたいせき 中坂門田遺跡	たまなし なまかさん 玉名市中坂門田	43206	361	32° 54' 26"	130° 36' 21"		
いくらまるみやはらいせき 伊倉古宮原遺跡	たまなし みやはら 玉名市宮原	43206	336	32° 53' 17"	130° 35' 05"		
なまちいせき 名町遺跡	たまなし しも 玉名市下	43206	432	32° 56' 00"	130° 36' 03"		
たまなへいやじうりあと 玉名平野条里跡(B)	たまなし しなか 玉名市中	43206	487	32° 55' 41"	130° 32' 23"		
しもりょうじんじ 下立願寺遺跡	たまなし しりょうじ 玉名市立願寺	43206	98	32° 56' 18"	130° 33' 08"		
ついじいちばいせき 築地市場遺跡	たまなし しふじ 玉名市築地	43206	171	32° 55' 34"	130° 33' 43"		
ばばいせき 馬場遺跡	たまなし しなかお 玉名市中尾	43206	410	32° 56' 02"	130° 32' 39"		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
岩崎城跡	城館 集落	中世 弥生時代後期	溝状遺構 住居跡	土師器 弥生土器			
高岡原遺跡	集落	弥生時代後期	住居跡	弥生土器			
南出遺跡	集落	弥生時代後期	住居跡	弥生土器			
中北遺跡	甕棺墓・住居跡	弥生時代中～後期	住居跡・甕棺墓	弥生土器			
與内迫遺跡	住居跡	縄文・古墳時代中期	埋設遺構・住居跡	縄文土器・須恵器・土師器			
中ん城遺跡	城館	中世	溝状遺構・土坑	土師器・陶磁器・石製品			

玉名市文化財調査報告 第15集
玉名市内遺跡調査報告書Ⅲ
平成15・16年度の調査

平成18年3月29日印刷

平成18年3月30日発行

編集発行 玉名市教育委員会
〒869-0292 玉名市岱明町野口2129

印 刷 玉名民報印刷
〒865-0015 玉名市亀甲261
TEL 0968-72-2535

